

横浜市民の防災・減災の
意識、取組に関するアンケート調査
報告書

令和4年1月

(令和5年3月改訂版)

横浜市総務局危機管理室

目次

第1章 調査の概要	4
1. 調査の目的	4
2. 調査の方法	4
3. 調査の項目	4
4. 調査票回収結果	4
5. 調査結果の見方	5
6. 調査票と単純集計	6
第2章 調査結果	26
1. 回答者の属性	26
(1) あなた自身のこと	26
2. 地震について	29
(1) 大地震への不安等	29
(2) あなたのご家庭での日ごろからの地震対策	36
3. 風水害について	61
(1) あなたが風水害について心配していること	61
(2) 風水害に対して行っている対策	65
4. 火山災害について	81
(1) 火山災害	81
5. 災害への備えや避難について	83
(1) あなたのご家庭での日ごろからの災害対策	83
(2) 地域での取組	93
(3) 避難場所等	106
6. 災害情報について	116
(1) 災害に関する情報収集、災害時の安否確認	116
7. 横浜市の災害対策に係るご意見について	126
(1) 横浜市の災害対策に係るご意見	126

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

横浜市民の防災・減災の意識、取組に関するアンケート調査は、横浜市民の防災・減災の取組や自助・共助の意識に関する現状を把握することにより、市民の取り組むべき防災・減災行動について、全市民的な普及啓発の促進及び効果的な施策検討の基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象：横浜市内に居住する満15歳以上の男女個人（外国籍市民を含む）
- (2) 標本数：10,000人（その内、外国籍200人）
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：①郵送（配布・回収）による自記入方式
②無記名式アンケート・選択式（一部記入方式）
- (5) 調査期間：令和3年6月18日～7月8日
- (6) 調査実施機関：株式会社アクス

3. 調査の項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 地震について
- (3) 風水害について
- (4) 火山災害について
- (5) 災害への備えや避難について
- (6) 災害情報について
- (7) 横浜市の災害対策に係るご意見について

4. 調査票回収結果

標本数	調査票未着数	有効回答数	有効回収率
10,000	115	3,553	35.5%

※調査票未着数とは、宛先不明等で返送された調査票を指す。

※有効回答率は、「有効回答数／（標本数－調査票未着数）×100」とする。

5. 調査結果の見方

- (1) 図表中のnは該当設問での回答者数を表す。設問によっては、回答対象が限られるため、有効回答数にならない場合がある。
- (2) 設問により回答がなくても、全体のいずれかを回答していれば、有効回答数に含める。
- (3) 百分比はnを100.0%として算出し、少数第2位を四捨五入して少数第1位まで示している。このため、百分比の合計が100.0%に満たない場合や、上回る場合がある。
- (4) 複数回答の設問では、百分比の合計が100.0%を上回る場合がある。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記では、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 「経年比較」の「※参考」について

各問の経年比較については、平成20年、平成27年、平成30年に実施した「横浜市民の危機管理アンケート調査」及び、それら調査の実施年を除く、各年度の「横浜市民意識調査」のうち、該当する設問について比較している。調査ごとに設問や選択肢が一部異なることから、正確な比較ができないため図表（グラフ）を参考程度にとどめる。

- (7) この調査の標本誤差は、およそ以下の表のとおりである。また、標本誤差は次の式によって得られる。

N = 母集団（横浜市15歳以上人口）
n = 比率算出の基数（回答者数）
P = 回答比率（%）

$$\text{標本誤差} = 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

統計学上よく使用される信頼度は95%（許容できる誤差の範囲が5%）であり、本アンケート調査の標本誤差も信頼度95%で計算する。

各回答比率における標本誤差早見表

	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
3,553	1.0%	1.3%	1.5%	1.6%	1.7%
3,000	1.1%	1.5%	1.7%	1.8%	1.8%
2,000	1.3%	1.7%	2.0%	2.2%	2.2%
1,000	1.8%	2.5%	2.8%	3.1%	3.2%
800	2.1%	2.8%	3.2%	3.4%	3.5%

※母集団は横浜市全体の15歳以上の人口3,280,528人である。（令和2年1月1日）

有効回答数3,553を100.0%とする比率で、ある質問の回答が50%のとき、実際の回答は、48.3%～51.7%の間にあると考えてよい。

6. 調査票と単純集計

◆横浜市民の防災・減災の意識、取組に関するアンケート調査票◆

※18 ページ以降に「用語解説」が付いています。ご参考にしてください。

■ 設問は全部で51問です。所要時間は20～30分程度です（回答番号の選択のみの場合）。各設問の指示に従ってご回答ください。できるだけ該当するすべての設問にご回答いただきたいと思いますが、難しい場合は回答せずに、次に進んでいただいて結構です。

■ 必ず封筒の宛名のご本人様をご回答ください。

■ 回答は、この調査票に直接ご記入の上、調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。※切手の貼付及び差出人の記名は不要です。

【回答期限】 令和3年7月8日（木）まで

▼ここから設問です▼

あなたご自身のことについて

問1 あなたのお住まいの区はどちらですか。 ※選択肢の隣に記載している数値は単純集計結果(%)

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 青葉区	9.0	7. 港南区	6.7	13. 戸塚区	7.4
2. 旭区	7.0	8. 港北区	8.9	14. 中区	3.8
3. 泉区	4.1	9. 栄区	2.4	15. 西区	2.8
4. 磯子区	4.5	10. 瀬谷区	2.6	16. 保土ヶ谷区	6.2
5. 神奈川区	6.6	11. 都筑区	6.0	17. 緑区	4.5
6. 金沢区	6.0	12. 鶴見区	6.6	18. 南区	4.9

問2 あなたの年齢（年代）はどれですか。 無回答・無効票 0.1

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 10歳代	3.1	5. 50歳代	19.2
2. 20歳代	6.9	6. 60歳代	15.5
3. 30歳代	10.1	7. 70歳代以上	28.0
4. 40歳代	17.1	無回答・無効票	0.2

問3 あなたは、どのような家族形態で暮らしていますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. ひとり	12.5	4. 親と子（2世代）	50.1
2. 夫婦のみ	27.5	5. その他（	） 4.8
3. 祖父母と親と子（3世代）	4.5	無回答・無効票	0.6

問4 あなたのお住まい（住宅）の形態はどれですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 持家（一戸建て）	49.7	4. 持家（マンション・共同住宅）	27.8
2. 借家（一戸建て）	1.5	5. 借家（マンション・共同住宅）	17.6
3. 社宅・公務員住宅・寮	1.5	6. その他（	1.3
		無回答・無効票	0.6

問5 あなたは、自治会、町内会に加入していますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 加入している	76.9	2. 加入していない	16.9	3. 分からない	5.0
				無回答・無効票	1.3

地震について

■大地震への不安等についてお伺いします。

問6 あなたは、近い将来、横浜市で、強く大規模な地震が起きるのではないかという不安を感じていますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 強く感じている	27.6	3. あまり感じていない	14.2
2. 感じている	56.8	4. まったく感じていない	0.8
		無回答・無効票	0.6

問7 あなたは、横浜市で、強く大規模な地震が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。

5つまで選択して番号を○で囲んでください

1. 自分自身の危険	47.7	17. デマなどによる情報の混乱	5.9
2. 家族や友人の安否	64.3	18. 治安の悪化、社会秩序の混乱	6.9
3. ペットに関すること	9.8	19. 仕事や事業への影響	6.3
4. 地震の揺れによる建物の被害	44.3	20. 経済・生産活動の停止	5.3
5. 地盤の液状化による建物の被害	4.6	21. 金融機関の混乱、現金調達の困難	3.3
6. がけ崩れ・地割れによる被害	8.0	22. 食料・飲料水の不足	48.0
7. 津波	7.5	23. 生活必需品の不足	21.2
8. 火災の発生	29.8	24. 医薬品の不足	5.8
9. ガスなど危険物の爆発・流出	5.7	25. けがや病気の際の医療体制の不足	11.8
10. 堤防の決壊による浸水被害	1.2	26. 地域の方との助け合い不足	1.7
11. タンス・冷蔵庫など家具類の転倒	8.4	27. 避難所までの経路の危険	1.8
12. 塀（へい）の倒壊や建物からの窓ガラスの落下	2.1	28. 避難生活の長期化	13.1
13. 電気・水道・ガスの供給停止	52.8	29. 避難所等への自力避難の困難	2.5
14. 道路や交通機関の被害や混乱	6.2	30. 避難所における感染症対策	5.4
15. 携帯電話を含む通信の不通	20.3	31. 特に心配はない	0.5
16. 災害状況などの情報入手の困難	4.3	32. その他（	0.8
		無回答・無効票	5.4

問8 阪神・淡路大震災では、大規模火災が発生し深刻な被害をもたらしました。地震により火災が発生した場合、あなたの住んでいる地域で心配なことは何ですか。

該当するものすべてを選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|--------------------------|------|-----------------------|-----|
| 1. 自宅が燃えてしまうこと | 77.7 | 5. 道路の幅が狭く避難が難しいこと | 5.8 |
| 2. 周辺の建物への延焼 | 53.6 | 6. 近くに避難できる小広場などが無いこと | 4.9 |
| 3. 消火器や消火スプレーなどを備えていないこと | 17.8 | 7. 避難場所等が分からないこと | 6.8 |
| 4. 道路の幅が狭く消防車が進入できないこと | 12.3 | 8. 特に心配はない | 6.2 |
| | | 9. その他 () | 2.7 |
| | | 無回答・無効票 | 1.6 |

■あなたのご家庭での日ごろからの地震対策についてお伺いします。

問9 あなたのご自宅の耐震化について伺います。ご自宅の構造は、次のうちどれにあたりますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|---------------------|------|------------------------|------|
| 1. 木造住宅 | 44.6 | 4. 鉄骨鉄筋コンクリート造住宅(SRC造) | 12.2 |
| 2. 鉄筋コンクリート造住宅(RC造) | 20.1 | 5. その他 () | 0.9 |
| 3. 鉄骨造住宅(S造) | 5.1 | 6. 分からない | 14.5 |
| | | 無回答・無効票 | 2.7 |

問10 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|------------------------|------|-------|-------|
| 1. 昭和56年5月以前(新耐震基準*以前) | 17.5 | ⇒問11へ | ※解説参照 |
| 2. 昭和56年6月以降(新耐震基準以降) | 73.5 | ⇒問13へ | |
| 3. 分からない | 7.4 | ⇒問13へ | |

(問10で「1」と答えた方はご回答ください) 無回答・無効票 1.7

問11 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|----------------------------|------|-------|-------|
| 1. 耐震診断・耐震改修*等を実施している | 18.4 | ⇒問13へ | ※解説参照 |
| 2. 耐震診断の結果、安全と判定された | 10.8 | ⇒問13へ | |
| 3. 今後、耐震診断・耐震改修等を実施する予定である | 5.6 | ⇒問13へ | |
| 4. 耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない | 30.6 | ⇒問12へ | |
| 5. 分からない | 31.0 | ⇒問13へ | |

(問11で「4」と答えた方はご回答ください) 無回答・無効票 3.5

問12 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|-----------------|------|------------------------|------|
| 1. 費用がかかるため | 48.4 | 4. 賃貸物件であるため | 3.7 |
| 2. 危険性を感じないため | 14.7 | 5. 耐震診断・耐震改修等を知らなかったため | 7.9 |
| 3. 手続き・手配が面倒なため | 4.7 | 6. その他 () | 14.7 |
| | | 無回答・無効票 | 5.8 |

問13 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのあるタンスや食器棚等の家具類を固定（転倒防止）していますか（粘着マットも含みます）。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | |
|-----------------------|------|------------|
| 1. 全ての家具を固定（転倒防止）している | 7.5 | ⇒問 16 へ |
| 2. 一部の家具を固定（転倒防止）している | 49.3 | ⇒問 15 へ |
| 3. 固定（転倒防止）していない | 36.1 | ⇒問 14・15 へ |
| 4. 固定（転倒防止）が必要な家具類がない | 6.1 | ⇒問 16 へ |

（問 13 で「3」と答えた方はご回答ください） 無回答・無効票 1.0

問14 あなたが家具類の固定（転倒防止）をしていない理由について、次の中からお選びください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|--|-------|
| 1. 方法が分からないから | 5.0 |
| 2. どこで購入できるか分からないから | 0.6 |
| 3. 自分ではできないと思うから | 10.3 |
| 4. 費用がかかるから | 6.3 |
| 5. 手間がかかり、面倒だから | 24.3 |
| 6. 部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから | 8.5 |
| 7. 賃貸住宅のため色々と制約があるから | 11.8 |
| 8. 必要性を感じないから（大規模地震には効果がない、転倒しても危険ではない等） | 20.5 |
| 9. その他（ | ） 6.2 |

（問 13 で「2」「3」と答えた方はご回答ください） 無回答・無効票 6.5

問15 あなたのご自宅は、災害時に家具類の転倒によって就寝中に負傷・死亡する可能性や転倒した家具が玄関等の避難口までの通行を妨げる可能性がありますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | | | |
|-------|------|-------|------|----------|-----|
| 1. ある | 22.1 | 2. ない | 64.1 | 3. 分からない | 7.4 |
|-------|------|-------|------|----------|-----|

無回答・無効票 6.4

問16 地震による停電から復旧した際に、切れた電源コードや倒れた電気ヒーター等の器具に電気が流れて「通電火災※」が発生することがあります。通電火災の発生を防ぐために、次のことが有効であることを知っていますか。 ※解説参照

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	知っている	知らない
1. 地震時に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とすこと	74.1	23.8
2. 強い地震が発生した時に、自動的に電気の供給を遮断する「 <u>感震ブレーカー</u> ※」という器具があること（電気が漏れた際に遮断する「漏電ブレーカー（漏電遮断器）」とは別の器具です） ※解説参照	35.8 ⇒問 17 へ	56.8 ⇒問 21 へ

無回答・無効票 1 2.1 2 7.4

(問 16 の 2 番で「1」と答えた方はご回答ください)

問17 あなたのご自宅では、「感震ブレーカー」を設置していますか。(最後のページの表 2 をご覧いただき、対象地域にお住まいの方は「1～4」、それ以外の方は「5～8」から選択してください)。

1つ選択して番号を○で囲んでください

地域内 (最後のページの表 2 に記載ある場合)	地域外 (最後のページの表 2 に記載なしの場合)
1. もともと設置されていた 12.2 ⇒問 19 へ	5. もともと設置されていた 11.7 ⇒問 19 へ
2. 自ら設置した 5.6 ⇒問 18・19 へ	6. 自ら設置した 4.3 ⇒問 19 へ
3. 設置していないが、今後設置したい 10.8 ⇒問 20 へ	7. 設置していないが、今後設置したい 24.5 ⇒問 20 へ
4. 設置しておらず、今後設置する予定はない 7.9 ⇒問 20 へ	8. 設置しておらず、今後設置する予定はない 16.8 ⇒問 20 へ

無回答・無効票 6.1

(問 17 で「2」と答えた方はご回答ください)

問18 設置している「感震ブレーカー」は、横浜市の補助制度等*を利用して設置したものですか。

※解説参照

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 利用した 43.7 2. 利用していない 50.7
無回答・無効票 5.6

(問 17 で「1」「2」「5」「6」と答えた方はご回答ください)

問19 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプは、次のうちどれですか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

- | | | |
|--|------|-----------|
| 1. 分電盤タイプ (分電盤に内蔵又は接続した感震センサーが揺れを感知し、住宅内すべての電気を止める) | 62.6 | } ⇒問 21 へ |
| 2. コンセントタイプ (コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知し、そのコンセントからの電気を止める) | 2.3 | |
| 3. 簡易タイプ (おもり玉又はバネの作動により、直接ブレーカーを落とす) | 15.3 | |
| 4. 分からない | 17.0 | |
| 5. その他 () | 0.2 | |
| 無回答・無効票 | 3.5 | |

(問 17 で「3」「4」「7」「8」と答えた方はご回答ください)

問20 あなたが「感震ブレーカー」を設置していないのは、どのような理由ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|---------------------|------|---------------------|------|
| 1. 設置方法が分からないから | 14.0 | 5. 手間がかかり、面倒だから | 10.6 |
| 2. 費用がかかるから | 18.9 | 6. 感震ブレーカーを知らなかったため | 6.0 |
| 3. 必要性を感じないから | 17.3 | 7. その他 () | 16.0 |
| 4. どこで購入できるか分からないから | 14.0 | 無回答・無効票 | 3.1 |

風水害について

(「風水害」とは、台風や大雨など強風や豪雨によってもたらされる災害のことです。)

■あなたが風水害に対して心配していることについてお伺いします。

問21 あなたは、自分の住んでいる地域で、次のうちの風水害の不安を感じたことがありますか。

3つまで選択して番号を○で囲んでください

1. 河川のはんらん (洪水)	21.6	7. 下水管などからの逆流 (内水)	22.4
2. 建物の浸水	15.0	8. 高潮、高波	2.5
3. 道路の冠水	22.0	9. 大雪	7.7
4. がけ崩れ、土砂崩れ、地割れ	29.6	10. その他 ()	1.5
5. 落雷	27.1	11. 感じたことがない	17.2
6. 竜巻、突風	35.6	無回答・無効票	1.8

問22 あなたは、自分の住んでいる地域で、風水害が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。

5つまで選択して番号を○で囲んでください

1. 自分自身の危険	45.7	16. 治安の悪化、社会秩序の混乱	4.6
2. 家族や友人の安否	58.5	17. 仕事や事業への影響	6.2
3. ペットに関すること	9.1	18. 経済・生産活動の停止	3.6
4. 浸水・堤防の決壊による被害	12.4	19. 食料・飲料水の不足	42.6
5. 家屋・建物の損壊・流出	34.1	20. 生活必需品の不足	23.4
6. がけ崩れ・地割れによる被害	18.0	21. 医薬品の不足	6.0
7. 火災の発生	15.1	22. けがや病気の際の医療体制の不足	9.8
8. ガスなど危険物の爆発・流出	6.4	23. 地域の方との助け合い不足	2.6
9. 堤防の決壊による浸水被害	3.1	24. 避難場所までの経路の危険	3.7
10. 窓ガラスや看板などの落下	10.5	25. 避難生活の長期化	10.4
11. 電気・水道・ガスの供給停止	53.8	26. 避難場所への自力避難の困難	2.6
12. 道路や交通機関の被害や混乱	13.2	27. 避難場所における感染症対策	5.2
13. 携帯電話を含む通信の不通	19.8	28. 特に心配はない	2.1
14. 災害状況などの情報入手の困難	3.8	29. その他 ()	1.0
15. デマなどによる情報の混乱	3.4	無回答・無効票	2.2

■風水害に対して行っている対策についてお伺いします。

問23 地震と違い、台風や大雨は発生が予測できるため、避難に際して時間的に余裕があります。そのため、横浜市では、台風や大雨のおそれがある時に自分がとる避難行動を時系列で整理した計画「マイ・タイムライン」をあらかじめ作成しておくことを、市民の皆さまに勧めています。「マイ・タイムライン」はご存じですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 知っている 5.5 ⇒問 24 へ 2. 知らない 92.3 ⇒問 25 へ
無回答・無効票 2.2

【避難行動計画】
マイ・タイムライン作成シート 台風や大雨時における一人ひとりの避難行動計画をたてましょう。
 台風や大雨などは事前に道路や規模が予測できることから、接近時の計画をたてておくことで適切な避難行動に繋げることができます!!

【マイ・タイムライン】

警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3 高齢者等は避難	レベル4 全員避難	レベル5 [危険発生] 車両内・河川内等
行政からの情報等	●大雨に注意	●土砂災害などの注意の呼びかけ	●避難準備・高齢者等避難開始	●避難開始	●危険発生情報
警戒レベル 相当情報等	●大雨に注意	●土砂災害などの注意の呼びかけ	●避難準備・高齢者等避難開始	●避難開始	●危険発生情報
基本的事項 (全ての避難行動に共通する事項)	<input type="checkbox"/> 家族やペットを確保 <input type="checkbox"/> 身の回り品を確保 <input type="checkbox"/> 避難時は足元の確認 <input type="checkbox"/> 避難時に濡れた衣類や濡れた靴は履かない	<input type="checkbox"/> 避難準備が必要と認められる場合は避難行動を開始する <input type="checkbox"/> ペットとともに避難する方	<input type="checkbox"/> 避難準備・高齢者等避難開始 <input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 避難開始 <input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 避難開始 <input type="checkbox"/> 避難開始
わたしの計画 上記のチェック項目を参考に 個人のマイ・タイムラインを作成しましょう!! 手順1: 該当するものを記載 手順2: 個別に必要なもの をあれば記載					

(問 23 で「1」と答えた方はご回答ください)

問24 あなたは、「マイ・タイムライン」を作成していますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 作成済み 4.1 3. 今後作成するつもりである 53.1
2. 作成中 5.2 4. 作成する予定はない 37.6

■避難行動についてお伺いします。

無回答・無効票 0.0

問25 あなたは、風水害時の避難先について事前に検討していますか (マイ・タイムラインを作成していても避難先について検討していなければ「2」を選択してください)。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 検討している 31.9 ⇒問 26 へ 2. 検討していない 65.5 ⇒問 27 へ
無回答・無効票 2.6

(問 25 で「1」と答えた方はご回答ください)

問26 検討している避難先について、該当するものを選んでください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- 1. 自宅（自宅が安全である） 36.3
- 2. 行政が開設する避難場所 52.3
- 3. 安全な親戚・友人宅 5.2
- 4. ホテル等 1.1
- 5. その他（ ） 2.7
- 無回答・無効票 2.4

⇒問 28 へ

(問 25 で「2」と答えた方はご回答ください)

問27 検討していない理由について、該当するものを選んでください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- 1. 検討の方法が分からないから 44.0
- 2. 避難することが難しいから 5.6
- 3. 必要ないと思うから 18.8
- 4. 手間がかかり、面倒だから 7.3
- 5. 計画通りになることはないから 11.5
- 6. その他（ ） 6.7
- 無回答・無効票 6.0

問28 あなたは、災害時の避難について、次のことを知っていますか。

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	知っている	知らない
1. 「避難」とは、難を避けることであり、安全な場所にいれば、避難場所に行く必要はないこと	82.6	13.9
2. 行政が開設する避難場所だけでなく、安全な親戚や友人宅も避難先となること	74.7	20.9
3. 避難場所に避難する際に、できるだけ自分で、マスクなどの感染症対策用品を持参すること	89.4	7.5
4. 風水害の発生が予測されるときに、横浜市が発令する下記表1の避難情報の体系のこと（下の表1を確認し、ご回答ください）	51.6	41.3

表1 避難情報の体系 無回答・無効票 1 3.5 2 4.4 3 3.1 4 7.0

危険度	避難情報	災害状況及び取るべき行動
	警戒レベル5 【緊急安全確保】	すでに災害が発生している状況のため、命を守る最善の行動が必要
	警戒レベル4 【避難指示】	災害発生のおそれが高くて高い状況のため、危険な場所にいる人は安全な場所への避難が必要
	警戒レベル3 【高齢者等避難】	災害発生のおそれがある状況のため、避難に時間のかかる方は避難を開始する必要がある

問29 あなたが自宅にいて、豪雨が発生した場合、どのような状況になったら避難行動を開始しますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | |
|---------------------------------|------|-----------|
| 1. 普段より降雨が多いと感じた | 0.6 | } ⇒問 31 へ |
| 2. 大雨や洪水等の注意報が発表された | 1.0 | |
| 3. 大雨や洪水等の警報が発表された | 3.5 | |
| 4. 高齢者等避難（警戒レベル3）が発表された | 7.9 | |
| 5. 大雨や洪水等の警報が長らく続き、激しい雨も降りやまない | 3.2 | |
| 6. 土砂災害警戒情報が発表された | 1.7 | |
| 7. 近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った | 10.0 | |
| 8. 避難指示（警戒レベル4）が発表された | 20.5 | |
| 9. 近くでがけ崩れが起きたり、河川があふれたことを知った | 5.3 | |
| 10. 緊急安全確保（警戒レベル5）が発表された | 8.1 | |
| 11. 自宅が浸水し始めた | 6.7 | |
| 12. 大雨特別警報が発表された | 0.6 | |
| 13. その他（ ） | 1.2 | |
| 14. 避難しない | 25.2 | |

無回答・無効票 4.4

（問29で「14」と答えた方はご回答ください）

問30 あなたが避難しない理由を教えてください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|-----------------------|------|---------------------|------|
| 1. 避難するのが面倒なため | 0.7 | 4. 避難しなくても命の危険はないため | 7.8 |
| 2. 避難指示を信用していないため | 0.0 | 5. 屋内の方が安全なため | 20.3 |
| 3. 自宅に浸水や土砂災害の恐れがないため | 64.6 | 6. その他（ ） | 3.3 |
| | | 無回答・無効票 | 3.2 |

火山災害について

問31 あなたは、ご自身の住んでいる地域で、火山の噴火による火山灰の影響※として、特にどのようなことが心配ですか。 ※解説参照

5つまで選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|------------------|------|----------------------|------|
| 1. 肺や目などへの健康被害 | 74.6 | 10. 電力設備への影響による停電 | 52.0 |
| 2. 衣服等の洗濯、体の洗浄 | 18.1 | 11. 電波・通信障害 | 26.9 |
| 3. 灰の清掃 | 25.3 | 12. パソコン等の電子機器の故障 | 8.0 |
| 4. 清掃時の屋根からの転落 | 1.4 | 13. 空調のフィルタの目詰まり | 7.0 |
| 5. 屋根や自動車等の損傷や腐食 | 13.4 | 14. 上水道の水質悪化、給水停止 | 52.4 |
| 6. 建物や樹木の倒壊 | 7.9 | 15. 道路側溝や下水管のつまり | 15.3 |
| 7. 交通機関の乱れ | 31.2 | 16. 農作物への被害、生鮮食品への影響 | 31.9 |
| 8. スリップなどによる交通事故 | 5.3 | 17. 地球全体の気候変動 | 8.4 |
| 9. 生活物資の不足 | 42.7 | 18. その他（ ） | 1.0 |
| | | 無回答・無効票 | 6.2 |

問32 あなたは、火山噴火による降灰災害を想定し、マスクや目を保護するゴーグル、食料・水等の備蓄などの備えをしている又は検討していますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|--|------|
| 1. 備えをしている | 15.0 |
| 2. 備えはしていないが、検討している（備える必要があると考えているも含む） | 29.7 |
| 3. 特に備えも検討もしていない | 52.3 |
| 無回答・無効票 | 3.0 |

災害への備えや避難について

（ここでいう災害とは、地震、風水害、火山災害、その他すべての自然災害を指します。）

■あなたのご家庭での日ごろからの災害対策についてお伺いします。

問33 あなたのご家庭では、災害に備えて何日分の食料、飲料水（1人1日あたりの目安は3リットル以上）を準備していますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | | | |
|--------|------|---------|------------|------|---------|
| 1. 1日分 | 12.8 | ⇒問 35 へ | 4. 4日分以上 | 16.1 | ⇒問 35 へ |
| 2. 2日分 | 18.8 | ⇒問 35 へ | 5. 準備していない | 19.0 | ⇒問 34 へ |
| 3. 3日分 | 31.7 | ⇒問 35 へ | 無回答・無効票 | 1.5 | |

（問33で「5」と答えた方はご回答ください）

問34 準備していない理由は何ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|----------------------|------|--------------------------------|------|
| 1. 何を準備すればよいか分からないから | 13.3 | 6. 費用がかかるから | 7.9 |
| 2. 保管する場所がないから | 17.6 | 7. 面倒だから | 9.3 |
| 3. 急いで準備する必要はないと思うから | 18.4 | 8. 特になし | 15.0 |
| 4. 容易に購入できると思うから | 5.5 | 9. その他（ ） | 7.3 |
| 5. 行政が準備していると思うから | 2.8 | 無回答・無効票 | 3.0 |

問35 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

地震への対策 (火災含む)	1. 自分の家を揺れや火に強い構造にしている	24.6
	2. 消火器や消火スプレーなどを備えている	39.6
	3. 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り付けている	7.9
	4. カーテンなどの日用品を燃えにくいものになっている	15.8
風水害への対策	5. 雨水ます等が詰まらないよう、定期的に掃除している	20.3
	6. 屋根や窓周りの暴風対策や補強をしている	6.1
	7. 気象情報についてこまめに確認している	54.4
	8. 土のうの準備をしている	0.9
災害への対策 (共通事項)	9. ラジオ、懐中電灯などを準備している	76.8
	10. トイレパックを備蓄している	40.2
	11. いつも風呂に水をためおきしている	25.6
	12. 日用品(医薬品、おむつ等)をすぐ持ち出せるように準備している	25.8
	13. 感染症用品(マスクなど)をすぐに持ち出せるように準備している	39.9
	14. 家族との連絡方法を決めている	25.4
	15. 避難する場所を決めている	34.1
	16. 避難場所への避難経路を確認している	20.5
	17. 自宅周辺の危険箇所を確認している	13.5
	18. いざという時に隣近所で助け合える関係をつくっている	15.3
	19. 地域の防災訓練に参加している	15.6
	20. 特に何もしていない	9.5
	21. その他()	0.5
	無回答・無効票	1.0

問36 勤務先や外出先で、災害の発生により交通機関が停止し、道路も通行不能となった場合に備えた対策を行っていますか。

該当するもの全て選択して番号を○で囲んでください

1. 職場に宿泊するための準備をしている	8.5
2. 自宅までの徒歩による経路を確認している	35.2
3. 徒歩経路の災害時帰宅支援ステーション※を確認している	※解説参照 1.7
4. 一時滞在施設※等の場所を確認している	※解説参照 1.8
5. 家族との連絡手段を決めている	22.1
6. 防災グッズをいつも携行している(例:帰宅支援マップ、携帯ラジオ、絆創膏等)	5.1
7. 特に何もしていない	42.7
8. その他()	2.3
	無回答・無効票 4.7

■地域での取組についてお伺いします。

問37 あなたは、次の研修や訓練等※に参加したことがありますか。 ※解説参照

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

1. 自治会・町内会の防災訓練	38.5	}	⇒問39へ
2. 地域防災拠点の訓練	8.4		
3. 家庭防災員研修	3.9		
4. 横浜防災ライセンス講習会	0.6		
5. 防災・減災推進研修	0.7		
6. 消防団活動	1.6		
7. 上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練	4.7		
8. その他 ()	2.7		
9. 参加したことはあるが何か分からない	5.3		
10. 何も参加していない	47.5		

(問37で「10」と答えた方はご回答ください) 無回答・無効票 2.0

問38 参加していない理由は何ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 面倒だから	16.4
2. 時間がないから	23.3
3. 必要がないと思うから	5.9
4. 家族が参加しているから	6.0
5. 参加したかったが、いつどこで開催されているか分からないから	27.3
6. 参加したかったが、新型コロナウイルス感染症を恐れ、行かなかったため	1.7
7. 参加したかったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催されなかったため	3.0
8. その他 ()	11.6
無回答・無効票	4.7

問39 災害が起こった時に、あなたは、ご近所の方にはどのような支援(手助け)ができると思いますか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

1. 「大丈夫ですか」などの声かけ	74.1	8. 避難の手助け	46.5
2. オムツ、ミルクなどの必需品の提供	4.0	9. 介助や応急手当	16.9
3. 災害状況や避難情報などの伝達	34.7	10. 支援したいが、余裕がないためできそうにない	10.9
4. その方の母語への通訳や母語での情報提供	3.5	11. 近所と協力し合う関係性ではない	5.5
5. 家族や親族・知人への連絡	38.7	12. 近所に協力が必要な人はいない	1.9
6. 一時的な保護・預かり	18.2	13. その他 ()	1.4
7. 相談相手や話し相手になる	31.6	14. 分からない	6.9
		無回答・無効票	2.2

問40 あなたは、「自助・共助」という言葉を知っていますか。また、横浜市が「自助・共助」の大切さを市民の皆様の間に広めていくために制定した「よこはま地震防災市民憲章」を知っていますか。

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	聞いたこともあるし、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 内容は知らない	聞いたことがない
1. 「自助」 【自分の身は自分で守ること】	60.9	22.4	14.7
2. 「共助」 【地域や身近にいる人同士が 助け合うこと】	56.0	24.9	16.4
3. 「よこはま地震防災市民憲章」※ ※解説参照	4.1	20.7	69.9

無回答・無効票

1 2.0

2 2.7

3 5.3

■避難場所等についてお伺いします。

問41 あなたは、風水害時などで、緊急的に避難する「避難場所」と、地震等で避難生活を送る「避難所（地域防災拠点※）」の違いを知っていますか。 ※解説参照

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 知っている 32.7 2. 知らない 62.1

無回答・無効票 5.2

問42 あなたは、次の避難場所等について意味を知っていますか。

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	知っている	知らない
1. いっつき避難場所 【地震発生直後に建物倒壊等の危険から逃れるために避難する場所。 あらかじめ町内会などで近所の公園や空き地を決めている。住民の 安否確認などを行う場合もある。】	51.5	46.5
2. 広域避難場所 【地震による大規模火災から一時的に避難する場所】	72.8	24.7
3. 福祉避難所 【高齢者や障害者などのうち、避難生活で特別な配慮が必要な人に対 する避難所】	15.1	81.5

無回答・無効票

1 2.0

2 2.5

3 3.4

問43 あなたが自宅にいて災害が発生し、次のような状況になった場合、当面の期間、どこで避難生活をしますか。

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	避難所	親族・友人の家等	公園等	車の中	自宅にいる
1. 余震が続く場合（自宅は無被害）	5.1	1.3	1.5	1.0	88.2
2. 自宅が半壊、一部破損している場合	45.3	19.7	2.1	8.8	17.5
3. 自宅が全壊している場合	62.1	23.6	1.1	5.7	1.0
4. 水・ガス・電気等が使えない場合 （自宅は無被害）	28.8	12.0	0.4	1.5	52.8
5. 市等の避難指示があった場合	73.0	8.8	0.7	2.5	10.3

無回答・無効票 1 2.8 2 6.5 3 6.5 4 4.4 5 4.7

（問43のいずれかの回答で、**4 車の中**を選択した方に質問します）

問44 あなたが、**4 車の中**を選択した理由で、あなたの考え方に一番近いものは何ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|-----------------------|------|-------------------|------|
| 1. 余震が怖い（屋内よりも屋外にいたい） | 21.1 | 5. ペットがいるため | 20.4 |
| 2. 集団生活が苦手なため | 18.8 | 6. 避難所がどこか分からないため | 1.6 |
| 3. 子どもがいるため | 4.2 | 7. 感染症が怖い | 10.7 |
| 4. 介護等が必要な家族がいるため | 3.7 | 8. その他（ ） | 11.1 |
| | | 無回答・無効票 | 8.4 |

（全員の方に質問します）

問45 あなたが車の中での生活を強いられた場合、特に心配なことは何ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | |
|------------------------|-------|------|
| 1. エコノミークラス症候群*などの健康被害 | ※解説参照 | 41.6 |
| 2. 災害に関する情報の収集ができない | | 2.7 |
| 3. 支援物資などが供給されない | | 17.0 |
| 4. 他の避難者に会えない孤独感 | | 0.8 |
| 5. 熱中症や低体温症 | | 7.9 |
| 6. 車で移動した際の道路冠水 | | 2.6 |
| 7. 特に心配はない | | 2.5 |
| 8. その他（ ） | | 4.3 |
| 無回答・無効票 | | 20.7 |

問46 あなたは、「女性への配慮」という視点で、地域防災拠点（避難所）運営等において、どのようなことが特に重要だと考えますか。

3つまで選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|--|------------|
| 1. 人目が気にならない休養スペース、更衣室、物干し場等 | 87.6 |
| 2. 授乳室や乳幼児のいる家庭用のスペース | 60.1 |
| 3. 悩みを相談できる場所 | 14.0 |
| 4. 巡回警備等の防犯対策 | 39.9 |
| 5. 拠点運営責任者への女性の配置 | 30.4 |
| 6. 避難者による食事作りや片付け、掃除等の役割分担（性別や年齢等で固定しない） | 27.3 |
| 7. その他（
無回答・無効票 | 2.0
3.5 |

災害情報について

■災害に関する情報収集、災害時の安否確認についてお伺いします。

問47 あなたは、防災に関するそれぞれの情報（予防・緊急）をどのような方法で入手している又はしたいですか。

それぞれ右の番号のうち該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

	予防情報 (予備知識など)	緊急情報 (避難情報など)
1. テレビ	65.5	76.7
2. ラジオ	29.7	52.7
3. 市のホームページ	31.7	27.9
4. 市からの防災情報Eメール	22.3	34.3
5. 防災アプリ (Yahoo!防災速報など)	27.2	40.7
6. LINE (ライン)	27.2	42.1
7. ツイッター	15.6	20.6
8. フェイスブック	10.3	10.8
9. 新聞	36.7	17.7
10. 市や県の広報紙	40.9	13.5
11. 防災マップ	42.9	15.9
12. 雑誌	18.0	2.7
13. 町内の回覧板や掲示板	40.4	17.8
14. その他 ()	2.4	1.6
15. 特にない	2.4	1.0
無回答・無効票	10.8	8.5

問48 あなたは、横浜市が地震や気象情報などの防災情報を配信しているサービス「防災情報Eメール」、
「Yahoo!防災速報」、「横浜市危機管理室のTwitter」について知っていますか。

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	知っており、すでに登録している	知っているが、登録していない	知らない
1. 防災情報Eメール 【横浜市が気象警報などの防災情報をEメールで配信するもの】	13.4	21.6	62.8
2. Yahoo!防災速報 【さまざまな防災情報をプッシュ通知で受け取れる無料のスマートフォンアプリ】	22.7	25.1	49.3
3. 横浜市危機管理室のTwitter 【災害が予測される場合の避難等の情報をツイートして知らせるもの】	3.7	15.9	77.0

無回答・無効票

1 2.3 2 3.0 3 3.4

(問48のいずれかの回答で2 知っているが、登録していないを選択した方に質問します)

問49 あなたが登録していない理由は何ですか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

1. 登録が面倒	34.4
2. メールアドレス等の個人情報管理に不安がある	26.0
3. サービス内容等がよく分からない	28.6
4. 必要性を感じない(TV・ラジオ等別な方法により入手)	27.8
5. 欲しい情報がない	3.0
6. 携帯電話やパソコンを持っていない	3.0
7. その他 ()	8.5
無回答・無効票	3.7

問50 あなたは、災害時に家族と連絡が取れない場合、どのような手段で家族の安否を確認するか決めていますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 決めている	27.7	3. 確認手段が分からない	24.0
2. 確認手段は分かっているが決めていない	42.4	4. 安否の確認はしない	2.7
		無回答・無効票	3.2

(確認手段の例)

- ・災害用伝言ダイヤル(171)※、災害用伝言版(Web171)※、J-anpi 安否情報まとめて検索※を利用する
- ・共通の知人等に聞く
- ・家族の勤務先や通学先等に問い合わせる など

横浜市の災害対策に係るご意見について

■横浜市の災害対策に係るご意見についてお伺いします。

問51 災害対策について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。

5つまで選択して番号を○で囲んでください

1. 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化	47.9	
2. 災害に関する情報提供や広報	22.5	
3. 避難場所への道路の整備	8.4	
4. 水・食料・毛布などの十分な備蓄	64.9	
5. 地域における防災組織の確立	7.5	
6. 防災訓練などの意識啓発の強化	5.3	
7. 学校や公共施設の耐震化・安全化	20.8	
8. 地下街や高層ビルに対する防災指導の強化	4.2	
9. 一般住宅の耐震診断・耐震補助	12.2	
10. がけ崩れや液状化などへの対策	15.3	
11. 津波・高潮・洪水などによる浸水への対策	8.9	
12. ハザードマップの作成や使い方に関する啓発	10.2	
13. 避難方法や避難場所の周知	16.5	
14. 災害時の要配慮者（高齢者や体の不自由な方）への支援対策	16.4	
15. 帰宅困難者への対策	15.1	
16. 国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化	8.6	
17. 災害ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備	4.1	
18. 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化	26.5	
19. 電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上	59.1	
20. 停電や電力不足への対策	29.9	
21. 放射性物質による汚染への対策	2.4	
22. 火山噴火による降灰への対策	4.2	
23. 地震における火災対策	9.5	
24. 防災・減災に関する研修の拡充	1.7	
25. その他（具体的に	1.9	無回答・
26. 特にない	1.3	無効票 5.2

選択したものに関して、具体的にはどのようなことに取り組んでほしいと考えていますか。
ご記入ください。

[]

質問は以上です。お疲れさまでした。ありがとうございました。

◆用語解説◆

問番号	用語	説明
10	新耐震基準	震度6強～7に達する程度の揺れでも倒壊しないような構造基準 昭和56年6月1日以降に建設された建物はこの基準の適用を受けている。
11	耐震診断	新耐震基準以前に建設された建物に対して、新耐震基準を満たしているか否かを確認すること。
	耐震改修	耐震診断の結果、基準を満たしていない場合や耐震性に問題がある建物に対して行う補強工事
16	通電火災	地震や台風などの自然災害による長時間の停電後、復旧時に出火する電気火災のこと。損傷した配線などに電気が流れ、発熱発火する場合や、転倒したヒーターに可燃物（カーテン、じゅうたん等）が触れている状態で電気が流れ着火する場合などがある。
	感震ブレーカー	地震の大きな揺れを感知して電気を自動的に遮断し、電気火災を防ぐ器具⇒詳しくは同封の案内へ
18	補助制度等	対象とする地域にお住まいの方に「簡易タイプ」の感震ブレーカーの器具代の一部を補助又は助成する。⇒詳しくは同封の案内へ
31	火山灰の影響	富士山が噴火した場合、横浜市内でも、2～10cm程度の降灰が予想される。それにより、健康被害や交通機関の乱れが生じる可能性がある。
36	災害時帰宅支援ステーション	徒歩帰宅者支援のための協定を締結したコンビニエンスストアやファミリーレストラン、ガソリンスタンドなどを「災害時帰宅支援ステーション」又は「災害時徒歩帰宅者支援ステーション」と呼び、専用のステッカーを店舗の入口など、利用者の見やすい位置に掲示している。これらの店舗では、トイレ、水道水を利用できるほか、道路交通情報などを可能な範囲で提供してもらえる。
	一時滞在施設	帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れ、休憩場所のほか、可能な範囲でトイレ、水道水、情報の提供等を実施する施設

◆用語解説◆

問番号	用語	説明
37	次の研修や訓練等	
	地域防災拠点の訓練	避難所の開設、避難者の受入れ、区災害対策本部との情報の受伝達、資機材を利用した救出・救護活動など、地域防災拠点における対応を確認する訓練
	家庭防災員研修	自助から始まり地域防災の担い手にもつなげる研修制度として、自治会・町内会から推薦を受けた方を対象に、防火・防災に関して必要な知識及び技術を身に付けていただくことを目的とした研修
	横浜防災ライセンス講習会	地域防災拠点に備えている資機材の取扱い方法を学ぶ講習会。講習会を受講された方を資機材取扱リーダーとしてリーダー証を発行し、名簿に登載している。
	防災・減災推進研修	地域の防災の担い手を育成し、地域の防災力の向上を図ることを目的とし、町の防災組織（自治会・町内会等）の中で活動している方々などに対し、市が進めようとしている防災・減災に関する講義やグループワーク等を行うもの。基礎編、応用編、支援編がある。
	消防団	消防団とは、普段は本業の仕事を持ちながら、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導、災害防ぎょ活動などを行う消防組織法第九条に定められた市町村の消防機関の一つ。 消防団員は、災害活動のほか、平常時では、訓練や、応急手当の普及指導、住宅への防火指導、特別警戒、広報活動など、地域における消防力・防災力の向上や地域コミュニティの維持・振興において重要な役割を担っている。
40	よこはま地震防災市民憲章	東日本大震災を踏まえ、「自助・共助」の大切さを市民に広め、その取組を促進するためのもの。
41	地域防災拠点	災害時の避難所としての機能に併せ、水・食料の提供や情報の提供、住民による救出・救護の拠点としての役割を持たせたものであり、震度5強以上の地震で開設される。
45	エコノミークラス症候群	食事や水分を十分にとらない状態で、車などの狭い空間に長時間座っていて足を動かさないと、血液の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発すること。
50	災害用伝言ダイヤル (171)	固定電話等を使って被災地の方の安否情報を確認する「声の掲示板」
	災害用伝言版 (Web171)	パソコンや携帯電話等を使い被災地の方の安否情報を確認する「Web 掲示板」
	J-anpi 安否情報 まとめて検索	「電話番号」や「氏名」を検索することで、通信キャリア各社が提供する災害用伝言版の安否情報に加え、各企業や団体が収集した安否情報もまとめて確認できる共同サイト

問 17 について、下記の対象地域にお住まいの方は、「1～4」、それ以外の方は「5～8」から選択してください（青葉区、旭区、港南区、栄区、瀬谷区、都筑区、緑区にお住まいの方は、地域外です）。

表 2 対象地域

泉区	白幡上町	西柴 3 丁目	下野谷町 1～4 丁目	柏葉	妙香寺台	元久保町	白妙町 1、2 丁目
白百合 1～3 丁目	白幡町	平潟町	下末吉 1、4 丁目	北方町 1、2 丁目	麦田町 1～4 丁目	保土ヶ谷区	高根町 1 丁目
中田北 2、3 丁目	白幡仲町	町屋町	諏訪坂	鷺山	元町 1～5 丁目	岩崎町	通町 4 丁目
中田西 2～4 丁目	白幡西町	谷津町	佃野町	諏訪町	矢口台	岡沢町	中里 1～4 丁目
中田東 1～4 丁目	白幡東町	港北区	鶴見 1、2 丁目	滝之上	山下町	霞台	永田北 1～3 丁目
中田南 1～5 丁目	白幡南町	菊名 1 丁目	寺谷 1、2 丁目	竹之丸	山手町	帷子町 1、2 丁目	永田山王台
磯子区	白幡向町	篠原台町	豊岡町	立野	大和町 1、2 丁目	鎌谷町	永田東 1、2 丁目
磯子 1、2、8 丁目	立町	篠原町	仲通 1 丁目	千代崎町 1～4 丁目	山元町 1～4 丁目	神戸町	永田南 1、2 丁目
岡村 1～7 丁目	中丸	篠原西町	馬場 1～7 丁目	寺久保	西区	桜ヶ丘 1、2 丁目	中村町 1～3 丁目
滝頭 1～3 丁目	七島町	篠原東 1～3 丁目	東寺尾 3、6 丁目	仲尾台	赤門町 2 丁目	月見台	西中町 4 丁目
中浜町	西大口	新吉田東 5、6 丁目	東寺尾北台	西竹之丸	東ヶ丘	初音ヶ丘	八幡町
久木町	西神奈川 2、3 丁目	高田東 1、4 丁目	東寺尾中台	西之谷町	伊勢町 1～3 丁目	星川 1 丁目	東蒔田町
広地町	二本榎	綱島西 5 丁目	東寺尾東台	初音町 1～3 丁目	老松町	峰岡町 1～3 丁目	伏見町
丸山 1、2 丁目	白楽	仲手原 2 丁目	本町通 1～3 丁目	英町	霞ヶ丘	宮田町 1～3 丁目	平楽
神奈川区	平川町	錦が丘	向井町 1、2 丁目	日ノ出町 2 丁目	久保町	和田 2 丁目	別所 2～5 丁目
旭ヶ丘	広台太田町	日吉本町 4 丁目	戸塚区	本郷町 1～3 丁目	御所山町	南区	別所中里台
入江 2 丁目	松本町 1～5 丁目	富士塚 1、2 丁目	汲沢 1、3～8 丁目	本牧荒井	境之谷	井土ヶ谷上町	堀ノ内町 1、2 丁目
浦島丘	三ツ沢上町	鶴見区	戸塚町	本牧大里町	浅間台	浦舟町 1 丁目	蒔田町
浦島町	三ツ沢下町	市場上町	中区	本牧三之谷	浅間町 2～5 丁目	永楽町 1 丁目	真金町 1、2 丁目
大口通	三ツ沢中町	市場西中町	赤門町 1 丁目	本牧町 1、2 丁目	中央 1、2 丁目	榎町 1、2 丁目	南太田 1 丁目
大口仲町	六角橋 1～6 丁目	市場東中町	池袋	本牧原	戸部本町	大岡 1～5 丁目	三春台
神之木台	金沢区	潮田町 1、2 丁目	石川町 1～5 丁目	本牧満坂	西戸部町 1～3 丁目	庚台	宮元町 3 丁目
神大寺 1、4 丁目	金沢町	小野町	上野町 1～4 丁目	本牧緑ヶ丘	西前町 2、3 丁目	唐沢	六ツ川 1、2 丁目
栗田谷	洲崎町	岸谷 1～4 丁目	打越	本牧元町	浜松町	共進町 1～3 丁目	睦町 1、2 丁目
子安通 1 丁目	泥亀 2 丁目	北寺尾 1、2、5～7 丁目	大芝台	豆口台	東久保町	山谷	若宮町 1～4 丁目
斎藤分町	寺前 1、2 丁目	汐入町 1 丁目	大平町	藁沢	藤棚町 1、2 丁目	清水ヶ丘	

上記の地域は、火災の延焼の危険性が高い地域であり、地震による火災を減少させるために、特に対策が必要な地域として「横浜市地震防災戦略における地震火災対策方針」に定められています。

上記地域にお住まいの方に対して、感震ブレーカーの器具代の一部を補助又は助成するなどの支援を行っています。詳しくは同封の案内をご覧ください。

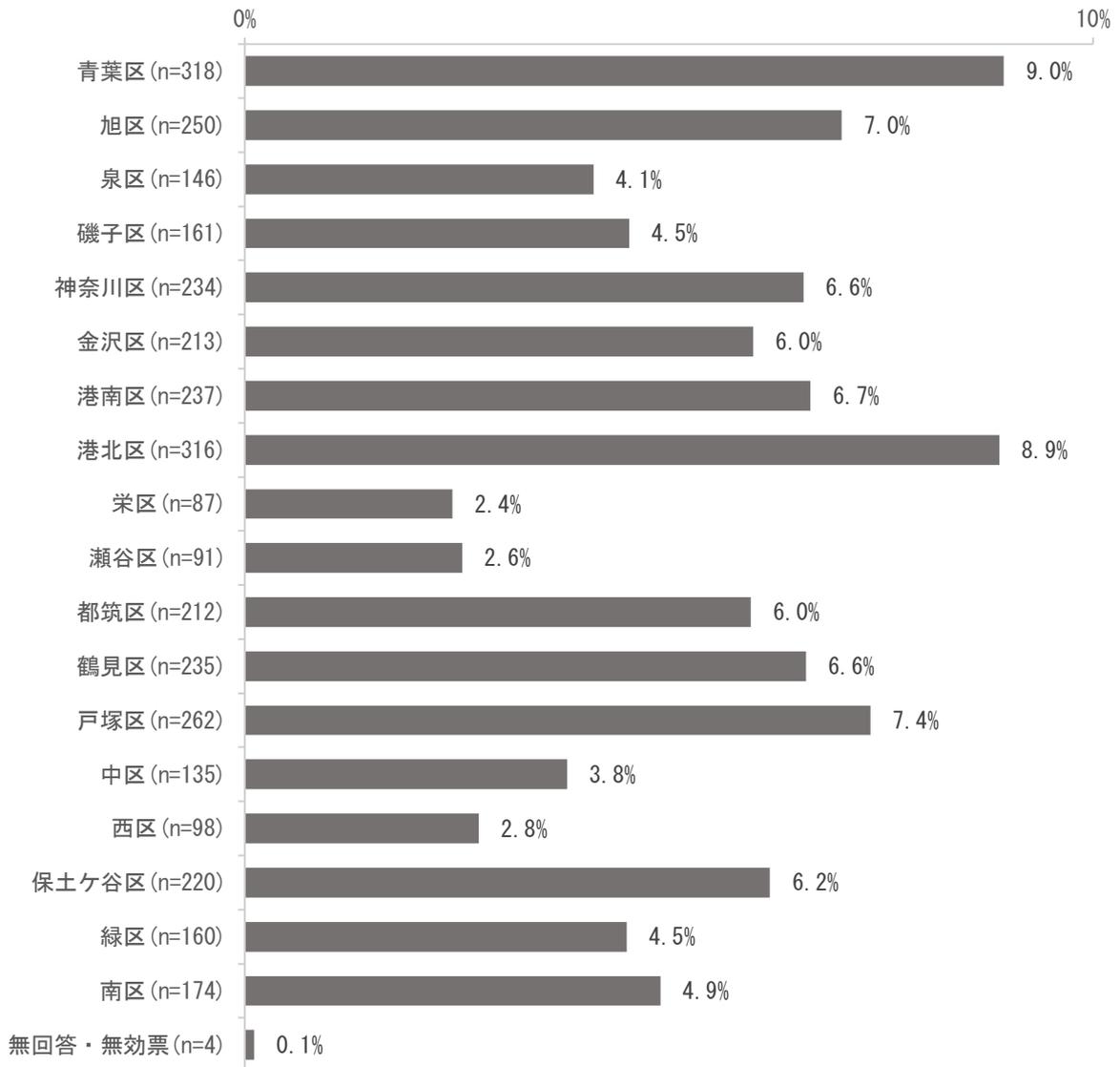
第2章 調査結果

1. 回答者の属性

(1) あなた自身のこと

問1 あなたのお住まいの区はどちらですか。(1つ選択)

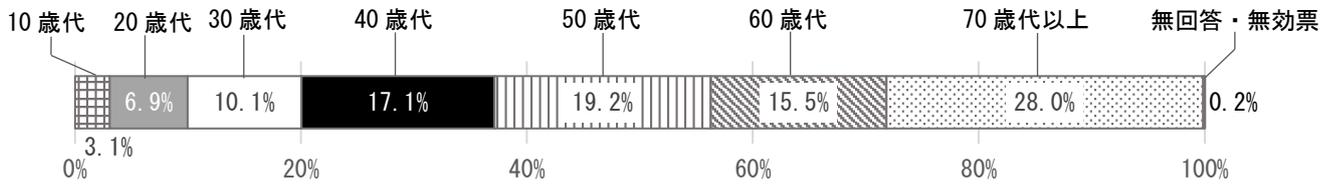
【全体集計】 n=3,553



図表 1-1 : 居住区

問2 あなたの年齢（年代）はどれですか。（1つ選択）

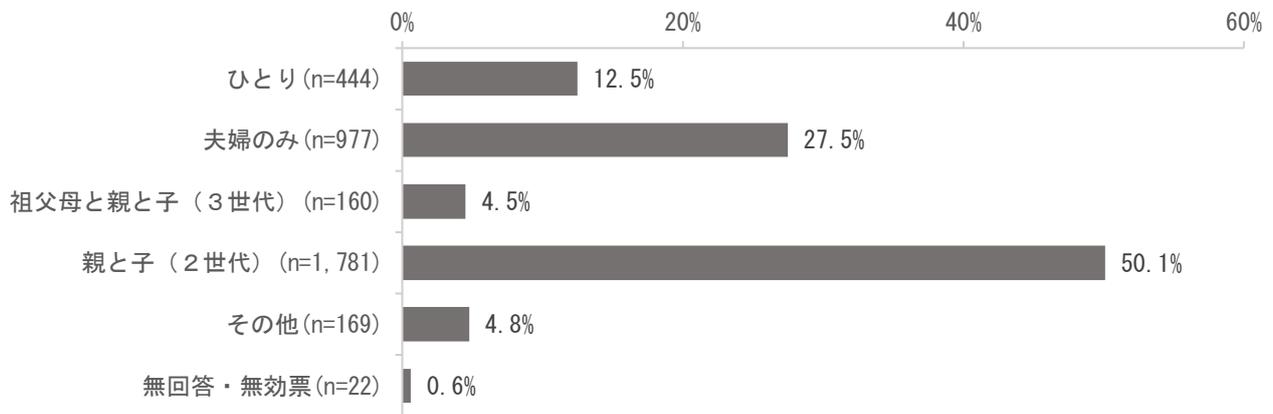
【全体集計】 n=3,553



図表 2-1 : 年齢

問3 あなたは、どのような家族形態で暮らしていますか。（1つ選択）

【全体集計】 n=3,553



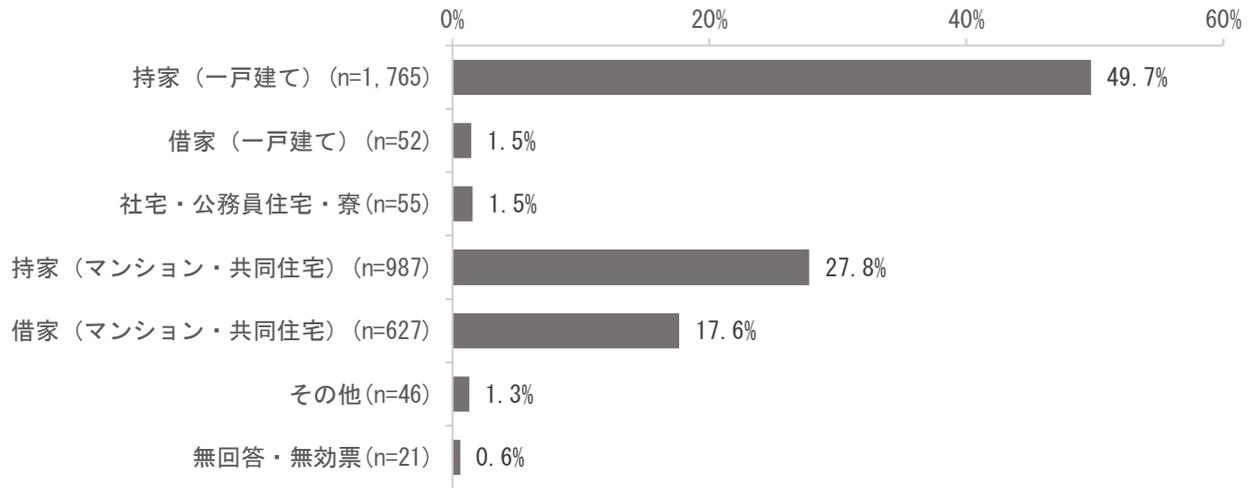
図表 3-1 : 家族形態

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

4世代／兄弟／姉妹／兄妹／姉弟／婚約者・交際者と／友人と／グループホーム／ケアホーム／シェアハウス

問4 あなたのお住まい（住宅）の形態はどれですか。（1つ選択）

【全体集計】 n=3,553



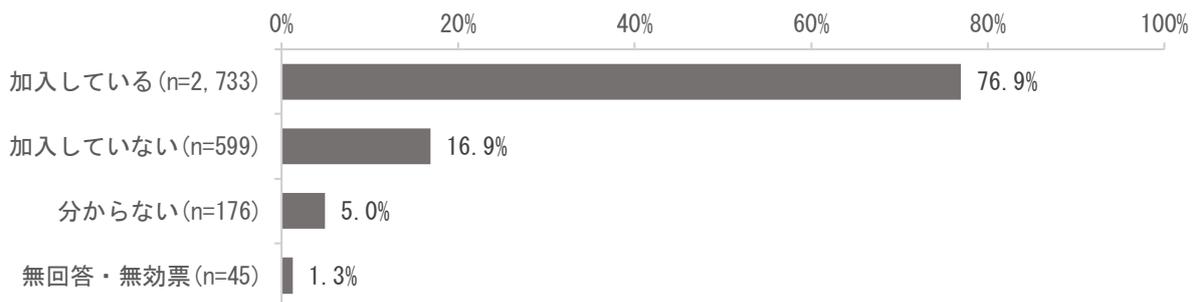
図表 4-1：住居形態

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

グループホーム／ケアホーム／有料老人ホーム／息子の家／友人宅

問5 あなたは、自治会、町内会に加入していますか。（1つ選択）

【全体集計】 n=3,553



図表 5-1：自治会・町内会への加入

2. 地震について

(1) 大地震への不安等

問6 あなたは、近い将来、横浜市で、強く大規模な地震が起きるのではないかと不安を感じていますか。(1つ選択)

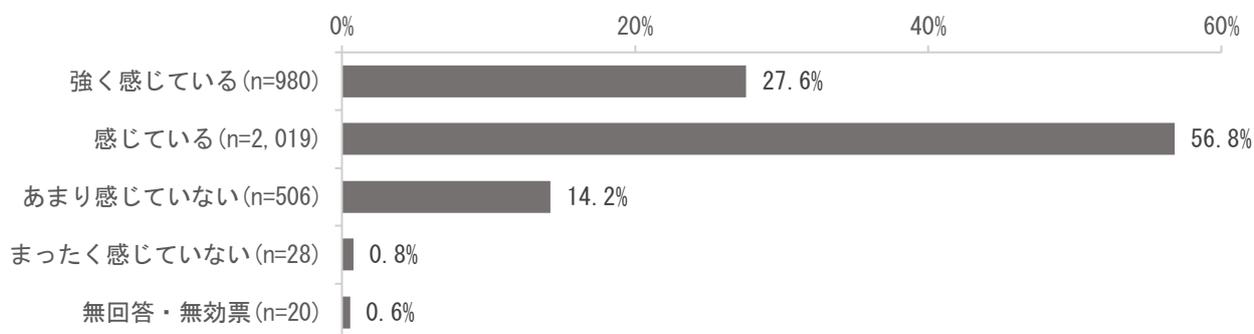
◇大地震への不安を感じている人は8割超

大地震への不安については、「強く感じている」、「感じている」の合計が84.4%となり、「あまり感じていない」、「まったく感じていない」の合計が15.0%となった。

経年比較では、前回調査と比べ、「強く感じている」の割合が39.8%から12.2ポイント減少し、27.6%、「感じている」の割合が50.8%から6.0ポイント増加し、56.8%となった。「あまり感じていない」の割合は7.0%から7.2ポイント増加し、14.2%となった。

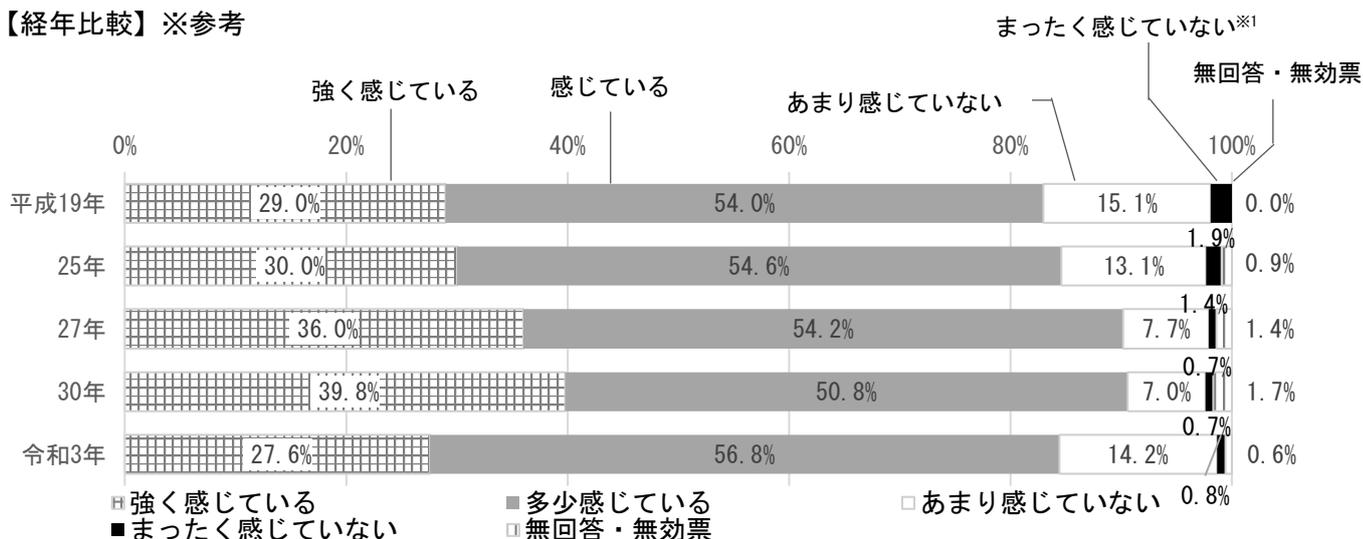
年代別集計では、「強く感じている」、「感じている」を合計した割合が、最も高いのが、「50歳代」の88.6%、最も低いのが、「10歳代」の74.3%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 6-1 : 大地震への不安

【経年比較】 ※参考

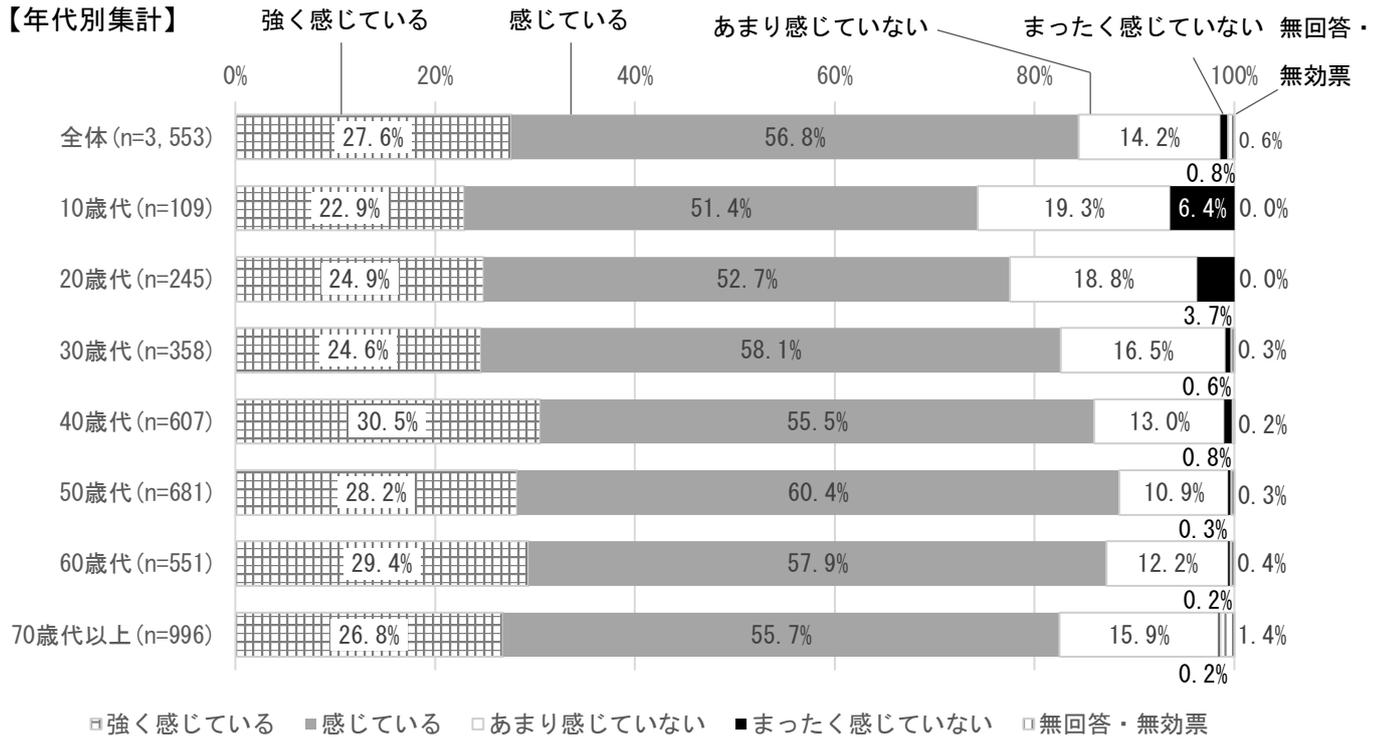


図表 6-2 : 大地震への不安 経年比較

※ 平成19年、25年は「横浜市民意識調査」結果から抜粋

※1 平成19年調査で「全然感じていない」としていた選択肢を経年比較を行うにあたり、「あまり感じていない」に整理し、比較を行っている。

【年代別集計】



図表 6-3 : 大地震への不安 年代別集計

問7 あなたは、横浜市で、強く大規模な地震が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。
(5つまで選択)

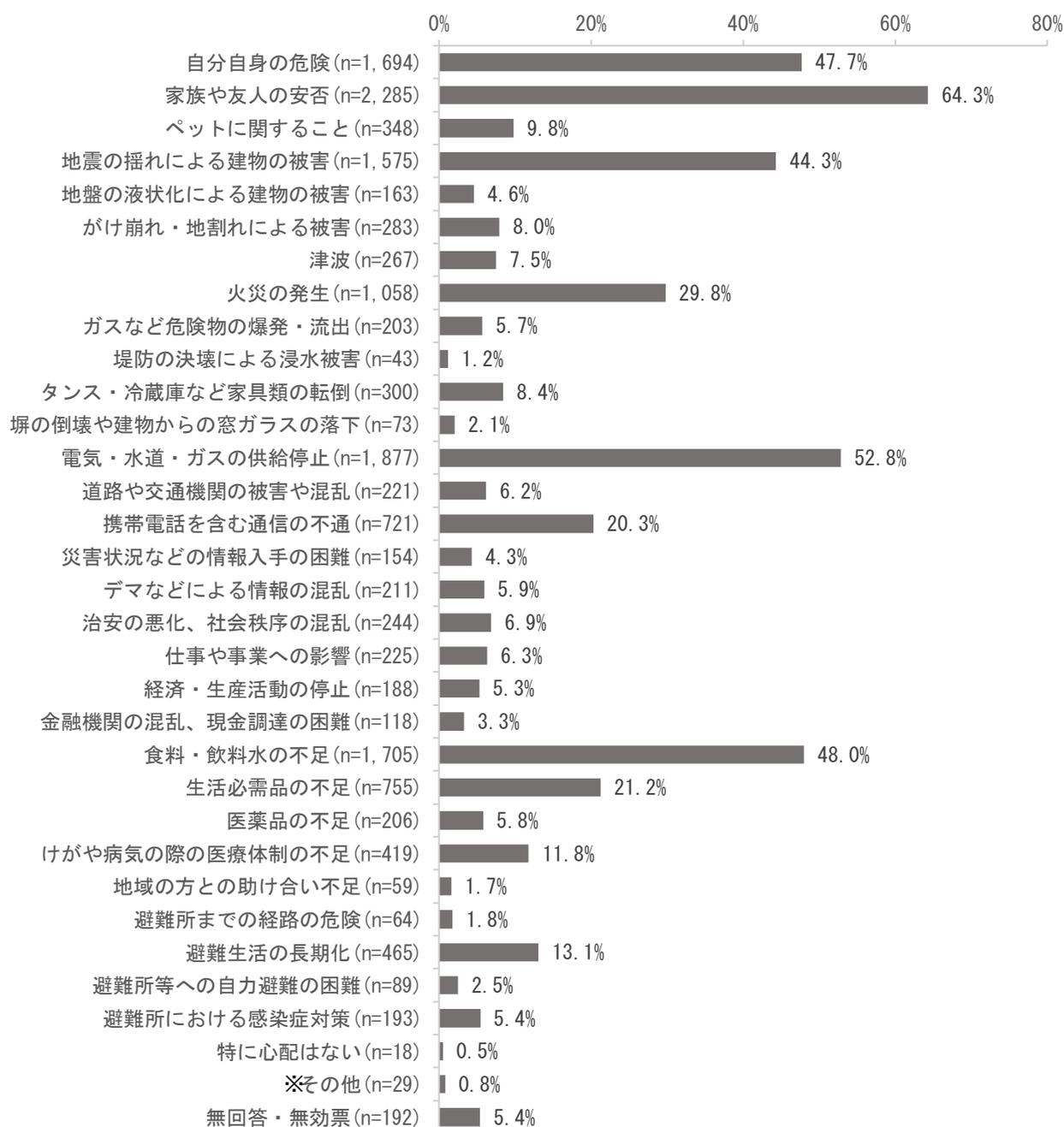
◇大地震が発生した場合に、心配なことは「家族や友人の安否」が最も多い

大地震が発生した場合に心配なことは、「家族や友人の安否」が64.3%と最も多く、次いで「電気・水道・ガスの供給停止」が52.8%となった。

経年比較では、「家族や友人の安否」の割合が増加しており、前回調査の46.2%（4位）から18.1ポイント増加し、64.3%（1位）となった。

年代別集計では、「70歳代以上」で「家族や友人の安否」の割合が低く、全体の64.3%より16.3ポイント低い、48.0%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 7-1 : 大地震が発生した場合の心配事

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

持病の発症／暑さや寒さに対する対策／避難所の不足／避難所の立地／トイレ、下水の停止／障害のある家族の避難・避難所での避難生活／寝たきりの家族との生活維持／行政の支援

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成20年 (n=2,341)	家屋・建物の倒壊 69.8%	家族や友人の安否 67.6%	火災の発生 54.0%	食料・飲料水の不足 50.7%	電気・水道・ガスの供給停止 49.7%
27年 (n=3,217)	電気・水道・ガスの供給停止 62.0%	家屋・建物の倒壊 53.5%	食料・飲料水の不足 53.2%	家族や友人の安否 49.5%	火災の発生 48.0%
30年 (n=2,682)	電気・水道・ガスの供給停止 65.5%	家屋・建物の倒壊 53.7%	食料・飲料水の不足 53.4%	家族や友人の安否 46.2%	火災の発生 46.1%
令和3年 (n=3,553)	家族や友人の安否 64.3%	電気・水道・ガスの供給停止 52.8%	食料・飲料水の不足 48.0%	自分自身の危険※1 47.7%	地震の揺れによる建物の被害※1 44.3%

図表 7-2：大地震が発生した場合の心配事 経年比較

※1「自分自身の危険」、「地震の揺れによる建物の被害」は今回調査からの新設選択肢

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	家族や友人の安否 64.3%	電気・水道・ガスの供給停止 52.8%	食料・飲料水の不足 48.0%	自分自身の危険 47.7%	地震の揺れによる建物の被害 44.3%
10歳代 (n=109)	家族や友人の安否 69.7%	自分自身の危険 56.9%	食料・飲料水の不足 49.5%	電気・水道・ガスの供給停止 31.2%	地震の揺れによる建物の被害 29.4%
20歳代 (n=245)	家族や友人の安否 70.6%	自分自身の危険 62.4%	食料・飲料水の不足 46.5%	電気・水道・ガスの供給停止 40.0%	地震の揺れによる建物の被害 34.7%
30歳代 (n=358)	家族や友人の安否 77.7%	自分自身の危険 51.7%	食料・飲料水の不足 47.5%	地震の揺れによる建物の被害 42.5%	電気・水道・ガスの供給停止 41.9%
40歳代 (n=607)	家族や友人の安否 76.3%	食料・飲料水の不足 51.9%	電気・水道・ガスの供給停止 51.4%	地震の揺れによる建物の被害 44.2%	自分自身の危険 40.7%
50歳代 (n=681)	家族や友人の安否 70.0%	電気・水道・ガスの供給停止 54.6%	食料・飲料水の不足 51.0%	地震の揺れによる建物の被害 46.7%	自分自身の危険 39.4%
60歳代 (n=551)	家族や友人の安否 60.8%	電気・水道・ガスの供給停止 57.4%	地震の揺れによる建物の被害 48.8%	食料・飲料水の不足 47.2%	自分自身の危険 47.0%
70歳代以上 (n=996)	電気・水道・ガスの供給停止 59.5%	自分自身の危険 52.0%	家族や友人の安否 48.0%	地震の揺れによる建物の被害 45.1%	食料・飲料水の不足 44.4%

図表 7-3：大地震が発生した場合の心配事 年代別集計

問8 阪神・淡路大震災では、大規模火災が発生し深刻な被害をもたらしました。地震により火災が発生した場合、あなたの住んでいる地域で心配なことは何ですか。該当するものすべて選択

◇地震火災に関して心配なことは「自宅が燃えてしまうこと」が最も多い

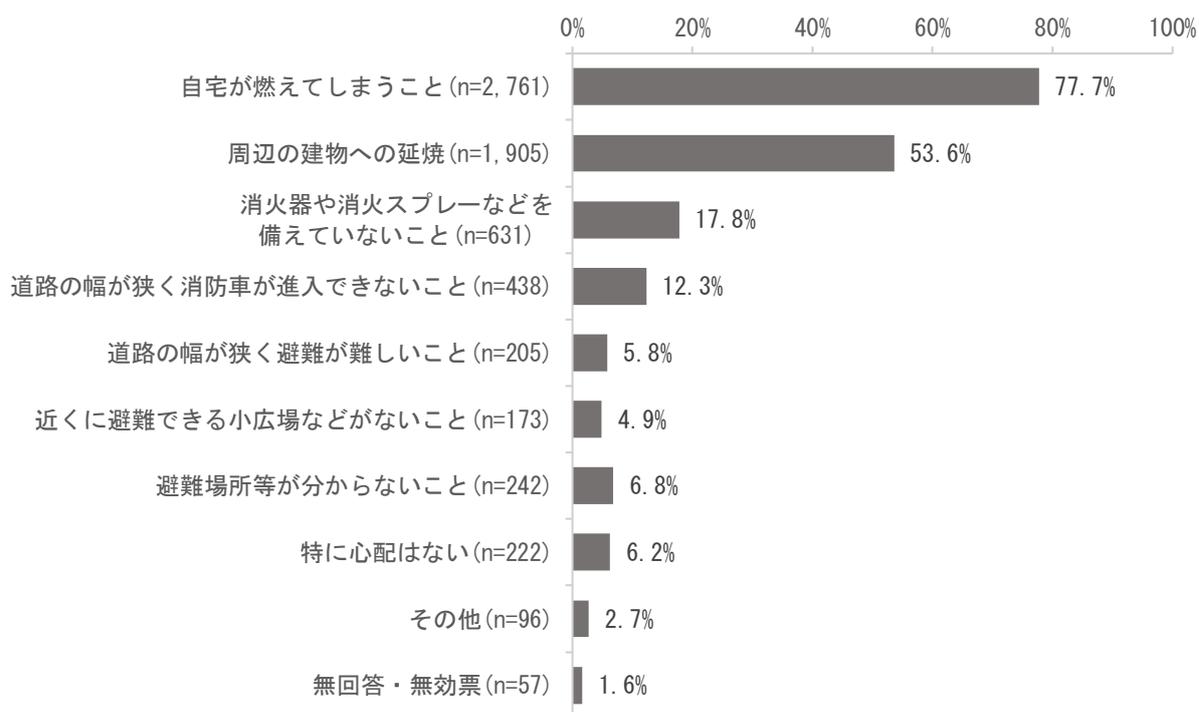
地震火災について心配なことは、「自宅が燃えてしまうこと」が77.7%と最も多く、次いで「周辺の建物への延焼」が53.6%となった。

経年比較では、「自宅が燃えてしまうこと」の割合が増加しており、前回調査の27.5%から50.2ポイント増加し、77.7%となった。

住居形態別集計では、「持家（一戸建て）」で、「自宅が燃えてしまうこと」及び「周辺の建物への延焼」の割合が、それぞれ全体より約10ポイント高く、「自宅が燃えてしまうこと」の割合が87.0%、「周辺の建物への延焼」の割合が65.3%となった。

住居構造別集計では、「木造住宅」で、「自宅が燃えてしまうこと」及び「周辺の建物への延焼」の割合が、それぞれ全体より10ポイント以上高く、「自宅が燃えてしまうこと」の割合が87.8%、「周辺の建物への延焼」の割合が65.4%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 8-1：地震火災で心配なこと

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

消防車がすぐ来るか／高層階なので放水が届かないこと／消火器だけでは手が付けられないこと／道が入り組んでいるため消防車の到着まで時間がかかること／近隣の工場等からの火災／人が多くて密集していること／高齢者、障害者の避難／ペットを連れての避難／避難場所の不足／避難場所が遠いこと／電気・水・ガス等のライフラインの停止／建物等の倒壊

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	周辺の建物が火に強い構造ではない※ ¹ 31.6%	自宅が火に強い構造ではない※ ¹ 31.1%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 24.2%	特に心配はない 16.2%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.6%
30年 (n=2,682)	周辺の建物が火に強い構造ではない※ ¹ 32.0%	自宅が火に強い構造ではない※ ¹ 27.5%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 24.4%	特に心配はない 16.7%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.7%
令和3年 (n=3,553)	自宅が燃えてしまうこと※ ² 77.7%	周辺の建物への延焼※ ² 53.6%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 17.8%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 12.3%	避難場所等が分からないこと 6.8%

図表 8-2：地震火災で心配なこと 経年比較

※¹「周辺の建物が火に強い構造ではない」、「自分の家が火に強い構造ではない」は平成30年調査以前の選択肢

※²「自宅が燃えてしまうこと」、「周辺の建物への延焼」は今回調査からの新設選択肢

【住居形態別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	自宅が燃えてしまうこと 77.7%	周辺の建物への延焼 53.6%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 17.8%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 12.3%	避難場所等が分からないこと 6.8%
持家（一戸建て） (n=1,765)	自宅が燃えてしまうこと 87.0%	周辺の建物への延焼 65.3%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 21.6%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 15.9%	道路の幅が狭く避難が難しいこと 5.9%
借家（一戸建て） (n=52)	自宅が燃えてしまうこと 71.2%	周辺の建物への延焼 55.8%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 32.7%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 30.8%	道路の幅が狭く避難が難しいこと 23.1%
社宅・公務員住宅・寮 (n=55)	自宅が燃えてしまうこと 61.8%	周辺の建物への延焼 34.5%	避難場所等が分からないこと 12.7%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 道路の幅が狭く消防車が進入できない 10.9%（同率）	
持家（マンション・共同住宅） (n=987)	自宅が燃えてしまうこと 71.3%	周辺の建物への延焼 42.5%	特に心配はない 10.2%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 9.0%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 6.1%
借家（マンション・共同住宅） (n=627)	自宅が燃えてしまうこと 66.5%	周辺の建物への延焼 42.7%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 20.3%	避難場所等が分からないこと 15.6%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 10.5%
その他 (n=46)	自宅が燃えてしまうこと 52.2%	周辺の建物への延焼 28.3%	避難場所等が分からないこと 19.6%	特に心配はない 17.4%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 15.2%

図表 8-3：地震火災で心配なこと 住居形態別集計

【自宅の構造別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	自宅が燃えてしまうこと 77.7%	周辺の建物への延焼 53.6%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 17.8%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 12.3%	避難場所等が分からないこと 6.8%
木造住宅 (n=1,583)	自宅が燃えてしまうこと 87.8%	周辺の建物への延焼 65.4%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 22.1%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 16.8%	道路の幅が狭く避難が難しいこと 7.5%
鉄筋コンクリート造住宅（RC造） (n=715)	自宅が燃えてしまうこと 68.3%	周辺の建物への延焼 44.6%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 13.8%	避難場所等が分からないこと 9.7%	特に心配はない 9.2%
鉄骨造住宅（S造） (n=181)	自宅が燃えてしまうこと 82.3%	周辺の建物への延焼 55.2%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 17.1%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 12.2%	特に心配はない 6.1%
鉄骨鉄筋コンクリート造住宅（SRC造） (n=432)	自宅が燃えてしまうこと 60.2%	周辺の建物への延焼 38.2%	特に心配はない 13.7%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 10.0%	避難場所等が分からないこと 9.0%
その他 (n=32)	自宅が燃えてしまうこと 71.9%	周辺の建物への延焼 43.8%	特に心配はない 12.5%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 9.4%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと その他 6.3%
分からない (n=515)	自宅が燃えてしまうこと 75.9%	周辺の建物への延焼 46.2%	消火器や消火スプレーなどを備えていないこと 18.3%	道路の幅が狭く消防車が進入できない 10.9%	避難場所等が分からないこと 10.3%

図表 8-4：地震火災で心配なこと 自宅の構造別集計

(2) あなたのご家庭での日ごろからの地震対策

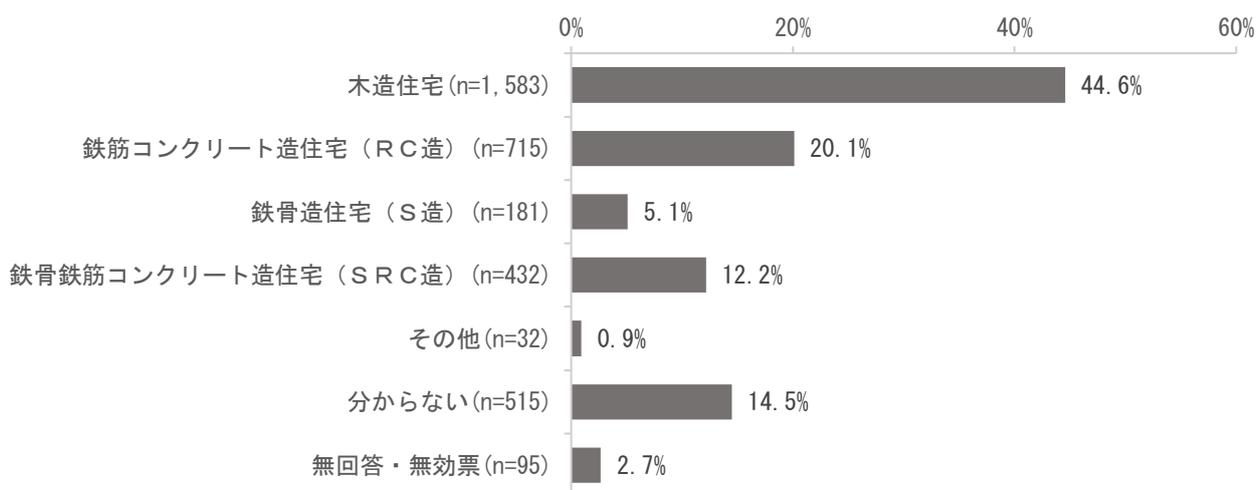
問9 あなたのご自宅の耐震化について伺います。ご自宅の構造は、次のうちどれにあたりますか。
(1つ選択)

◇自宅の構造は「木造住宅」が4割超

自宅の構造は「木造住宅」が44.6%と最も多く、次いで「鉄筋コンクリート造住宅（RC造）」が20.1%となった。

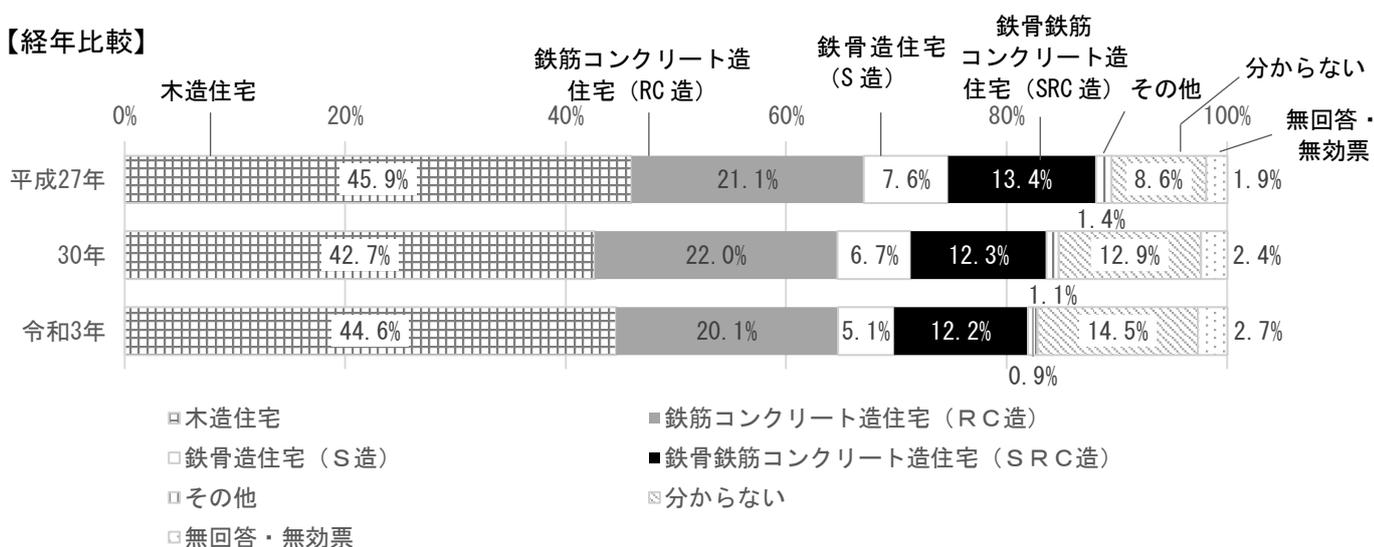
経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=3,553



図表 9-1 : 自宅の構造

【経年比較】



図表 9-2 : 自宅の構造 経年比較

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

軽量鉄骨／プレキャストコンクリート造／鉄骨ユニット／木造2×4／木造パネル／プレハブ

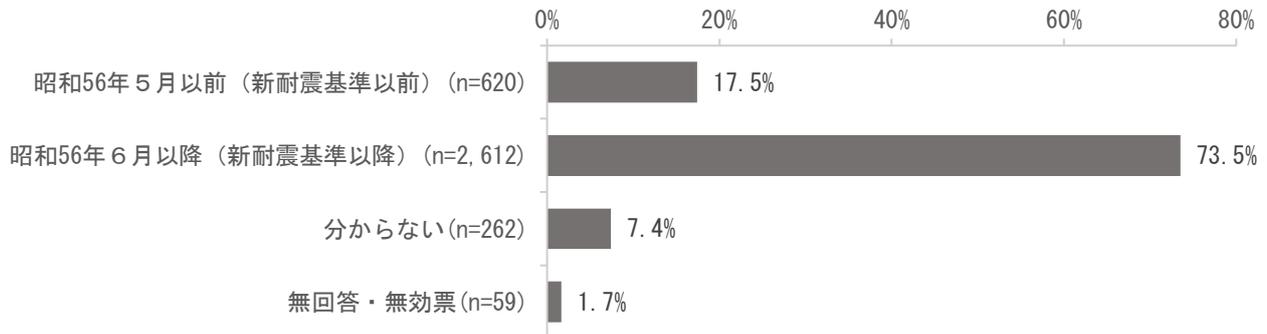
問10 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。(1つ選択)

◇昭和56年6月以降(新耐震基準以降)に建設された自宅が7割超

自宅が建設された年代は、「昭和56年6月以降(新耐震基準以降)」が73.5%で、「昭和56年5月以前(新耐震基準以前)」が17.5%となった。

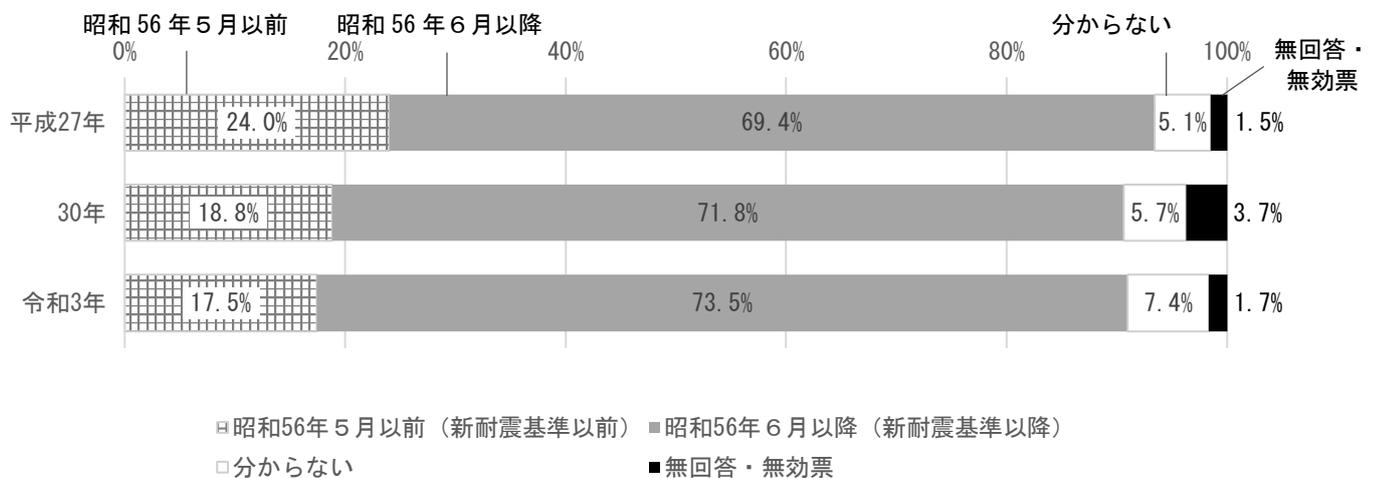
経年比較では、「昭和56年6月以降(新耐震基準以降)」の割合が年々増加している。

【全体集計】 n=3,553



図表 10-1：自宅の耐震化

【経年比較】



図表 10-2：自宅の耐震化 経年比較

(問10で「昭和56年5月以前」と答えた方はご回答ください)

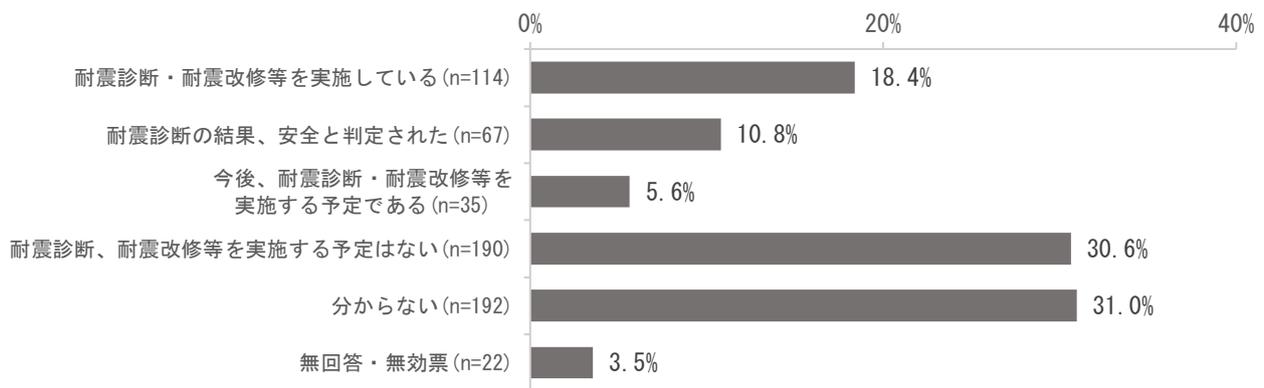
問11 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。(1つ選択)

◇「耐震診断を実施している」又は「実施予定」が約3割

新耐震基準以前に建築された自宅の耐震対策については、「耐震診断・耐震改修等を実施している」、「耐震診断の結果、安全と判定された」、「今後、耐震診断・耐震改修等を実施する予定である」の合計が34.8%となった。一方で「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」が30.6%となった。

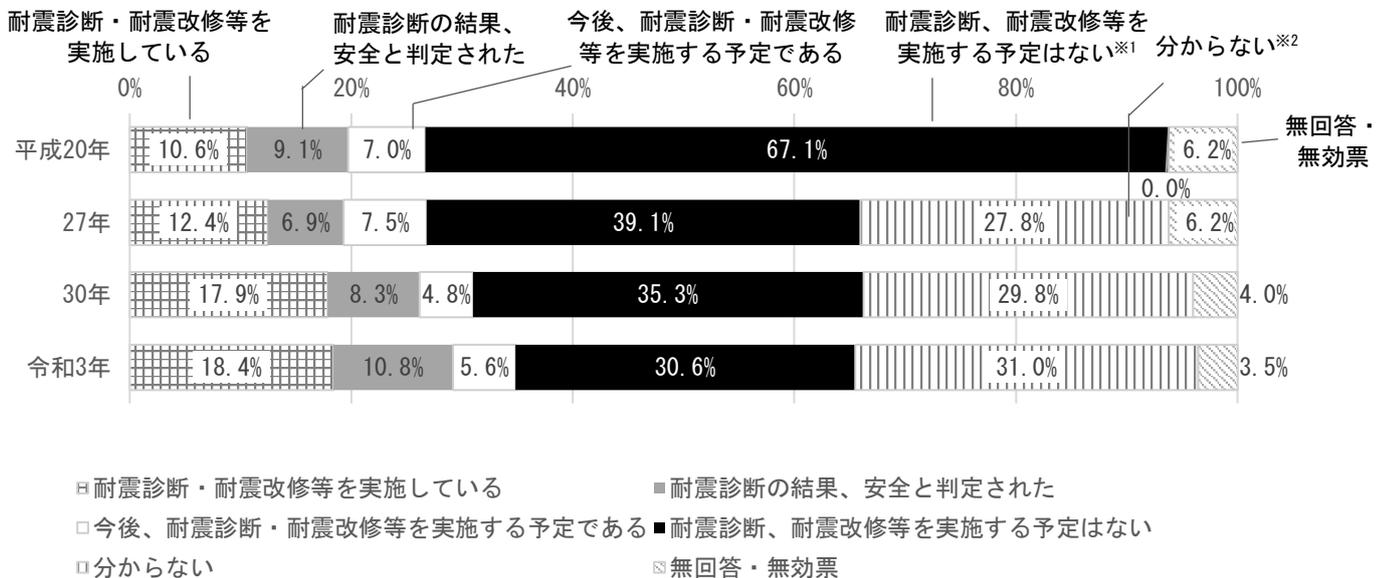
経年比較では、「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」の割合が年々減少しており、前回調査の35.3%から4.7ポイント減少し、30.6%となった。また、「耐震診断、耐震改修等を実施している」の割合は年々増加しており、前回調査の17.9%から0.5ポイント増加し、18.4%となった。

【全体集計】 n=620 (17.5%)



図表 11-1：自宅の耐震対策

【経年比較】 ※参考



図表 11-2：自宅の耐震対策 経年比較

※1 平成20年調査では「耐震診断を受けていない」「耐震改修等を実施する予定はない」の両方の選択肢があったが、経年比較を行うにあたり、それらを合計して「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」に整理し比較を行っている。

※2 平成27年調査より「分からない」を新設

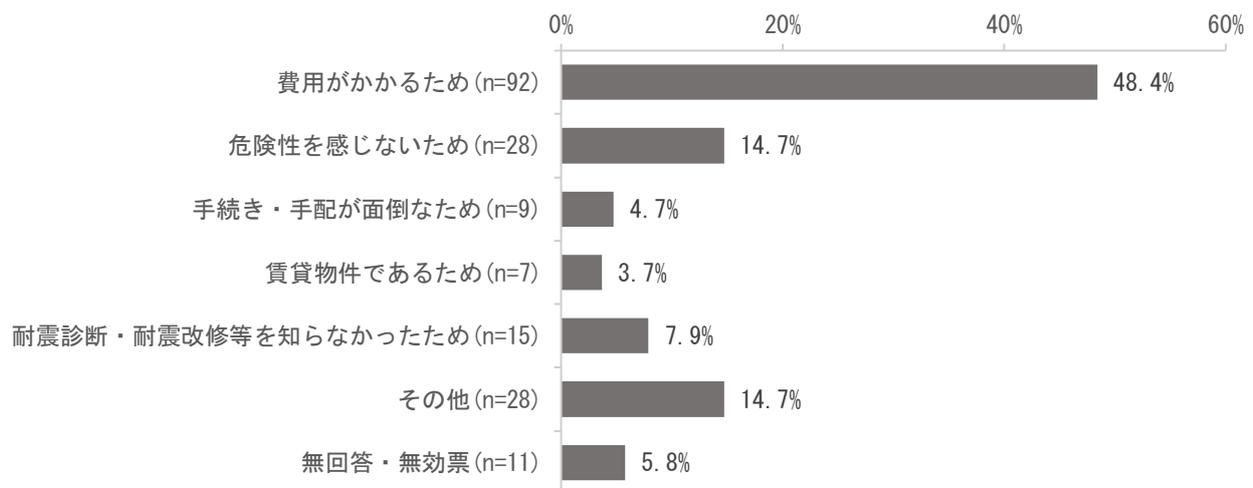
(問11で「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」と答えた方にご回答ください)
問12 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。(1つ選択)

◇耐震対策をしない理由は「費用がかかるため」が最も多い

耐震診断、耐震改修等を実施する予定がない理由は、「費用がかかるため」が48.4%と最も多く、次いで「危険性を感じない」が14.7%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=190 (5.3%)



図表 12-1：自宅の耐震化をしない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

新築・改築を行う予定であるため／引っ越し予定であるため／長く住む予定はないため／管理組合の方針であるため／高齢のため／分からない(所有者が違うなどの理由により)

問13 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのあるタンスや食器棚等の家具類を固定（転倒防止）していますか（粘着マットも含みます）。（1つ選択）

◇「全て又は一部の家具を固定（転倒防止）している」が5割超

家具類の固定については、「全ての家具を固定（転倒防止）している」、「一部の家具を固定（転倒防止）している」（以下、「固定している」）の合計が56.8%となった。さらに、「固定（転倒防止）が必要な家具類はない」を含めると、62.9%となった。

経年比較では、「固定（転倒防止）していない」の割合が年々減少しており、前回調査の38.9%から2.8ポイント減少し、36.1%となった。

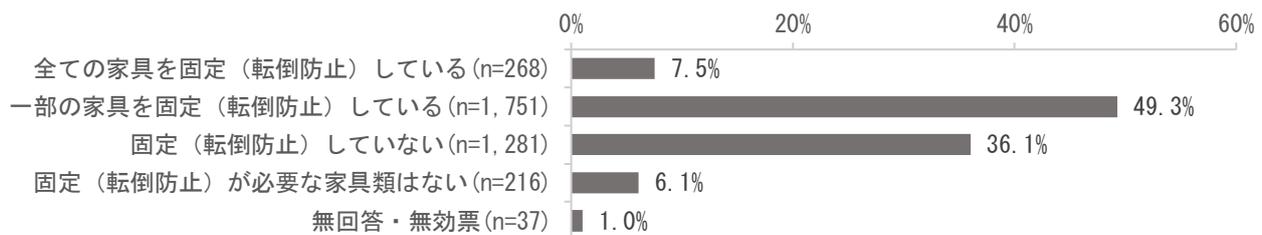
家族形態別集計では、「ひとり」で「一部の家具を固定（転倒防止）している」の割合が4割を下回っているが、「固定（転倒防止）が必要な家具類はない」の割合は、14.9%と高い結果となった。

住居形態別集計では、借家よりも持家の方が「固定している」の割合が高い結果となった。

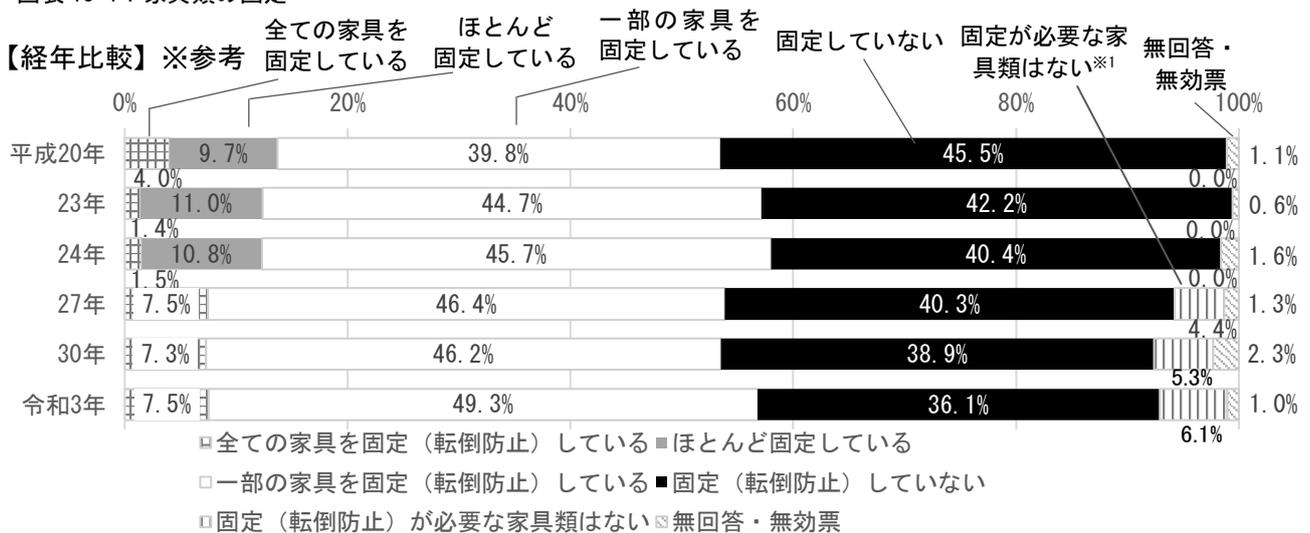
自治会・町内会加入別集計では、「固定している」の割合が、「加入している」で60.7%、「加入していない」で43.1%と差が10ポイントを超えている。

大地震への不安別集計では、「強く感じている」と回答した人の62.3%、「感じている」と回答した人の57.4%が「固定している」と答えた。

【全体集計】 n=3,553



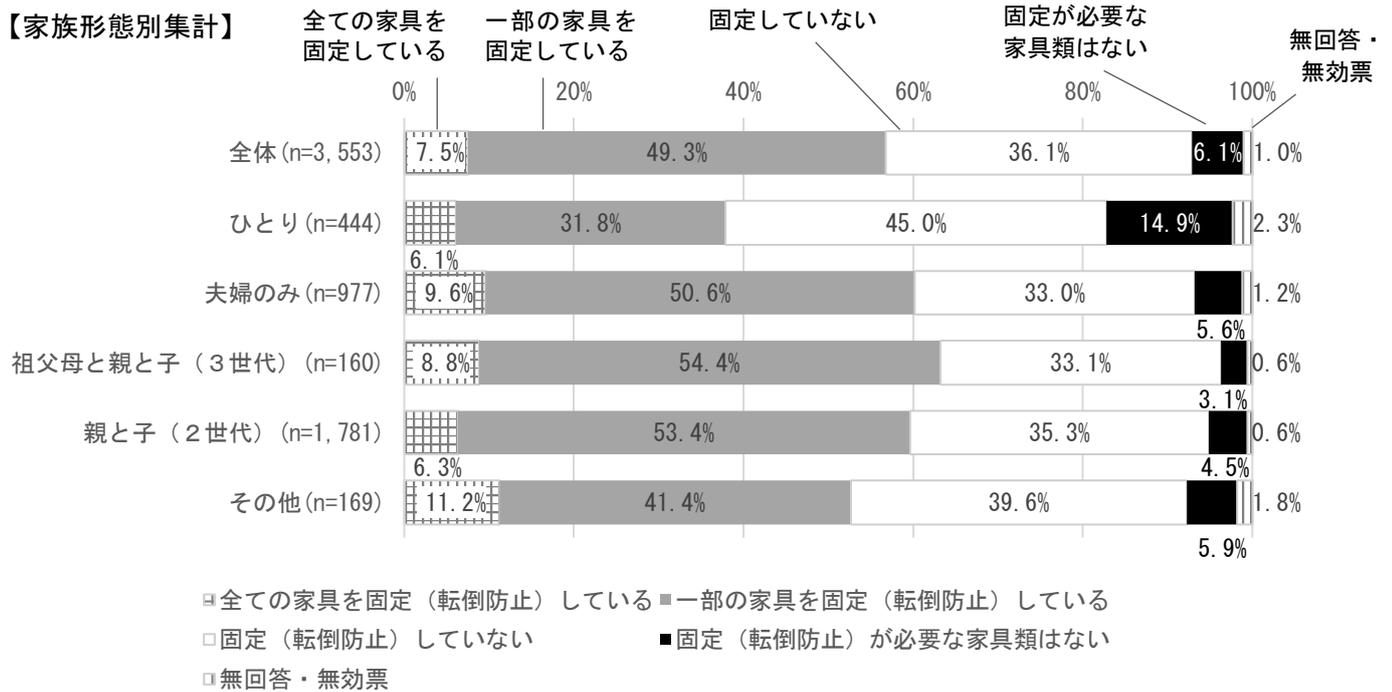
図表 13-1：家具類の固定



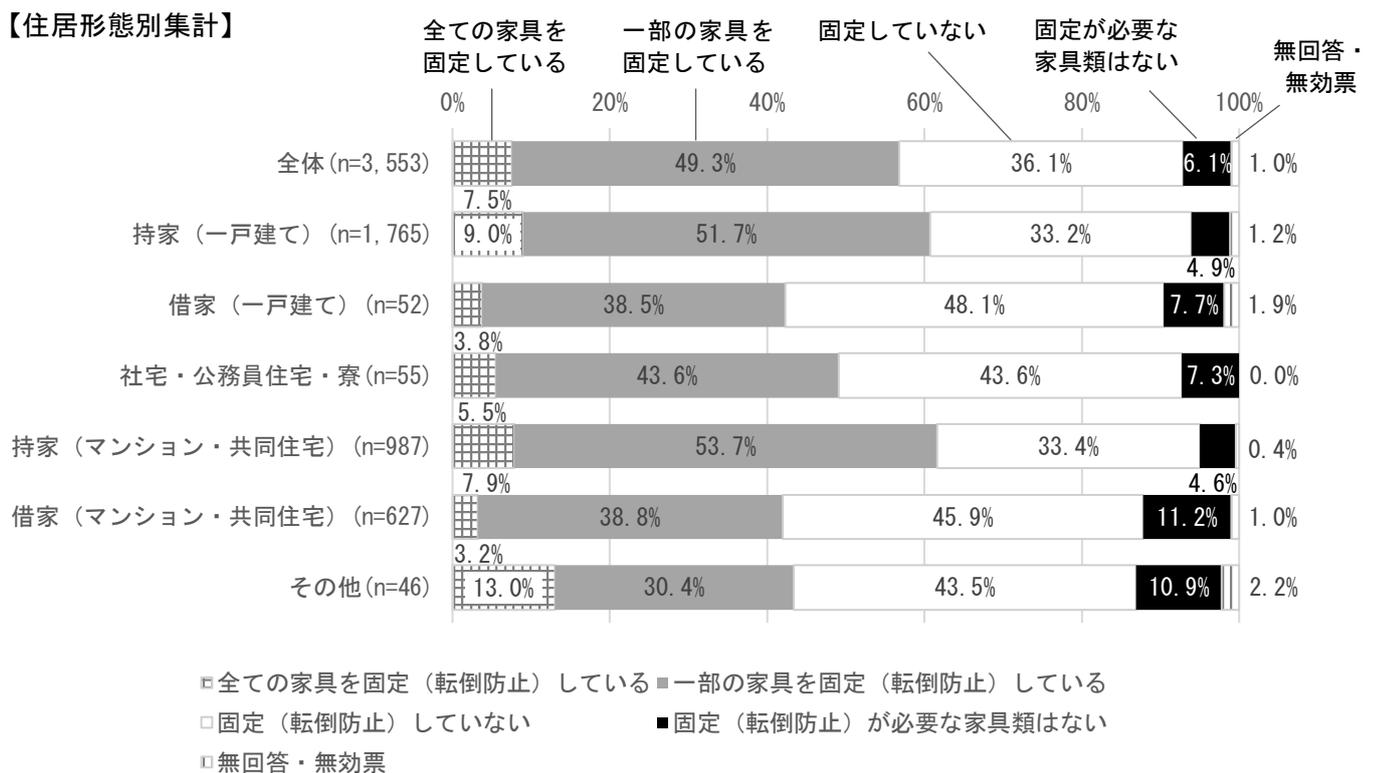
図表 13-2：家具類の固定 経年比較

※ 平成 23、24 年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋。また、平成 30 年調査までは、「固定」としていた選択肢を「固定（転倒防止）」とした。平成 20～24 年調査の選択肢は「すべて固定している」、「ほとんど固定している」、「一部固定している」、「固定していない」であった。

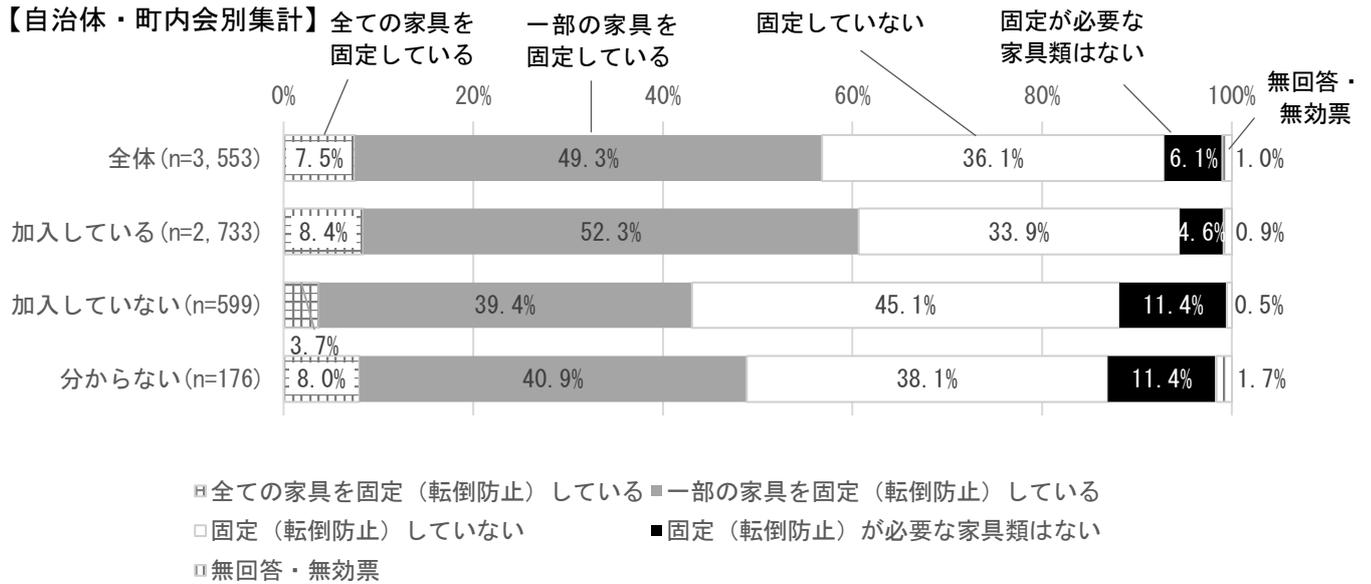
※1「固定が必要な家具類がない」は 27 年調査より新設



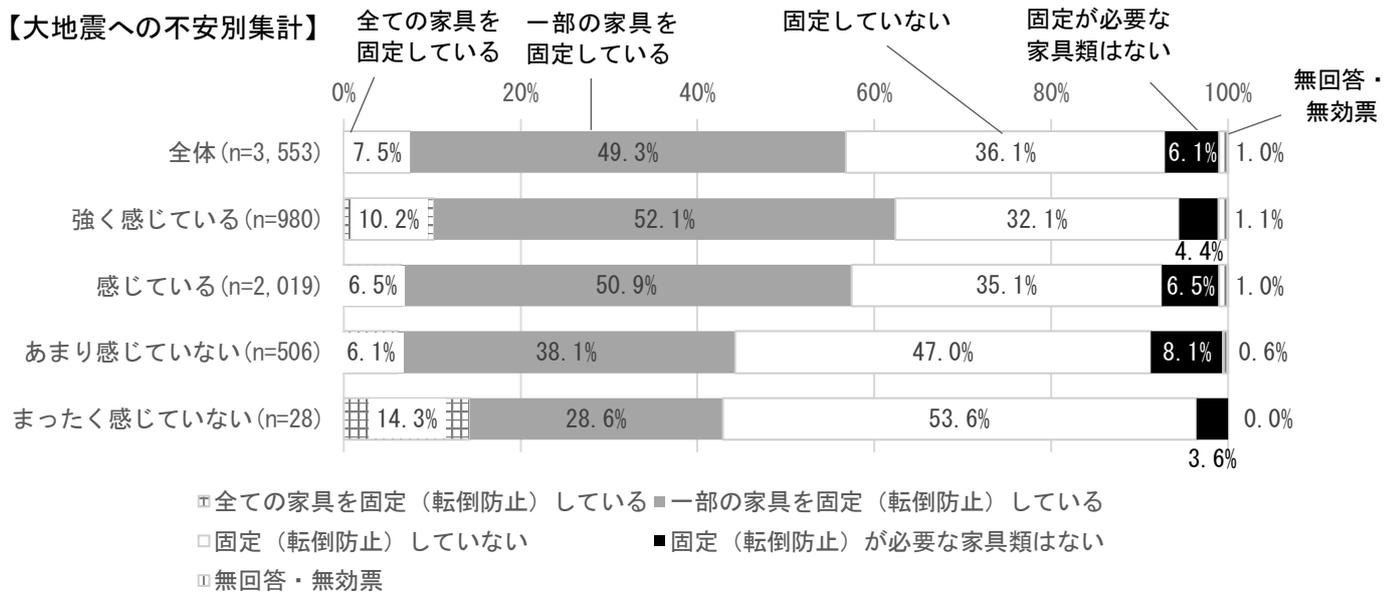
図表 13-4：家具類の固定 家族形態別集計



図表 13-5：家具類の固定 住居形態別集計



図表 13-6：家具類の固定 自治会・町内会加入別集計



図表 13-7：家具類の固定 大地震への不安別集計

(問13で「固定(転倒防止)していない」と答えた方にご回答ください)

問14 あなたが家具類の固定(転倒防止)をしていない理由について、次の中からお選びください。(1つ選択)

◇家具類を固定していない理由は「手間がかかり、面倒だから」が最も多い

家具類を固定していない理由は、「手間がかかり、面倒だから」が24.3%と最も多く、次いで「必要性を感じないから」が20.5%となった。

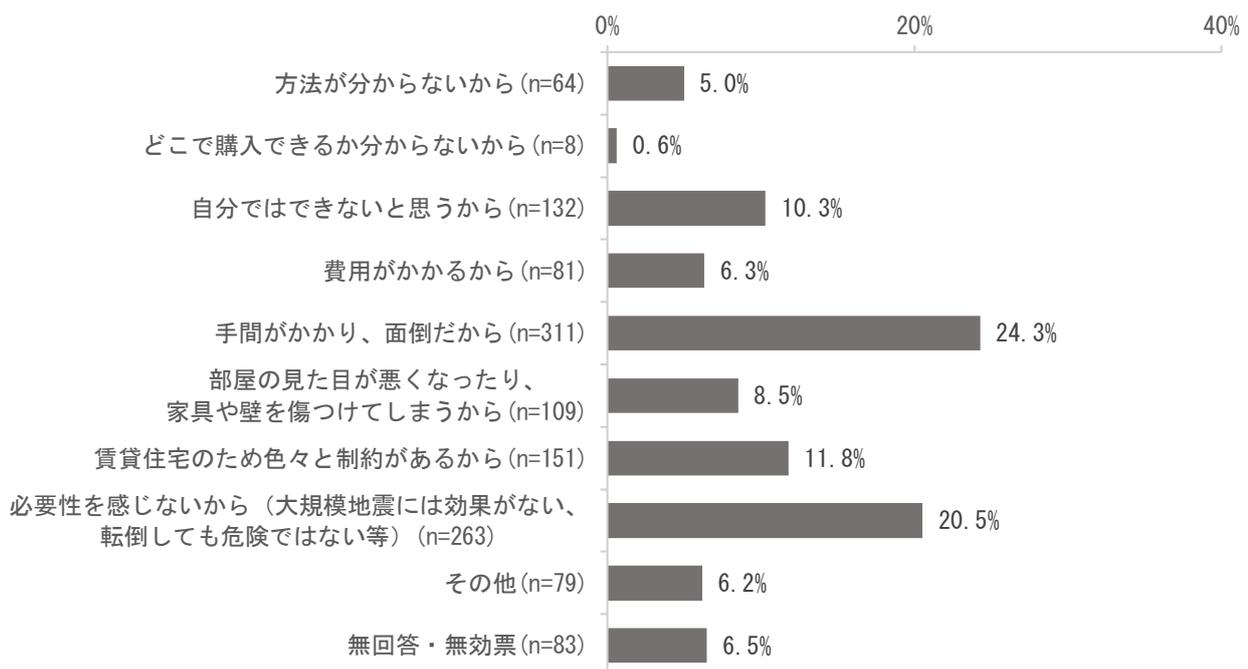
経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

年代別集計では、概ね年代が上がるにつれて、「必要性を感じないから」の割合が高くなっている。また、「70歳代以上」では、「自分ではできないと思うから」の割合が19.8%と高い結果となった。

家族形態別集計では、「ひとり」で「賃貸住宅のため色々制約があるから」の割合が高く、全体の11.8%より12.7ポイント高い、24.5%となった。

住居形態別集計では、「借家(一戸建て)」、「社宅・公務員住宅・寮」、「借家(マンション・共同住宅)」で「賃貸住宅のため色々制約があるから」の割合が高く、いずれも、全体の11.8%より20ポイント以上高く、「借家(一戸建て)」で36.0%、「社宅・公務員住宅・寮」で37.5%、「借家(マンション・共同住宅)」で44.1%となった。

【全体集計】 n=1,281 (36.1%)



図表 14-1 : 家具類を固定しない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

転倒の危険がある家具がないから／転倒しても問題ない配置にしているから／建物の構造上、固定できないから／必要性は認識しているが後回しになっている／その状況を考えていなかったから／今後行う予定だから

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=1,298)	必要性を感じないから 23.7%	手間がかかり、面倒だから 23.0%	自分ではできないと思うから 11.1%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	その他 9.3%
30年 (n=1,043)	手間がかかり、面倒だから 25.8%	必要性を感じないから 23.5%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 15.7%	自分ではできないと思うから 11.1%	その他 8.1%
令和3年 (n=1,281)	手間がかかり、面倒だから 24.3%	必要性を感じないから 20.5%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから※1 11.8%	自分ではできないと思うから 10.3%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 8.5%

図表 14-2：家具類を固定しない理由 経年比較

※1「賃貸住宅のため色々」と制約があるから」は今回調査からの新設選択肢

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,281)	手間がかかり、面倒だから 24.3%	必要性を感じないから 20.5%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 11.8%	自分ではできないと思うから 10.3%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 8.5%
10歳代 (n=38)	手間がかかり、面倒だから 42.1%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 15.8%	自分ではできないと思うから 費用がかかるから 必要性を感じないから 10.5% (同率)		
20歳代 (n=97)	手間がかかり、面倒だから 32.0%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 19.6%	必要性を感じないから 17.5%	方法が分からないから 11.3%	費用がかかるから 部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 5.2%
30歳代 (n=153)	手間がかかり、面倒だから 28.1%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 19.6%	必要性を感じないから 16.3%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 11.1%	その他 8.5%
40歳代 (n=219)	手間がかかり、面倒だから 26.9%	必要性を感じないから 18.3%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 13.7%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 8.7%	自分ではできないと思うから 7.8%
50歳代 (n=231)	手間がかかり、面倒だから 32.5%	必要性を感じないから 16.5%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 12.1%	費用がかかるから 9.5%	自分ではできないと思うから 賃貸住宅のため色々 と制約があるから 6.9% (同率)
60歳代 (n=212)	必要性を感じないから 23.6%	手間がかかり、面倒だから 19.8%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 9.4%	自分ではできないと思うから 部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 8.5% (同率)	
70歳代以上 (n=328)	必要性を感じないから 26.8%	自分ではできないと思うから 19.8%	手間がかかり、面倒だから 13.7%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 8.8%	その他 7.0%

図表 14-3：家具類を固定しない理由 年代別集計

【家族形態別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,281)	手間がかかり、面倒だから 24.3%	必要性を感じないから 20.5%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 11.8%	自分ではできないと 思うから 10.3%	部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁 を傷つけてしまうから 8.5%
ひとり (n=200)	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 24.5%	必要性を感じないから 20.0%	手間がかかり、面倒 だから 17.5%	自分ではできないと 思うから 15.0%	費用がかかるから 5.5%
夫婦のみ (n=322)	必要性を感じないから 24.8%	手間がかかり、面倒 だから 20.8%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 11.8%	自分ではできないと 思うから 8.7%	その他 8.4%
祖父母と親と子 (3世代) (n=53)	手間がかかり、面倒 だから 30.2%	必要性を感じないから 15.1%	費用がかかるから その他 9.4% (同率)		自分ではできないと 思うから 部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁 を傷つけてしまうから 7.5% (同率)
親と子(2世代) (n=628)	手間がかかり、面倒 だから 29.0%	必要性を感じないから 18.0%	部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁 を傷つけてしまうから 10.5%	自分ではできないと 思うから 9.1%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 8.6%
その他 (n=67)	必要性を感じないから 26.9%	自分ではできないと 思うから 16.4%	手間がかかり、面倒 だから 13.4%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 11.9%	その他 9.0%

図表 14-4：家具類を固定しない理由 家族形態別集計

【住居形態別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,281)	手間がかかり、面倒 だから 24.3%	必要性を感じないから 20.5%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 11.8%	自分ではできないと 思うから 10.3%	部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁 を傷つけてしまうから 8.5%
持家(一戸建て) (n=586)	手間がかかり、面倒 だから 26.6%	必要性を感じないから 22.5%	自分ではできないと 思うから 12.3%	部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁 を傷つけてしまうから 10.4%	費用がかかるから 8.5%
借家(一戸建て) (n=25)	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 36.0%	手間がかかり、面倒 だから 20.0%	費用がかかるから 12.0%	方法が分からないから 8.0%	自分ではできないと 思うから 部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁を 傷つけてしまうから その他 4.0%
社宅・公務員住宅・ 寮(n=24)	手間がかかり、面倒 だから 45.8%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 37.5%	方法が分からないから 部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁を傷 つけてしまうから 必要性を感じないから 4.2% (同率)		
持家(マンション・ 共同住宅)(n=330)	必要性を感じないから 27.0%	手間がかかり、面倒 だから 25.5%	自分ではできないと 思うから 11.2%	部屋の見た目が悪く なったり、家具や壁 を傷つけてしまうから 10.6%	その他 9.1%
借家(マンション・ 共同住宅)(n=288)	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 44.1%	手間がかかり、面倒 だから 17.7%	必要性を感じないから 12.2%	自分ではできないと 思うから 6.6%	方法が分からないから 4.2%
その他 (n=20)	賃貸住宅のため色々 と制約があるから 25.0%	手間がかかり、面倒 だから 20.0%	必要性を感じないから 15.0%	自分ではできないと 思うから その他 10.0% (同率)	

図表 14-5：家具類を固定しない理由 住居形態別集計

(問13で「一部の家具を固定(転倒防止)している」または「固定(転倒防止)していない」と答えた方にご回答ください)

問15 あなたのご自宅は、災害時に家具類の転倒によって就寝中に負傷・死亡する可能性や転倒した家具が玄関等の避難口までの通行を妨げる可能性がありますか。(1つ選択)

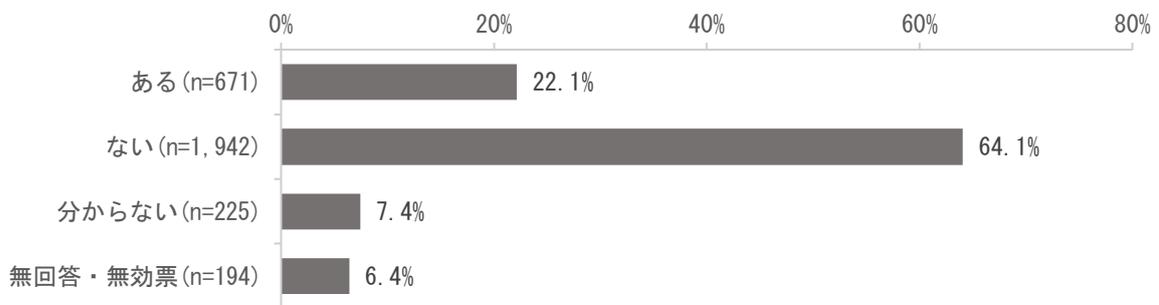
◇家具類を固定していない(一部を固定している人を含む)人の6割超が家具類の転倒による危険は「ない」と回答

家具類の転倒によって、就寝中に負傷・死亡する、または、玄関等の避難口までの通行を妨げる可能性は、「ない」の割合が64.1%、「ある」の割合が22.1%となった。

経年比較では、「ない」の割合が増加しており、前回調査の47.0%から17.1ポイント増加し、64.1%となった。

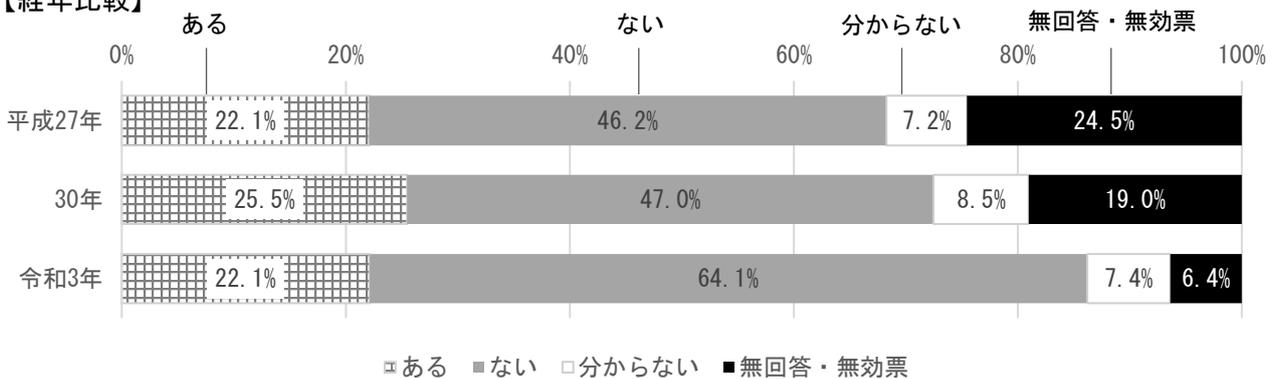
家具転倒防止をしていない理由別集計では、「必要性を感じないから」と回答した人の76%が家具類の転倒による危険は「ない」と答えた。

【全体集計】 n=3,032 (85.3%)



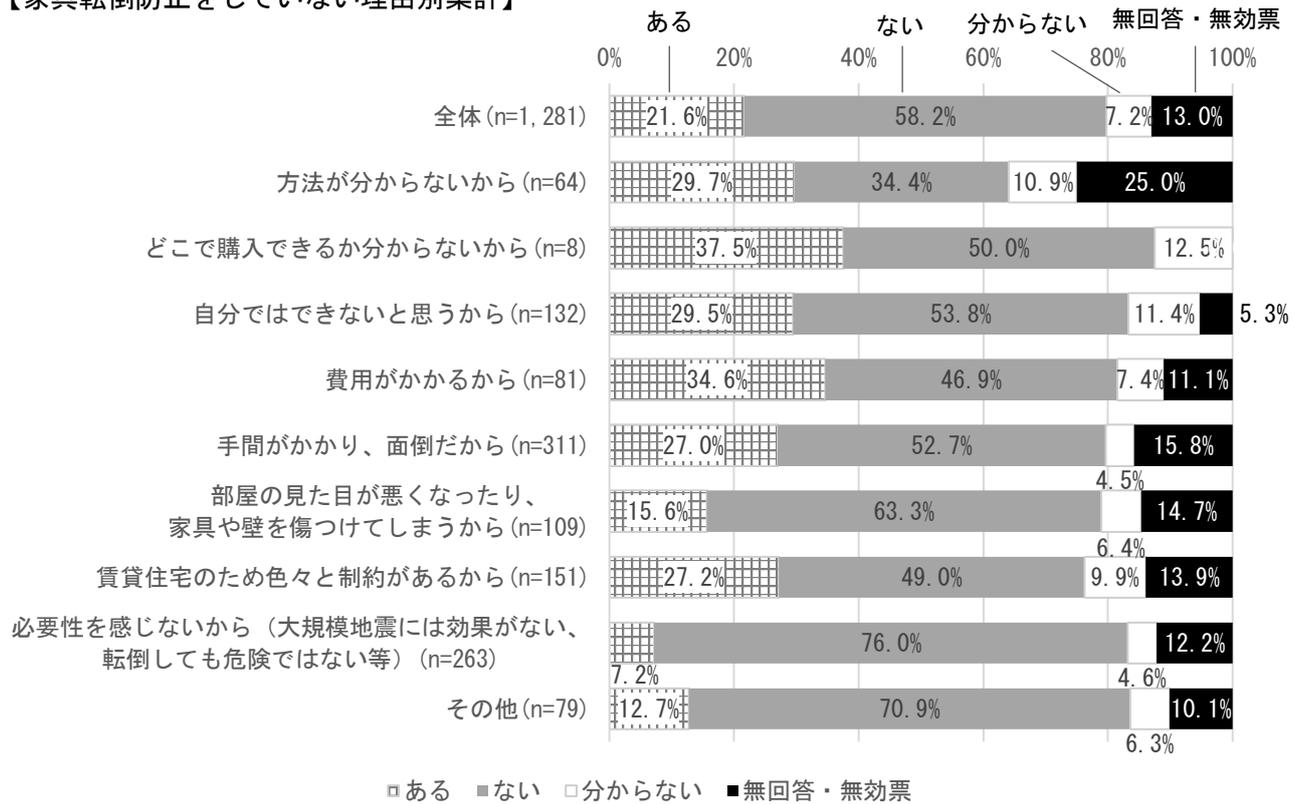
図表 15-1 : 家具類の転倒による危険性

【経年比較】



図表 15-2 : 家具類の転倒による危険性 経年比較

【家具転倒防止をしていない理由別集計】



図表 15-2 : 家具類の転倒による危険性 家具転倒防止をしていない理由別集計

問16 地震による停電から復旧した際に、切れた電源コードや倒れた電気ヒーター等の器具に電気が流れて「通電火災」が発生することがあります。通電火災の発生を防ぐために、次のことが有効であることを知っていますか。(1つ選択)

◇通電火災の発生を防ぐために、「地震時に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とすこと」が有効だと知っている人は7割超、「感震ブレーカー」の認知度は3割超

通電火災の発生を防ぐためには、「ブレーカーを落とすこと」が有効だということを、「知っている」が74.1%、「知らない」が23.8%となった。

感震ブレーカーの認知度は、「知っている」が35.8%、「知らない」が56.8%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

年代別集計では、「地震時に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とすこと」、「感震ブレーカー」のどちらの認知度も、概ね年代が上がるにつれて、「知っている」の割合が高くなっている。

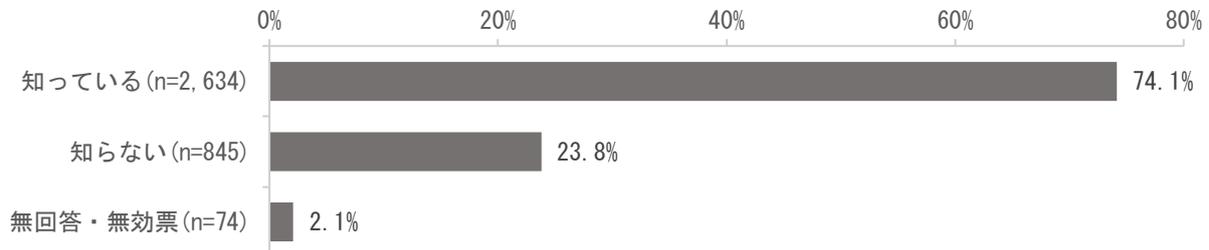
感震ブレーカー設置状況別集計では、「設置していない人」の9割以上がブレーカーを落とすことの有効性を知っている結果となった。

自治会・町内会加入別集計では、感震ブレーカーを「知っている」の割合が、「加入している」で38.9%、「加入していない」で26.7%と差が10ポイントを超えている。

訓練参加別集計では、感震ブレーカーを「知っている」の割合が、「参加したことがある」で44.2%、「参加していない」で30.4%と差が10ポイントを超えている。

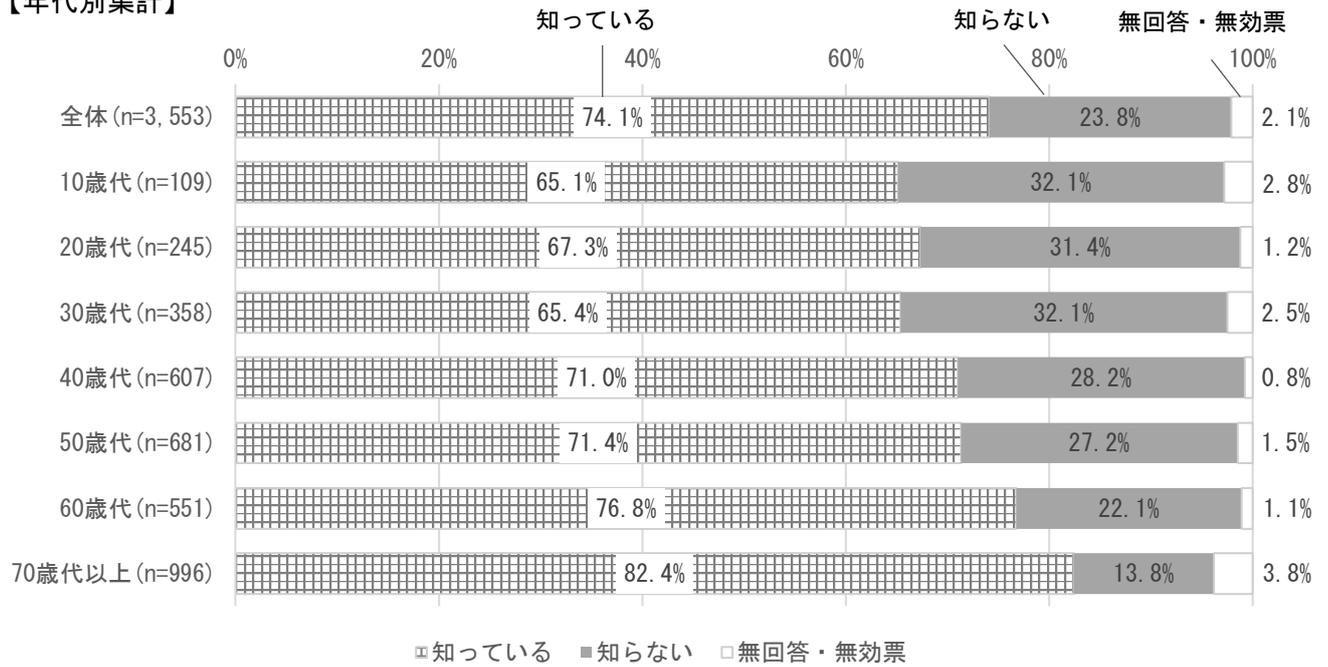
1. 地震時に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とすこと

【全体集計】 n=3,553



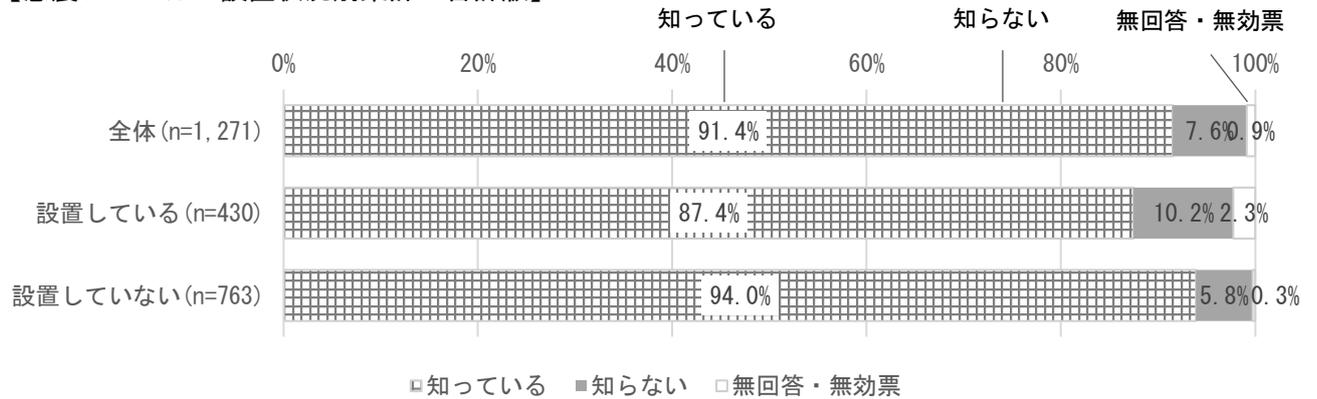
図表 16-1 : 地震時のブレーカー

【年代別集計】



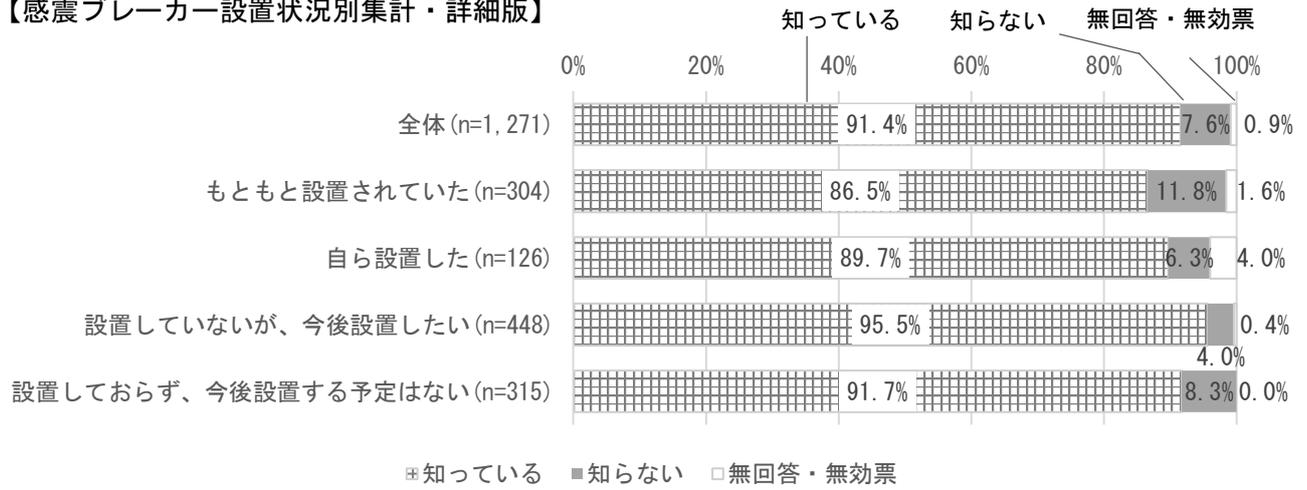
図表 16-2：地震時のブレーカー 年代別集計

【感震ブレーカー設置状況別集計・合計版】



図表 16-3：地震時のブレーカー 感震ブレーカー設置状況別集計・合計版

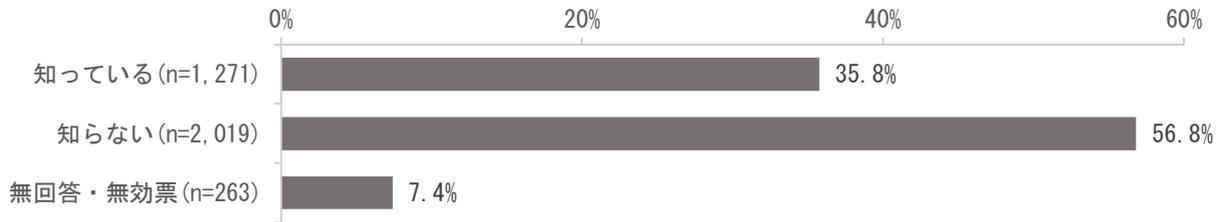
【感震ブレーカー設置状況別集計・詳細版】



図表 16-4 : 地震時のブレーカー 感震ブレーカー設置状況別集計・詳細版

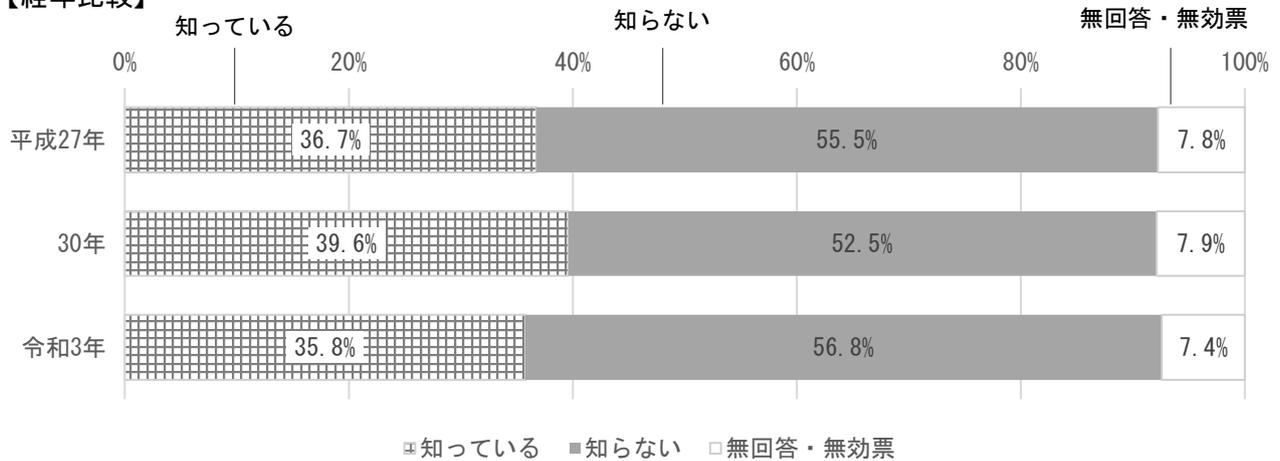
2. 強い地震が発生した時に、自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」という器具があること
 (電気が漏れた際に遮断する「漏電ブレーカー(漏電遮断器)」とは別の器具です)

【全体集計】 n=3,553



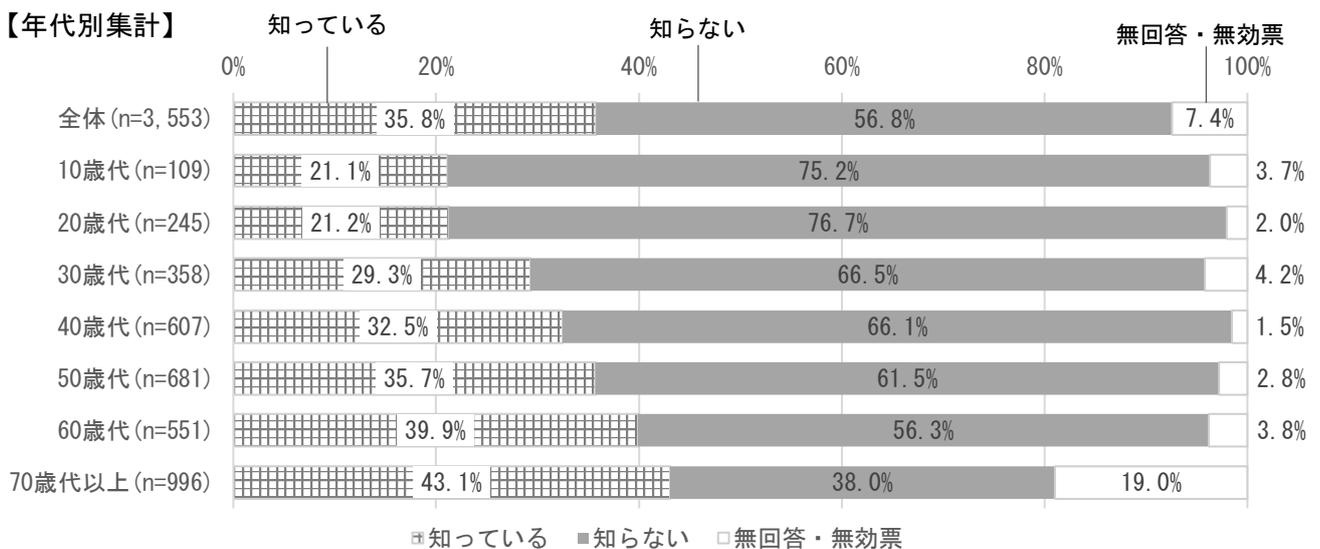
図表 16-5：感震ブレーカーの認知度

【経年比較】



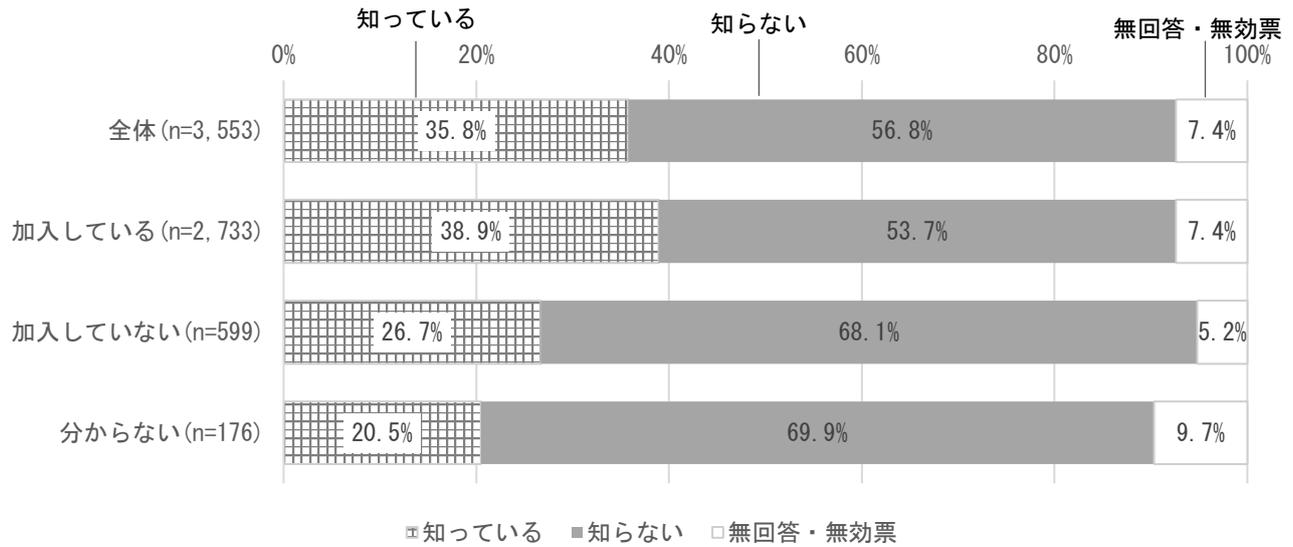
図表 16-6：感震ブレーカーの認知度 経年比較

【年代別集計】



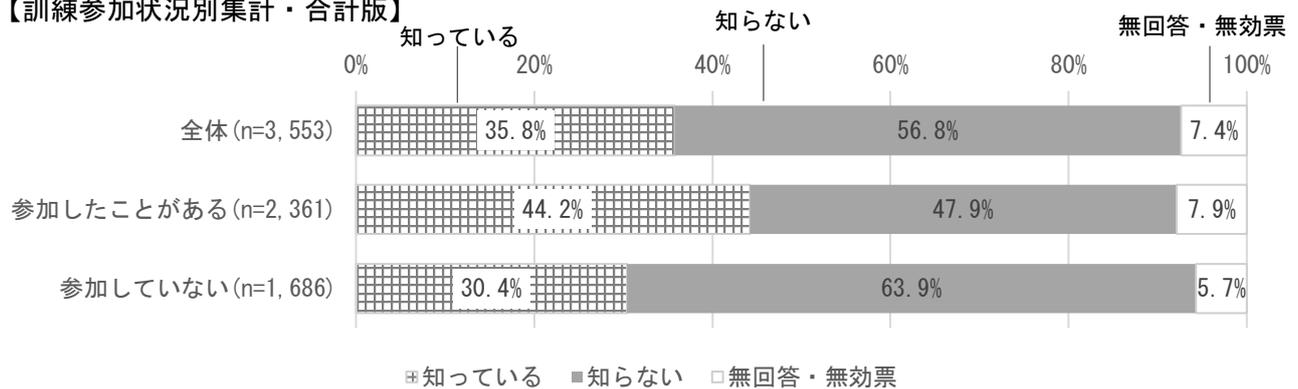
図表 16-7：感震ブレーカーの認知度 年代別集計

【自治会・町内会加入別集計】



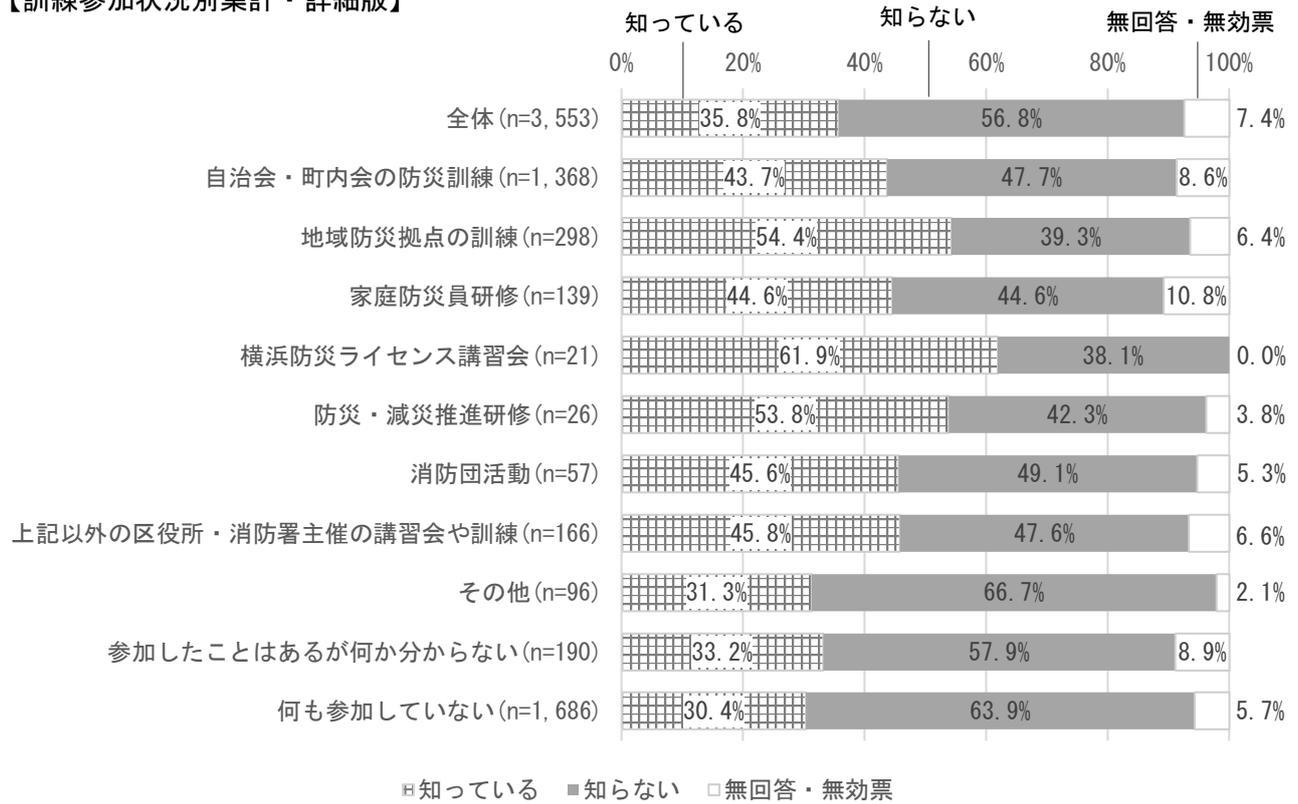
図表 16-8 : 感震ブレイカーの認知度 自治会・町内会加入別集計

【訓練参加状況別集計・合計版】



図表 16-9 : 感震ブレイカーの認知度 訓練参加状況別集計・合計版

【訓練参加状況別集計・詳細版】



図表 16-10 : 感震ブレイカーの認知度 訓練参加状況別集計・詳細版

(問16-2で「知っている」と答えた方はご回答ください)

問17 あなたのご自宅では、「感震ブレーカー」を設置していますか。(最後のページの表2をご覧ください、対象地域にお住まいの方は「1~4」、それ以外の方は「5~8」から選択してください)。(1つ選択)

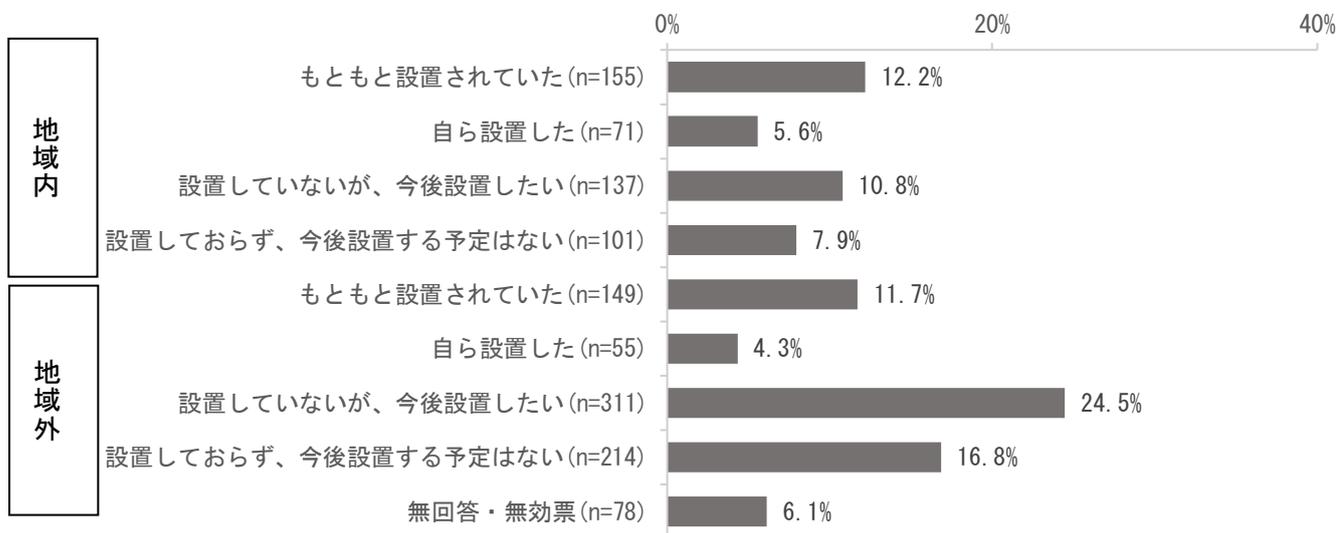
◇感震ブレーカーを知っている人の設置状況は、「設置している」が3割超、「今後設置したい」が大幅に増加

感震ブレーカーの設置状況は、「もともと設置されていた」、「自ら設置した」(以下、「設置している」)の合計が33.8%となった。

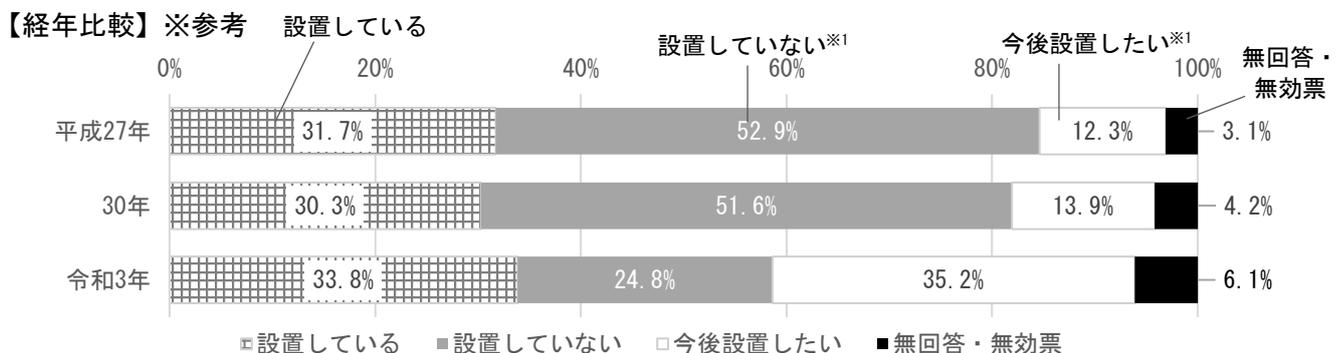
経年比較では、「設置している」、「今後設置したい」の割合が増加しており、「設置している」では、前回調査の30.3%から3.5ポイント増加し、33.8%となり、「今後設置したい」では、前回調査の13.9%から21.3ポイント増加し、35.2%となった。

大地震への不安別集計では、「強く感じている」と回答した人の30.7%、「感じている」と回答した人の34.7%が「設置している」と答えた。

【全体集計】n=1,271 (35.8%)



図表 17-1：感震ブレーカーの設置状況

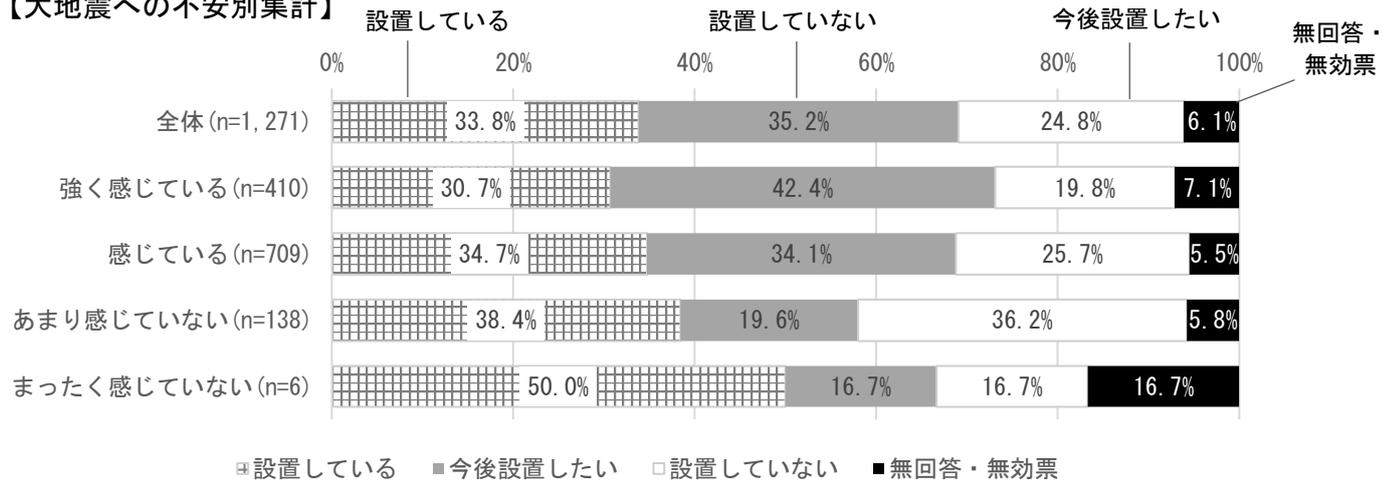


図表 17-2：感震ブレーカーの設置状況 経年比較

※ 今年度調査では、「地域内」「地域外」の割合を合計している。

※1 「設置していないが、今後設置したい」、「設置しておらず今後設置したい」をそれぞれ「今後設置したい」、「設置していない」と整理して比較を行っている。

【大地震への不安別集計】



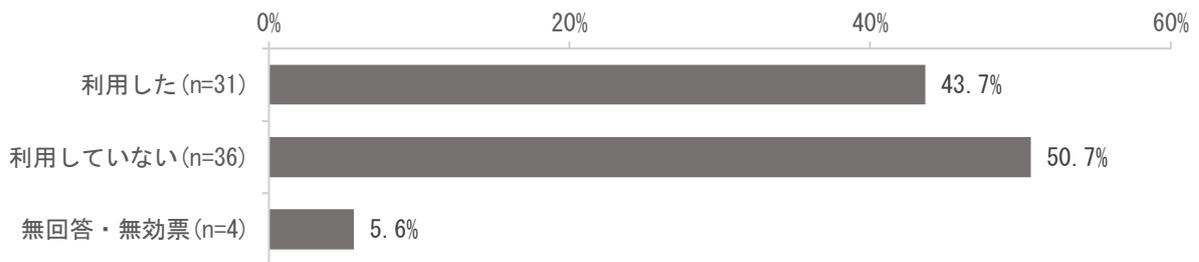
図表 17-2 : 感震ブレーカーの設置状況 大地震への不安別集計

(問17で「地域内 自ら設置した」と答えた方はご回答ください)
問18 設置している「感震ブレーカー」は、横浜市の補助制度等を利用して設置したものですか。
(1つ選択)

◇4割超が横浜市の補助制度を利用

対象地域内で、自ら感震ブレーカーを設置した人の、横浜市の補助制度等の利用状況は、「利用した」の割合が43.7%、「利用していない」の割合が50.7%となった。

【全体集計】 n=71 (2.0%)



図表 18-1 : 横浜市の補助制度等の利用状況

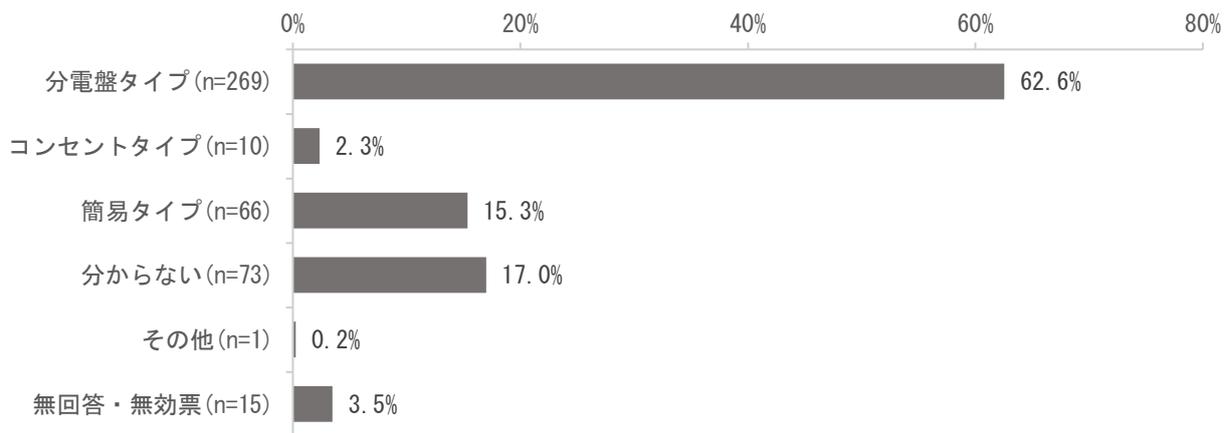
(問17で「地域内 もともと設置されていた」「地域内 自ら設置した」「地域外 もともと設置されていた」「地域外 自ら設置した」のいずれかと答えた方にご回答ください)
 問19 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプは、次のうちどれですか。
 (該当するものすべて選択)

◇感震ブレーカーで最も多いのは「分電盤タイプ」

感震ブレーカーのタイプでは、「分電盤タイプ」が62.6%と最も多く、次いで「簡易タイプ」が15.3%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=430 (12.1%)



図表 19-1 : 感震ブレーカーのタイプ

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=375)	分電盤タイプ 63.2%	わからない 15.2%	簡易タイプ 5.9%	コンセントタイプ 4.0%	その他 1.1%
30年 (n=321)	分電盤タイプ 72.9%	簡易タイプ 12.1%	わからない 11.8%	コンセントタイプ 1.6%	その他 0.3%
令和3年 (n=430)	分電盤タイプ 62.6%	分からない 17.0%	簡易タイプ 15.3%	コンセントタイプ 2.3%	その他 0.2%

図表 19-2 : 感震ブレーカーのタイプ 経年比較

※【その他回答】(一部要約)

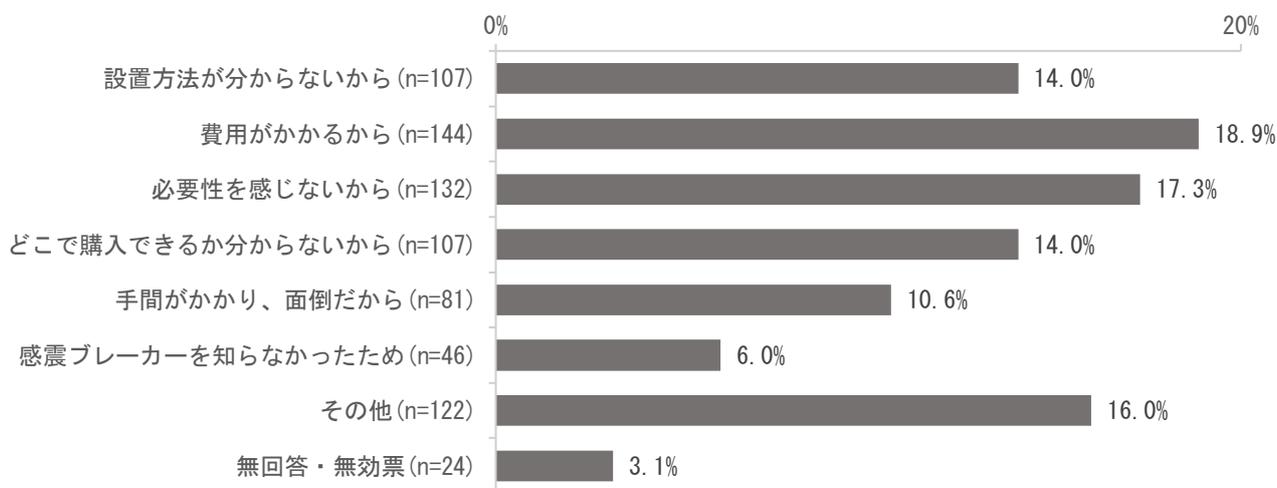
センターによりオン・オフは自由

(問17で「地域内 設置していないが、今後設置したい」「地域内 設置しておらず、今後設置する予定はない」「地域外 設置していないが、今後設置したい」「地域外 設置しておらず、今後設置する予定はない」のいずれかと答えた方にご回答ください)
 問20 あなたが「感震ブレーカー」を設置していないのは、どのような理由ですか。1つ選択

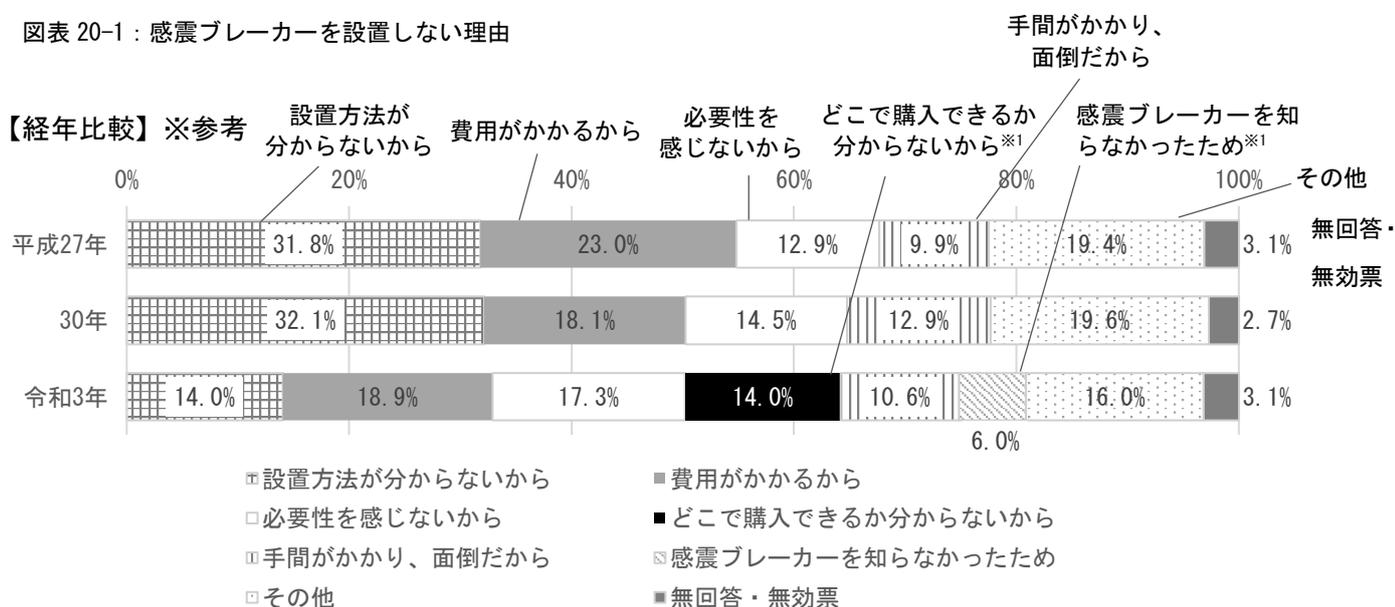
◇設置していない理由は「分からない」が3割超

感震ブレーカーを設置していない理由は、「費用がかかるから」が18.9%と最も多いが、「設置方法が分からないから」、「どこで購入できるか分からないから」、「感震ブレーカーを知らなかったため」の合計は34.0%となった。

【全体集計】 n=763 (21.5%)



図表 20-1：感震ブレーカーを設置しない理由



図表 20-2：感震ブレーカーを設置しない理由 経年比較

※1 「どこで購入できるか分からないから」「感震ブレーカーを知らなかったため」は今回調査からの新設選択肢

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

賃貸住宅だから／マンションの管理組合・理事会にかけないと分からないから／自分でブレーカーを落とすから／少しの揺れで作動すると困るから／今まで不要と考えていたから／意識していなかったから／知っていたが後回しになっているから／これから設置する予定だから／種類を検討中だから／どれを購入したら良いか分からないから／取り付けるとカバーが閉まらないから／建て替えを行う予定だから／引っ越しをする予定だから

3. 風水害について

(1) あなたが風水害について心配していること

問21 あなたは、自分の住んでいる地域で、次のうちどの風水害の不安を感じたことがありますか。(3つまで選択)

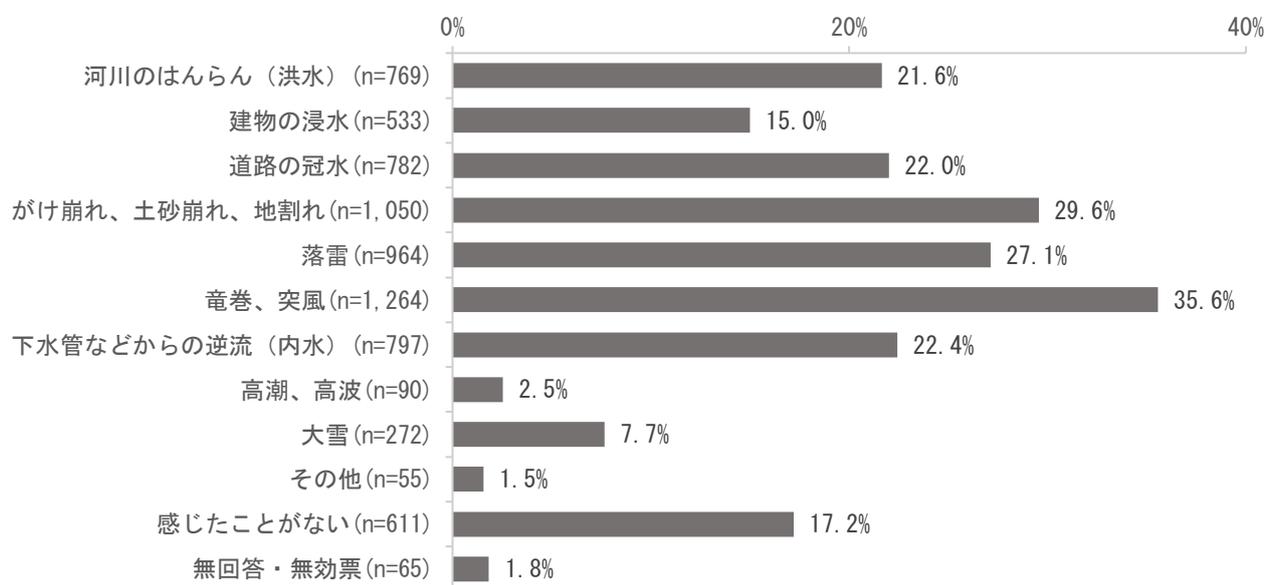
◇風水害について不安を感じることは「竜巻・突風」が最も多い

感じたことのある風水害の不安は、「竜巻・突風」が35.6%と最も多く、次いで「がけ崩れ、土砂崩れ、地割れ」が29.6%となった。

経年比較では、「竜巻・突風」の割合が増加しており、前回調査の19.5%（5位以降）から16.1ポイント増加し、35.6%（1位）となった。

居住区別集計では、「港北区」、「栄区」、「鶴見区」で、「河川のはんらん（洪水）」の割合が高く、特に「鶴見区」では、全体の21.6%より33.3ポイント高い、54.9%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 21-1：風水害への不安

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

台風／強風／強風による飛来物・ガラスの破損／建物被害／地盤の崩れ／倒木／電柱・電線の倒壊／停電／機械式駐車場の浸水／排水溝のつまりによる浸水／ゴルフ練習のネット／交通麻痺

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	落雷 33.4%	感じたことがない 28.1%	がけ崩れ※1 26.1%	道路の冠水 21.1%	竜巻※1 20.6%
30年 (n=2,682)	落雷 28.7%	がけ崩れ 27.6%	感じたことがない 24.9%	河川のはんらん 23.4%	道路の冠水 23.3%
令和3年 (n=3,553)	竜巻、突風 35.6%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 29.6%	落雷 27.1%	下水管などからの逆流 (内水)※2 22.4%	道路の冠水 22.0%

図表 21-2：風水害への不安 経年比較

※1「がけ崩れ」、「竜巻」は平成30年以前の選択肢。平成30年調査では、「竜巻」が5位以内に入っていないが、19.5%であった。

※2「下水管などからの逆流（内水）」は今回調査からの新設選択肢

【居住区別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	竜巻、突風 35.6%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 29.6%	落雷 27.1%	下水管などからの逆流 (内水) 22.4%	道路の冠水 22.0%
青葉区 (n=318)	竜巻、突風 39.3%	落雷 33.6%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 23.9%	感じたことがない 22.3%	下水管などからの逆流 (内水) 19.5%
旭区 (n=250)	落雷 38.8%	竜巻、突風 35.2%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 28.4%	感じたことがない 20.0%	下水管などからの逆流 (内水) 19.6%
泉区 (n=146)	落雷 44.5%	竜巻、突風 43.2%	下水管などからの逆流 (内水) 24.0%	道路の冠水 21.2%	感じたことがない 19.9%
磯子区 (n=161)	竜巻、突風 37.9%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 32.9%	落雷 27.3%	道路の冠水 24.2%	下水管などからの逆流 (内水) 23.0%
神奈川区 (n=234)	竜巻、突風 36.8%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 27.4%	落雷 26.9%	下水管などからの逆流 (内水) 23.1%	道路の冠水 21.4%
金沢区 (n=213)	竜巻、突風 41.8%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 37.6%	落雷 23.0%	下水管などからの逆流 (内水) 22.5%	感じたことがない 15.0%
港南区 (n=237)	竜巻、突風 38.8%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 37.6%	落雷 30.0%	道路の冠水 21.5%	下水管などからの逆流 (内水) 18.6%
港北区 (n=316)	河川のはんらん（洪水） 46.2%	道路の冠水 32.3%	竜巻、突風 29.4%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 25.6%	建物の浸水 25.3%
栄区 (n=87)	河川のはんらん（洪水） 39.1%	竜巻、突風 37.9%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 34.5%	落雷 23.0%	道路の冠水 17.2%
瀬谷区 (n=91)	竜巻、突風 40.7%	落雷 31.9%	下水管などからの逆流 (内水) 28.6%	道路の冠水 23.1%	河川のはんらん（洪水） 建物の浸水 20.9%
都筑区 (n=212)	竜巻、突風 42.9%	落雷 31.6%	下水管などからの逆流 (内水) 23.6%	道路の冠水 20.8%	感じたことがない 19.8%
鶴見区 (n=235)	河川のはんらん（洪水） 54.9%	道路の冠水 36.2%	建物の浸水 27.2%	下水管などからの逆流 (内水) 26.0%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 24.3%
戸塚区 (n=262)	竜巻、突風 37.8%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 落雷 28.6%（同率）	感じたことがない 21.4%	道路の冠水 21.0%	
中区 (n=135)	がけ崩れ、土砂崩れ、 割れ 37.0%	竜巻、突風 32.6%	道路の冠水 26.7%	下水管などからの逆流 (内水) 24.4%	落雷 20.7%
西区 (n=98)	竜巻、突風 32.7%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 31.6%	河川のはんらん（洪水） 29.6%	建物の浸水 26.5%	下水管などからの逆流 (内水) 25.5%
保土ヶ谷区 (n=220)	がけ崩れ、土砂崩れ、 割れ 44.5%	竜巻、突風 30.5%	落雷 25.9%	下水管などからの逆流 (内水) 21.8%	河川のはんらん（洪水） 20.9%
緑区 (n=160)	竜巻、突風 36.9%	がけ崩れ、土砂崩れ、 地割れ 30.6%	落雷 28.8%	河川のはんらん（洪水） 23.8%	感じたことがない 21.3%
南区 (n=174)	がけ崩れ、土砂崩れ、 割れ 41.4%	下水管などからの逆流 (内水) 29.9%	竜巻、突風 28.2%	道路の冠水 落雷 23.0%（同率）	

図表 21-4：風水害への不安 居住区別集計

問22 あなたは、自分の住んでいる地域で、風水害が発生した場合、特にどのようなことが心配ですか。（5つまで選択）

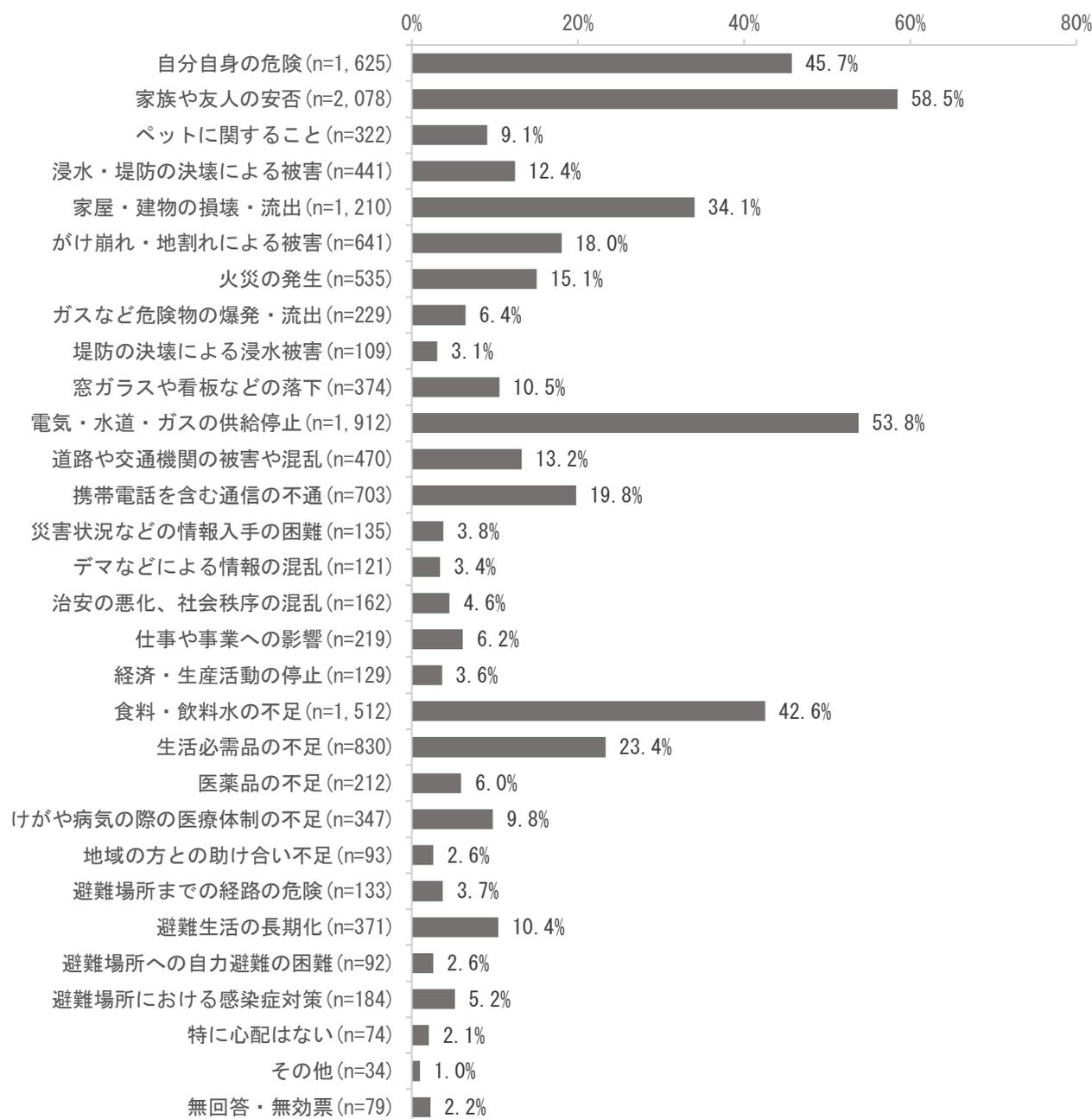
◇風水害が発生した場合に心配なことは「家族や友人の安否」が最も多い

風水害が発生した場合に心配なことは、「家族や友人の安否」が58.5%と最も多く、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」が53.8%となった。

経年比較では、「家族や友人の安否」の割合が増加しており、前回調査の33.4%（3位）から25.1ポイント増加し、58.5%（1位）となった。

年代別集計では、「10～50歳代」までで、「家族や友人の安否」の割合が最も高いが、「60歳代」、「70歳代以上」では、「電気・水道・ガスの供給停止」の割合が最も高くなっている。

【全体集計】 n=3,553



図表 22-1：風水害が発生した場合の心配事

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

トイレ、下水の停止／衛生面／飛来物による建物被害／倒木／電柱の倒壊／電線の切断（停電）／
高齢者、障害者の避難／避難場所の収容人数／避難場所の立地／被災後の復旧作業

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	電気・水道・ガスの供給停止 64.3%	食料・飲料水の不足 51.4%	家族や友人の安否 38.3%	道路や鉄道機関の被害や混乱 28.7%	携帯電話を含む電話の不通 27.2%
30年 (n=2,682)	電気・水道・ガスの供給停止 66.9%	食料・飲料水の不足 54.0%	家族や友人の安否 33.4%	道路や交通機関の被害や混乱 28.2%	携帯電話を含む通信の不通 24.4%
令和3年 (n=3,553)	家族や友人の安否 58.5%	電気・水道・ガスの供給停止 53.8%	自分自身の危険※1 45.7%	食料・飲料水の不足 42.6%	家屋・建物の損壊・流出 34.1%

図表 22-2：風水害が発生した場合の心配事 経年比較

※1「自分自身の危険」は今回調査からの新設選択肢

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	家族や友人の安否 58.5%	電気・水道・ガスの供給停止 53.8%	自分自身の危険 45.7%	食料・飲料水の不足 42.6%	家屋・建物の損壊・流出 34.1%
10歳代 (n=109)	家族や友人の安否 67.9%	自分自身の危険 59.6%	電気・水道・ガスの供給停止 34.9%	食料・飲料水の不足 33.0%	家屋・建物の損壊・流出 25.7%
20歳代 (n=245)	家族や友人の安否 64.9%	自分自身の危険 62.4%	電気・水道・ガスの供給停止 食料・飲料水の不足 38.8%（同率）		家屋・建物の損壊・流出 29.8%
30歳代 (n=358)	家族や友人の安否 73.5%	自分自身の危険 49.4%	電気・水道・ガスの供給停止 47.8%	食料・飲料水の不足 42.5%	家屋・建物の損壊・流出 37.4%
40歳代 (n=607)	家族や友人の安否 69.9%	電気・水道・ガスの供給停止 50.1%	自分自身の危険 41.8%	家屋・建物の損壊・流出 41.5%	食料・飲料水の不足 39.4%
50歳代 (n=681)	家族や友人の安否 66.5%	電気・水道・ガスの供給停止 54.6%	食料・飲料水の不足 43.0%	自分自身の危険 40.1%	家屋・建物の損壊・流出 36.9%
60歳代 (n=551)	電気・水道・ガスの供給停止 58.1%	家族や友人の安否 54.3%	食料・飲料水の不足 47.5%	自分自身の危険 44.8%	家屋・建物の損壊・流出 33.6%
70歳代以上 (n=996)	電気・水道・ガスの供給停止 61.2%	自分自身の危険 45.7%	食料・飲料水の不足 43.5%	家族や友人の安否 40.4%	家屋・建物の損壊・流出 28.8%

図表 22-3：風水害が発生した場合の心配事 年代別集計

(2) 風水害に対して行っている対策

問23 地震と違い、台風や大雨は発生が予測できるため、避難に際して時間的に余裕があります。そのため、横浜市では、台風や大雨のおそれがある時に自分がとる避難行動を時系列で整理した計画「マイ・タイムライン」をあらかじめ作成しておくことを、市民の皆さまに勧めています。「マイ・タイムライン」はご存じですか。(1つ選択)

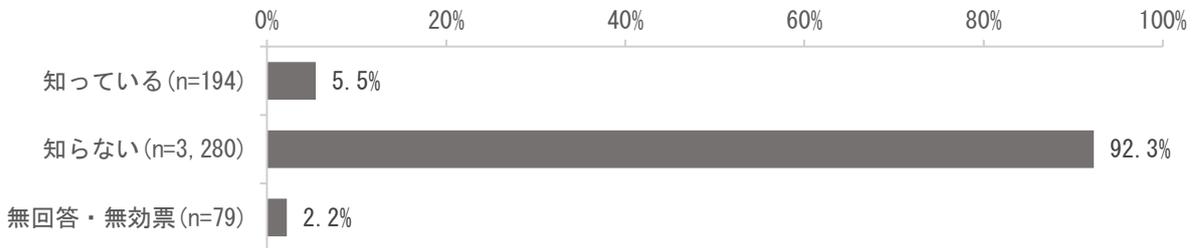
◇マイ・タイムラインを、「知らない」が9割超

マイ・タイムラインの認知度は、「知っている」が5.5%、「知らない」が92.3%となった。

年代別集計では、年代が上がるにつれて、認知度が上がり、「70歳代以上」で「知っている」の割合が7.4%となった。

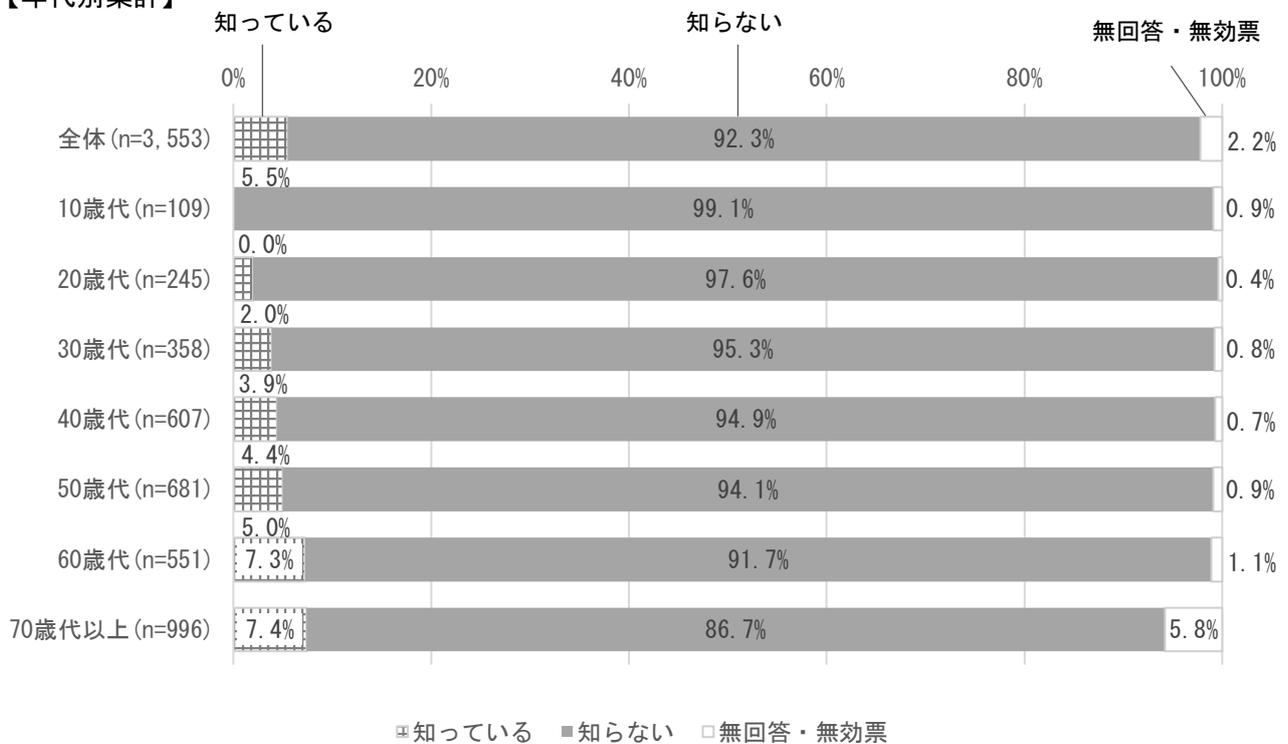
自治会・町内会加入別集計では、「知っている」の割合が、「加入している」で6.1%、「加入していない」で3.5%となった。

【全体集計】 n=3,553



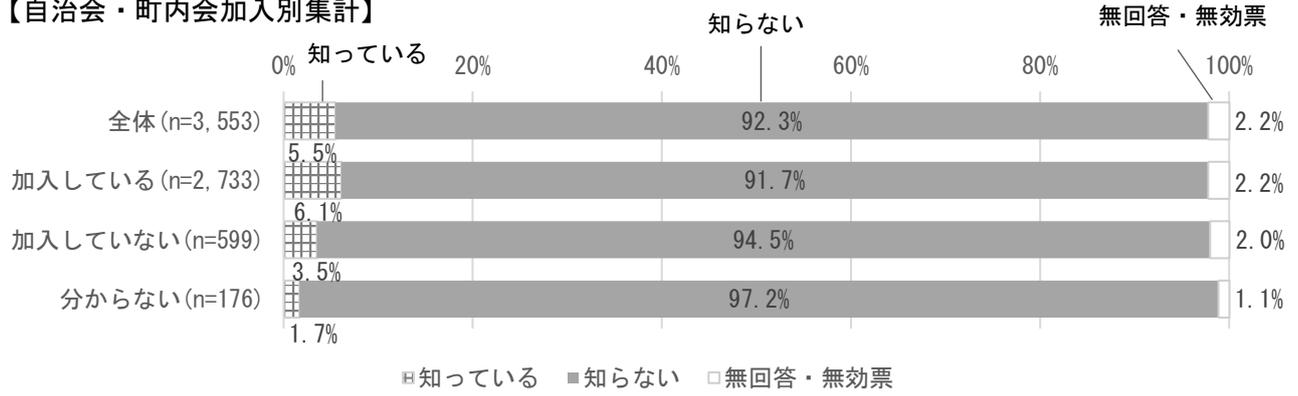
図表 23-1 : マイ・タイムラインの認知度

【年代別集計】



図表 23-2 : マイ・タイムラインの認知度 年代別集計

【自治会・町内会加入別集計】



図表 23-4 : マイ・タイムラインの認知度 自治会・町内会加入別集計

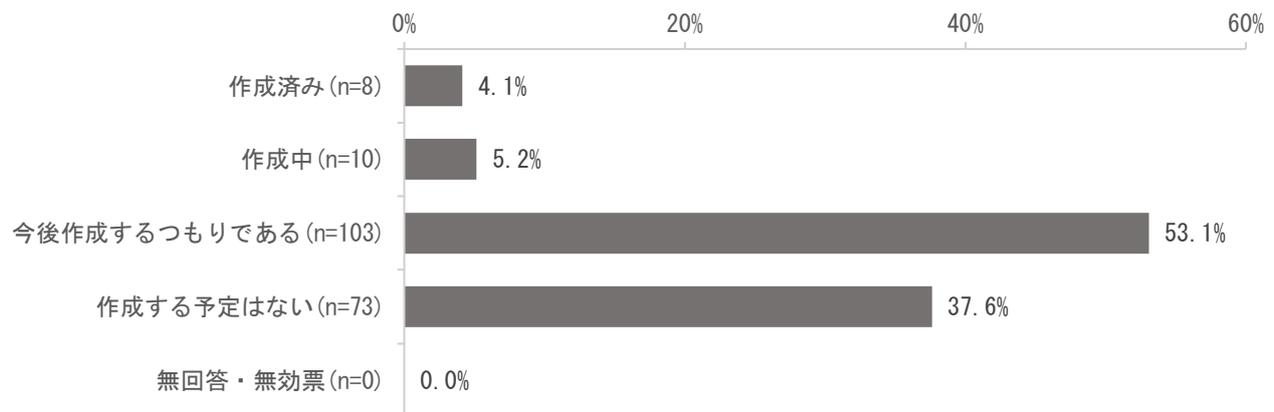
(問23で「知っている」と答えた方にご回答ください)
 問24 あなたは、「マイ・タイムライン」を作成していますか。(1つ選択)

◇マイ・タイムラインを知っている人の作成状況は、「今後作成するつもりである」が5割超

マイ・タイムラインの作成状況は、「作成中」、「作成済み」の合計が9.3%、「今後作成するつもりである」を含めると62.4%となった。一方、「今後作成するつもりである」、「作成する予定はない」の合計が90.7%となった。

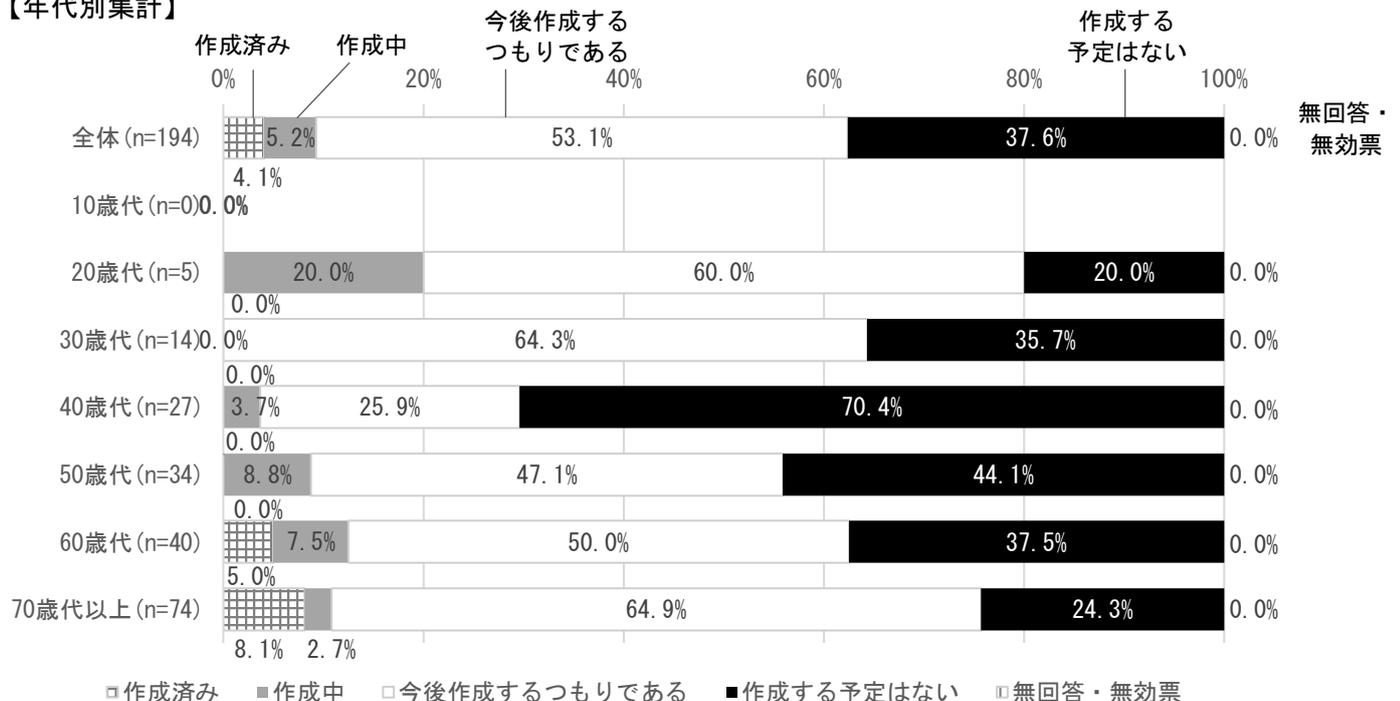
年代別集計では、「回答者のいなかった10歳代」と「40歳代」を除く、すべての世代で「作成中」、「今後作成するつもりである」を合計した割合が、5割を超えた結果となった。

【全体集計】 n=194 (5.5%)



図表 24-1 : マイ・タイムラインの作成状況

【年代別集計】



図表 24-2 : マイ・タイムラインの作成状況 年代別集計

(3) 避難行動について

問25 あなたは、風水害時の避難先について事前に検討していますか（マイ・タイムラインを作成していても避難先について検討していなければ「2」を選択してください）。（1つ選択）

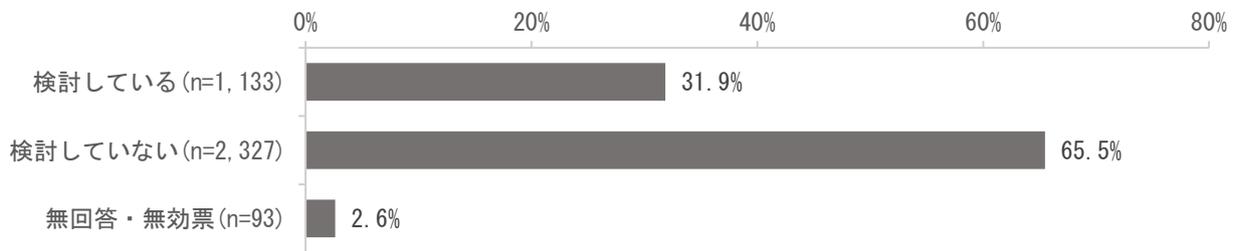
◇風水害時の避難先については、「検討していない」の方が多く、6割超

風水害時の避難先についての検討状況は、「検討している」が31.9%、「検討していない」が倍以上の65.5%となった。

年代別集計では、「10歳代」で「検討している」の割合が最も高く、38.5%となった。

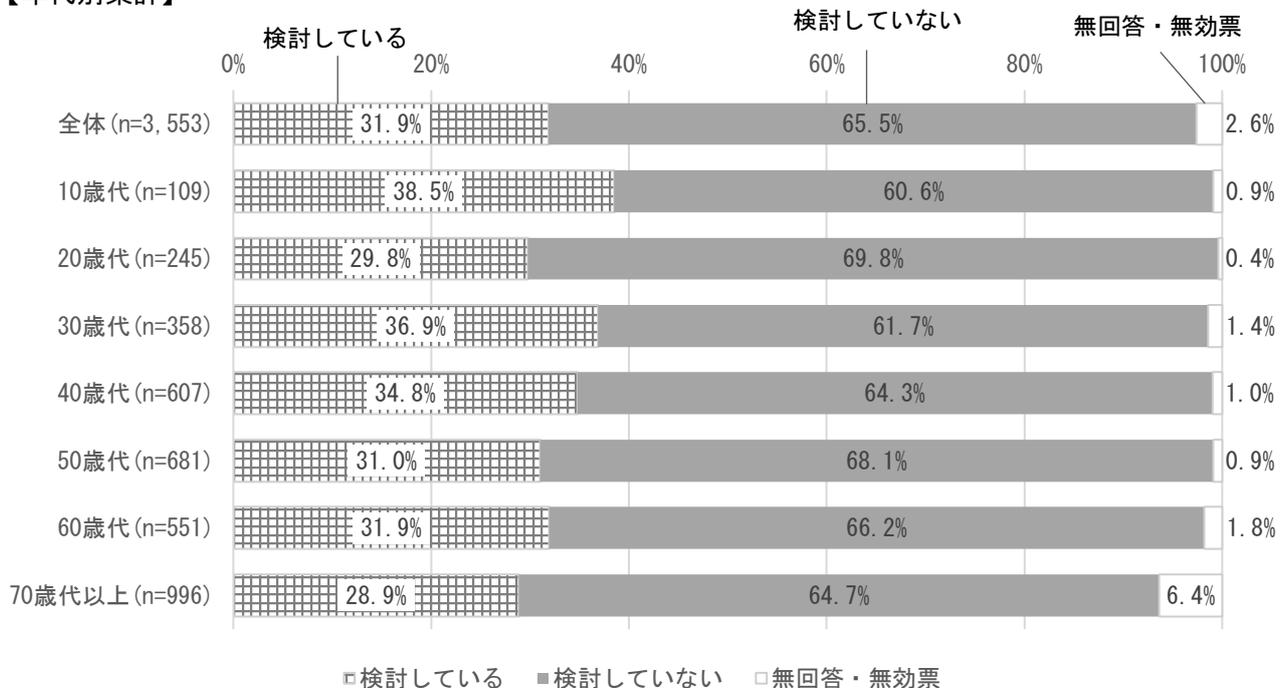
マイ・タイムライン作成状況別集計では、マイ・タイムラインを「作成済み」で、避難先を「検討している」の割合が87.5%と最も高く、次いで、マイ・タイムラインを「作成中」が80.0%、「今後作成するつもりである」が65.0%となった。他方、マイ・タイムラインを「作成する予定はない」と回答した人でも38.4%は避難先を「検討している」と答えた。

【全体集計】 n=3,553



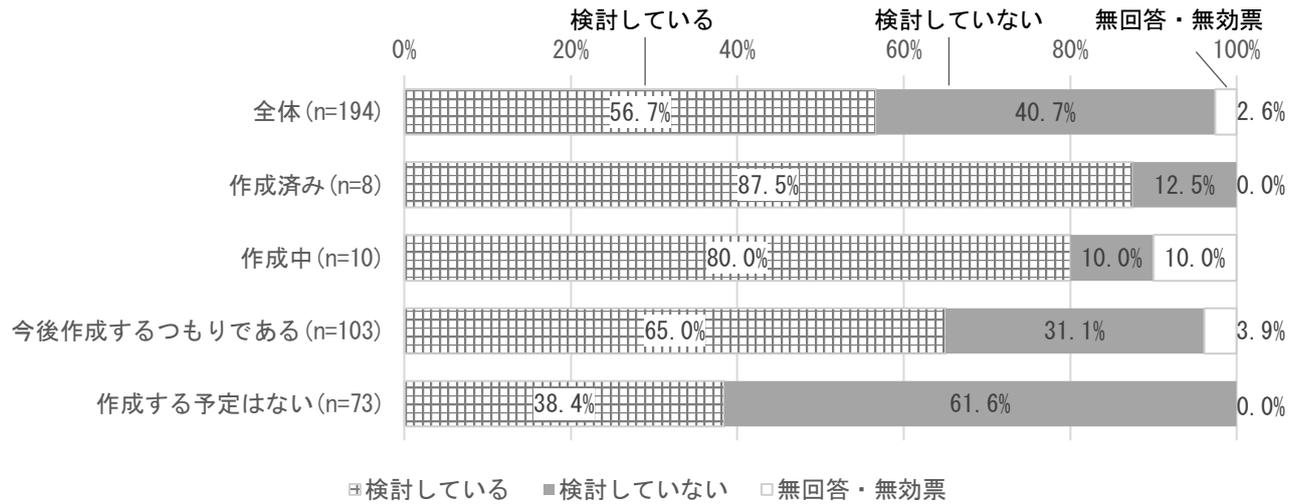
図表 25-1：風水害時の避難先の検討状況

【年代別集計】



図表 25-2：風水害時の避難先の検討状況 年代別集計

【マイ・タイムライン作成状況別集計】



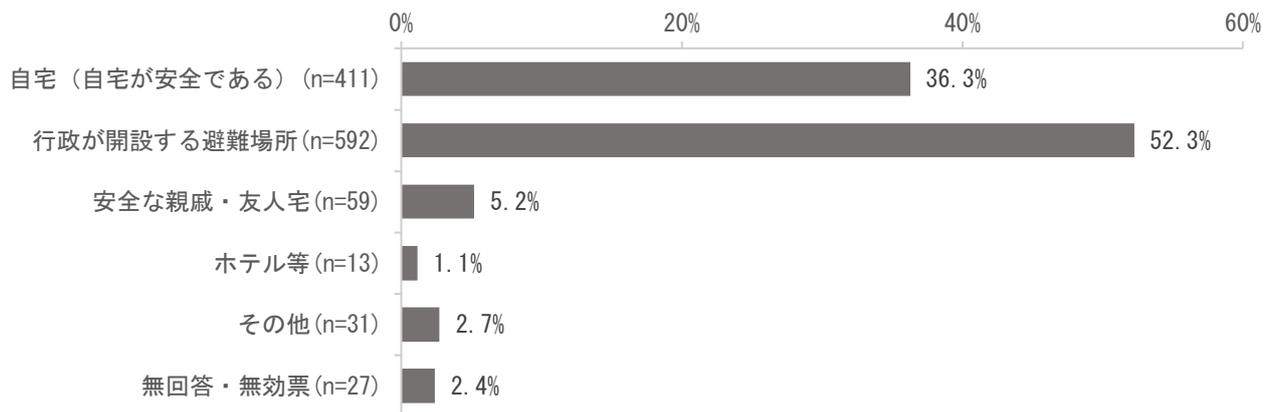
図表 25-2 : 風水害時の避難先の検討状況 マイ・タイムライン作成状況別集計

(問25で「検討している」と答えた方にご回答ください)
問26 検討している避難先について、該当するものを選んでください。(1つ選択)

◇検討している避難先は、「行政が開設する避難場所」が5割超

検討している避難先は、「行政が開設する避難場所」が52.3%と最も多く、次いで「自宅」が36.3%となった。

【全体集計】 n=1,133 (31.9%)



図表 26-1 : 検討している避難先

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

学校／会社・勤務先／別宅／向かいのお寺／町内会で契約している高層ビル／安全な高台／ペット可の避難場所／公園

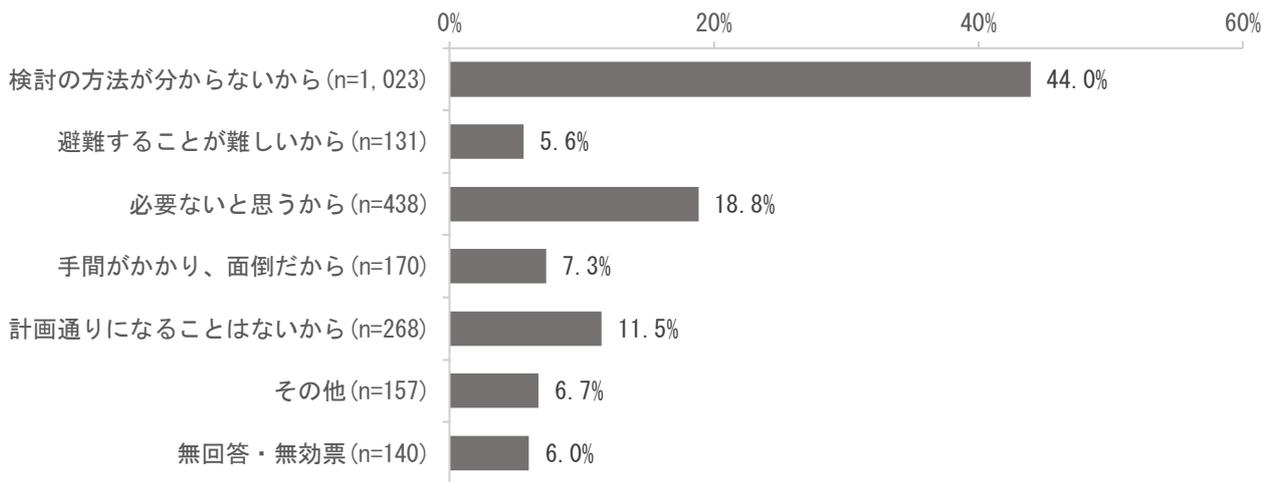
(問25で「検討していない」と答えた方にご回答ください)
問27 検討していない理由について、該当するものを選んでください。(1つ選択)

◇避難先を検討していない理由は、「検討の方法が分からないから」が最も多い

避難先を検討していない理由は、「検討の方法が分からないから」が44.0%と最も多く、次いで「必要ないと思うから」が18.8%となった。

年代別集計では、「10～30歳代」で、「手間がかかり、面倒だから」の割合が高く、「70歳代以上」で、「避難することが難しいから」の割合が高い結果となった。

【全体集計】 n=2,327 (65.5%)

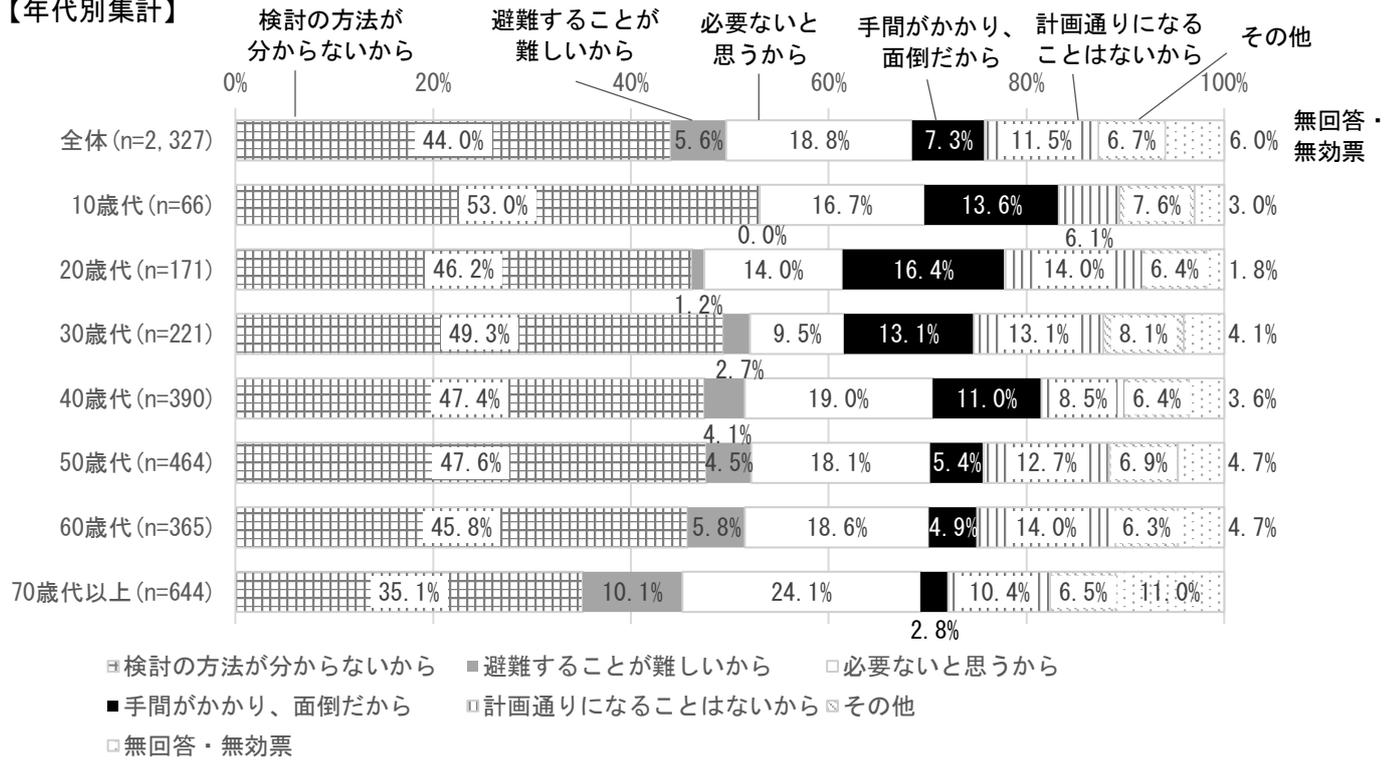


図表 27-1：避難先を検討していない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

自宅が安全だから／考えたことがなかったから／検討するきっかけがなかったから／後回しになっているから／ペットが心配だから／マイ・タイムラインを知らなかったから／近くに家族が住んでいるから／要介護の家族がいるから／避難先が見当たらないから／避難所は狭いと思うから／避難所は治安が悪いと聞いたから／避難所には何も準備がないと聞いたから(毛布等)／避難場所が家の近くだから／歩行困難だから／移住したばかりで分からないから／状況に応じて対応するつもりだから

【年代別集計】



図表 27-2：避難先を検討していない理由 年代別集計

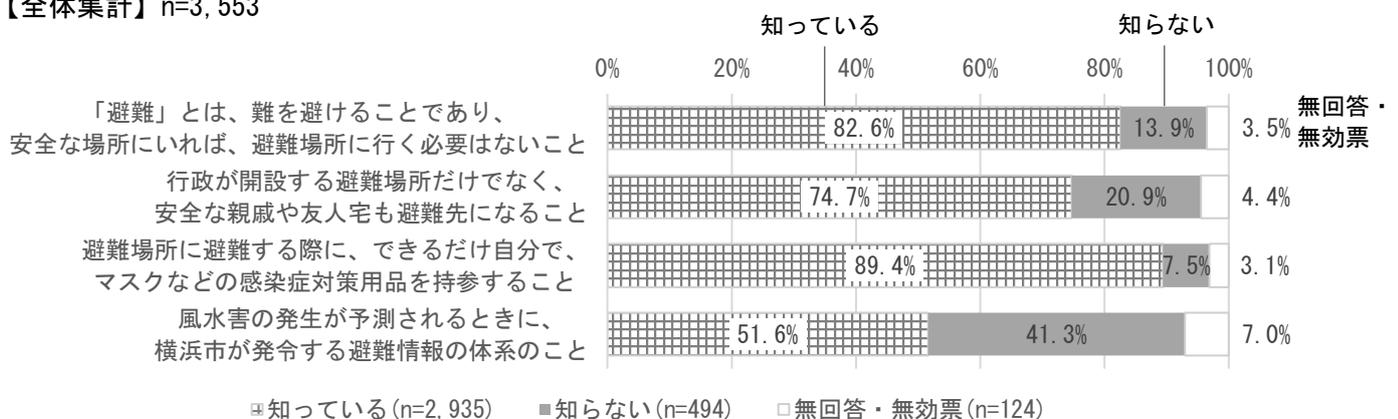
問28 あなたは、災害時の避難について、次のことを知っていますか。(それぞれ1つ選択)

◇災害時の避難について、感染症対策用品を持参する意識がある人が約9割

災害時の避難について、「避難」とは難を避けることであり、安全な場所にいれば、避難場所に行く必要はないこと」を「知っている」が82.6%、「行政が開設する避難場所だけでなく、安全な親戚や友人宅も避難先になること」を「知っている」が74.7%、「避難場所に避難する際に、できるだけ自分でマスクなどの感染症対策用品を持参すること」を「知っている」が89.4%、「風水害の発生が予測されるときに、横浜市が発令する避難情報の体系のこと」を「知っている」が51.6%となった。

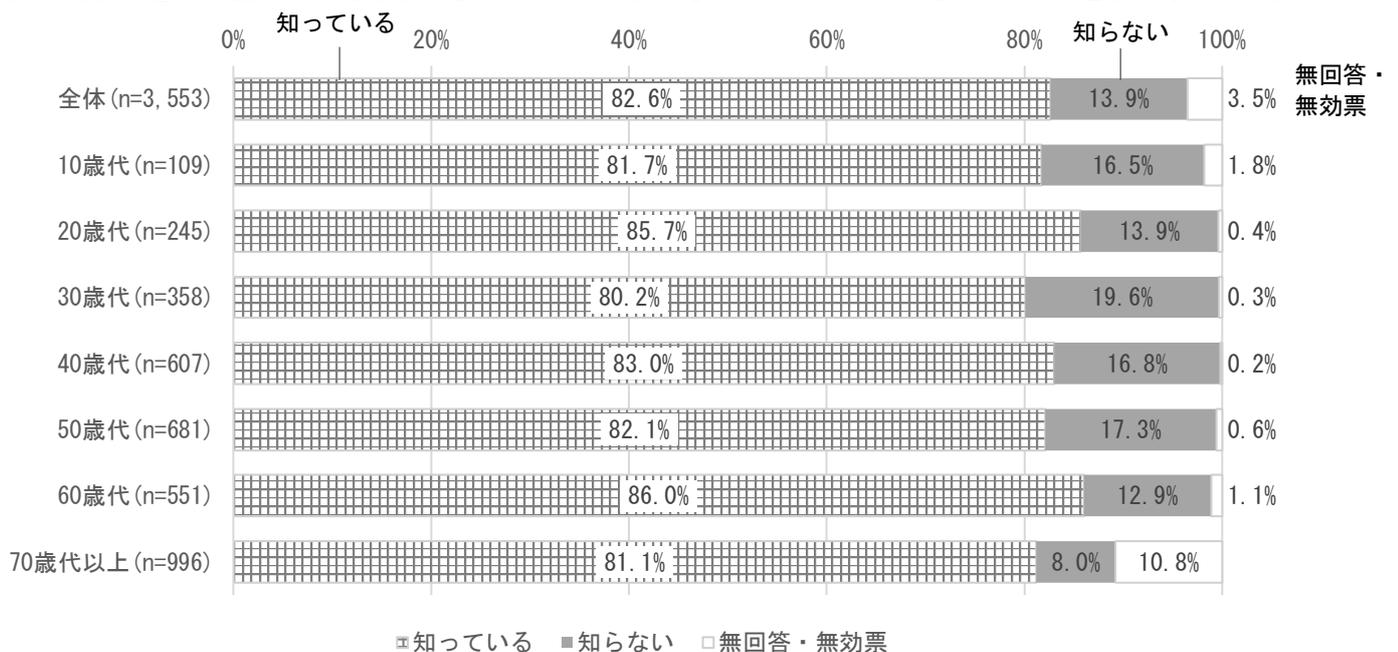
年代別集計では、どの年代でも、概ね6割から8割が、「避難情報の体系」を除く、他の3つの知識がある結果となった。

【全体集計】 n=3,553



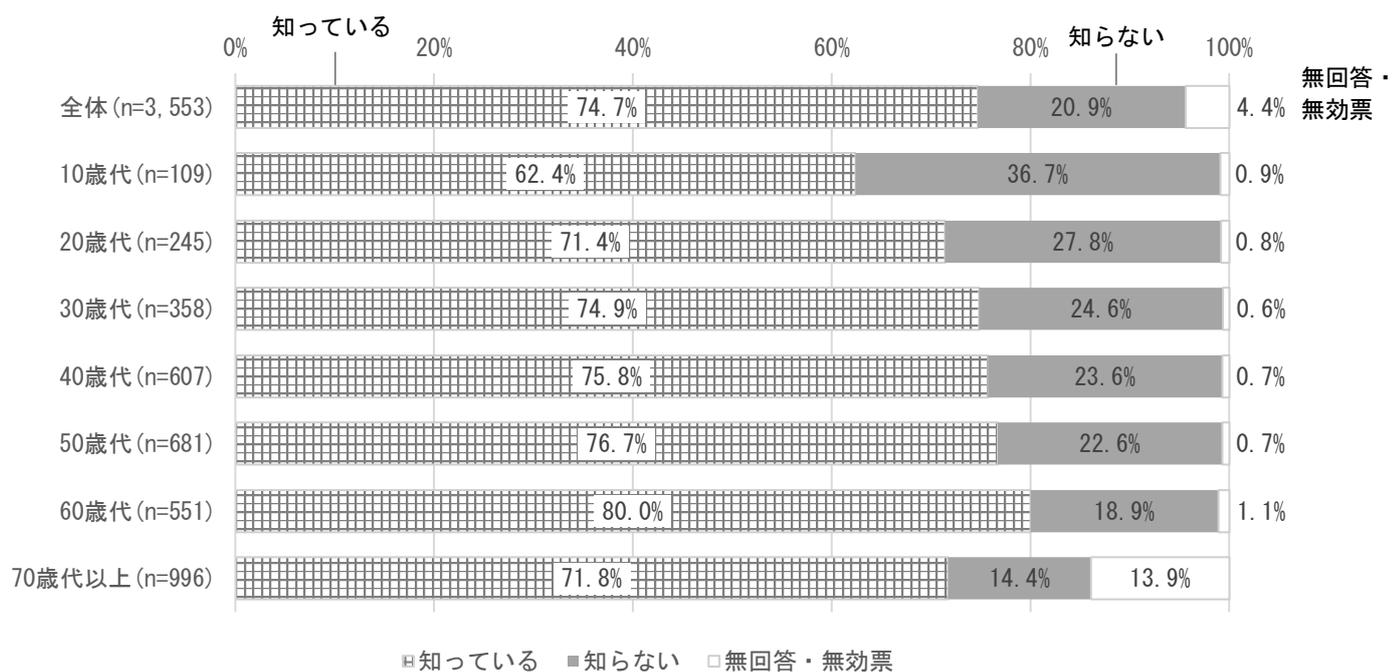
図表 28-1：災害時の避難について

【年代別集計_「避難」とは、難を避けることであり、安全な場所にいれば、避難場所に行く必要はないこと】



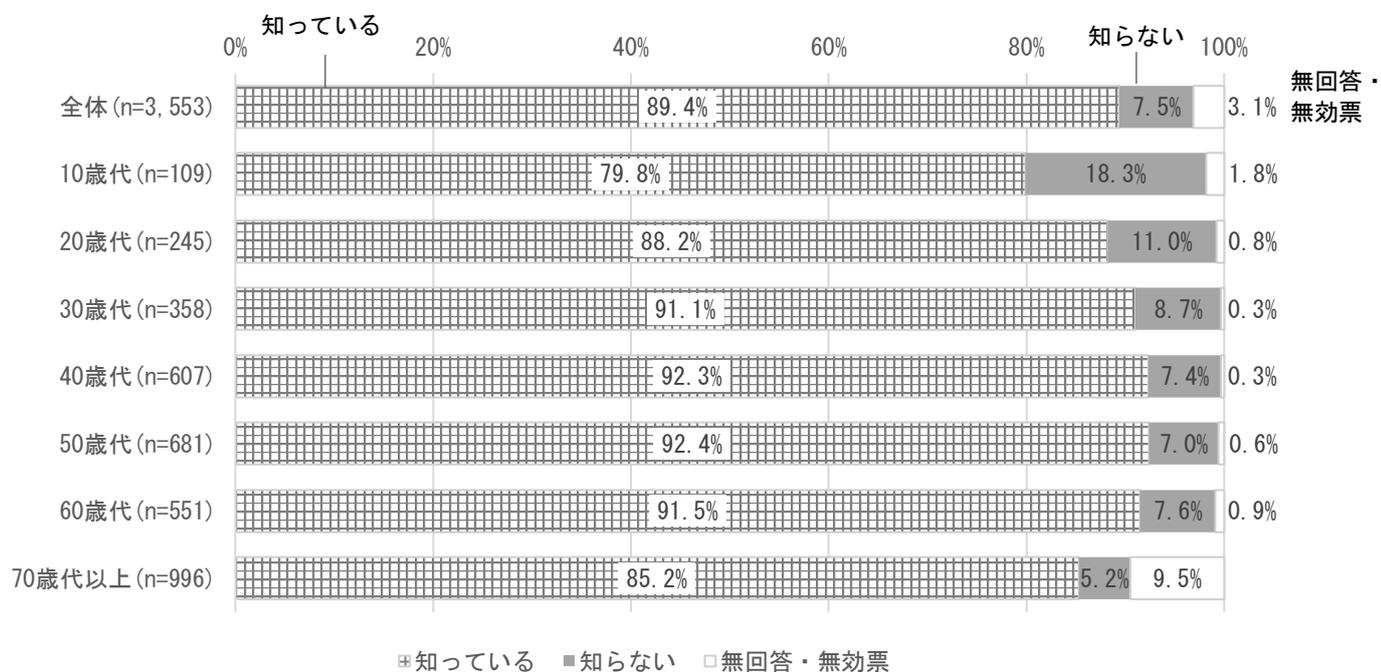
図表 28-3：災害時の避難について 「避難」 年代別集計

【年代別集計_行政が開設する避難場所だけでなく、安全な親戚や友人宅も避難先となること】



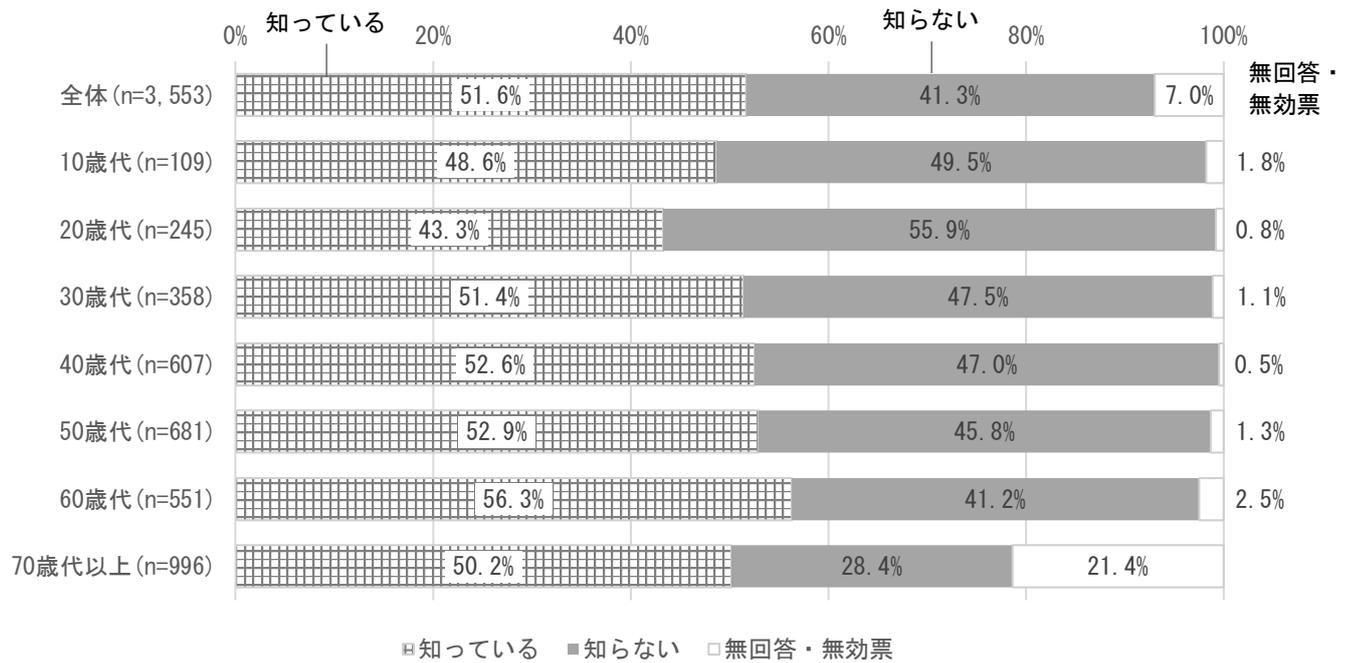
図表 28-4：災害時の避難について 「避難先」 年代別集計

【年代別集計_避難場所に避難する際に、できるだけ自分で、マスクなどの感染症対策用品を持参すること】



図表 28-5：災害時の避難について 「感染症対策用品」 年代別集計

【年代別集計_風水害の発生が予測されるときに、横浜市が発令する避難情報の体系のこと】



図表 28-6 : 災害時の避難について 「避難情報の体系」 年代別集計

問29 あなたが自宅にいて、豪雨が発生した場合、どのような状況になったら避難行動を開始しますか。(1つ選択)

◇豪雨が発生した場合の対応については、「避難しない」が最も多い

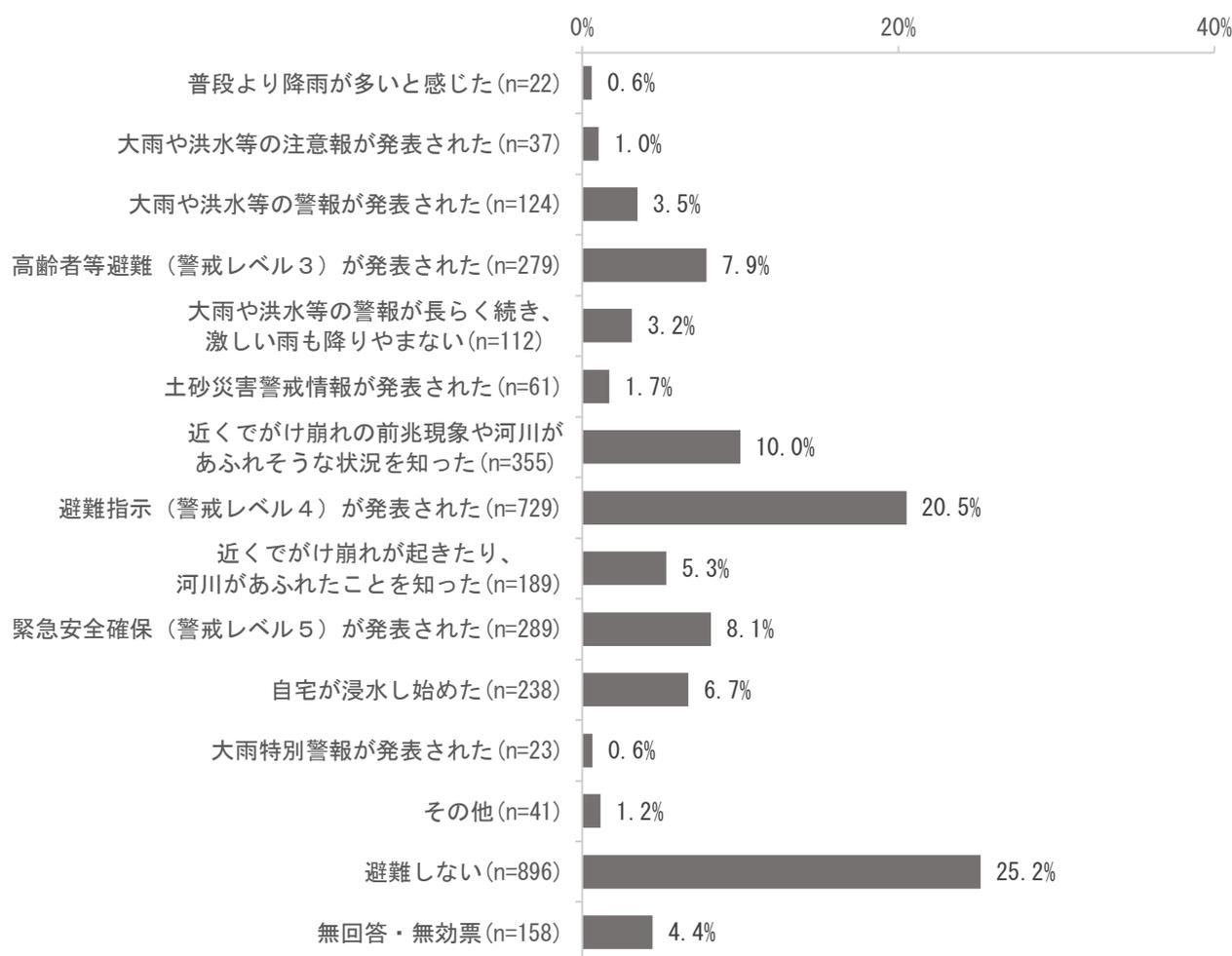
豪雨が発生した場合に、避難行動を開始するタイミングについては、「避難しない」が25.2%と最も多く、次いで「避難指示（警戒レベル4）が発表された」が20.5%となった。

経年比較では、今回調査において、新設の「避難しない」が1位となった。

年代別集計では、「10～30歳代」で、「避難指示（警戒レベル4）が発表された」の割合が最も高い結果となった。また、「40～70歳代以上」では、「避難しない」の割合が最も高い結果となったが、「避難しない」と回答した人を除くと、「40～60歳代」では、「避難指示（警戒レベル4）が発表された」の割合が最も高く、「70歳代以上」では、「高齢者等避難（警戒レベル3）が発表された」の割合が最も高い。

マイ・タイムライン作成状況別集計では、「作成済み」、「作成中」、「今後作成するつもりである」と回答した人は、警戒レベル3又は警戒レベル4で避難を行うと回答した割合が高かった。

【全体集計】 n=3,553



図表 29-1：豪雨発生時の避難行動

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

高台・高層階に住んでいるため必要性を感じない／テレビ・インターネット・ラジオから情報収集して判断／外と自宅どちらが安全なのか判断できないとき／自宅が安全でなくなったら／避難したほうが良いと感じたとき／前日の天気予報で判断／風の強さで判断／まわりの状況をみて判断／誰かに言われたら／助けを待つ／分からない

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	避難勧告が発令された※ ¹ 23.6%	避難指示(緊急)が発令された※ ¹ 20.0%	避難しない 17.8%	避難準備・高齢者等避難開始が発令された※ ¹ 10.4%	自宅が浸水し始めた 4.6%
30年 (n=2,682)	避難勧告が発令された※ ¹ 23.4%	避難しない 19.0%	避難指示(緊急)が発令された※ ¹ 18.7%	避難準備・高齢者等避難開始が発令された※ ¹ 9.9%	自宅が浸水し始めた 5.1%
令和3年 (n=3,553)	避難しない 25.2%	避難指示(警戒レベル4)が発表された※ ² 20.5%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 10.0%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された※ ² 8.1%	高齢者等避難(警戒レベル3)が発表された※ ² 7.9%

図表 29-2：豪雨発生時の避難行動 経年比較

※¹「避難勧告が発令された」、「避難指示(緊急)が発令された」、「避難準備・高齢者等避難開始が発令された」は平成30年調査以前にあった選択肢

※²「高齢者等避難開始(警戒レベル3)が発表された」、「避難指示(警戒レベル4)が発表された」、「緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された」は今回調査からの新設選択肢

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	避難しない 25.2%	避難指示(警戒レベル4)が発表された 20.5%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 10.0%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 8.1%	高齢者等避難(警戒レベル3)が発表された 7.9%
10歳代 (n=109)	避難指示(警戒レベル4)が発表された 21.1%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 16.5%	避難しない 15.6%	自宅が浸水し始めた 11.0%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 10.1%
20歳代 (n=245)	避難指示(警戒レベル4)が発表された 23.3%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 19.6%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 13.9%	避難しない 11.4%	近くでがけ崩れが起きたり、河川があふれたことを知った 10.6%
30歳代 (n=358)	避難指示(警戒レベル4)が発表された 29.3%	避難しない 15.9%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 12.3%	近くでがけ崩れが起きたり、河川があふれたことを知った 8.1%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 7.3%
40歳代 (n=607)	避難しない 23.9%	避難指示(警戒レベル4)が発表された 22.4%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 14.2%	自宅が浸水し始めた 8.4%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 7.9%
50歳代 (n=681)	避難しない 23.6%	避難指示(警戒レベル4)が発表された 22.6%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 10.9%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 9.4%	自宅が浸水し始めた 9.3%
60歳代 (n=551)	避難しない 28.9%	避難指示(警戒レベル4)が発表された 22.7%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 8.9%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 8.2%	高齢者等避難(警戒レベル3)が発表された 7.4%
70歳代以上 (n=996)	避難しない 33.0%	高齢者等避難(警戒レベル3)が発表された 17.9%	避難指示(警戒レベル4)が発表された 13.0%	緊急安全確保(警戒レベル5)が発表された 5.7%	大雨や洪水等の警報が発表された 4.2%

図表 29-3：豪雨発生時の避難行動 年代別集計

【マイ・タイムライン作成状況別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=194)	避難しない 24.7%	避難指示（警戒レベル4）が発表された 20.6%	高齢者等避難（警戒レベル3）が発表された 近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 緊急安全確保（警戒レベル5）が発表された 8.8%（同率）		
作成済み (n=8)	高齢者等避難（警戒レベル3）が発表された 避難しない 25.0%（同率）		大雨や洪水等の注意報が発表された 大雨や洪水等の警報が発表された 12.5%（同率）		-
作成中 (n=10)	避難指示（警戒レベル4）が発表された 30.0%	高齢者等避難（警戒レベル3）が発表された 緊急安全確保（警戒レベル5）が発表された 20.0%（同率）		大雨や洪水等の警報が発表された 土砂災害警戒情報が発表された 避難しない 10.0%（同率）	
今後作成するつもりである (n=103)	避難指示（警戒レベル4）が発表された 避難しない 22.3%（同率）		緊急安全確保（警戒レベル5）が発表された 10.7%	高齢者等避難（警戒レベル3）が発表された 近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 9.7%（同率）	
作成する予定はない (n=73)	避難しない 30.1%	避難指示（警戒レベル4）が発表された 19.2%	近くでがけ崩れの前兆現象や河川があふれそうな状況を知った 9.6%	自宅が浸水し始めた 6.8%	大雨や洪水等の警報が発表された 大雨や洪水等の警報が長らく続き、激しい雨も降りやまない 緊急安全確保（警戒レベル5）が発表された 5.5%（同率）

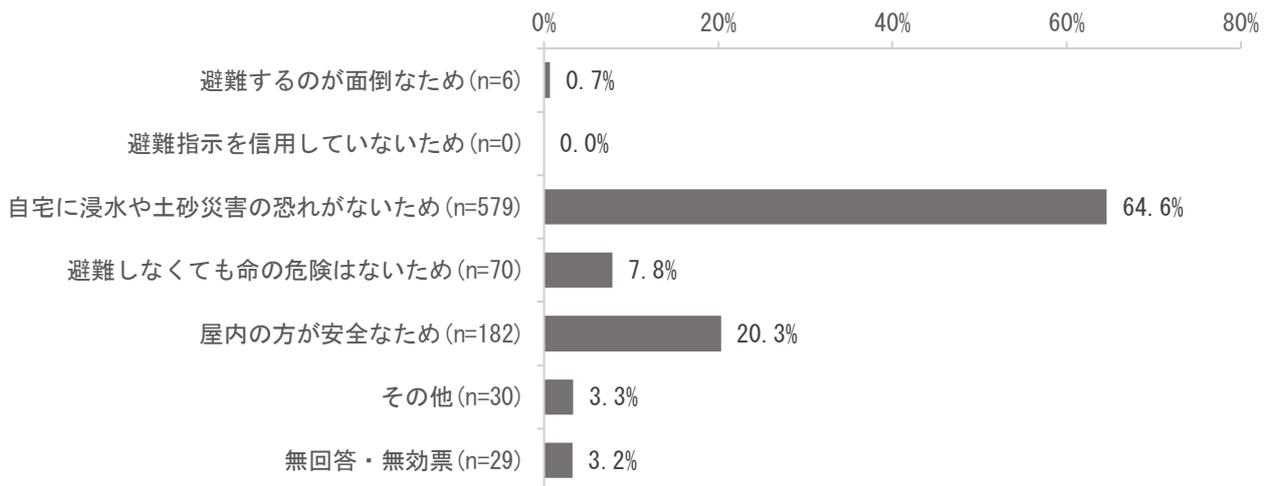
図表 29-3：豪雨発生時の避難行動 マイ・タイムライン作成状況別集計

(問29で「避難しない」と答えた方にご回答ください)
問30 あなたが避難しない理由を教えてください。(1つ選択)

◇避難しない人のうち、9割超が安全を確認している

避難をしない理由は、「自宅に浸水や土砂災害の恐れがないため」、「避難しなくても命の危険はないため」、「屋内の方が安全なため」の合計が92.7%となった。一方、「避難するのが面倒なため」は0.7%、「避難指示を信用していないため」は0%と低い結果となった。

【全体集計】 n=896 (25.2%)



図表 30-1 : 避難しない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

高台・高層階に住んでいるため／自宅が安全なため／(自身又は家族に) 障害があるため／家族に要介護者がいるため／ペットがいるため／自治会の指示に従うため／豪雨による災害発生は考えられない地区に居住しているため

4. 火山災害について

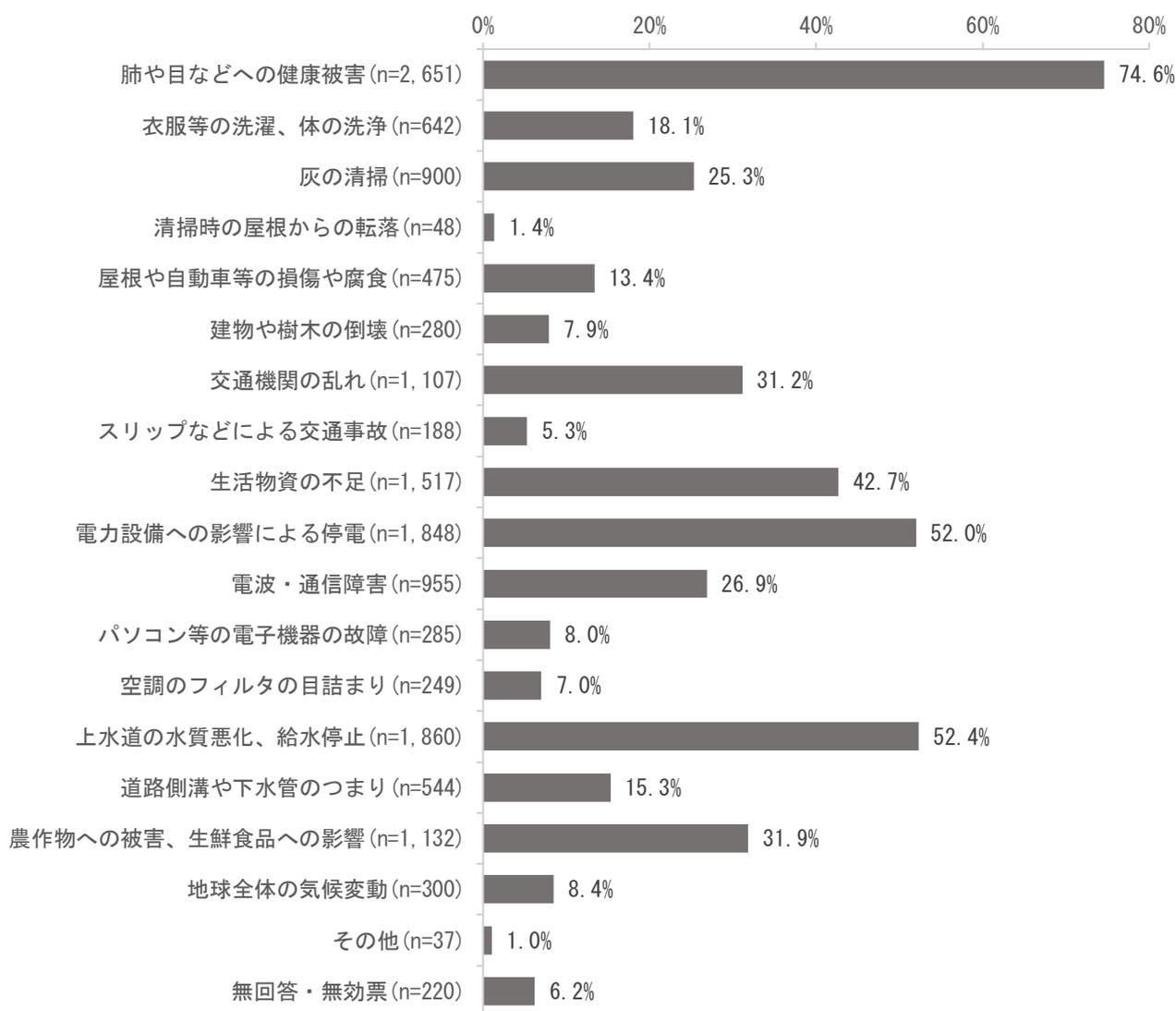
(1) 火山災害

問31 あなたは、ご自身の住んでいる地域で、火山の噴火による火山灰の影響として、特にどのようなことが心配ですか。(5つまで選択)

◇火山灰の影響として、心配なことは「肺や目などへの健康被害」が最も多い

火山灰の影響として心配なことは、「肺や目などへの健康被害」が74.6%と最も多く、次いで「上水道の水質悪化、給水停止」が52.4%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 31-1：火山噴火における火山灰の影響による心配事

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

火山噴火の心配がない／ペットへの影響／漏電やスパークによる火災／都市機能の喪失／社会の混乱／医薬品の不足／ガスの供給停止／特に考えたことはない／分からない

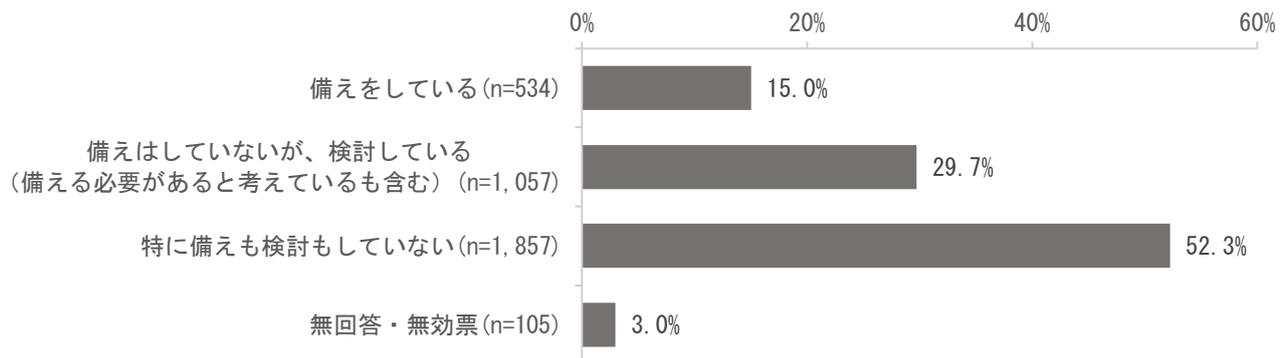
問32 あなたは、火山噴火による降灰災害を想定し、マスクや目を保護するゴーグル、食料・水等の備蓄などの備えをしている又は検討していますか。(1つ選択)

◇降灰災害を想定した備えについては、「備えをしている」又は「検討している」が4割超

火山噴火による降灰災害を想定した備蓄などの備えについては、「特に備えも検討もしていない」が52.3%と最も多いが、「備えをしている」、「備えはしていないが、検討している」の合計は44.7%となった。

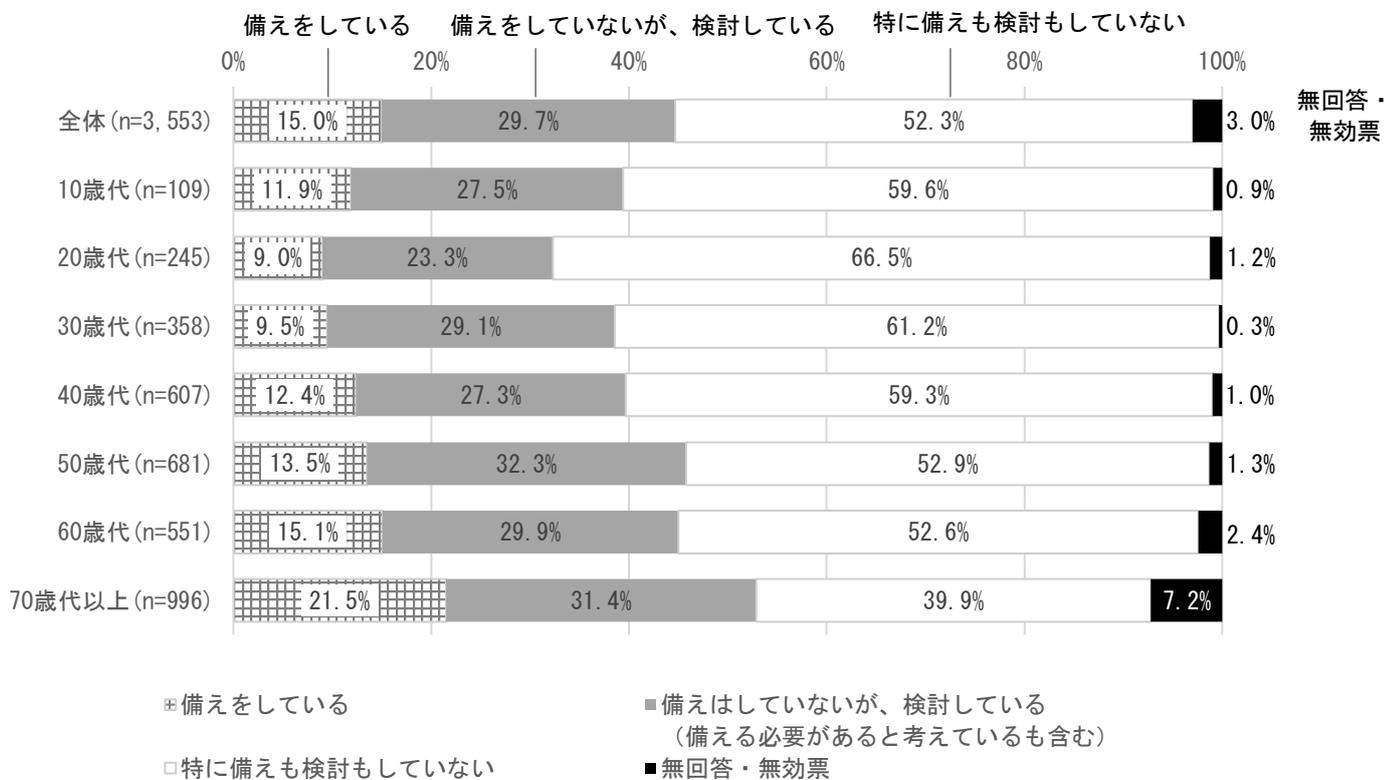
年代別集計では、「20歳代」以降は、概ね年代が上がるにつれて、「備えをしている」の割合が高い結果となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 32-1：降灰災害への備え

【年代別集計】



図表 32-2：降灰災害への備え 年代別集計

5. 災害への備えや避難について

(1) あなたのご家庭での日ごろからの災害対策

問33 あなたのご家庭では、災害に備えて何日分の食料、飲料水（1人1日あたりの目安は3リットル以上）を準備していますか。（1つ選択）

◇食料、飲料水を「準備している」が約8割

家庭での食料、飲料水の準備については、「1日以上以上の備蓄をしている」が79.4%となり、「3日以上以上の準備をしている」が47.8%となった。

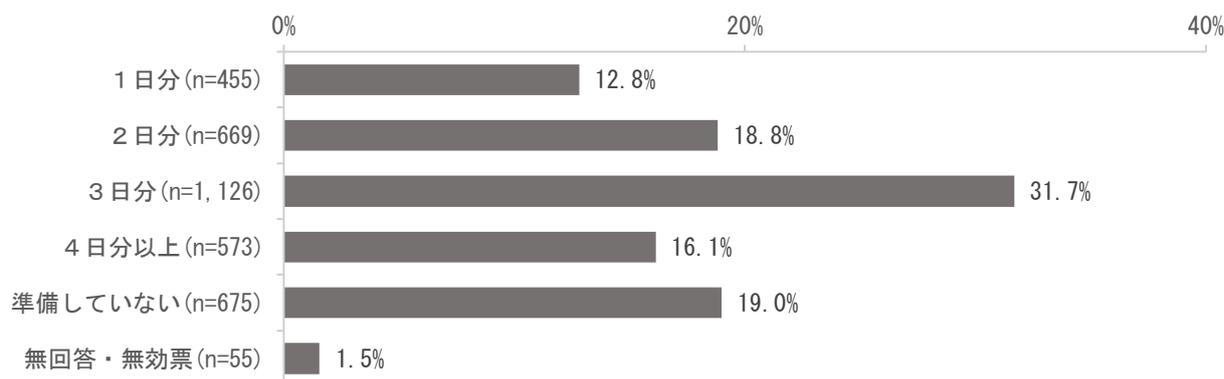
経年比較では、「3日以上以上備蓄している」の割合が、前回調査の40.9から、6.9ポイント増加し、47.8%となった。

家族形態別集計では、「夫婦」、「祖父母と親と子」、「親と子」で準備している割合が高く、「ひとり」で、少ない結果となった。

住居形態別集計では、借家よりも持家の方が「準備している」の割合が高い結果となった。

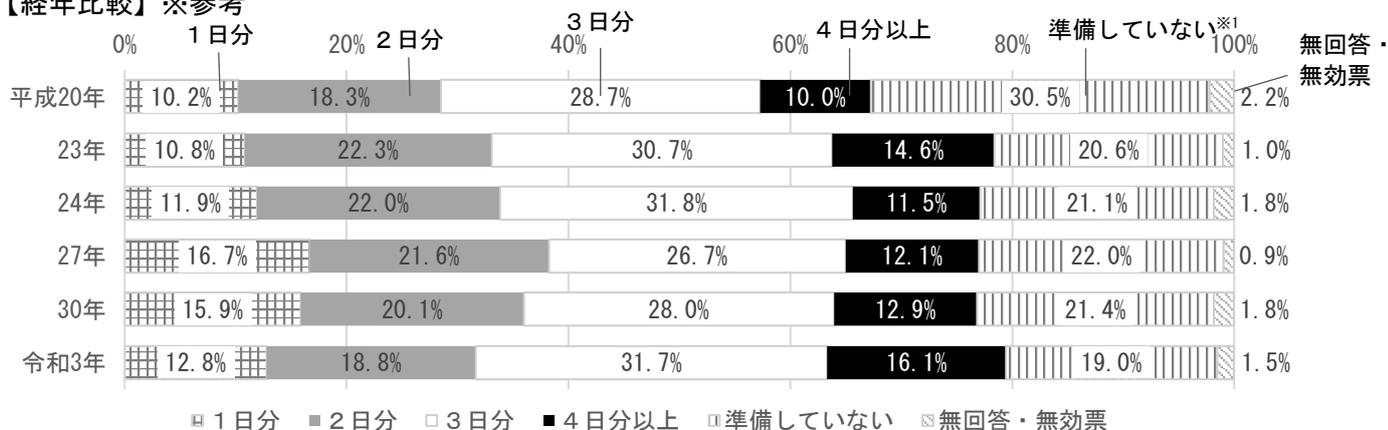
大地震への不安別集計では、「強く感じている」と回答した人の84.2%、「感じている」と回答した人の80.9%が、「1日以上以上の備蓄をしている」と答えた。

【全体集計】 n=3,553



図表 33-1：災害への備えとしての食料、飲料水

【経年比較】 ※参考

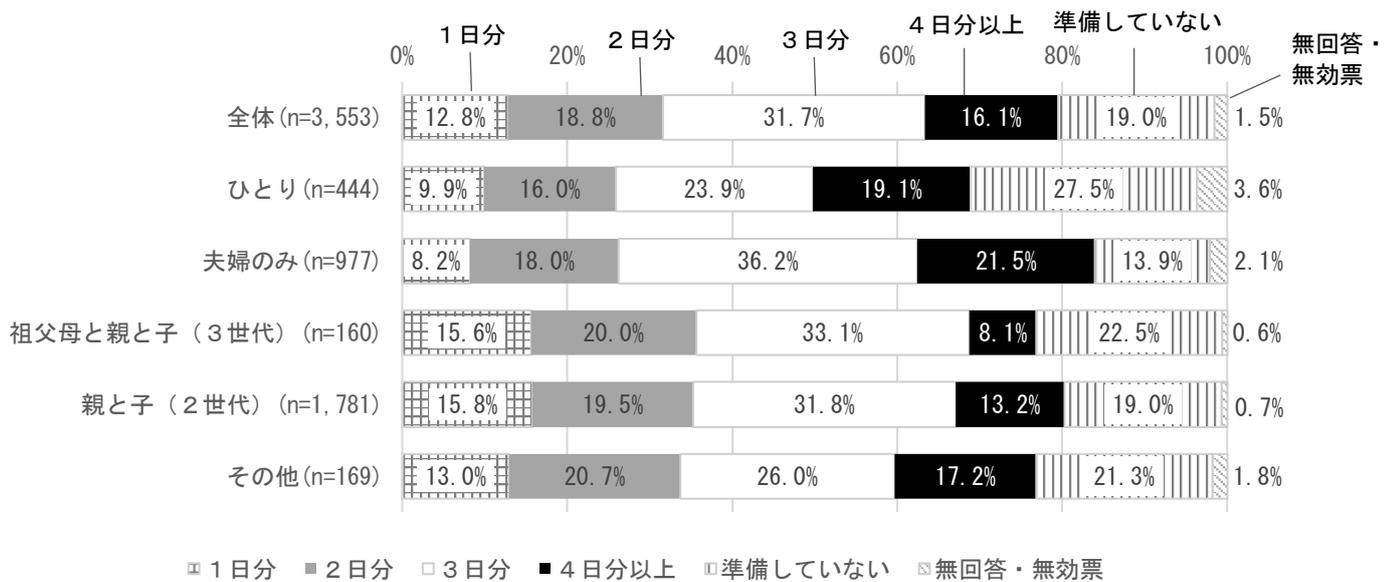


図表 33-2：災害への備えとしての食料、飲料水 経年比較

※ 平成23年、24年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋

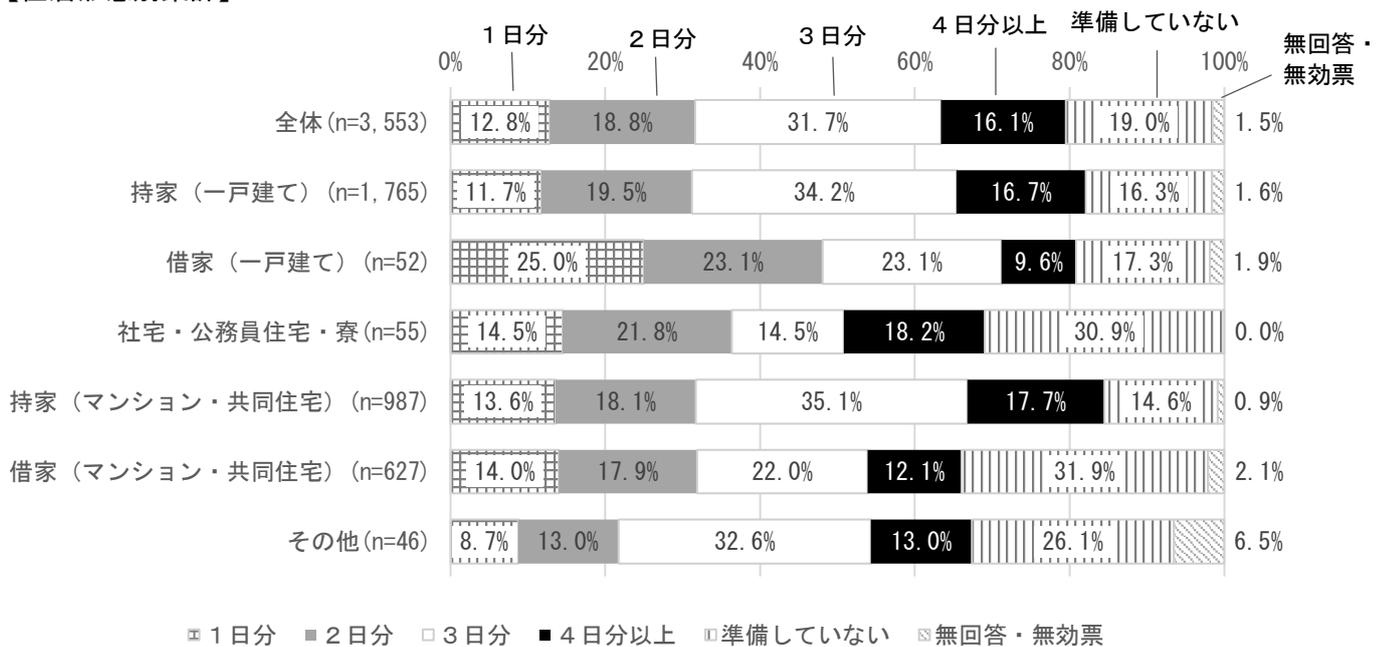
※1 平成20年調査では「備蓄していない」としていた選択肢を経年比較を行うにあたり、「準備していない」に整理し、比較を行っている。

【家族形態別集計】



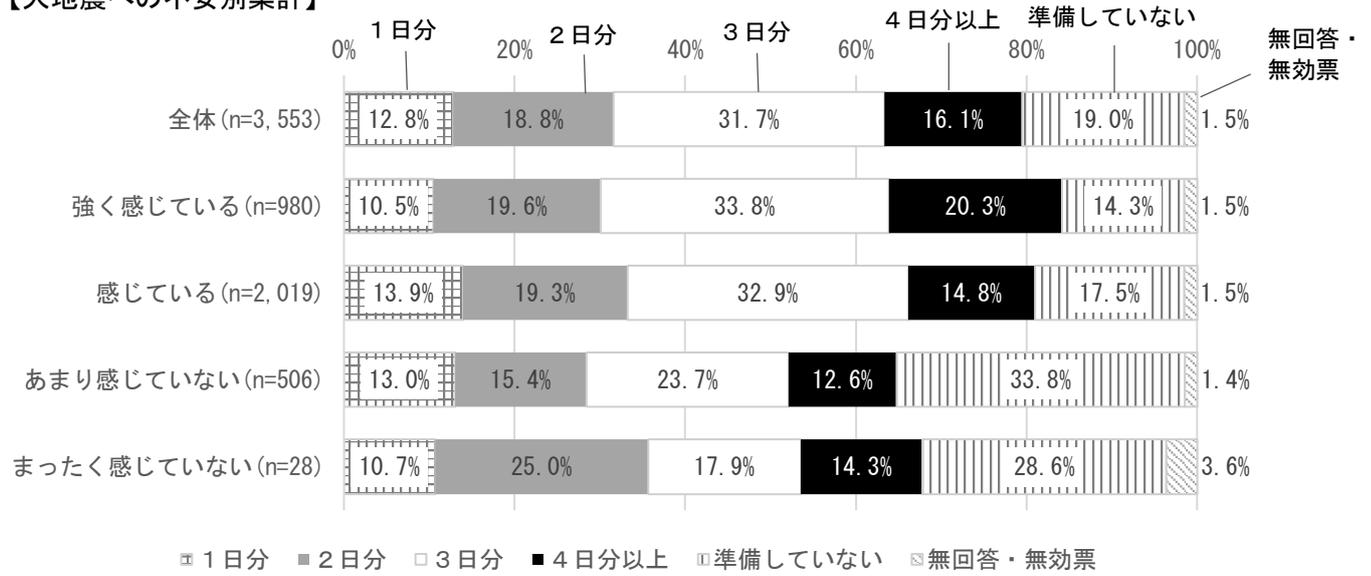
図表 33-3 : 災害への備えとしての食料、飲料水 家族形態別集計

【住居形態別集計】



図表 33-4 : 災害への備えとしての食料、飲料水 住居形態別集計

【大地震への不安別集計】



図表 33-5 : 災害への備えとしての食料、飲料水 大地震への不安別集計

(問33で「準備していない」と答えた方にご回答ください)

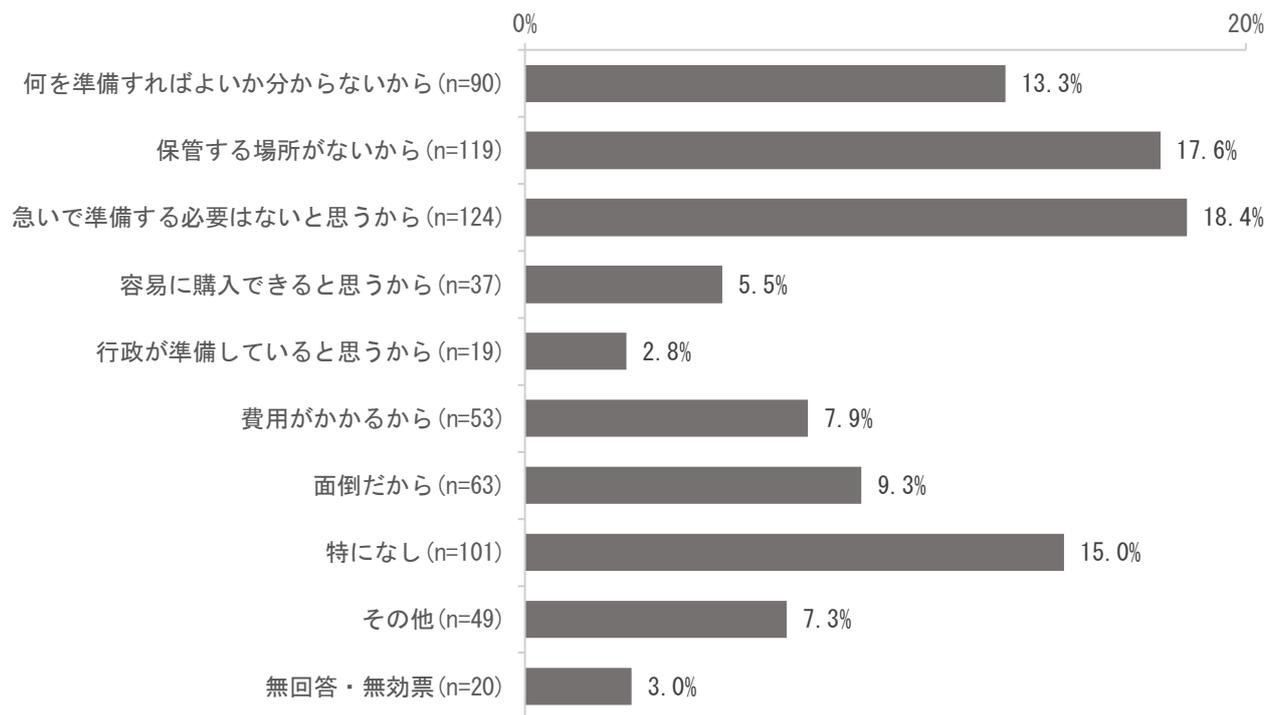
問34 準備していない理由は何ですか。(1つ選択)

◇準備していない理由は「急いで準備する必要はないと思うから」が最も多い

食料や飲料水を準備していない理由は、「急いで準備する必要はないと思うから」が18.4%と最も多く、次いで「保管する場所がないから」が17.6%となった。

経年比較では、「急いで準備する必要はないと思うから」の割合が、前回調査の13.4%(3位)から5ポイント増加し、18.4%(1位)となった。

【全体集計】n=675 (19.0%)



図表 34-1 : 災害への備えを準備していない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

用意していたが消費期限を過ぎてしまったから／必要だと思っているが後回しになっているから／考えていなかったから／マンション、社宅に備蓄があるから／日常生活の中で多めに用意しているから／引っ越したばかりだから／引っ越しを予定しているから／置いても消費されてしまうから／準備中だから／準備しているが十分ではないから

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=375)	保管する場所がないから 22.0%	何を準備すればよいか分からないから 17.8%	特になし 13.5%	急いで準備する必要はないと思うから 12.4%	面倒だから 8.7%
30年 (n=575)	保管する場所がないから 18.4%	その他 16.7%	急いで準備する必要はないと思うから 13.4%	何を準備すればよいか分からないから 12.9%	特になし 12.5%
令和3年 (n=675)	急いで準備する必要はないと思うから 18.4%	保管する場所がないから 17.6%	特になし 15.0%	何を準備すればよいか分からないから 13.3%	面倒だから 9.3%

図表 34-2 : 災害への備えを準備していない理由 経年比較

問35 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。(該当するものすべて選択)

◇対策は「ラジオ、懐中電灯などを準備している」が最も多い

家具の固定や水・食料の準備等以外の対策は、「ラジオ、懐中電灯などを準備している」が76.8%と最も多く、次いで「気象情報についてこまめに確認している」が54.4%となった。

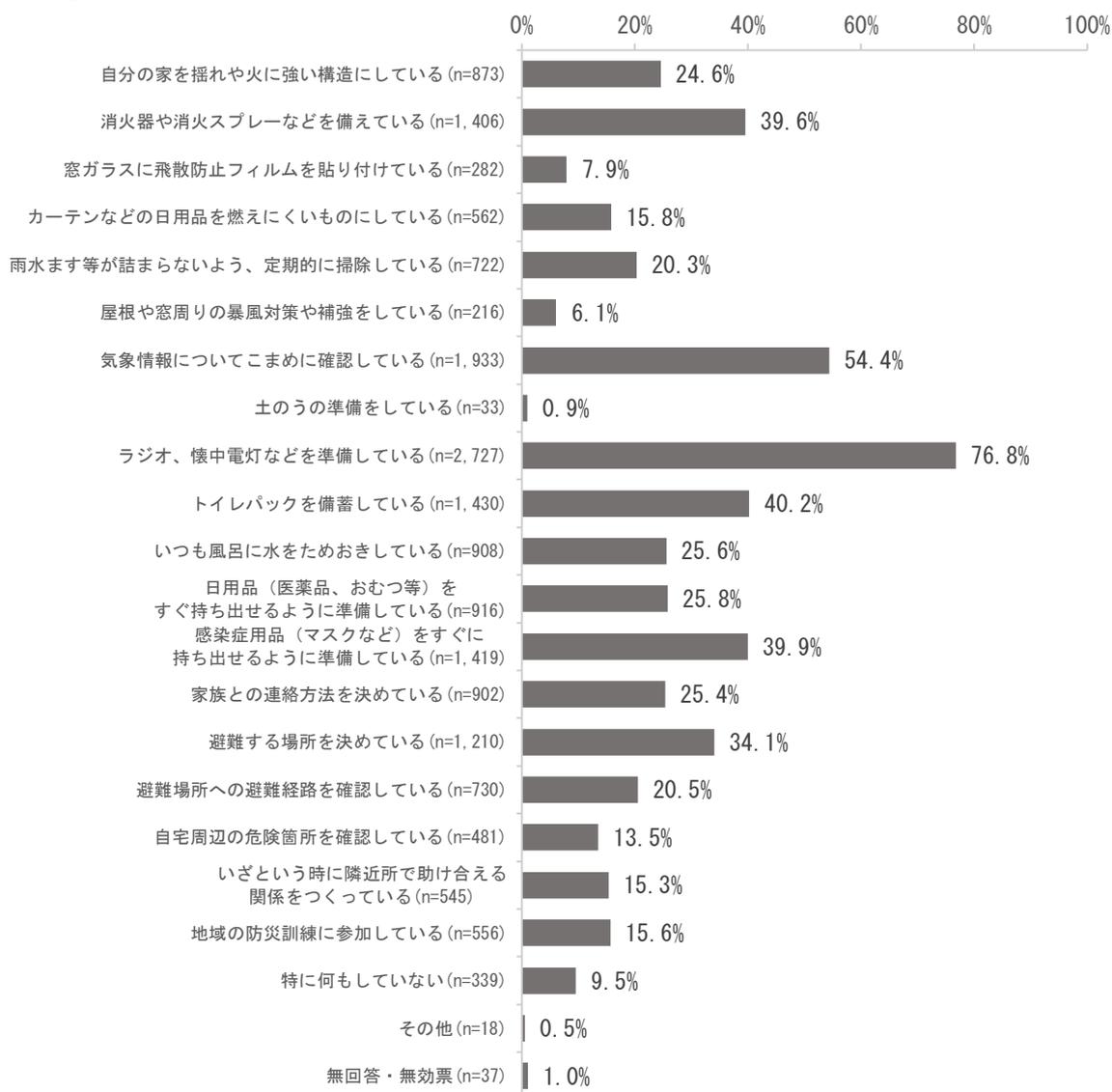
経年比較では、地震への対策、風水害への対策、いずれにおいても新設の「感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している」が5位以内に入っている。

地震への対策では、「トイレパックを備蓄している」の割合が、前回調査の29.8%（4位）から10.4ポイント増加し、40.2%（2位）となった。

風水害への対策では、「気象情報についてこまめに確認している」の割合が、前回調査の35.9%（3位）から18.5ポイント増加し、54.4%（2位）となった。

年代別集計では、全世代で「ラジオ、懐中電灯などを準備している」の割合が最も高く、「70歳代以上」では、全体の76.8%より、7.5ポイント高い、84.3%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 35-1 : 災害対策

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

情報を収集している／勤務先での防災訓練に参加している／部屋内のドアを締め切らないようにしている／自治会に入っている／町内会情報を利用している／自治会がしっかりしている／施設の命に従っている

【経年比較_地震に関する項目】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 79.4%	避難する場所を決めている 46.6%	消火器や消火スプレーなどを備えている 43.3%	避難する場所を決めている 31.5%	いつも風呂に水をためおきしている 28.9%
30年 (n=2,682)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.0%	避難する場所を決めている 43.9%	消火器や消火スプレーなどを備えている 40.8%	トイレパックを備蓄している 29.8%	避難場所への避難経路を確認している 29.5%
令和3年 (n=3,553)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.8%	トイレパックを備蓄している 40.2%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 39.9%	消火器や消火スプレーなどを備えている 39.6%	避難する場所を決めている 34.1%

図表 35-2：災害対策 地震に関する項目 経年比較

【経年比較_風水害に関する項目】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 74.6%	食料や飲料水を準備している 53.7%	気象情報についてこまめに確認している 38.7%	避難する場所を決めている 26.9%	いつも風呂に水をためおきしている 26.8%
30年 (n=2,682)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 71.1%	食料や飲料水を準備している 55.5%	気象情報についてこまめに確認している 35.9%	トイレパックを備蓄している 26.5%	避難する場所を決めている 25.9%
令和3年 (n=3,553)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.8%	気象情報についてこまめに確認している 54.4%	トイレパックを備蓄している 40.2%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 39.9%	避難する場所を決めている 34.1%

図表 35-3：災害対策 風水害に関する項目 経年比較

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.8%	気象情報についてこまめに確認している 54.4%	トイレパックを備蓄している 40.2%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 39.9%	消火器や消火スプレーなどを備えている 39.6%
10歳代 (n=109)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.1%	気象情報についてこまめに確認している 56.0%	避難する場所を決めている 46.8%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 37.6%	家族との連絡方法を決めている 35.8%
20歳代 (n=245)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 63.3%	気象情報についてこまめに確認している 54.7%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 37.1%	避難する場所を決めている 30.2%	トイレパックを備蓄している 29.4%
30歳代 (n=358)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 64.5%	気象情報についてこまめに確認している 55.9%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 43.3%	トイレパックを備蓄している 39.7%	避難する場所を決めている 38.5%
40歳代 (n=607)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 75.6%	気象情報についてこまめに確認している 53.0%	トイレパックを備蓄している 46.3%	避難する場所を決めている 41.0%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 35.6%
50歳代 (n=681)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.1%	気象情報についてこまめに確認している 55.8%	トイレパックを備蓄している 38.6%	消火器や消火スプレーなどを備えている 38.0%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 35.1%
60歳代 (n=551)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 79.3%	気象情報についてこまめに確認している 56.8%	消火器や消火スプレーなどを備えている 41.0%	トイレパックを備蓄している 38.1%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 37.0%
70歳代以上 (n=996)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 84.3%	気象情報についてこまめに確認している 52.2%	消火器や消火スプレーなどを備えている 51.0%	感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している 47.2%	トイレパックを備蓄している 42.5%

図表 35-4 : 災害対策 年代別集計

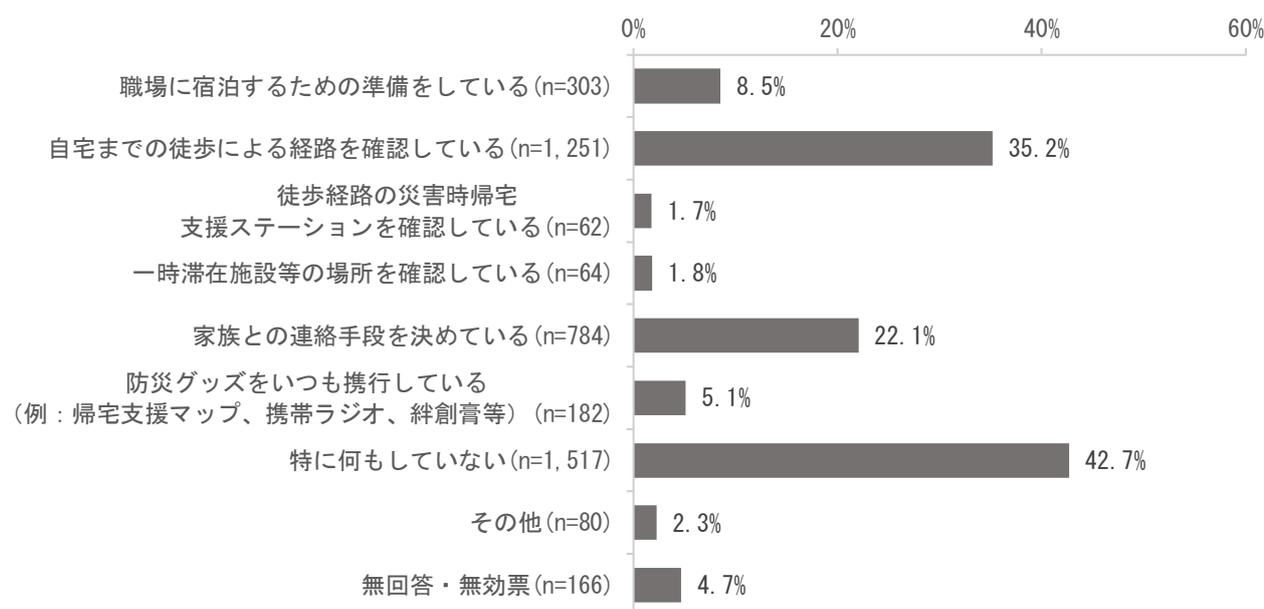
問36 勤務先や外出先で、災害の発生により交通機関が停止し、道路も通行不能となった場合に備えた対策を行っていますか。(該当するものすべて選択)

◇対策は「特に何もしていない」が最も多い

交通機関が停止した際の対策は、「特に何もしていない」が42.7%と最も多く、次いで「自宅までの徒歩による経路を確認している」が35.2%、「家族との連絡手段を決めている」が22.1%となった。

経年比較では、例年、「特に何もしていない」と「自宅までの徒歩による経路を確認している」の割合が高い傾向にある。

【全体集計】 n=3,553



図表 36-1：交通対策

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

外出しない／自宅勤務／無職／水、少量の食料を携帯している／スマホの予備バッテリーを携帯している／歩きやすい靴を用意している／かばんをリュックにしている／薬を携帯している

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成20年 (n=2,341)	特に何もしていない 45.0%	自宅までの徒歩による経路を確認している 37.9%	一時滞在施設等の場所を確認している 15.5%	徒歩経路の災害時帰宅支援ステーションを確認している 7.7%	防災グッズをいつも携行している 3.2%
27年 (n=3,217)	自宅までの徒歩による経路を確認している 40.0%	特に何もしていない 37.9%	家族との連絡手段を決めている 23.5%	職場に宿泊するための準備をしている 8.4%	一時滞在施設等の場所を確認している 6.1%
30年 (n=2,682)	自宅までの徒歩による経路を確認している 41.1%	特に何もしていない 38.1%	家族との連絡手段を決めている 22.5%	職場に宿泊するための準備をしている 8.2%	防災グッズをいつも携行している 4.9%
令和3年 (n=3,553)	特に何もしていない 42.7%	自宅までの徒歩による経路を確認している 35.2%	家族との連絡手段を決めている 22.1%	職場に宿泊するための準備をしている 8.5%	防災グッズをいつも携行している 5.1%

図表 36-1：交通対策 経年比較

(2) 地域での取組

問37 あなたは、次の研修や訓練等に参加したことがありますか。(該当するものすべて選択)

◇研修や訓練等は「何も参加していない」が最も多い

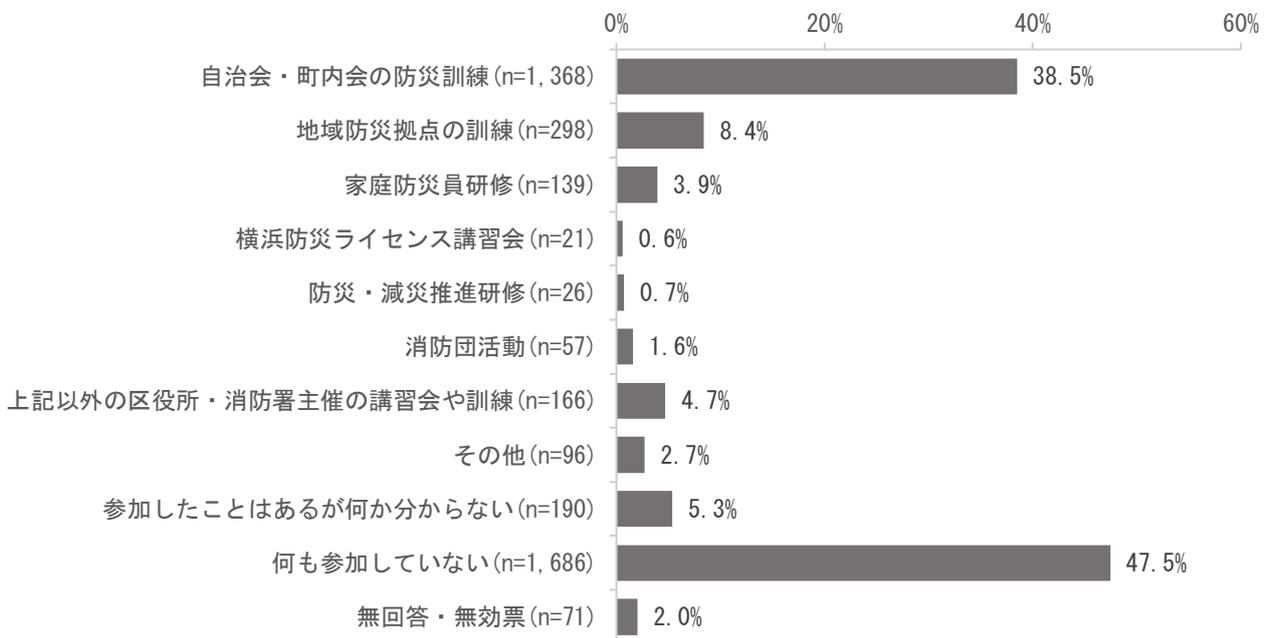
研修や訓練等への参加は、「何も参加していない」が47.5%と最も多く、次いで「自治会・町内会の防災訓練」が38.5%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

年代別集計では、「10～50歳代」で、「何も参加していない」の割合が最も高く、「60歳代」、「70歳代以上」では、「自治会・町内会の防災訓練」の割合が最も高い結果となった。

自治会・町内会加入別集計では、「加入している」で「自治会・町内会の防災訓練」の割合が高いが、「加入していない」でも「自治会・町内会の防災訓練」に参加している人が10.4%いる結果となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 37-1：研修や訓練等への参加

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

職場や学校の訓練・講習会／マンションの防災訓練／AED研修／防災センターでの体験／消火訓練

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	何も参加していない 52.1%	自治会・町内会の防災訓練 38.5%	地域防災拠点の訓練 6.2%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 5.3%	家庭防災員研修 4.2%
30年 (n=2,682)	何も参加していない 49.5%	自治会・町内会の防災訓練 41.1%	地域防災拠点の訓練 7.9%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 5.3%	家庭防災員研修 4.4%
令和3年 (n=3,553)	何も参加していない 47.5%	自治会・町内会の防災訓練 38.5%	地域防災拠点の訓練 8.4%	参加したことはあるが何か分からない 5.3%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 4.7%

図表 37-2：研修や訓練等への参加 経年比較

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	何も参加していない 47.5%	自治会・町内会の防災 訓練 38.5%	地域防災拠点の訓練 8.4%	参加したことはある が何か分からない 5.3%	上記以外の区役所・消 防署主催の講習会や 訓練 4.7%
10歳代 (n=109)	何も参加していない 45.9%	自治会・町内会の防災 訓練 28.4%	参加したことはある が何か分からない 12.8%	地域防災拠点の訓練 6.4%	消防団活動 その他 4.6%
20歳代 (n=245)	何も参加していない 69.4%	自治会・町内会の防災 訓練 11.4%	参加したことはある が何か分からない 9.8%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 その他 4.1% (同率)	
30歳代 (n=358)	何も参加していない 69.0%	自治会・町内会の防災 訓練 16.2%	参加したことはある が何か分からない 5.0%	上記以外の区役所・消 防署主催の講習会や 訓練 4.2%	その他 3.9%
40歳代 (n=607)	何も参加していない 53.0%	自治会・町内会の防災 訓練 32.3%	地域防災拠点の訓練 7.1%	上記以外の区役所・消 防署主催の講習会や 訓練 5.3%	参加したことはある が何か分からない 5.1%
50歳代 (n=681)	何も参加していない 47.4%	自治会・町内会の防災 訓練 37.6%	地域防災拠点の訓練 7.2%	上記以外の区役所・消 防署主催の講習会や 訓練 6.0%	参加したことはある が何か分からない 5.4%
60歳代 (n=551)	自治会・町内会の防災 訓練 44.5%	何も参加していない 42.8%	地域防災拠点の訓練 10.2%	家庭防災員研修 5.4%	上記以外の区役所・消 防署主催の講習会や 訓練 5.1%
70歳代以上 (n=996)	自治会・町内会の防災 訓練 55.5%	何も参加していない 33.5%	地域防災拠点の訓練 12.4%	家庭防災員研修 7.7%	参加したことはある が何か分からない 4.0%

図表 37-3 : 研修や訓練等への参加 年代別集計

【自治会・町内会加入別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	何も参加していない 47.5%	自治会・町内会の防 災訓練 38.5%	地域防災拠点の訓練 8.4%	参加したことはある が何か分からない 5.3%	上記以外の区役所・ 消防署主催の講習会 や訓練 4.7%
加入している (n=2,733)	自治会・町内会の防 災訓練 46.5%	何も参加していない 41.1%	地域防災拠点の訓練 9.9%	家庭防災員研修 上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 参加したことはあるが何か分からない 4.9% (同率)	
加入していない (n=599)	何も参加していない 70.8%	自治会・町内会の防 災訓練 10.4%	参加したことはある が何か分からない 6.3%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 その他 4.2% (同率)	
分からない (n=176)	何も参加していない 72.7%	自治会・町内会の防 災訓練 8.5%	参加したことはある が何か分からない 8.0%	上記以外の区役所・ 消防署主催の講習会 や訓練 4.5%	その他 4.0%

図表 37-4 : 研修や訓練等への参加 自治会・町内会加入別集計

(問37で「何も参加していない」と答えた方はご回答ください)
 問38 参加していない理由は何ですか。(1つ選択)

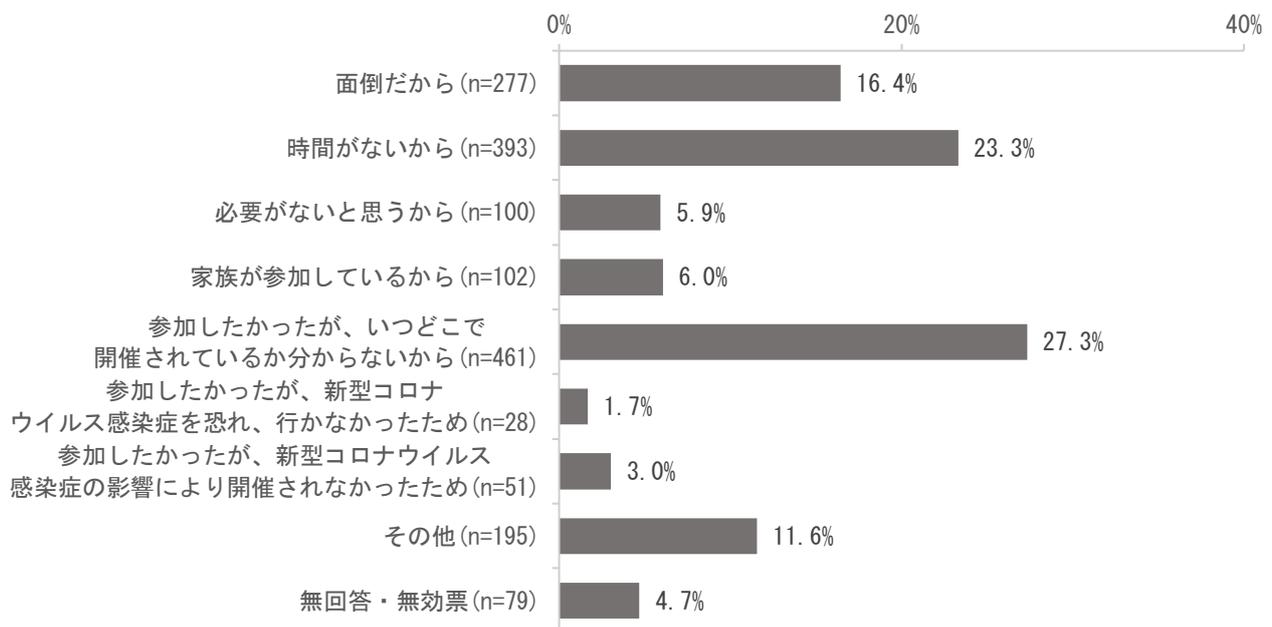
◇参加していない理由は「いつどこで開催されているか分からないから」が最も多い

研修や訓練に参加していない理由は、「参加したかったが、いつどこで開催されているか分からないから」が27.3%と最も多く、次いで「時間がないから」が23.3%となった。

経年比較では、「いつどこで開催されているか分からないから」の割合が減少し、「時間がないから」、「面倒だから」の割合が増加している。

年代別集計では、「10歳代」、「40歳代」、「50歳代」で、「時間がないから」の割合が最も高く、特に「10歳代」では全体の23.3%から8.7ポイント高い、32.0%となった。

【全体集計】 n=1,686 (47.5%)



図表 38-1：研修や訓練等に参加していない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

知らなかったから／高齢だから／引越したばかりだから／機会がないから／都合が合わないから／身体が不自由だから／マンションで話し合っているから／仕事、介護、子育てで行かれないから／関係が希薄だから／必要性は感じているが実行できていないから／自分に危機感が無かったから／考えたことがないから／内容に期待できないから／参加する企画がないから／開催されていないから

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=1,676)	参加したかったが、 いっどこで開催されて いるか分からないから 49.2%	時間がないから 19.5%	面倒だから 8.7%	その他 8.1%	家族が参加している から 5.9%
30年 (n=1,327)	参加したかったが、 いっどこで開催されて いるか分からないから 53.5%	時間がないから 20.7%	面倒だから 9.5%	その他 6.4%	家族が参加している から 6.1%
令和3年 (n=1,683)	参加したかったが、 いっどこで開催されて いるか分からないから 27.3%	時間がないから 23.3%	面倒だから 16.4%	その他 11.6%	家族が参加している から 6.0%

図表 38-2：研修や訓練等に参加していない理由 経年比較

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,686)	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 27.3%	時間がないから 23.3%	面倒だから 16.4%	その他 11.6%	家族が参加している から 6.0%
10歳代 (n=50)	時間がないから 32.0%	面倒だから 24.0%	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 18.0%	その他 12.0%	家族が参加している から 10.0%
20歳代 (n=170)	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 28.2%	時間がないから 25.9%	面倒だから 16.5%	その他 12.4%	必要がないと思うから 家族が参加している から 5.3%
30歳代 (n=247)	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 31.6%	時間がないから 26.7%	面倒だから 15.4%	その他 10.1%	家族が参加している から 4.5%
40歳代 (n=322)	時間がないから 28.3%	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 27.6%	面倒だから 17.1%	その他 9.0%	家族が参加している から 5.6%
50歳代 (n=323)	時間がないから 29.4%	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 27.6%	面倒だから 14.2%	その他 10.2%	必要がないと思うから 6.5%
60歳代 (n=236)	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 34.3%	時間がないから 21.2%	面倒だから 15.3%	その他 8.9%	家族が参加している から 8.1%
70歳代以上 (n=334)	参加したかったが、いっ どこで開催されているか 分からないから 19.8%	面倒だから 18.6%	その他 18.0%	時間がないから 9.0%	必要がないと思うから 家族が参加している から 8.1%

図表 38-3：研修や訓練等に参加していない理由 年代別集計

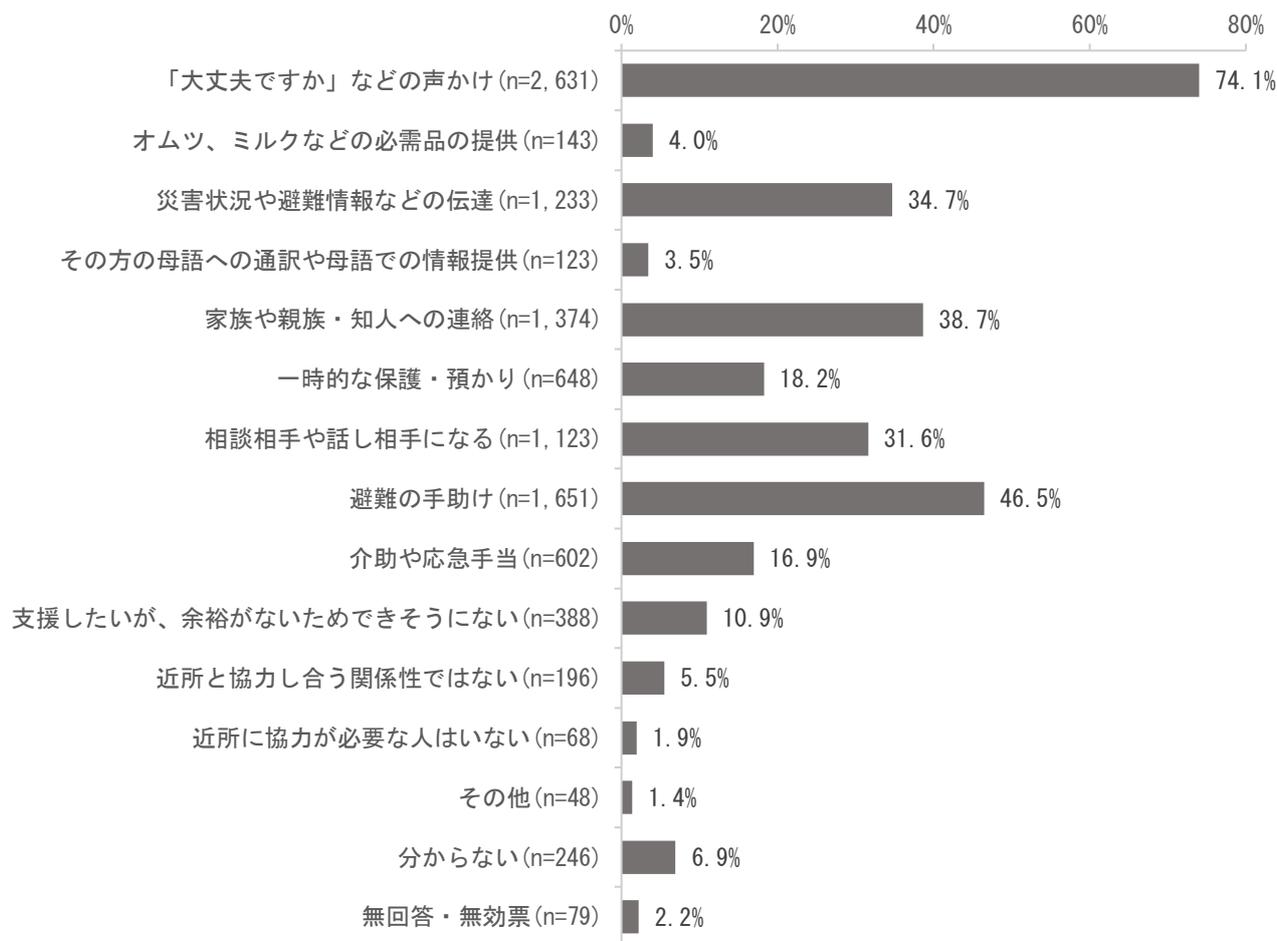
問39 災害が起こった時に、あなたは、ご近所の方にはどのような支援（手助け）ができますか。（該当するものすべて選択）

◇できる支援は「声かけ」が最も多い

避難時に手助けが必要になりそうな人に行える支援では、「大丈夫ですか」などの声かけが74.1%と最も多く、次いで「避難の手助け」が46.5%となった。

経年比較では、「家族や親族・知人への連絡」の割合が、前回調査の19.4%（5位）から19.3ポイント増加し、38.7%（3位）となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 39-1：ご近所の方への支援

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

高齢のため支援できない／その時の状況でできる限りの協力をする／近所と面識はないが積極的に協力したい／管理組合との連携／自治会で協力体制ができている／復旧の手伝い（掃除など）／電力供給／炊き出し／衣服の支援／求められれば対応するが積極的に声かけはしない／コロナ禍で手助けをためらってしまう

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=2,025)	「大丈夫ですか」などの声かけ 75.0%	避難の手助け 63.9%	災害状況や避難情報などの伝達 31.5%	相談相手や話し相手になる 25.8%	一時的な保護・預かり 21.2%
30年 (n=1,723)	「大丈夫ですか」などの声かけ 75.0%	避難の手助け 64.0%	災害状況や避難情報などの伝達 29.3%	相談相手や話し相手になる 24.5%	家族や親族・知人への連絡 19.4%
令和3年 (n=3,553)	「大丈夫ですか」などの声かけ 74.1%	避難の手助け 46.5%	家族や親族・知人への連絡 38.7%	災害状況や避難情報などの伝達 34.7%	相談相手や話し相手になる 31.6%

図表 39-2：ご近所の方への支援 経年比較

問40 あなたは、「自助・共助」という言葉を知っていますか。また、横浜市が「自助・共助」の大切さを市民の皆様の間に広めていくために制定した「よこはま地震防災市民憲章」を知っていますか。(それぞれ1つ選択)

◇「自助」「共助」の認知度が5割超

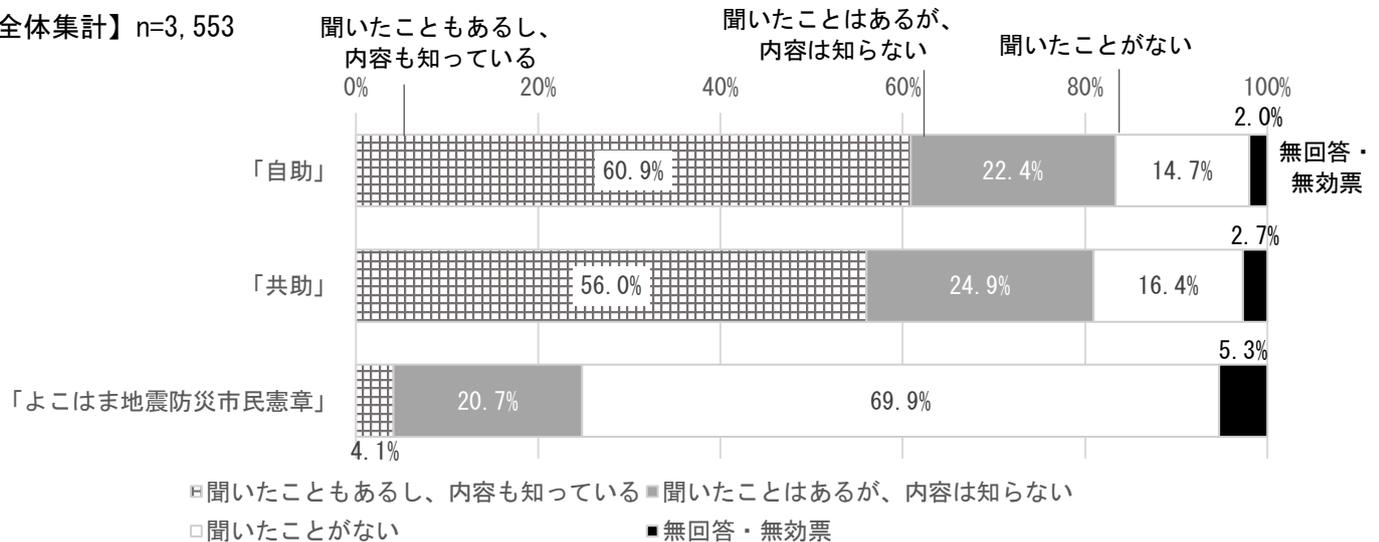
「自助」、「共助」、「よこはま地震防災市民憲章」の認知度は、「聞いたこともあるし、内容も知っている」が、「自助」で60.9%、「共助」で56.0%、「よこはま地震防災市民憲章」で4.1%となった。

経年比較では、「自助」、「共助」ともに、「聞いたこともあるし、内容も知っている」の割合が年々増加しており、「自助」で、前回調査の48.5%から12.4ポイント増加し、60.9%となり、「共助」で、前回調査の45.6%から10.4ポイント増加し、56.0%となった。

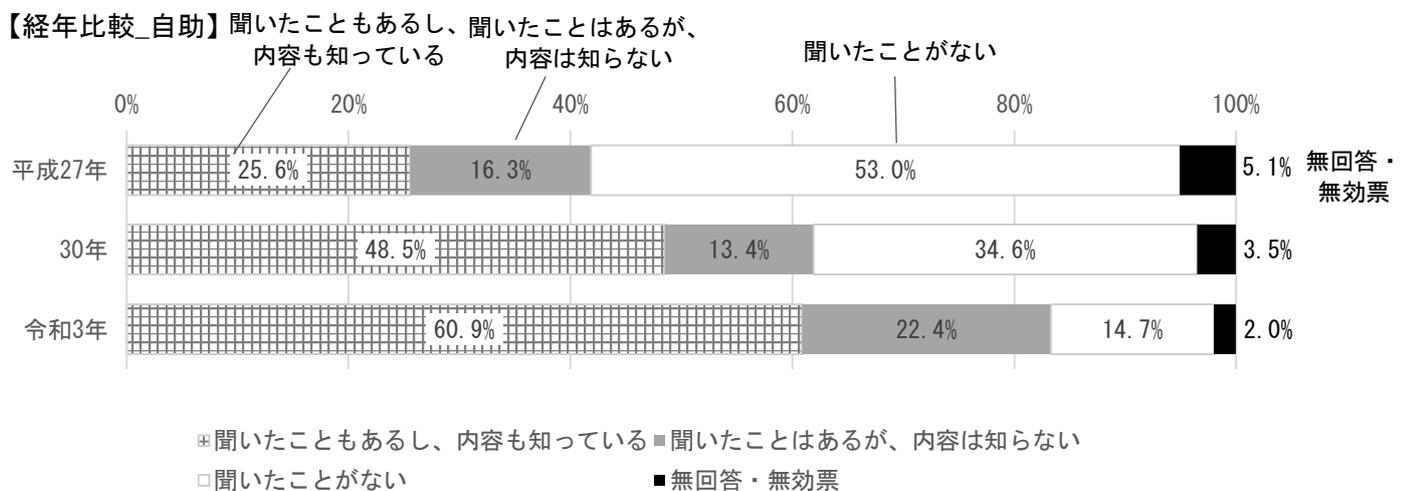
年代別集計では、「自助」、「共助」ともに、「10歳代」で「聞いたこともあるし、内容も知っている」の割合が最も高く、「自助」で、全体の60.9%より13.4ポイント高い、74.3%となり、「共助」で、全体の56.0%より11.9ポイント高い、67.9%となった。

訓練参加別集計では、「参加している」方が「参加していない」より認知度が高い結果となった。

【全体集計】 n=3,553

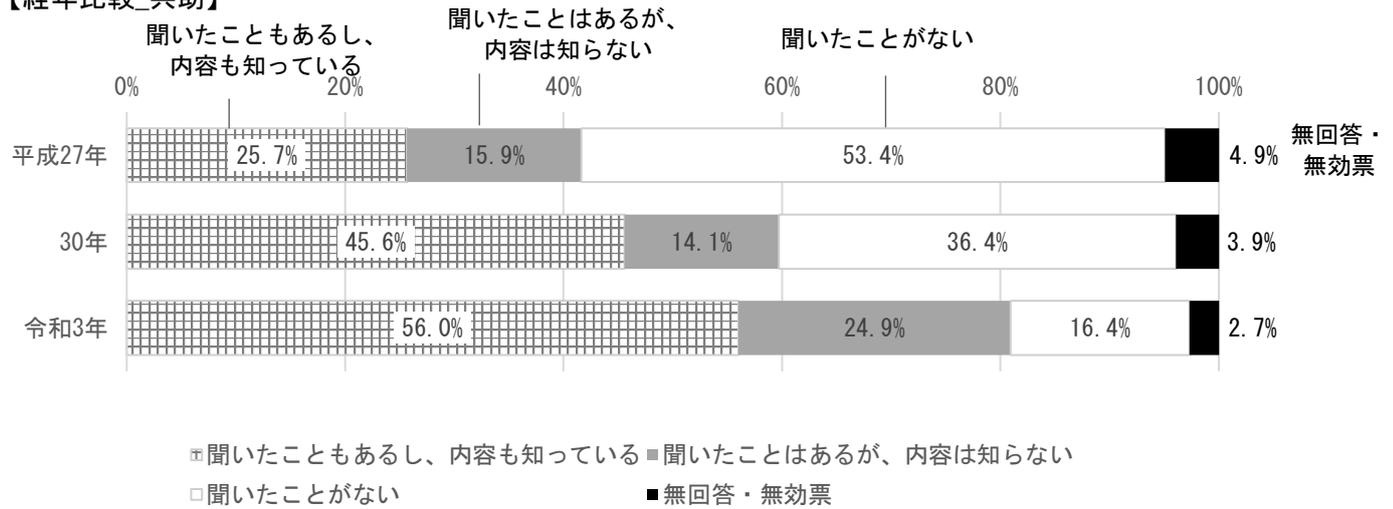


図表 40-1 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度



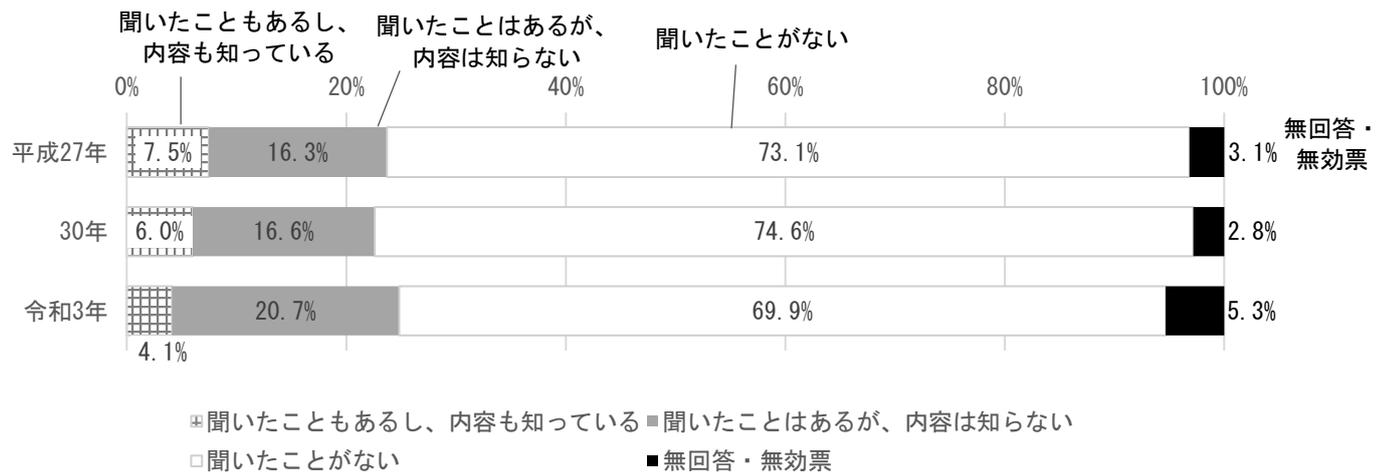
図表 40-2 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 自助 経年比較

【経年比較_共助】



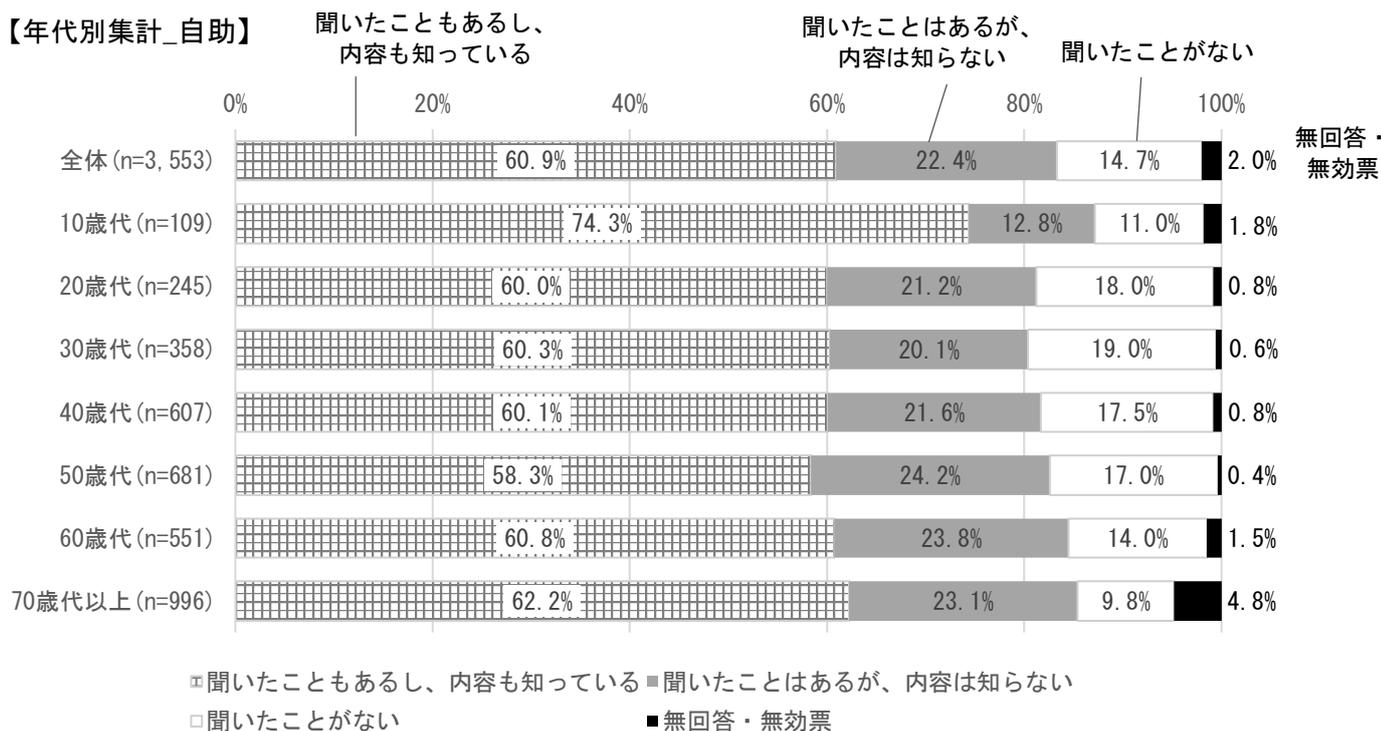
図表 40-3 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 共助 経年比較

【経年比較_よこはま地震防災市民憲章】



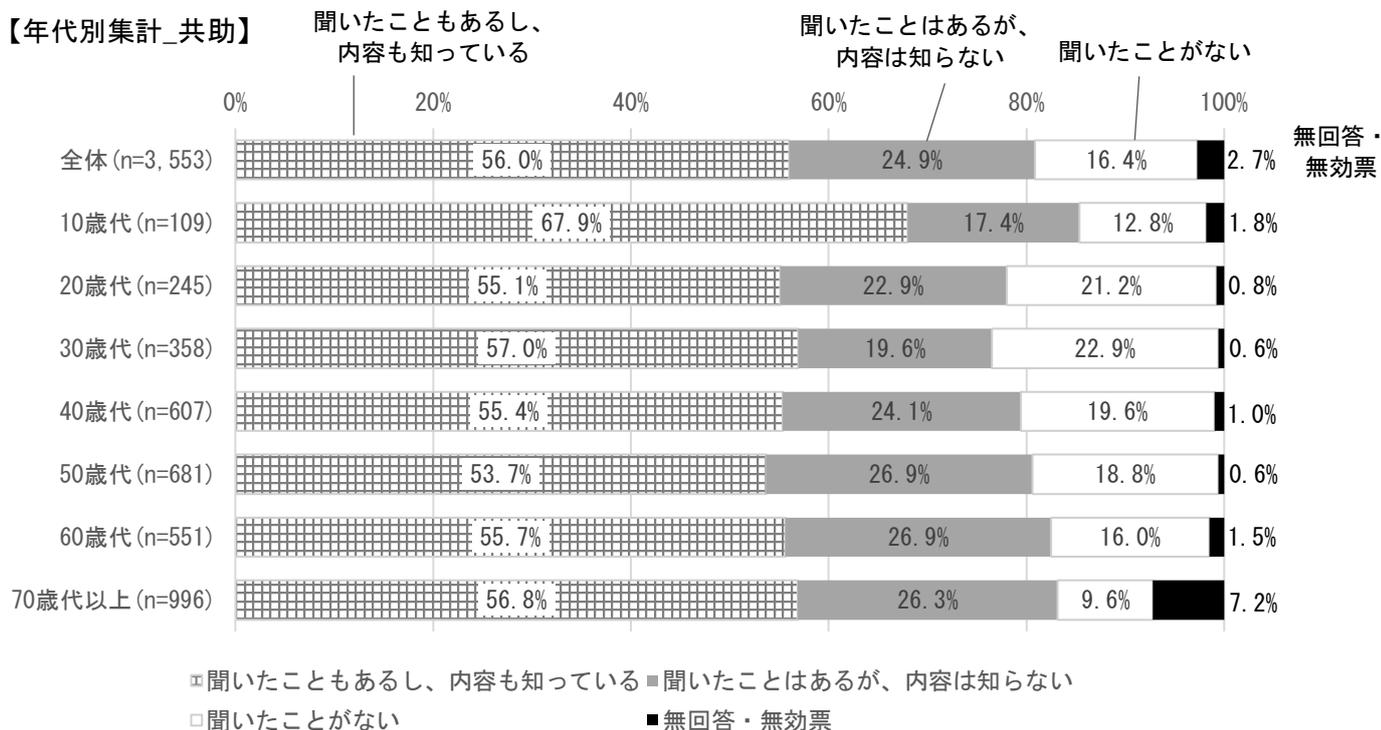
図表 40-4 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 よこはま地震防災市民憲章 経年比較

【年代別集計_自助】



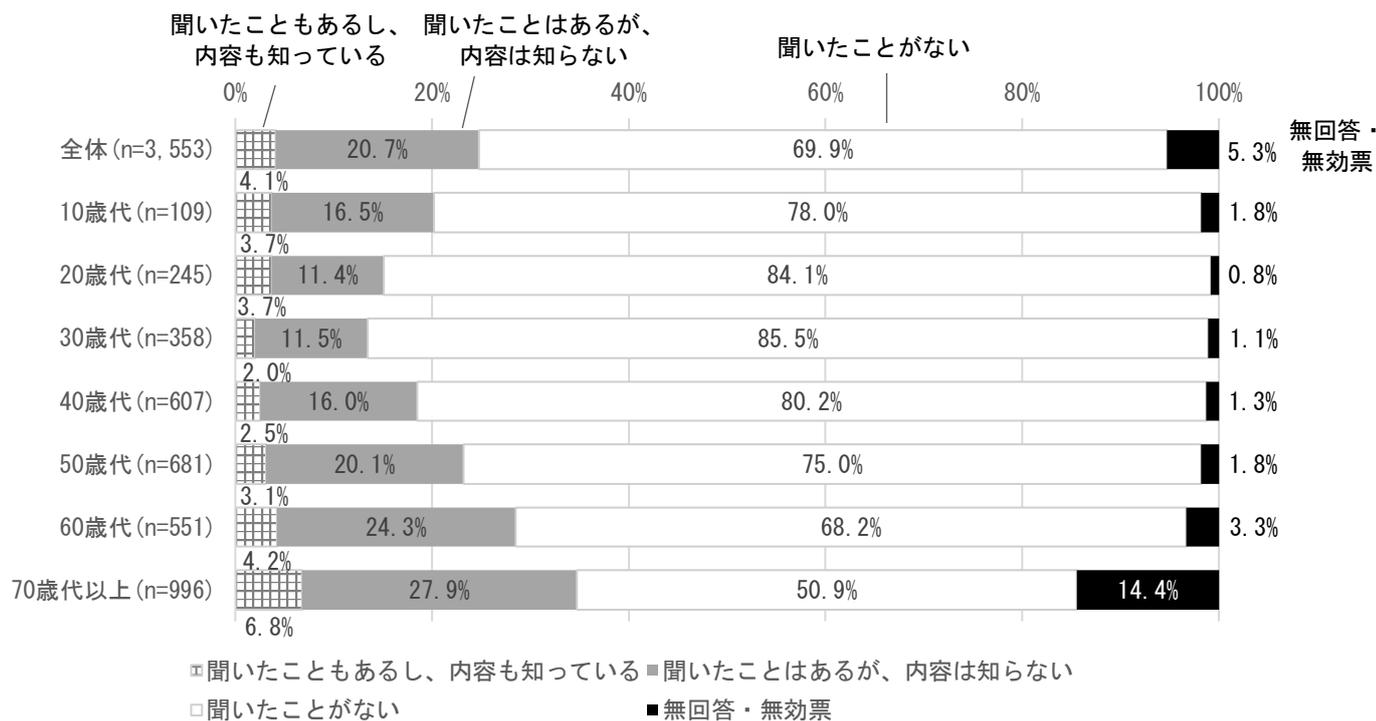
図表 40-5 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 自助 年代別集計

【年代別集計_共助】



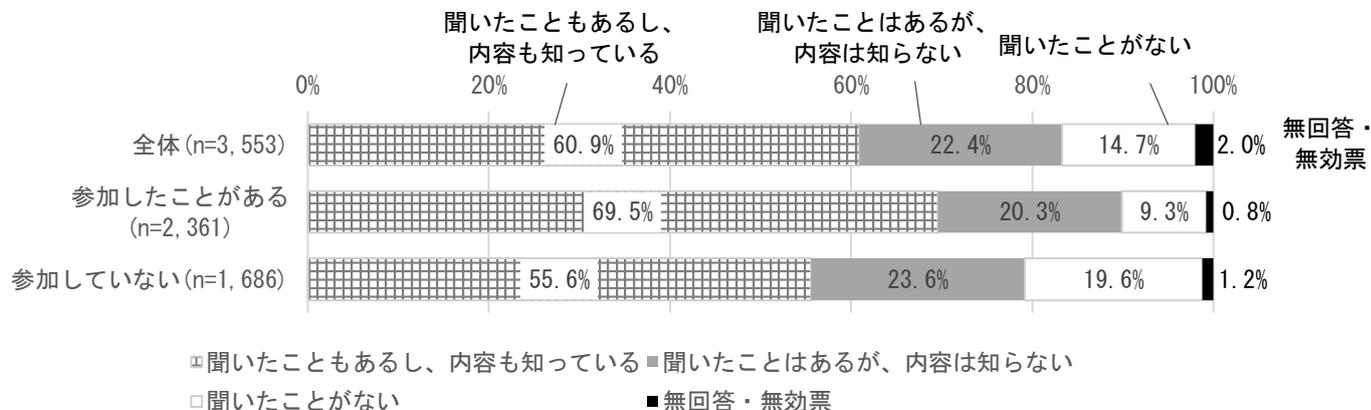
図表 40-6 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 共助 年代別集計

【年代別集計_よこはま地震防災市民憲章】



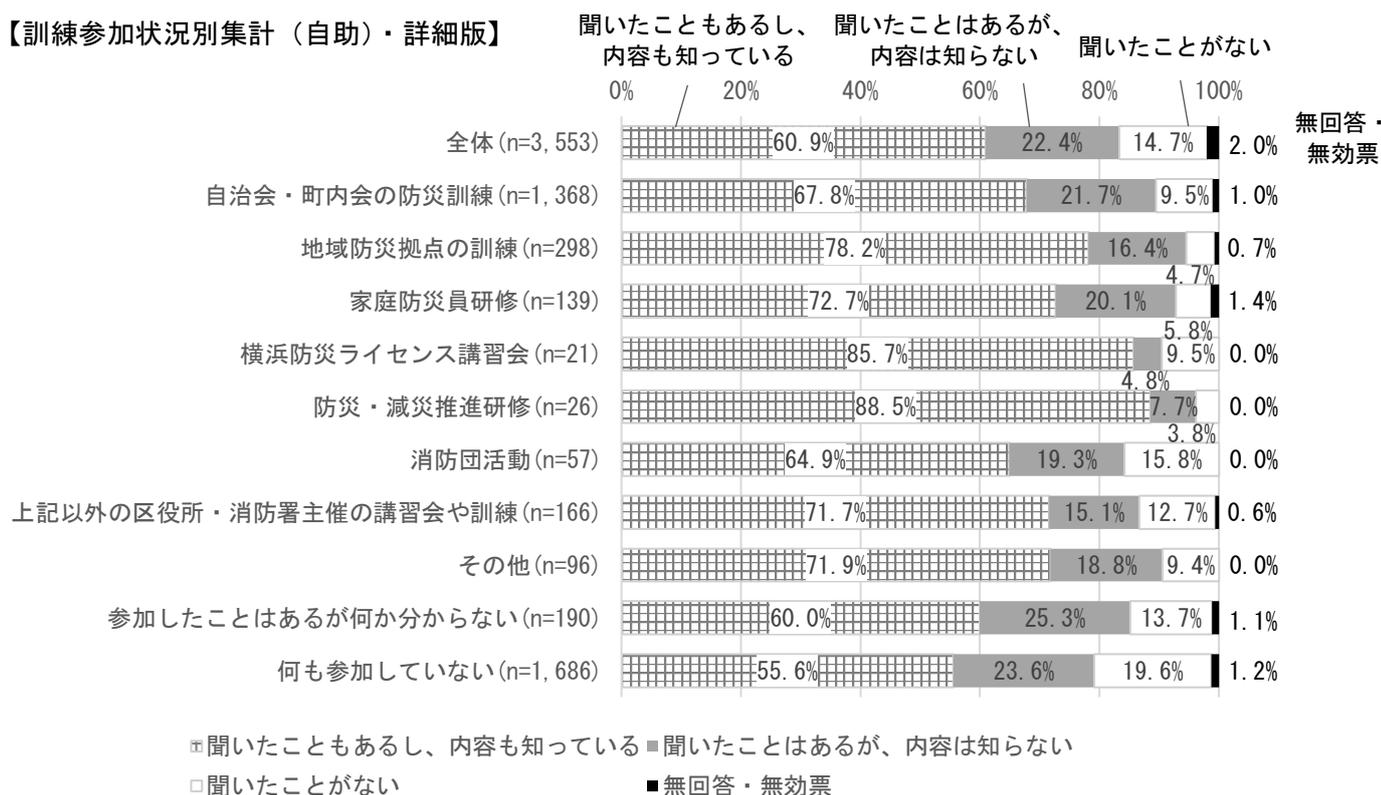
図表 40-7 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 よこはま地震防災市民憲章 年代別集計

【訓練参加状況別集計 (自助)・合計版】



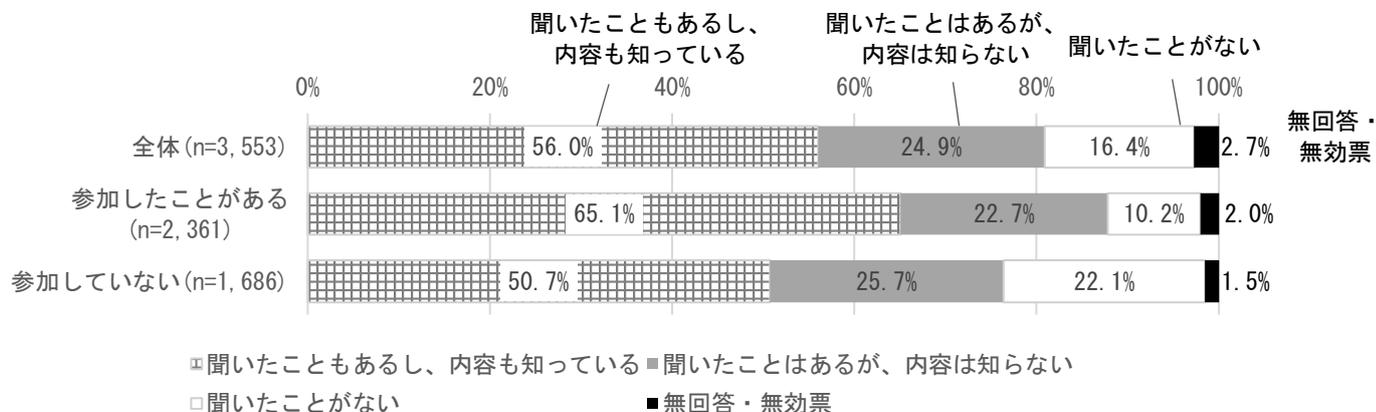
図表 40-8 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 自助 訓練参加状況別集計・合計版

【訓練参加状況別集計（自助）・詳細版】



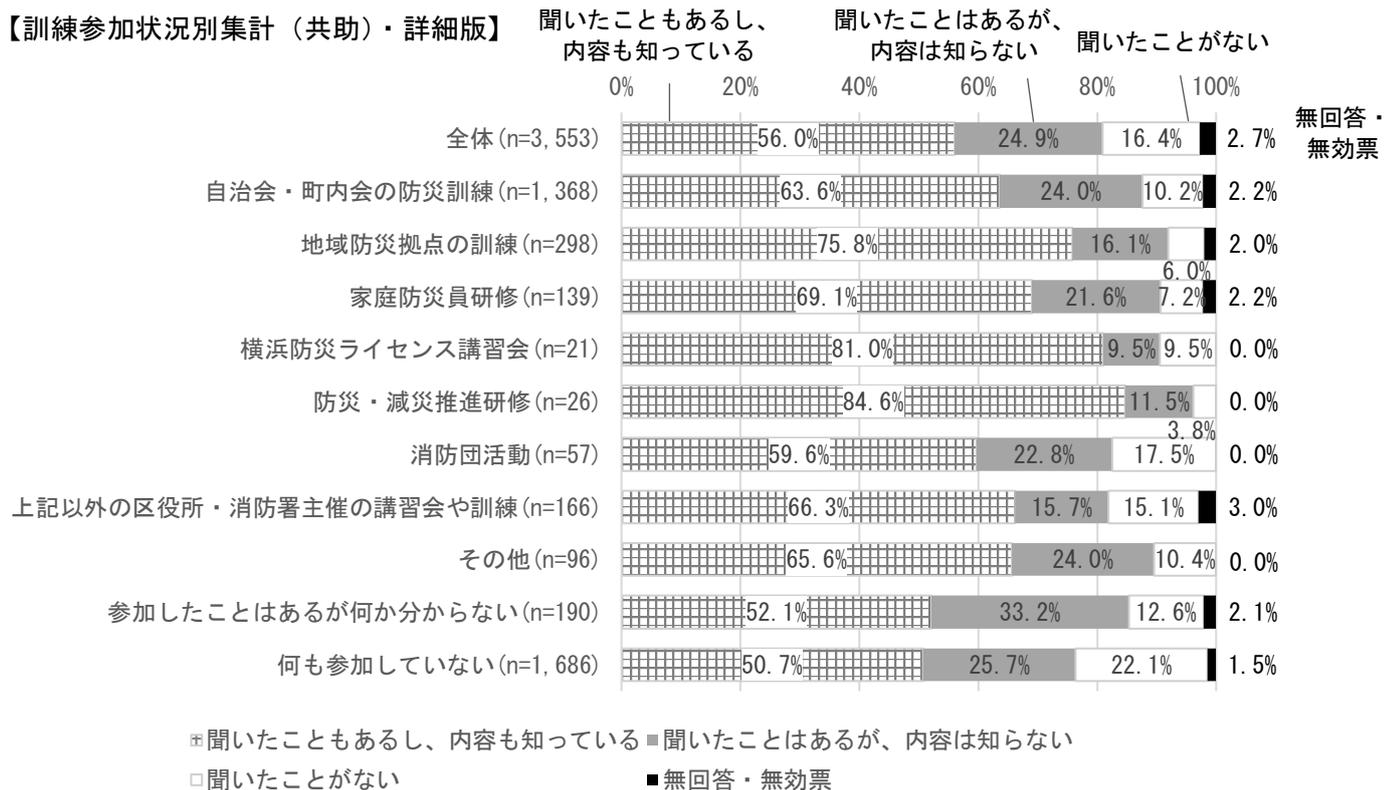
図表 40-9 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 自助 訓練参加状況別集計・詳細版

【訓練参加状況別集計（共助）・合計版】



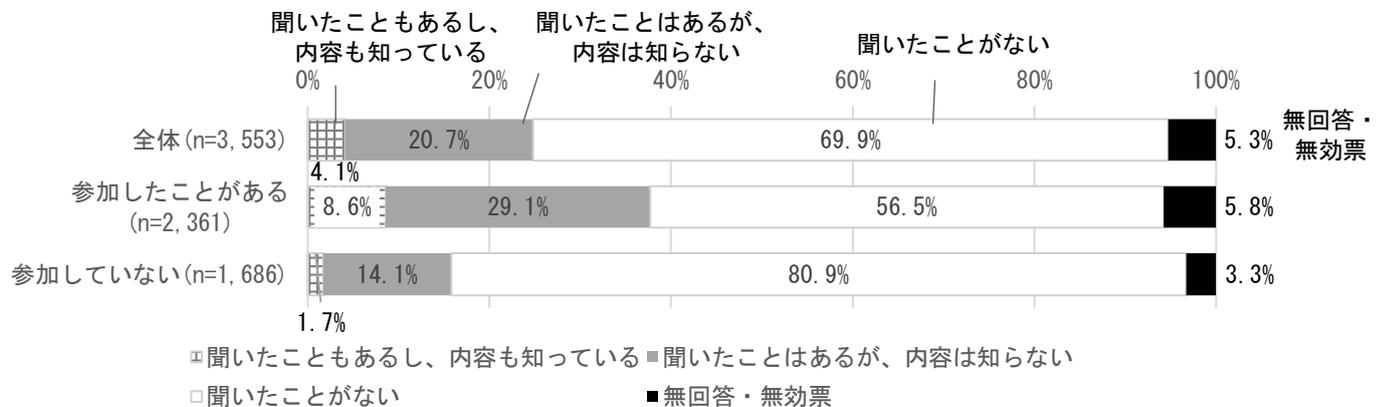
図表 40-10 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 共助 訓練参加状況別集計・合計版

【訓練参加状況別集計（共助）・詳細版】



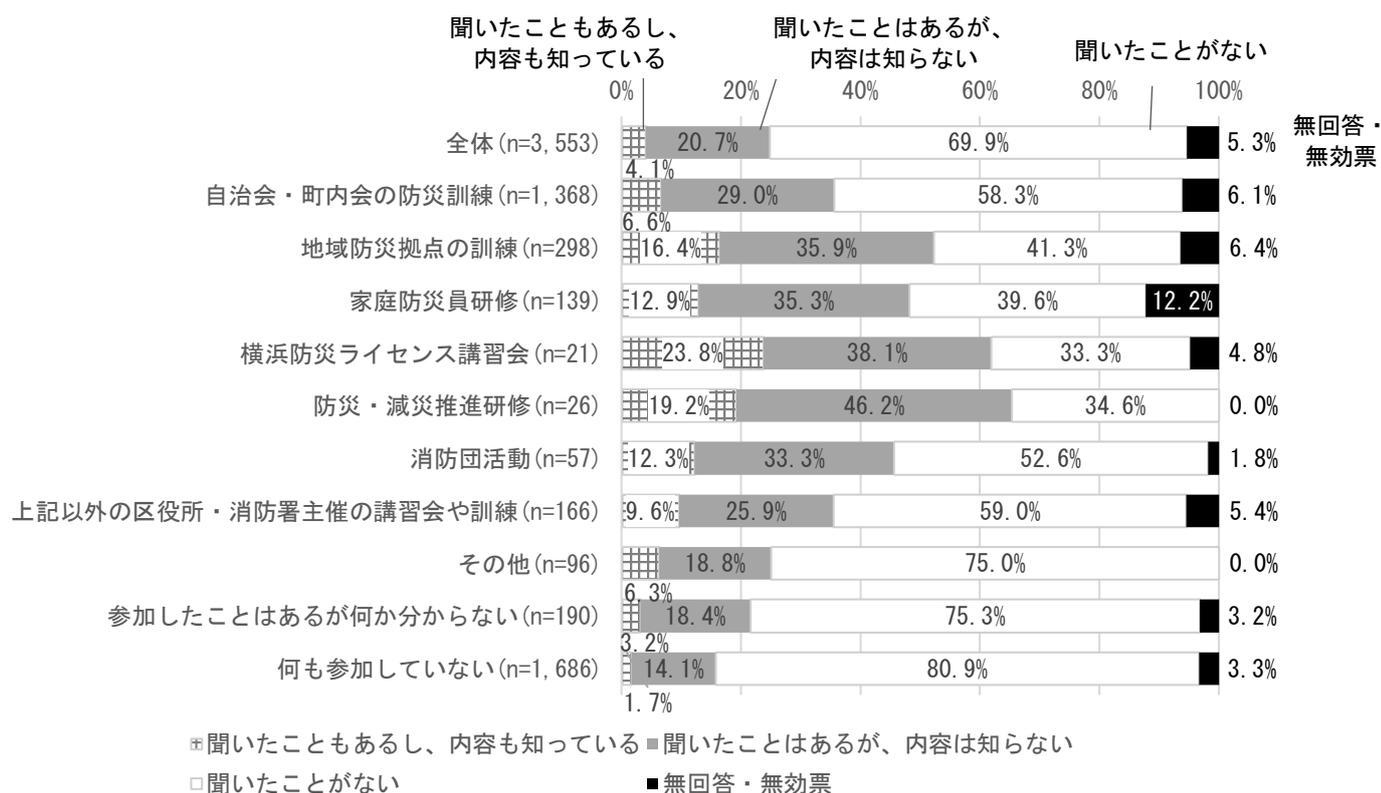
図表 40-11 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 共助 訓練参加状況別集計・詳細版

【訓練参加状況別集計（よこはま地震防災市民憲章）・合計版】



図表 40-11 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 よこはま地震防災市民憲章 訓練参加状況別集計・合計版

【訓練参加状況別集計（よこはま地震防災市民憲章）・詳細版】



図表 40-12 : 「自助」「共助」「よこはま地震防災市民憲章」の認知度 よこはま地震防災市民憲章 訓練参加状況別集計・詳細版

(3) 避難場所等

問41 あなたは、風水害時などで、緊急的に避難する「避難場所」と、地震等で避難生活を送る「避難所（地域防災拠点）」の違いを知っていますか。（1つ選択）

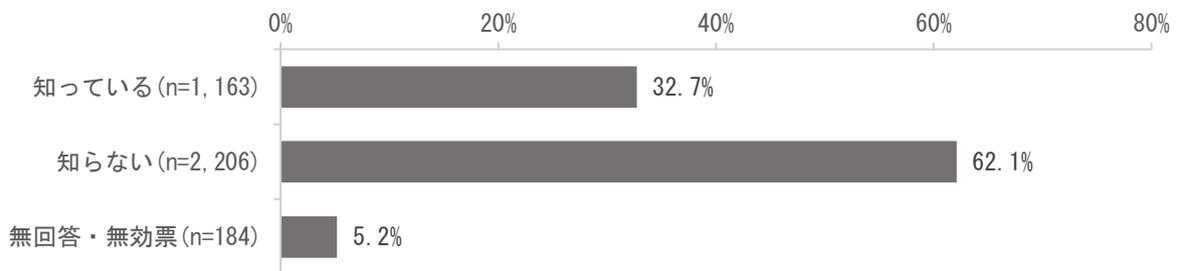
◇「避難場所」と「避難所（地域防災拠点）」の違いを「知っている」が、約3割

「避難場所」と「避難所（地域防災拠点）」の違いについて、「知っている」が32.7%、「知らない」が62.1%となった。

年代別集計では、概ね年代が上がるにつれて、「知っている」の割合が高くなっており、「10歳代」では22.9%、「70歳代以上」では39.7%となっている。

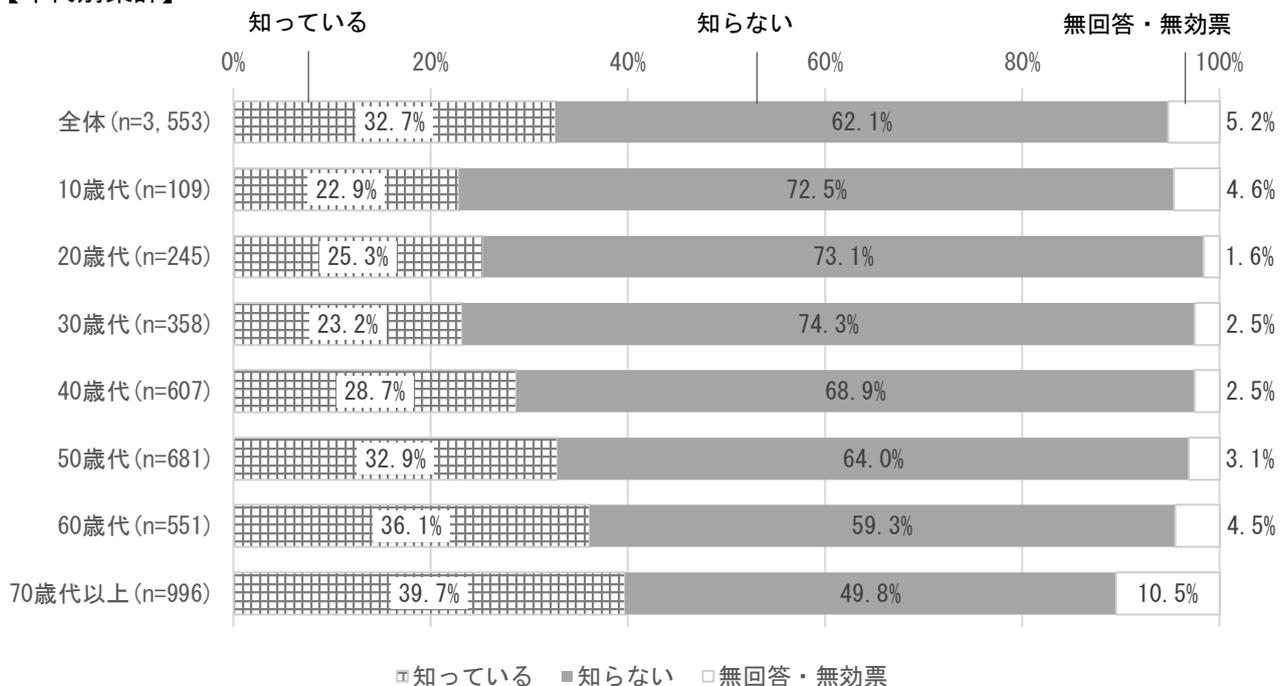
訓練参加別集計では、「知っている」の割合が「参加したことがある」で45.7%、「参加していない」で24.5%と差が20ポイントを超えている。他方、地域防災拠点の訓練に参加している人でも、32.9%は、「避難場所」と「避難所（地域防災拠点）」の違いを知らない結果となった。

【全体集計】 n=3,553



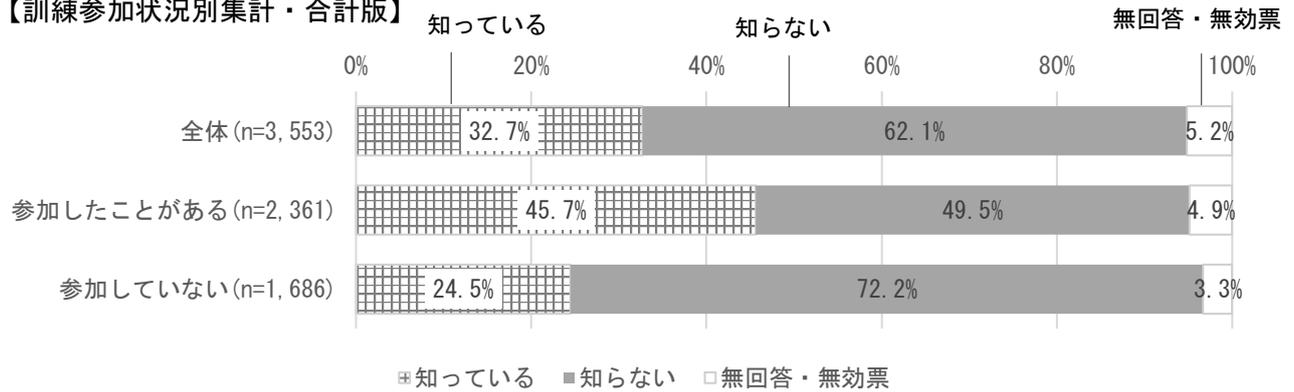
図表 41-1：避難場所と避難所の違い

【年代別集計】



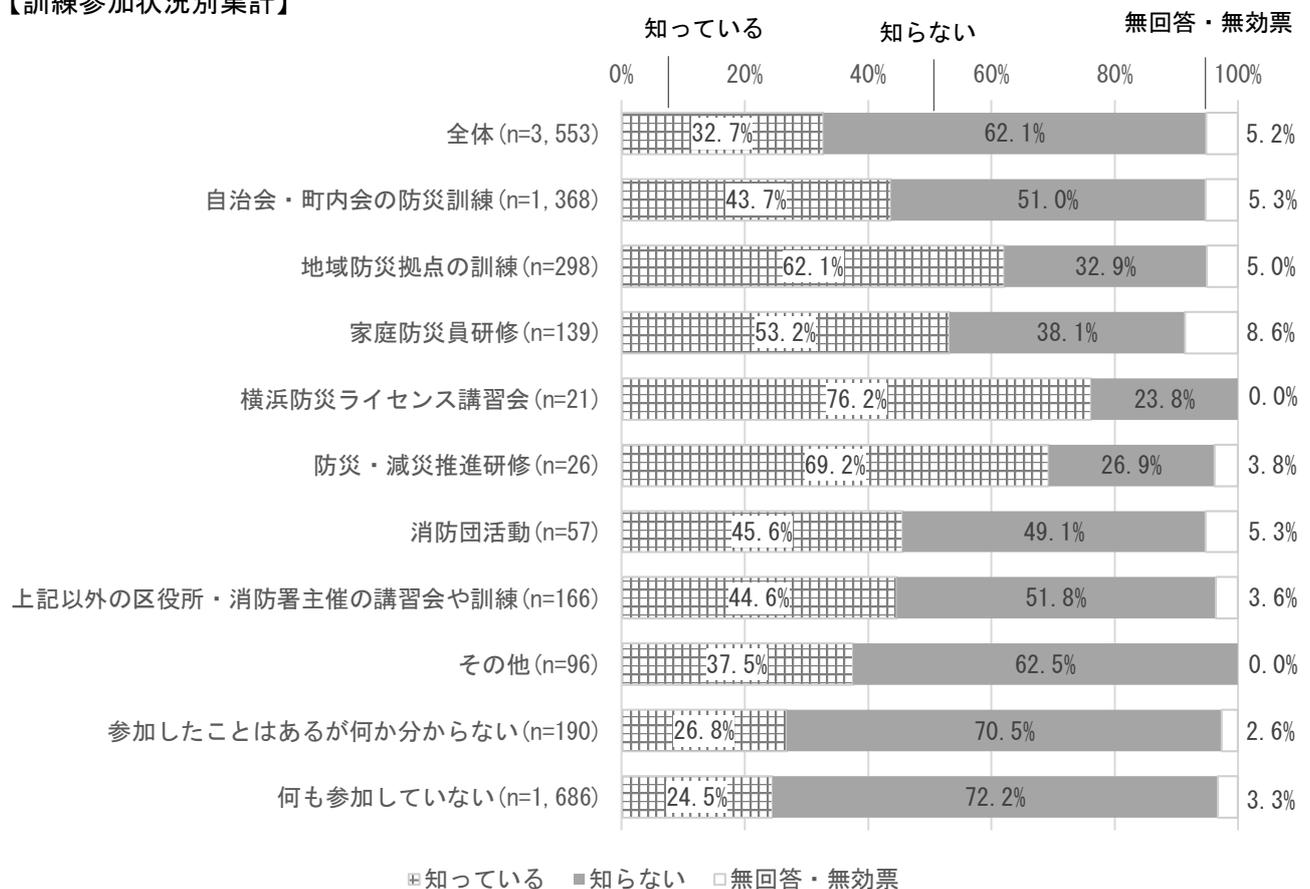
図表 41-2：避難場所と避難所の違い 年代別集計

【訓練参加状況別集計・合計版】



図表 41-3：避難場所と避難所の違い 訓練参加状況別集計・合計版

【訓練参加状況別集計】



図表 41-4：避難場所と避難所の違い 訓練参加状況別集計・詳細版

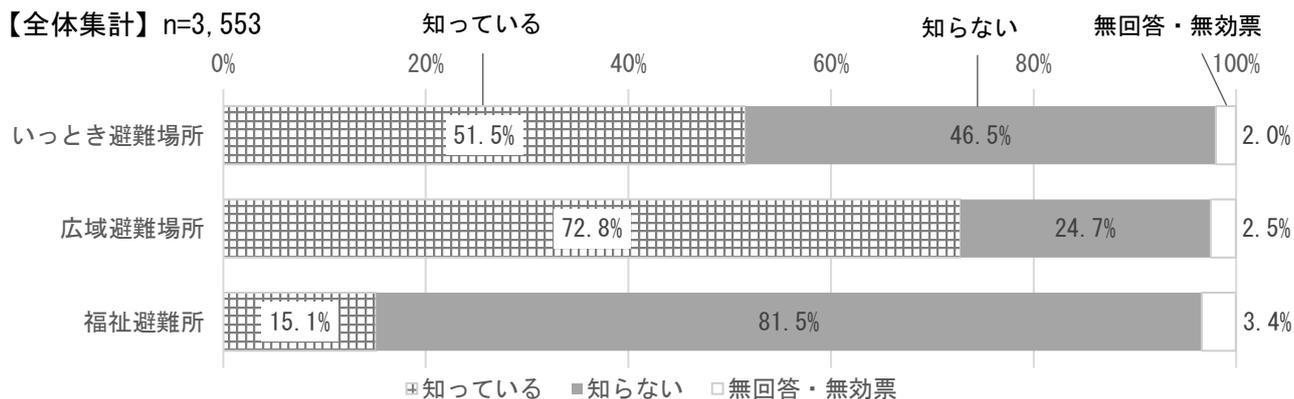
問42 あなたは、次の避難場所等について意味を知っていますか。(それぞれ1つ選択)

◇「広域避難場所」の認知度は約7割

避難場所の認知度は、「広域避難場所」で「知っている」が72.8%と、他の避難場所と比べて多い結果となった。

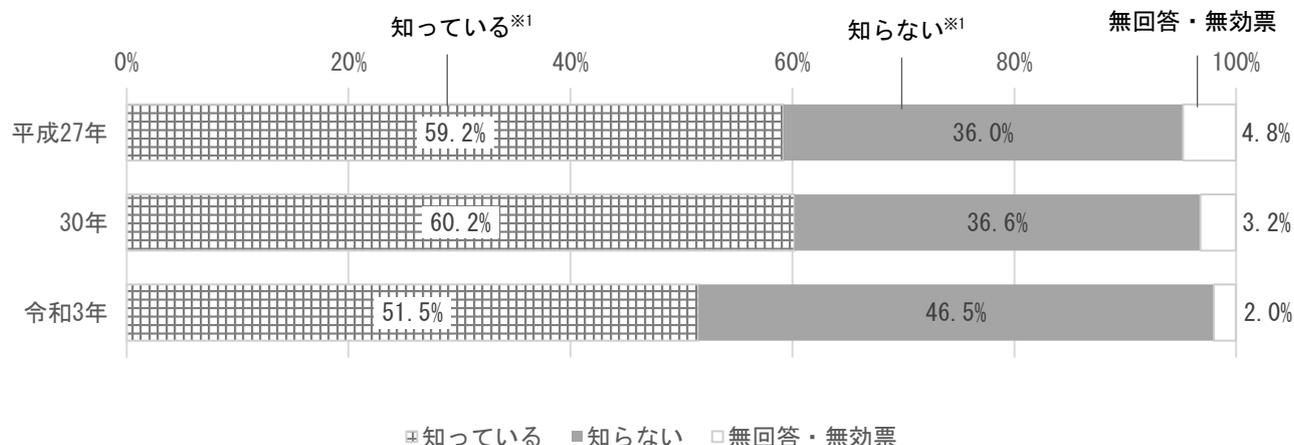
経年比較では、「いつとき避難場所」、「広域避難場所」、「福祉避難所」のいずれも、「知らない」の割合が増加しており、特に「福祉避難所」では、前回調査の58.7%から22.8ポイント増加し、81.5%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 42-1：避難場所等の認知度

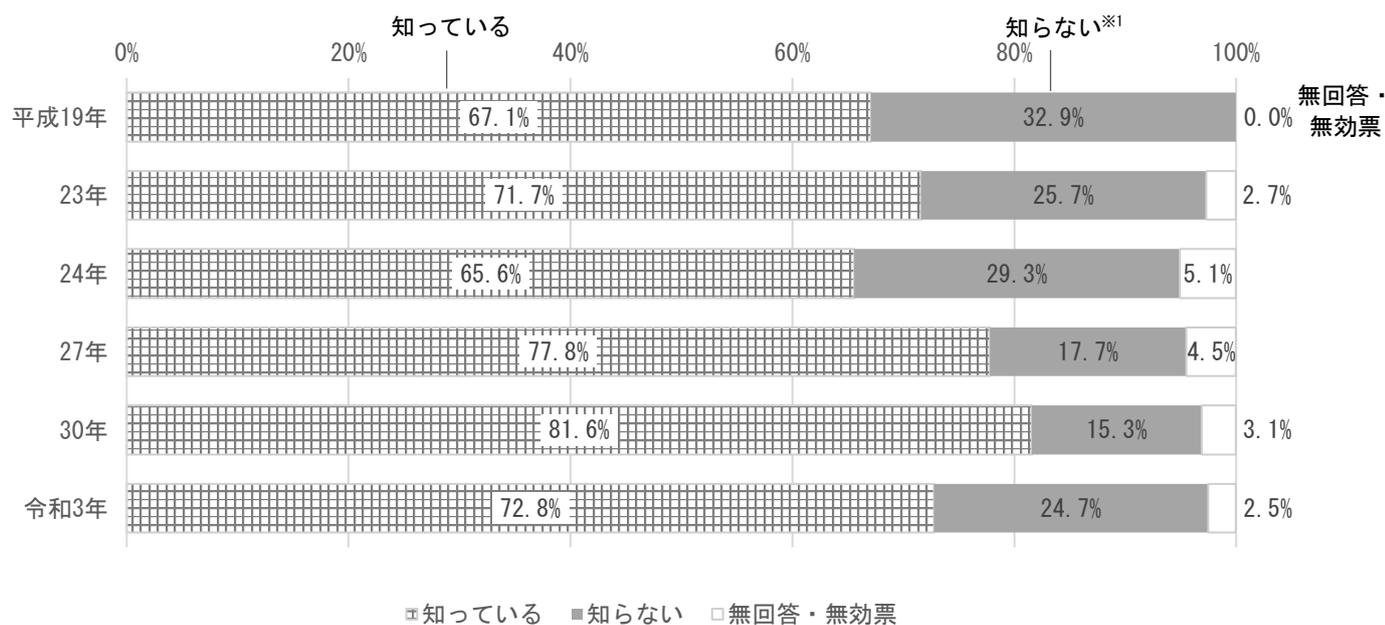
【経年比較_いつとき避難場所】※参考



図表 42-2：避難場所等の認知度 いつとき避難場所 経年比較

※1 平成30年以前の調査では、選択肢が「意味も知っており、場所もわかる」「意味は知っているが、場所はわからない」「意味も場所も知らない」となっているため、経年比較の際は、「意味も知っており、場所もわかる」「意味は知っているが、場所はわからない」の合計を「知っている」、「意味も場所も知らない」を「知らない」と整理して比較を行っている。

【経年比較_広域避難場所】※参考

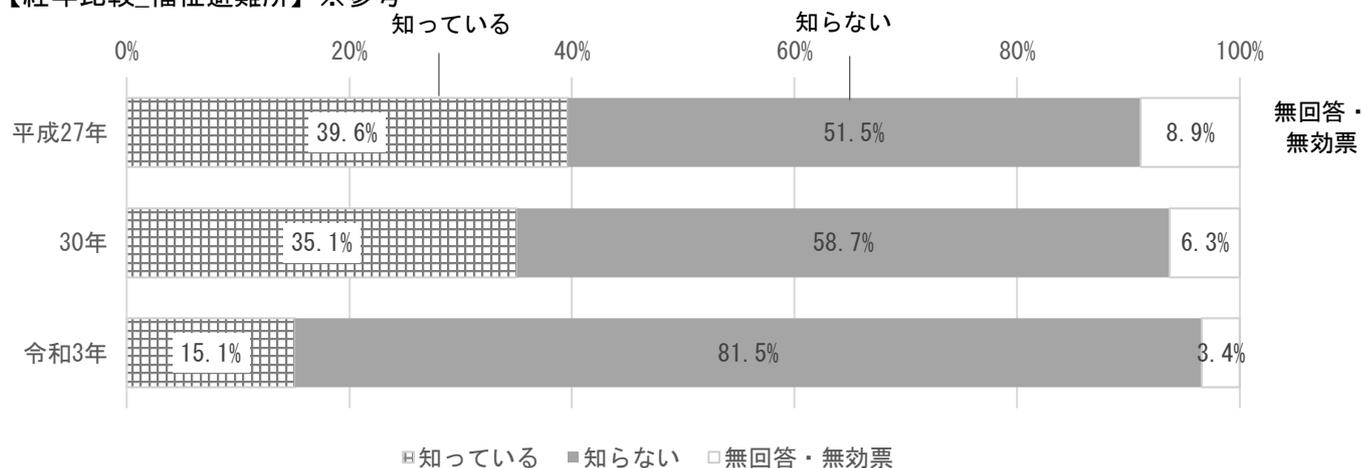


図表 42-3：避難場所等の認知度 広域避難場所 経年比較

※ 平成 19 年、23 年、24 年調査結果は「横浜市民意識調査」結果より抜粋

※1 平成 19 年、23 年、24 年調査では、「意味も場所も知らない」としていた選択肢を経年比較を行うにあたり、「知らない」に整理して比較を行っている。

【経年比較_福祉避難所】※参考



図表 42-4：避難場所等の認知度 福祉避難所 経年比較

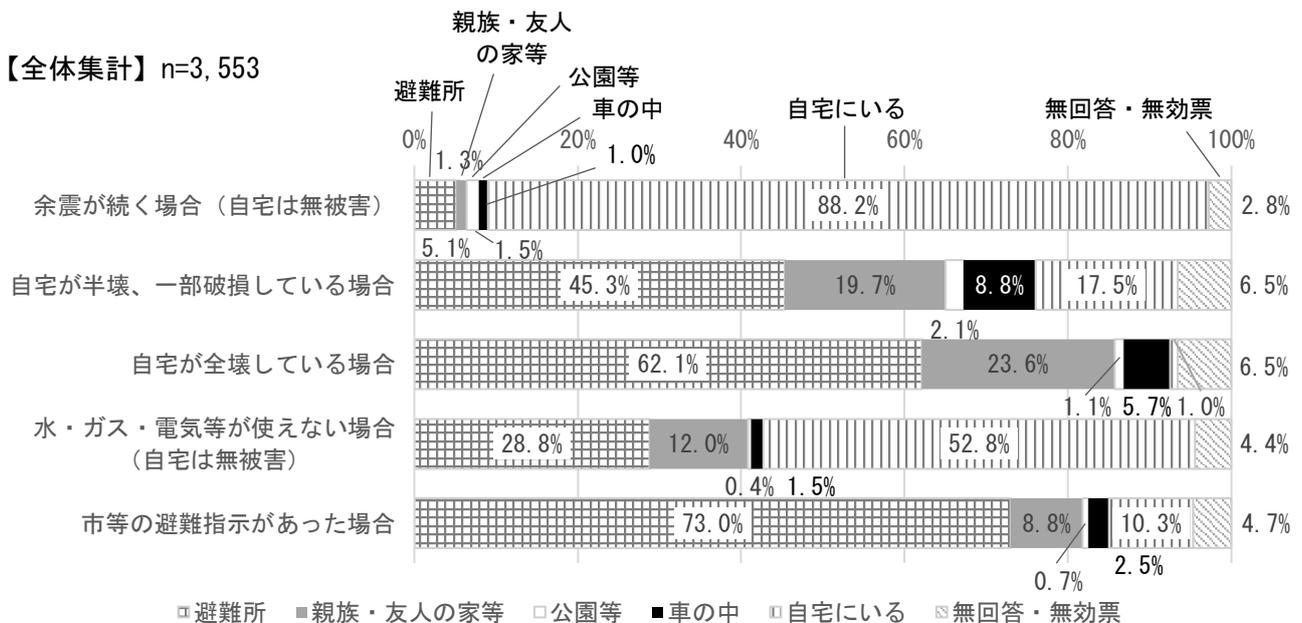
※平成 27 調査では、「福祉避難所」が「特別避難場所」であった。

問43 あなたが自宅にいて災害が発生し、次のような状況になった場合、当面の期間、どこで避難生活をしますか。(それぞれ1つ選択)

◇「余震が続く場合（自宅は無被害）」に「自宅にいる」が約9割

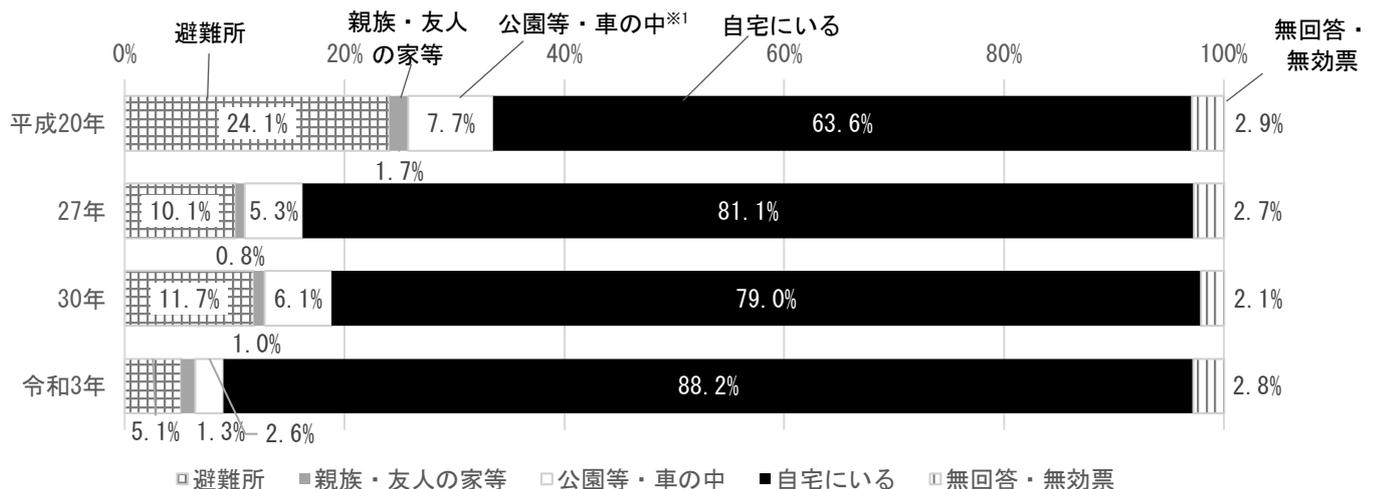
大地震発生時の状況別行動は、「余震が続く場合（自宅は無被害）」に「自宅にいる」が88.2%と最も多い結果となった。

経年比較では、すべての状況において、「自宅にいる」、「親族・友人の家等」の割合が増加しており、「避難所」の割合が減少している。



図表 43-1：災害発生時の避難生活を送る場所

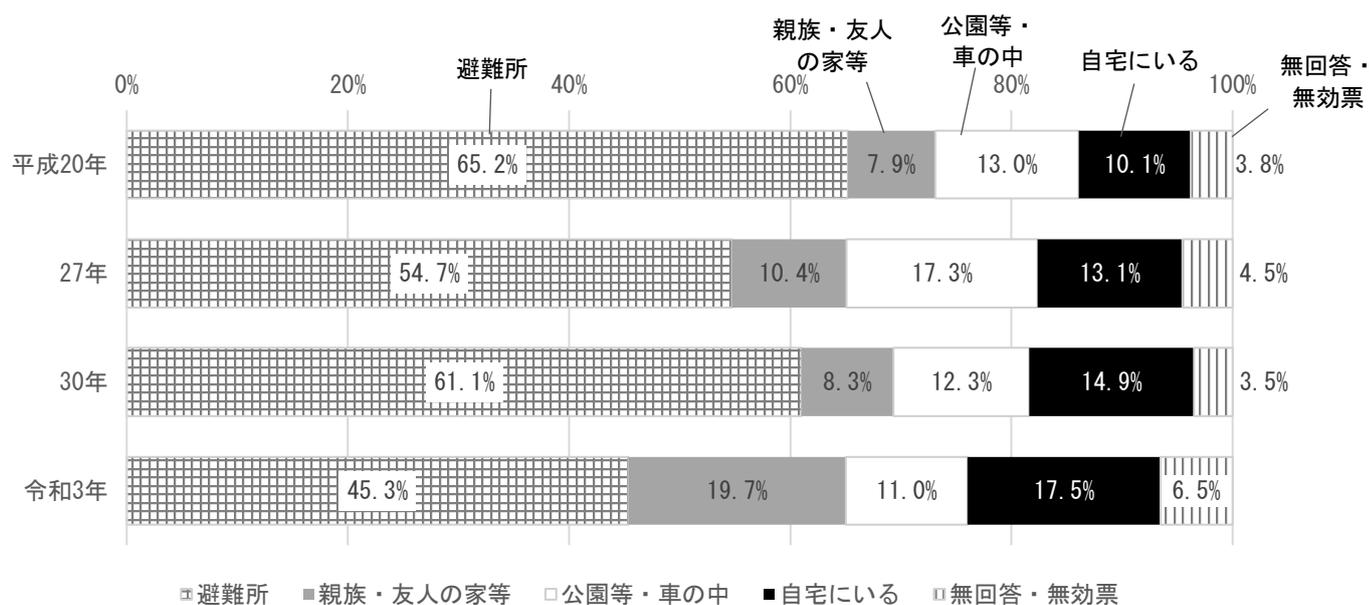
【経年比較_余震が続く場合（自宅は無被害）」※参考



図表 43-2：災害発生時の避難生活を送る場所 余震が続く場合（自宅は無被害） 経年比較

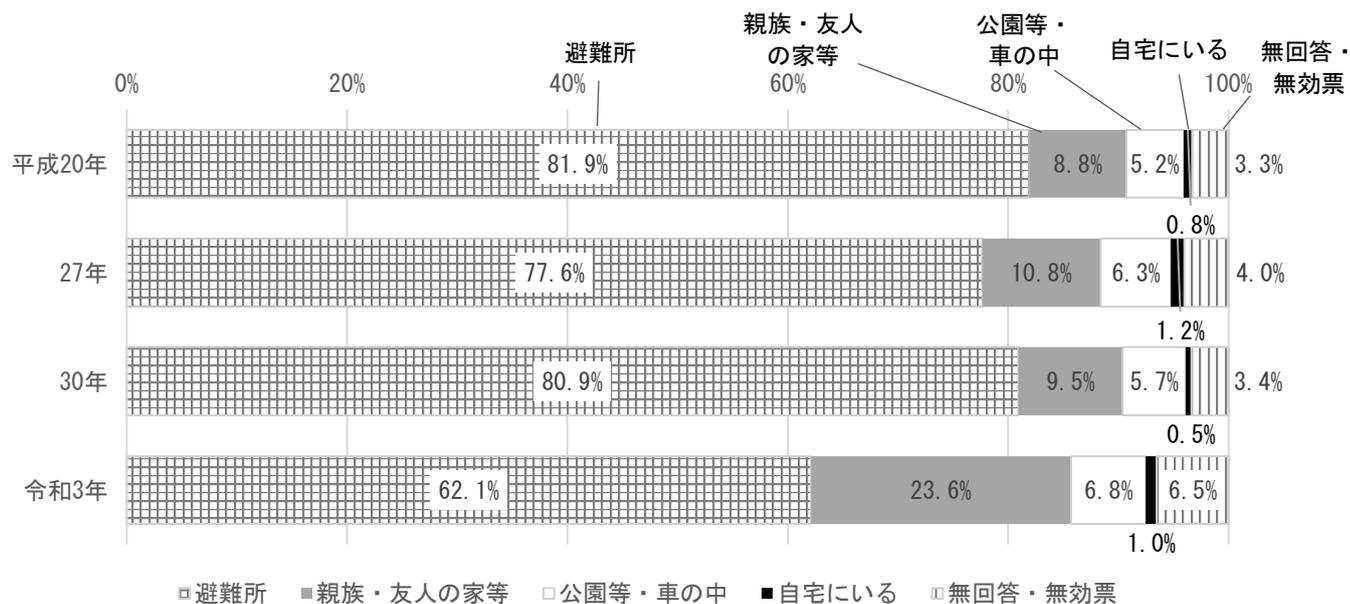
※1 平成20年、27年調査においては、選択肢を「車や公園等に避難する」としていたことから、平成30年以降の調査結果との比較を行うため、以降の調査における「公園等」と「車の中」という選択肢については、それぞれ合計し、「公園等・車の中」と整理して比較を行っている。

【経年比較_自宅が半壊、一部破損している場合】



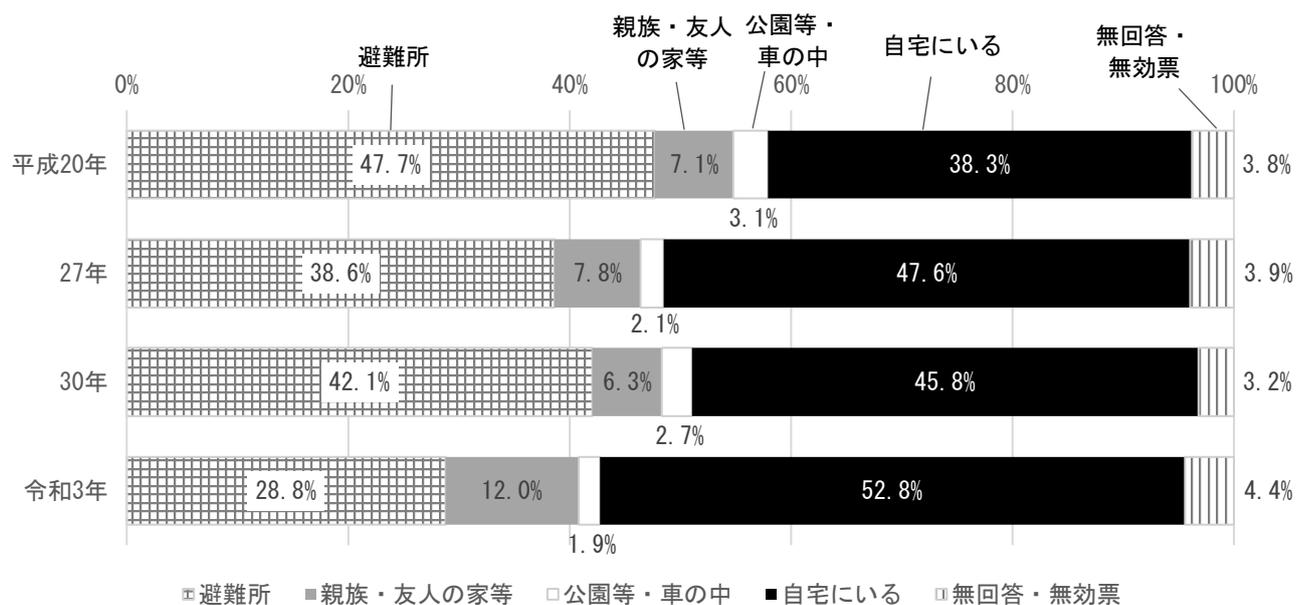
図表 43-2：災害発生時の避難生活を送る場所 自宅が半壊、一部破損している場合 経年比較

【経年比較_自宅が全壊している場合】



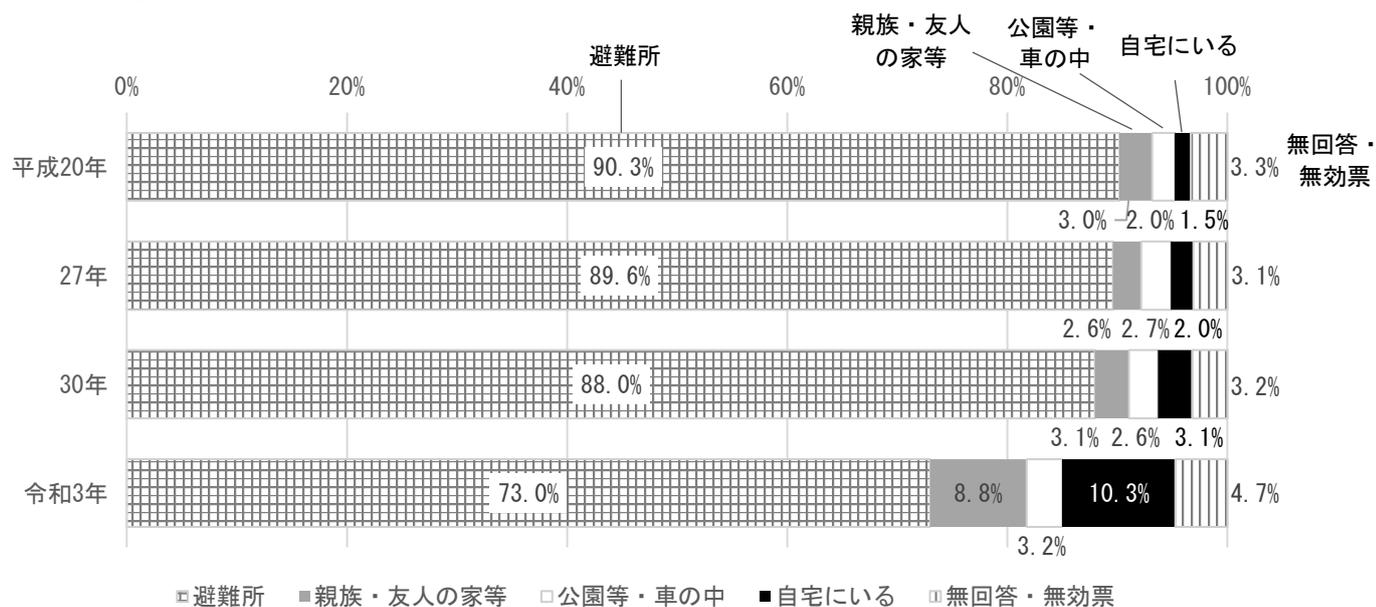
図表 43-3：災害発生時の避難生活を送る場所 自宅が全壊している場合 経年比較

【経年比較_水・ガス・電気等が使えない場合（自宅は無被害）】



図表 43-4：災害発生時の避難生活を送る場所 水・ガス・電気等が使えない場合（自宅は無被害） 経年比較

【経年比較_市等の避難指示があった場合】



図表 43-5：災害発生時の避難生活を送る場所 市等の避難指示があった場合 経年比較

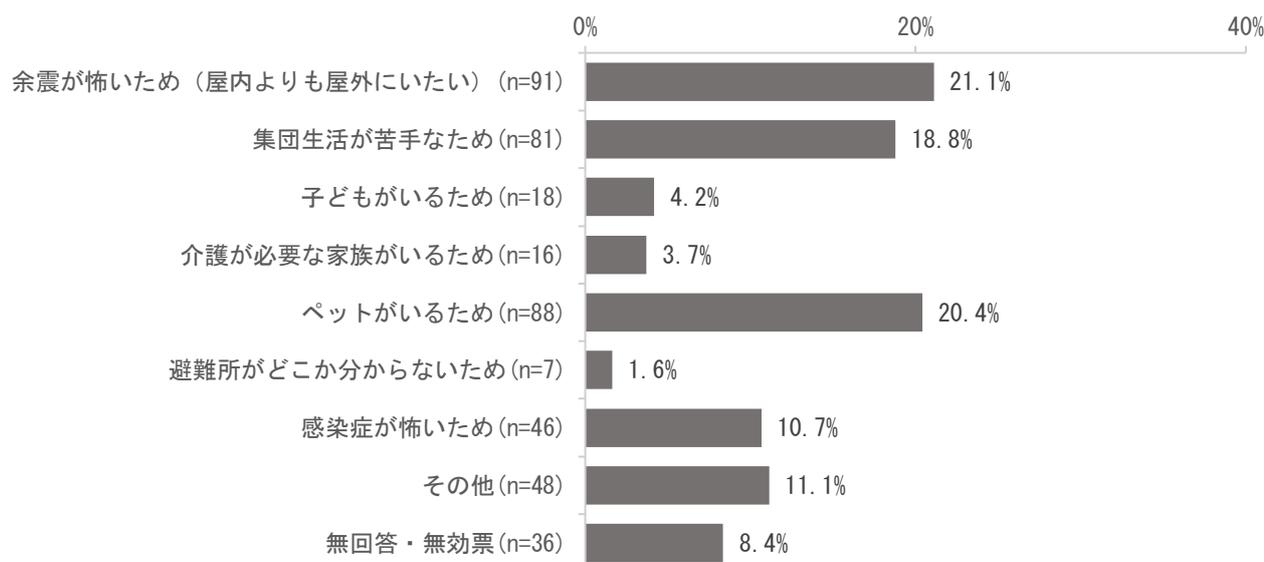
(問43のいずれかの回答で「車の中」を選択した方に質問します)
 問44 あなたが、「車の中」を選択した理由で、あなたの考え方に一番近いものは何ですか。
 (1つ選択)

◇車の中にいる理由は「余震が怖いため」が最も多い

「車の中にいる」を選択した理由は、「余震が怖いため(屋内よりも屋外にいたい)」が21.1%と最も多く、次いで「ペットがいるため」が20.4%となった。

経年比較では、新設の「感染症が怖いため」が5位となった。

【全体集計】n=431 (12.1%)



図表 44-1：避難生活を送る場所に車の中を選んだ理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

避難所が足りない、混雑していると思うため/自分より避難所を必要としている人に譲るため/プライバシー確保のため/自宅の近くにいられるため/一時的な避難であるため/そのまま移動できるため/キャンピングカーを所有しているため/避難所では男女別などの配慮がなさそうのため/避難所の治安が心配なため/障害のある家族がいるため/電気が使えるため/車庫がコンクリート造であるため/アレルギーがあるため/自分の考えで行動できるため

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=254)	ペットがいるため 27.6%	余震が怖いため(屋内よりも屋外にいたい) 27.2%	集団生活が苦手なため 14.2%	その他 10.2%	子どもがいるため 8.3%
令和3年 (n=431)	余震が怖いため(屋内よりも屋外にいたい) 21.1%	ペットがいるため 20.4%	集団生活が苦手なため 18.8%	その他 11.1%	感染症が怖いため※1 10.7%

図表 44-2：避難生活を送る場所に車の中を選んだ理由 経年比較

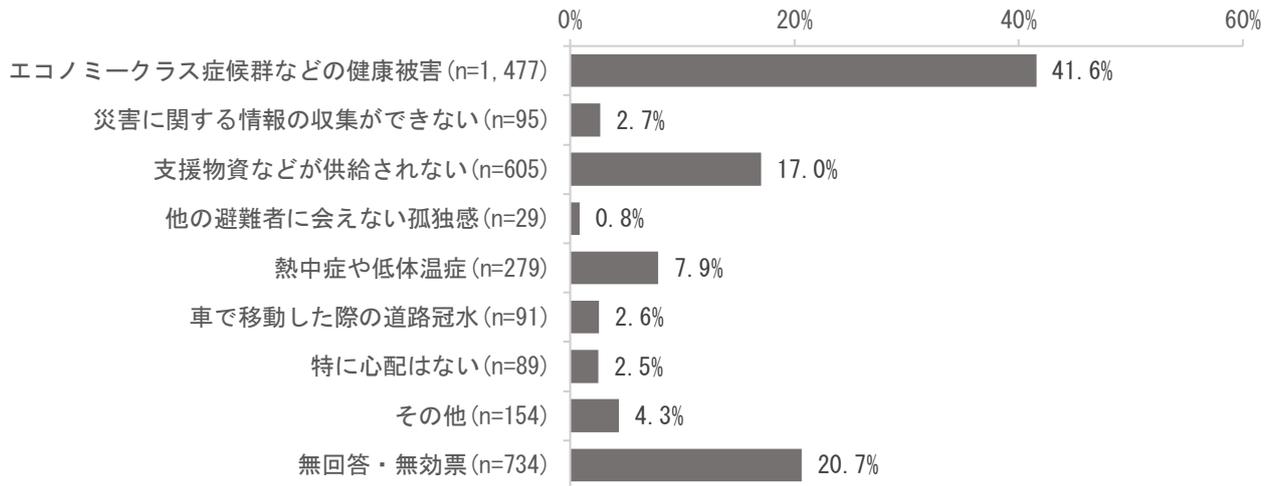
※1「感染症が怖いため」は今回調査からの新設選択肢

問45 あなたが車の中での生活を強いられた場合、特に心配なことは何ですか。(1つ選択)

◇車の中での生活を強いられた場合に心配なことは、「エコノミークラス症候群などの健康被害」が最も多い

車の中での生活を強いられた場合に特に心配なことは、「エコノミークラス症候群などの健康被害」が41.6%と最も多く、次いで「支援物資などが供給されない」が17.0%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 45-1：車の中での生活を強いられた場合の心配事

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

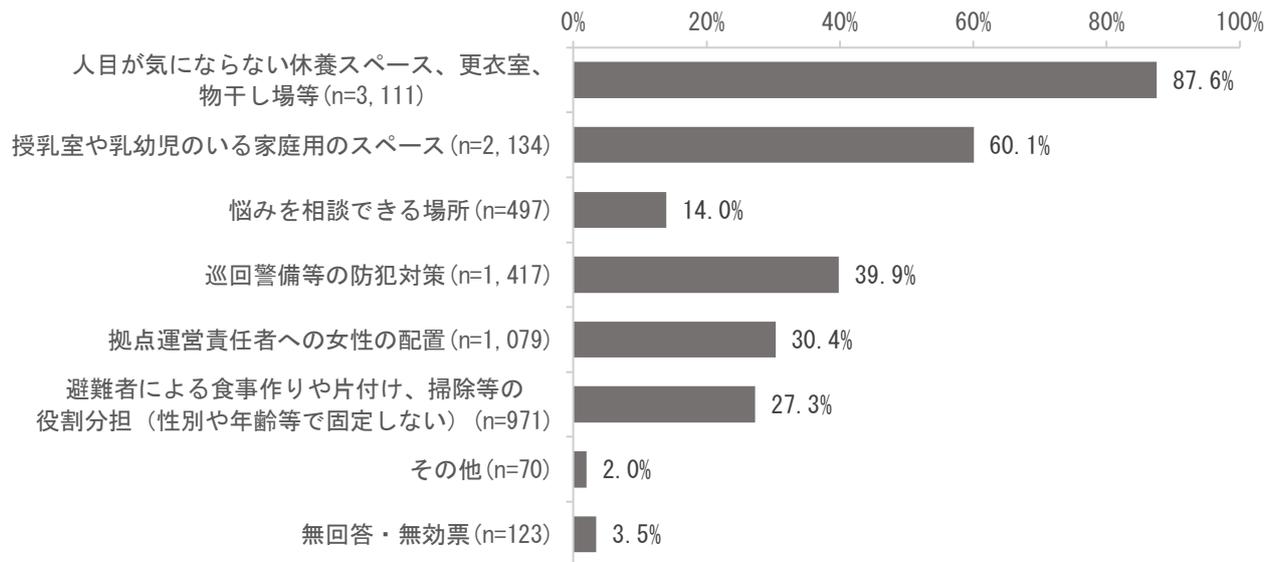
ガソリン切れ／家族全員が過ごせる広さがないこと／トイレ・風呂などの衛生面／飲料水・食料／ペットのこと／睡眠不足／病気、ストレス／子どもが車中生活に耐えられるか／医療品不足／車が襲われる心配

問46 あなたは、「女性への配慮」という視点で、地域防災拠点（避難所）運営等において、どのようなことが特に重要だと考えますか。（3つまで選択）

◇女性に配慮した取組で重要なことは「人目が気にならない休養スペース、更衣室、物干し場等」が最も多い

女性に配慮した取組として重要なことは、「人目が気にならない休養スペース、更衣室、物干し場等」が87.6%と最も多く、次いで「授乳室や乳幼児のいる家庭用のスペース」が60.1%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 46-1：「女性への配慮」という視点で地域防災拠点（避難所）運営等で重要な取組

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

トイレ（多数設置、男女別設置、安全性の確保）／生理用品等の用意／犯罪行為・ハラスメントを防ぐ対策／子供・妊婦への配慮／男女それぞれのスペースの確保

6. 災害情報について

(1) 災害に関する情報収集、災害時の安否確認

問47 あなたは、防災に関するそれぞれの情報（予防・緊急）をどのような方法で入手している又はしたいですか。（それぞれ該当するものすべて選択）

◇防災に関する情報の入手元は、予防情報・緊急情報ともに「テレビ」が最も多い

防災に関する情報の入手元は、予防情報では「テレビ」が 65.5%と最も高く、次いで「防災マップ」が 42.9%となった。緊急情報では「テレビ」が 76.7%と最も多く、次いで「ラジオ」が 52.7%となった。

経年比較では、予防情報、緊急情報の合計で、「ラジオ」の割合が増加しており、前回調査の 31.8%から、36.3ポイント増加し、61.5%となった。

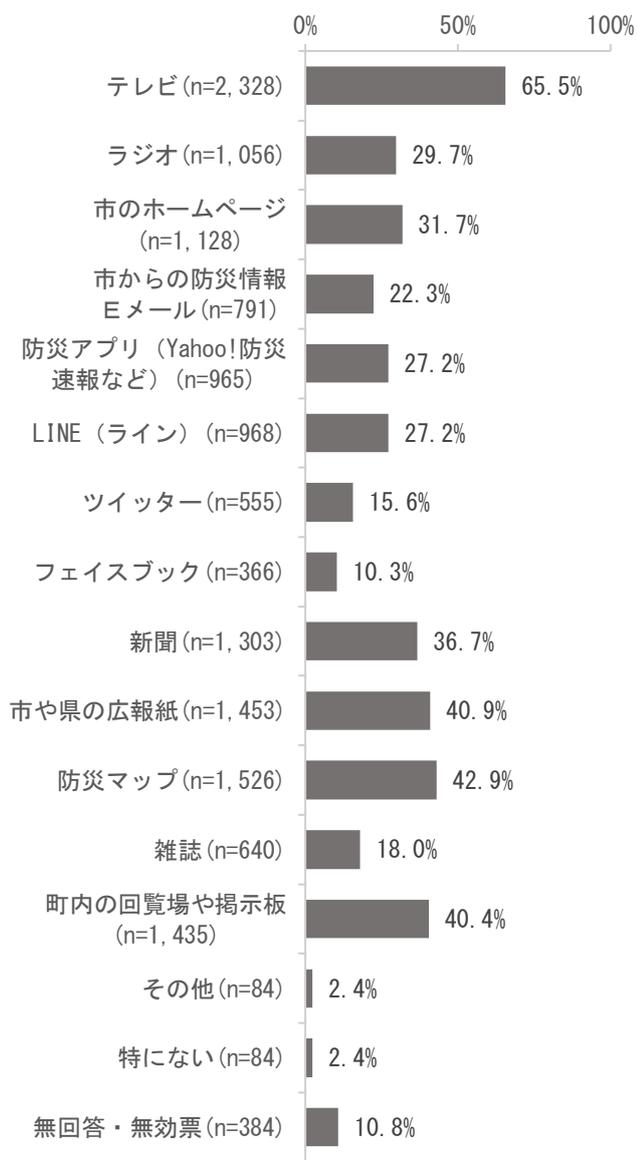
また、今回新設した「LINE」、「防災アプリ」、「防災マップ」が5位までに入る結果となった。

年代別集計では、予防情報の「10～30歳代」で「LINE（ライン）」の割合が高く、全体より10ポイント以上高くなっており、緊急情報の「10～30歳代」で「ツイッター」の割合が高く、全体より10ポイント以上高くなっている。

一方、「70歳代以上」では、予防情報、緊急情報ともに、「新聞」の割合が高く、いずれも約10ポイント高くなっている。

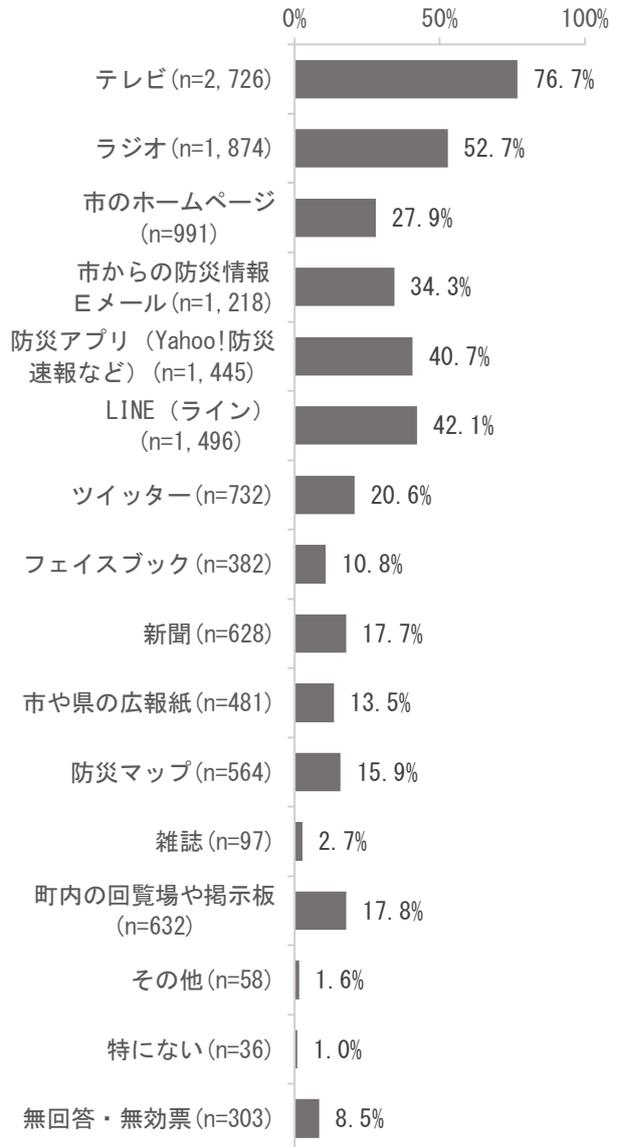
【全体集計】 n=3, 553

予防情報（予備知識など）



図表 47-1 : 防災に関する情報の入手方法 予防情報

緊急情報（避難情報など）



図表 47-2 : 防災に関する情報の入手方法 緊急情報

※【その他回答（予防情報）（47-1）】（抜粋、一部要約）

インターネット情報／YouTube／Instagram／勤務先の安否確認ツール／家族からのメール／友人・知人からの電話／情報が流れる電話サービス／まち BBS

※【その他回答（緊急情報）47-2】（抜粋、一部要約）

インターネット情報／広報車・防災通知車／アナウンス・地域のスピーカー／エリアメール・緊急速報／公共施設での放送／家族からのメール／友人・知人からの電話／会社からの安否確認／情報が流れる電話サービス／アレクサ／まち BBS

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋 令和3年は「予防情報」と「緊急情報」の合計

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	テレビ 92.0%	インターネット※1 58.0%	ラジオ 31.8%	新聞 28.4%	市や県の広報紙 26.9%
30年 (n=2,682)	テレビ 90.5%	市のホームページ 57.2%	携帯電話（スマートフォン等）※2 48.2%	ラジオ 25.2%	新聞 23.5%
令和3年 (n=3,553)	テレビ 91.4%	ラジオ 61.5%	LINE（ライン）※2 50.6%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など）※3 49.8%	防災マップ※2 48.9%

図表 47-3：防災に関する情報の入手方法 経年比較

※1 「インターネット」は平成27年調査のみあった選択肢

※2 「携帯電話（スマートフォン等）」は平成30年調査のみあった選択肢

※3 「LINE（ライン）」「防災アプリ（Yahoo!防災速報など）」「防災マップ」は今回調査からの新設選択肢

【年代別集計_予防情報】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	テレビ 65.5%	防災マップ 42.9%	市や県の広報紙 40.9%	町内の回覧板や掲示板 40.4%	新聞 36.7%
10歳代 (n=109)	テレビ 79.8%	LINE（ライン） 防災マップ 38.5%		防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 35.8%	新聞 34.9%
20歳代 (n=245)	テレビ 60.4%	ツイッター 39.6%	防災マップ 38.0%	LINE（ライン） 37.6%	市や県の広報紙 33.5%
30歳代 (n=358)	テレビ 64.8%	LINE（ライン） 37.2%	防災マップ 36.6%	市や県の広報紙 32.7%	市のホームページ 防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 31.0%
40歳代 (n=607)	テレビ 69.9%	防災マップ 46.0%	市や県の広報紙 41.8%	町内の回覧板や掲示板 40.2%	市のホームページ 38.4%
50歳代 (n=681)	テレビ 68.0%	防災マップ 47.1%	町内の回覧板や掲示板 41.7%	市や県の広報紙 41.4%	新聞 36.0%
60歳代 (n=551)	テレビ 63.7%	市や県の広報紙 45.9%	防災マップ 45.6%	町内の回覧板や掲示板 44.8%	新聞 40.5%
70歳代以上 (n=996)	テレビ 62.0%	新聞 48.0%	町内の回覧板や掲示板 44.5%	市や県の広報紙 43.3%	防災マップ 40.9%

図表 47-4：防災に関する情報の入手方法 予防情報 年代別集計

【年代別集計_緊急情報】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	テレビ 76.7%	ラジオ 52.7%	LINE（ライン） 42.1%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 40.7%	市からの防災情報Eメール 34.3%
10歳代 (n=109)	テレビ 79.8%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 52.3%	LINE（ライン） 51.4%	ラジオ 49.5%	ツイッター 47.7%
20歳代 (n=245)	テレビ 77.1%	ツイッター 61.6%	LINE（ライン） 59.6%	ラジオ 52.7%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 50.6%
30歳代 (n=358)	テレビ 76.5%	LINE（ライン） 55.6%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 45.8%	ラジオ 44.4%	ツイッター 38.8%
40歳代 (n=607)	テレビ 79.7%	ラジオ 54.0%	LINE（ライン） 50.1%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 49.1%	市からの防災情報Eメール 37.6%
50歳代 (n=681)	テレビ 79.6%	ラジオ 52.9%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 49.2%	LINE（ライン） 48.9%	市からの防災情報Eメール 42.4%
60歳代 (n=551)	テレビ 79.9%	ラジオ 56.6%	防災アプリ（Yahoo!防災速報など） 42.5%	LINE（ライン） 42.3%	市からの防災情報Eメール 39.2%
70歳代以上 (n=996)	テレビ 70.9%	ラジオ 53.2%	新聞 26.8%	市からの防災情報Eメール 25.9%	町内の回覧板や掲示板 24.9%

図表 47-5：防災に関する情報の入手方法 緊急情報 年代別集計

問48 あなたは、横浜市が地震や気象情報などの防災情報を配信しているサービス「防災情報Eメール」、「Yahoo!防災速報」、「横浜市危機管理室のTwitter」について知っていますか。
(それぞれ1つ選択)

◇それぞれのサービスについて、「知っている」が約2割～5割

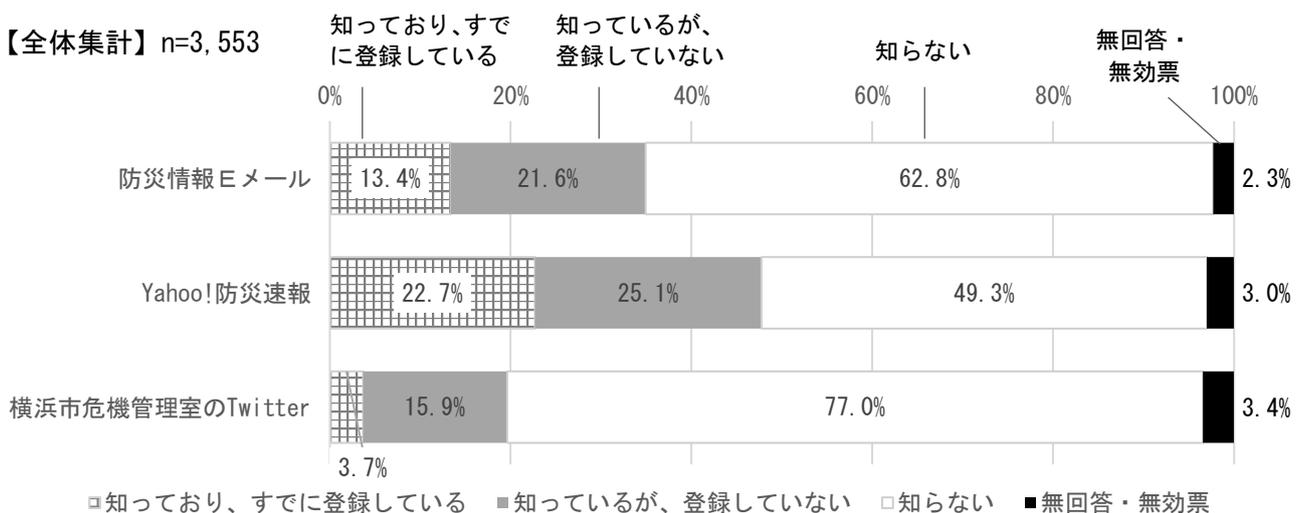
防災情報配信サービスの認知度については、「知っており、すでに登録している」、「知っているが、登録していない」を合計すると、「防災情報Eメール」が35.0%、「Yahoo!防災速報」が47.8%、「横浜市危機管理室のTwitter」が19.6%となった。

経年比較では、「防災情報Eメール」、「Yahoo!防災速報」、「横浜市危機管理室のTwitter」のいずれも、「知っており、すでに登録している」、「知っているが、登録していない」の割合が増加している。

「防災情報Eメール」の年代別集計では、「10歳代」で「知っている」の割合が最も高いが、登録している割合は「60歳代」が最も高い。

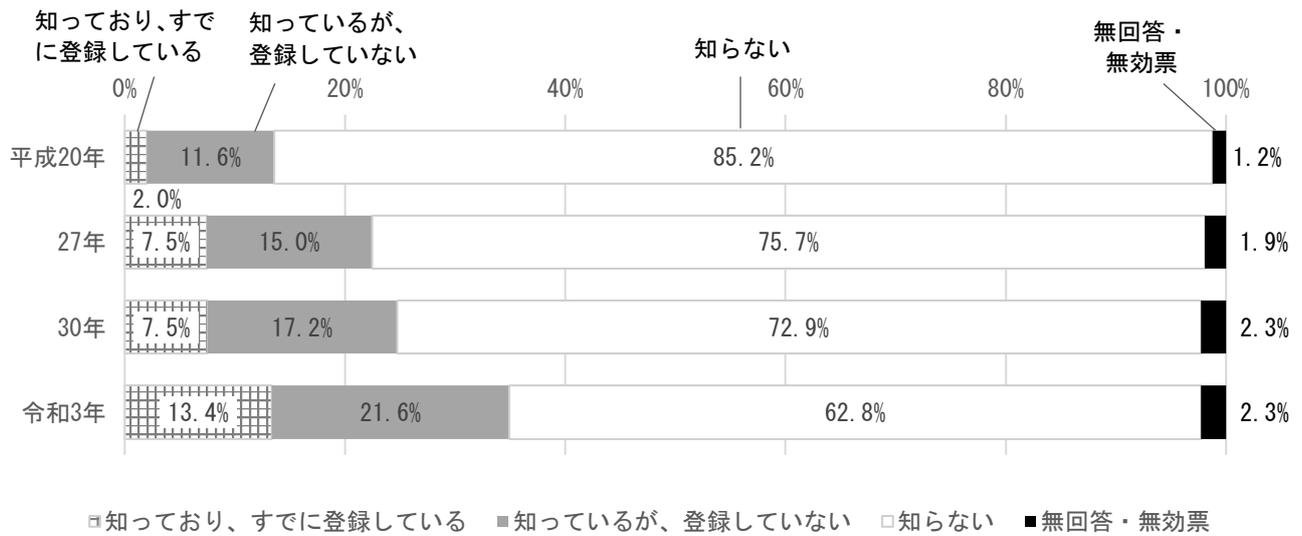
「Yahoo!防災速報」の年代別集計では、「10歳代」で「知っている」の割合が最も高いが、登録している割合は「40歳代」が最も高い。

「横浜市危機管理室のTwitter」の年代別集計では、「知っている」の割合、登録している割合ともに「10歳代」が最も高い。



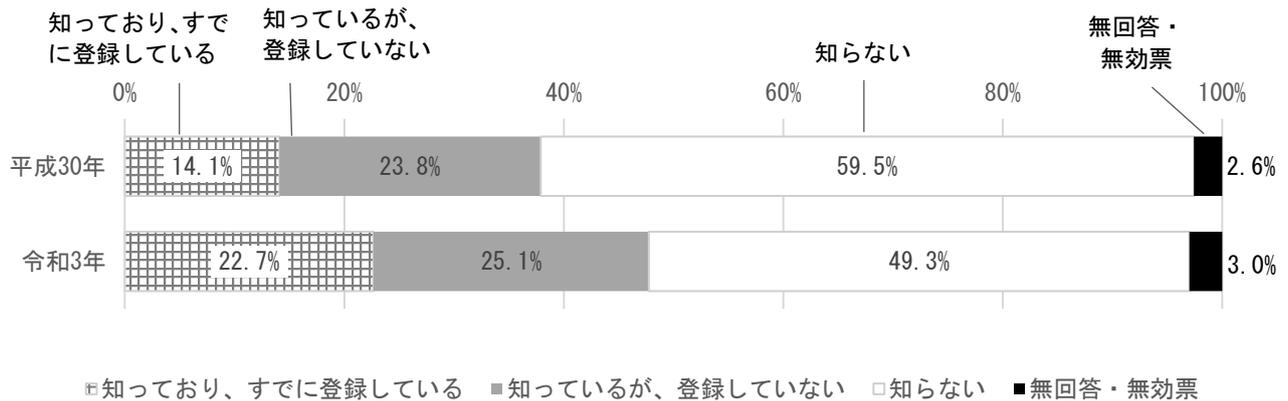
図表 48-1：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度

【経年比較_防災情報Eメール】



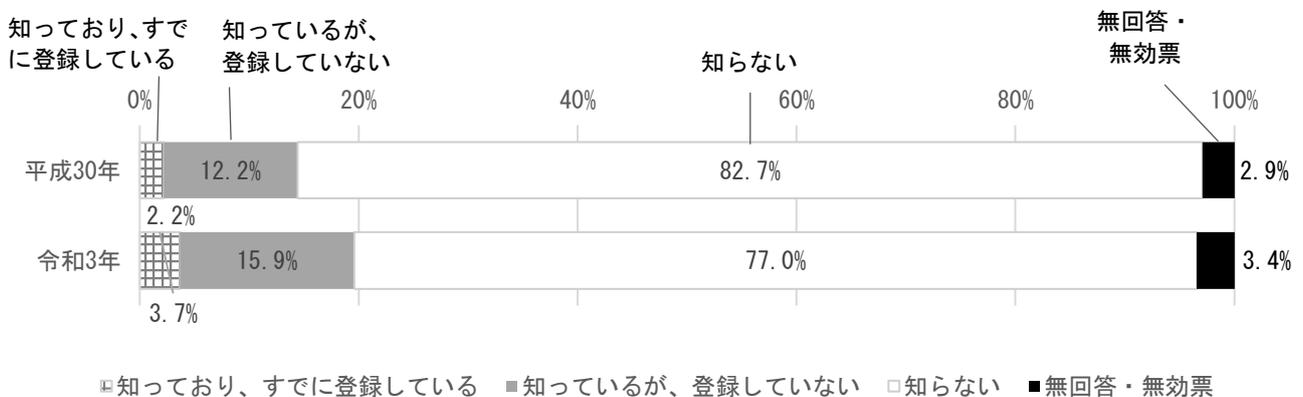
図表 48-2：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度 防災情報Eメール 経年比較

【経年比較_Yahoo!防災速報】



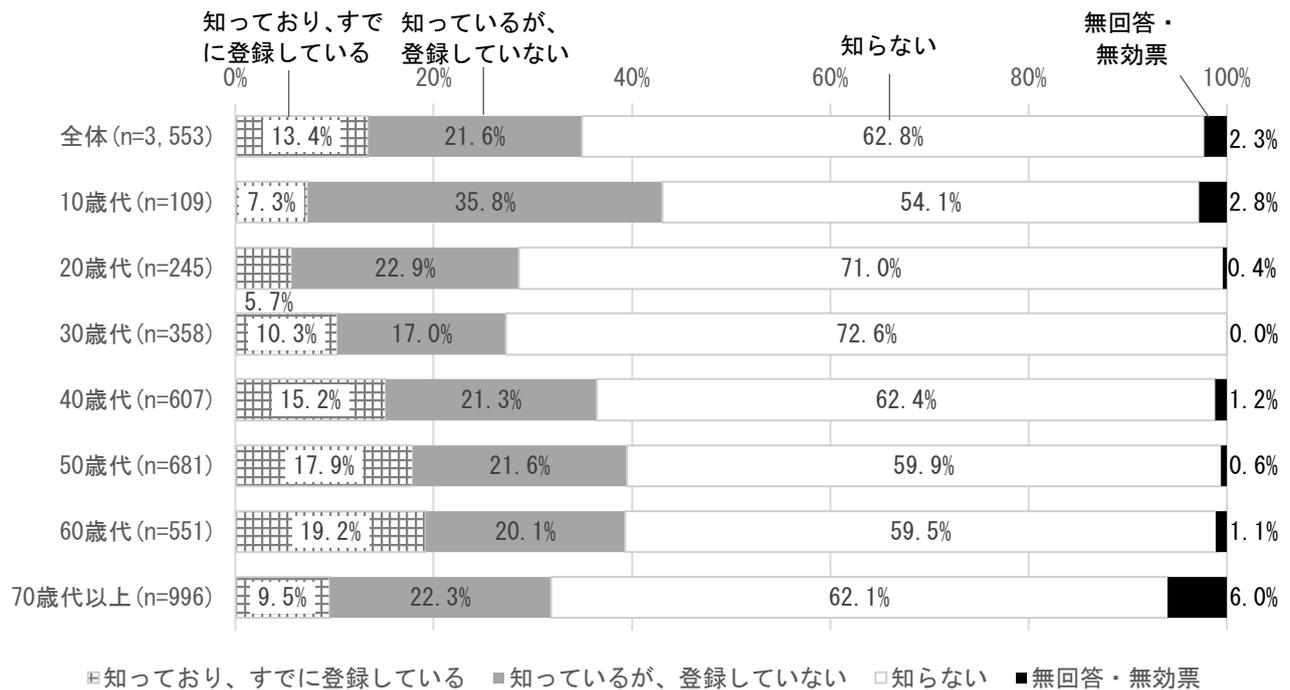
図表 48-3：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度 Yahoo!防災速報 経年比較

【経年比較_横浜市危機管理室のTwitter】



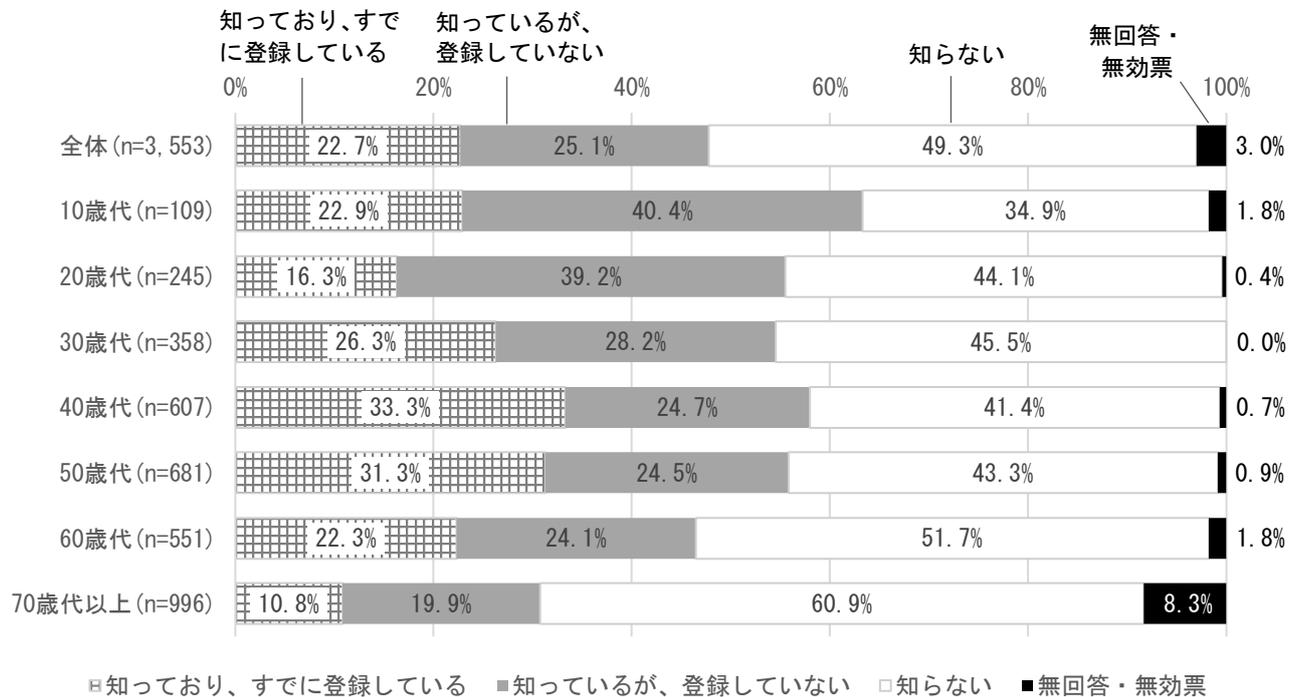
図表 48-4：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度 横浜市危機管理室のTwitter 経年比較

【年代別集計_防災情報Eメール】



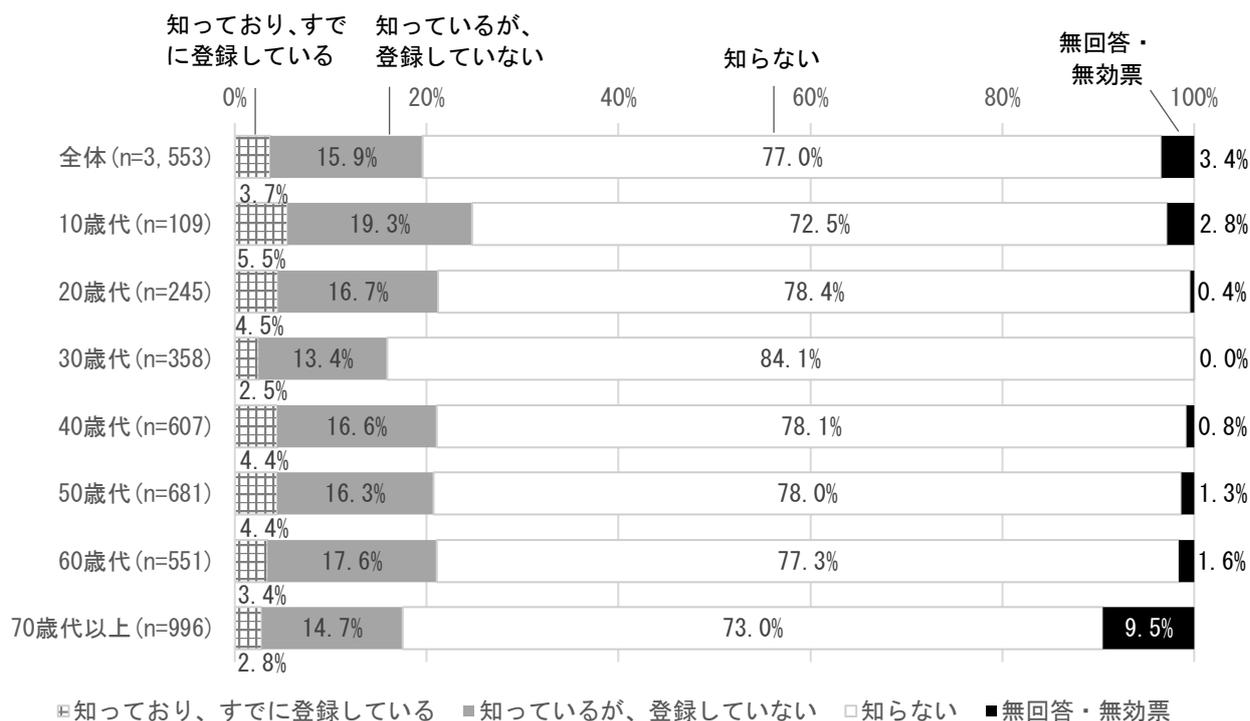
図表 48-5：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度 防災情報Eメール 年代別集計

【年代別集計_Yahoo!防災速報】



図表 48-6：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度 Yahoo!防災速報 年代別集計

【年代別集計_横浜市危機管理室のTwitter】



図表 48-7：横浜市が防災情報を配信しているサービスの認知度 横浜市危機管理室の Twitter 年代別集計

(問48のいずれかの回答で「知っているが、登録していない」を選択した方に質問します)
問49 あなたが登録していない理由は何ですか。(該当するものすべて選択)

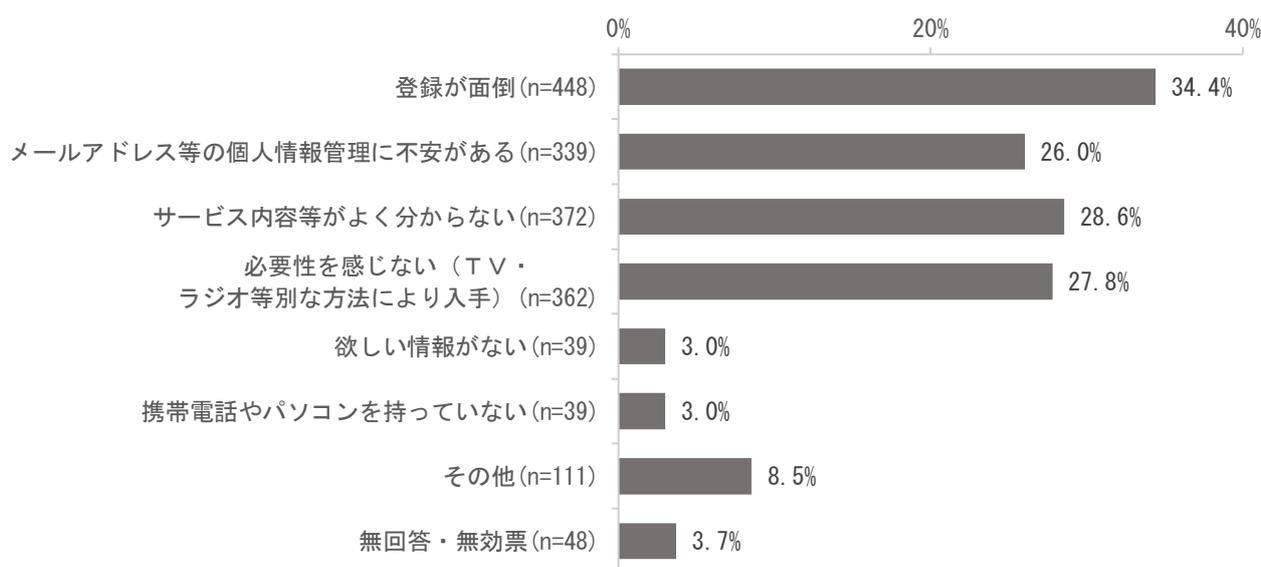
◇「知っているが、登録していない」理由は「登録が面倒」が最も多い

登録していない理由は、「登録が面倒」が34.4%と最も多く、次いで「サービス内容等がよく分からない」が28.6%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

年代別集計では、「10歳代」で、「登録が面倒」の割合が高く、全体の34.4%から15.6ポイント高い、50.0%となった。

【全体集計】 n=1,302 (36.6%)



図表 49-1 : サービスに登録していない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

Twitter を利用していない／他のサービスを利用している／フォローしなければ入手できないようなローカル情報がない／信頼性、スピード感に欠けると思う／本当に必要な情報が得られそうにない／登録方法が分からない／頻繁に通知が来るのが面倒／通知音にびっくりしてしまう／存在を知らない／家族が登録しているから／スマートフォンを持っていない／これから登録する

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=482)	必要性を感じない (TV・ラジオ等別 な方法により入手) 29.9%	サービス内容等がよ くわからない 24.1%	登録が面倒 23.0%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 21.8%	携帯電話やパソコンを 持っていない 7.7%
30年 (n=829)	登録が面倒 29.4%	サービス内容等がよ くわからない 28.3%	必要性を感じない (TV・ラジオ等別 な方法により入手) 27.0%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 18.8%	その他 6.4%
令和3年 (n=1,302)	登録が面倒 34.4%	サービス内容等がよ くわからない 28.6%	必要性を感じない (TV・ラジオ等別 な方法により入手) 27.8%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 26.0%	その他 8.5%

図表 49-2 : サービスに登録していない理由 経年比較

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,302)	登録が面倒 34.4%	サービス内容等がよ くわからない 28.6%	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 27.8%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 26.0%	その他 8.5%
10歳代 (n=64)	登録が面倒 50.0%	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 28.1%	サービス内容等がよ くわからない 26.6%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 7.8%	その他 6.3%
20歳代 (n=120)	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 38.3%	登録が面倒 37.5%	サービス内容等がよ くわからない 29.2%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 13.3%	その他 5.0%
30歳代 (n=141)	登録が面倒 36.9%	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 28.4%	サービス内容等がよ くわからない 24.8%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 16.3%	欲しい情報がない 7.1%
40歳代 (n=234)	登録が面倒 38.0%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 30.3%	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 24.8%	サービス内容等がよ くわからない 23.9%	その他 10.7%
50歳代 (n=258)	登録が面倒 31.8%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 29.1%	サービス内容等がよ くわからない 28.7%	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 20.9%	その他 9.7%
60歳代 (n=197)	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 34.5%	サービス内容等がよ くわからない 32.5%	登録が面倒 必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 27.4%		その他 9.1%
70歳代以上 (n=286)	登録が面倒 32.5%	必要性を感じない(T V・ラジオ等別な方法 により入手) 32.2%	サービス内容等がよ くわからない 31.5%	メールアドレス等の 個人情報管理に不安 がある 28.3%	携帯電話やパソコン を持っていない 9.1%

図表 49-3 : サービスに登録していない理由 年代別集計

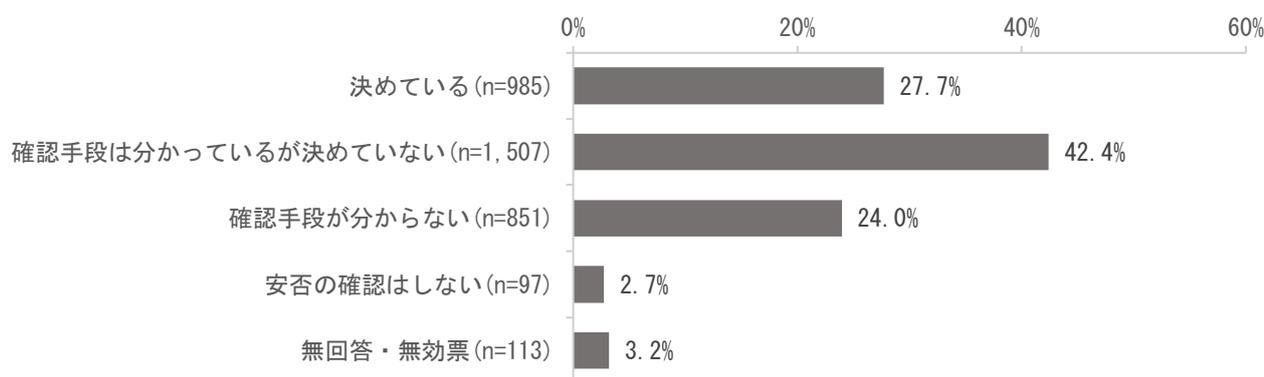
問50 あなたは、災害時に家族と連絡が取れない場合、どのような手段で家族の安否を確認するか決めていますか。1つ選択

◇災害時に家族の安否を確認する手段については、「確認手段は分かっているが決めていない」が4割超

災害時に家族の安否を確認する手段については、「確認手段は分かっているが決めていない」が42.4%と最も多く、次いで「決めている」が27.7%となった。

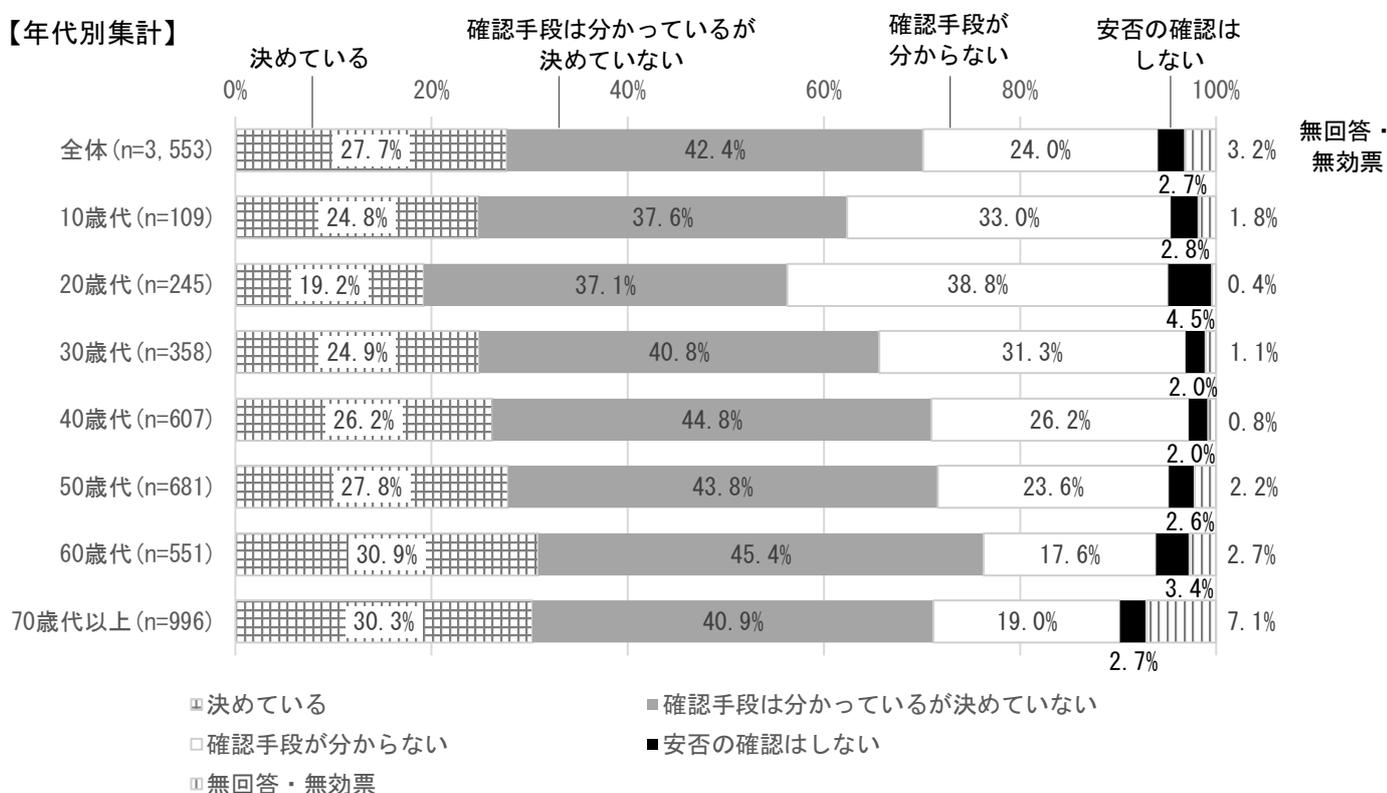
年代別集計では、「10歳代」、「20歳代」で、「確認手段が分からない」の割合が高く、「10歳代」で全体の24.0%より9ポイント高い、33.0%、「20歳代」で全体の24.0%より14.4ポイント高い、38.8%となった。

【全体集計】 n=3,553



図表 50-1：災害時の家族の安否確認

【年代別集計】



図表 50-2：災害時の家族の安否確認 年代別集計

7. 横浜市の災害対策に係るご意見について

(1) 横浜市の災害対策に係るご意見

問51 災害対策について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。5つまで選択

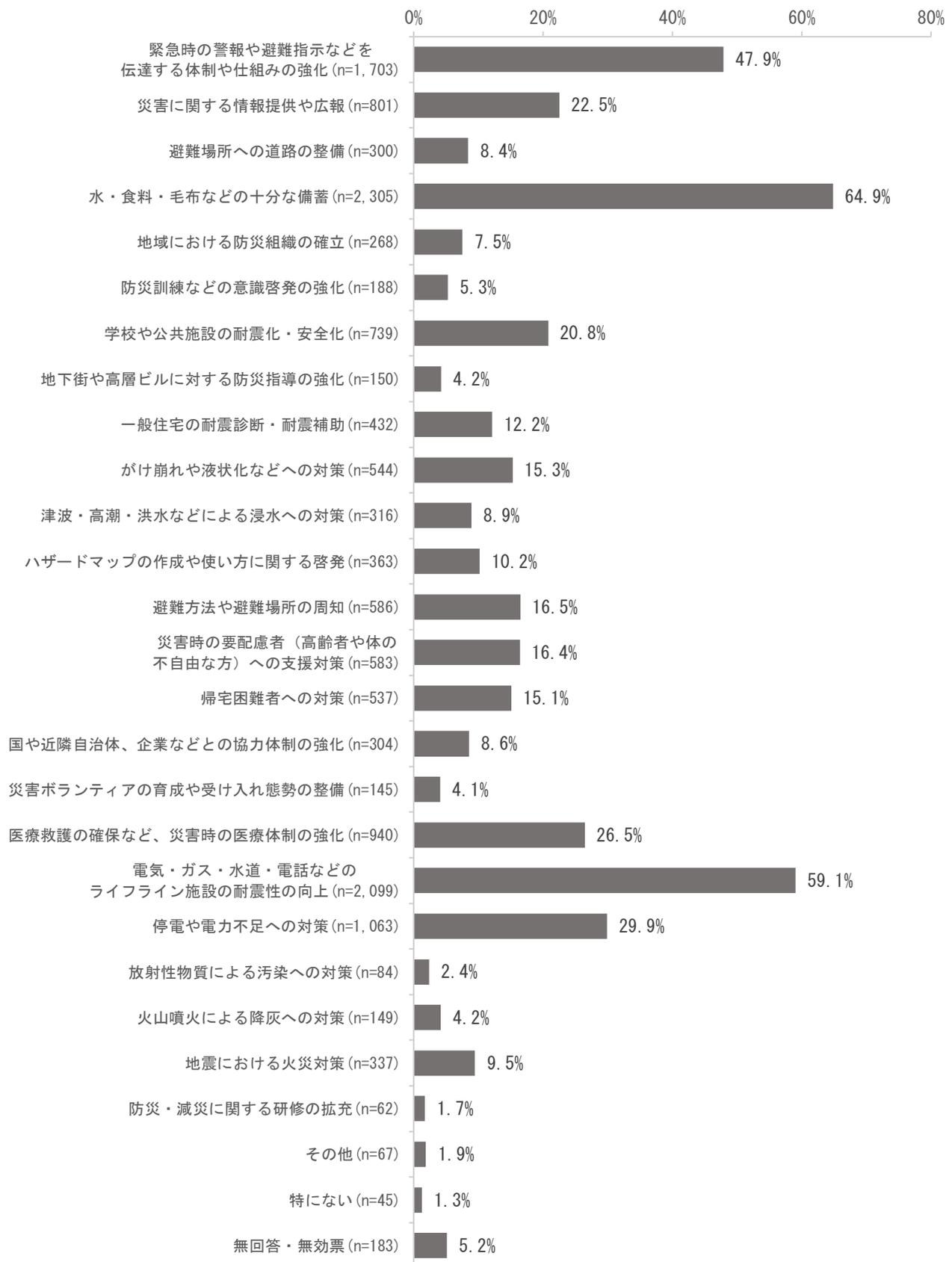
◇横浜市に力を入れて取り組んでほしいことは「水・食料・毛布などの十分な備蓄」が最も多い

危機管理について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことは、「水・食料・毛布などの十分な備蓄」が64.9%と最も多く、次いで「電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上」が59.1%、「緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化」が47.9%となった。

経年比較では、「水・食料・毛布などの十分な備蓄」の割合が増加しており、前回調査の56.7%（2位）から8.2ポイント増加し、64.9%（1位）となった。

年代別集計では、「70歳代以上」を除いて、「水・食料・毛布などの十分な備蓄」の割合が最も高く、特に「10歳代」では、全体より10.3ポイント高い75.2%となった。一方、「70歳代以上」では、「電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上」の割合が57.2%と最も高い結果となった。

【全体集計】 n=3, 553



図表 51-1 : 横浜市に力を入れてほしい取組

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

避難所の環境整備（仕切り、家族単位のテント、ベッド、トイレ、子供連れの避難者の配慮、ペット同伴避難の対応）／避難所の増設・拡充／避難所を安全な場所に設置／トイレ対策／生活再建支援制度の充実や広報／復興支援対策の強化／道路を含む災害対策のハード基盤の整備／道路が狭く消防車、救急車が通れない場所がある／交通の確保／生活物資確保のための流通のしくみ整備／公共交通機関と連携する仕組み／子どもたちへの防災教育／災害廃棄物の処理

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成27年 (n=3,217)	水・食糧・毛布などの 十分な備蓄 58.8%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 57.5%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 49.1%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 28.3%	停電や電力不足への 対策 24.1%
30年 (n=2,682)	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 60.7%	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 56.7%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 48.5%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 27.8%	学校や公共施設の耐 震化・安全化 25.7%
令和3年 (n=3,553)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 64.9%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 59.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 47.9%	停電や電力不足への 対策 29.9%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 26.5%

図表 51-2：横浜市に力を入れてほしい取組 経年比較

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,553)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 64.9%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 59.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 47.9%	停電や電力不足への 対策 29.9%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 26.5%
10歳代 (n=109)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 75.2%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 45.0%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 39.4%	学校や公共施設の耐 震化・安全化 35.8%	停電や電力不足への 対策 28.4%
20歳代 (n=245)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 69.8%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 55.9%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 42.0%	停電や電力不足への 対策 32.2%	学校や公共施設の耐 震化・安全化 26.5%
30歳代 (n=358)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 72.6%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 58.9%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 38.5%	学校や公共施設の耐 震化・安全化 32.1%	停電や電力不足への 対策 31.6%
40歳代 (n=607)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 71.3%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 62.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 45.6%	停電や電力不足への 対策 35.4%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 28.0%
50歳代 (n=681)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 65.8%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 62.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 50.4%	停電や電力不足への 対策 31.3%	災害に関する情報提 供や広報 27.2%
60歳代 (n=551)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 61.5%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 59.9%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 50.3%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 31.9%	停電や電力不足への 対策 29.8%
70歳代以上 (n=996)	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 57.2%	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 57.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 52.2%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の 強化 28.5%	災害時の要配慮者（高 齢者や体の不自由な 方）への支援対策 26.7%

図表 51-3：横浜市に力を入れてほしい取組 年代別集計

【選択したものに関して、具体的にどのようなことに取り組んでほしいと考えているかの回答】

(個人情報を除き原文のまま記載(一部、不明文字は●で表記))

(2) 情報提供、スマホなしの場合TV神奈川何分間か番組を設定し放映する。
「7. 学校や公共施設の耐震化・安全化」において、学校の耐震化工事をもっとやってほしいです。学校は避難場所にもなっているので、体育館も含め耐震化に力を入れて頂きたいです。
○をした事項についての、早急の対応。
○を付したものの具体的な取組の方法を市民に明示してほしい。
・ヘリコプターや広報車でのお知らせは、音が聞きとれない。移動しながらなので、内容がほとんどわからない。・危険で狭い道が多いので早く改良してほしい。(ひどすぎる!)・備蓄がどのくらいあるかわからない。知りたい。・地域に核となる大病院、広い避難場所がないので作ってほしい。(港南区)国立病院があったのに、跡地を一般住宅にしたのは何を考えているのか、腹立たしい!・一等地に刑務所はいらない移転して!
・横浜市は崖や斜面が多いのでガケ崩れ対策。・災害対策に対する意識と知識の啓発。(底上げ)
・各避難所に防災倉庫が1ヶで備蓄では全住民のニーズには答えきれません。・我が地区の学校の体育館は2階にあり、高齢者や足の悪い方等、避難所に来て大変です。特にトイレは1階にあります。・コロナ禍において、避難の受入れが大変のことと思います。落ち着いたら講演会や受入れの訓練が必要だと思います。
・学校、公共施設の上階にダンボールベットと水の設置。・降灰は何もしてないと思うので、清そう車や回収車。・電気、電話等使用できない時のムセン等市民への情報、避難指示の体制強化。
・休めるスペースの設置(例えば普段はガードレールだけど非常時には椅子になる)・水、食糧、毛布などの備蓄品のパッケージがゴミにならないように他の用途にも使用できるようにする。・仮設トイレや入浴施設のスペースを確保できるようにする。・大量にでると予想されるゴミの処分を考えて、今からゴミになりにくい製品や減量や廃棄を考えて進めていく。・火災や水害で海に有害物資が流れないようにどんなものが有害になるのか個人が気を付ければふせげそうな事を広報紙で知らせる。
・広域避難場所の見直。・無電柱化。・避難所へ行けない人の食料等の十分な確保。
・高齢者、若者等と少し分けて対応できると助かります。・町内、地域毎に具体的に直接対応されたらどうか。
・指示体制や仕組みの強化　・わかりやすい指示形態
・質問項目多過ぎ。(もっとデジタルも活用して)・データのためのデータにしないで下さい。
・食料の早期買い出しにスーパーが沢山備蓄して買うのに困らないように。・仮設トイレと水飲み場を十二分に準備して下さい。
・全ての災害時において、状況がそれぞれ異なると思う。そういった細かい所まで調査した上で、避難場所を教えてください。・コロナ禍での避難所の取組みを示して欲しい。安心して行くことができるのか不明。
・耐震診断を無料で出来るようにしてほしい。酸素吸入している家族がいます。避難時に電源と酸素吸入の機器を使えるのか心配しています。
・電気、通信、上下水道を共同溝にまとめ、電信柱を無くし、災害に強い都市作りを作る事を目標に実施して欲しい。・市の条例で、無人の(持ち主不明や、不動産屋所有物で、転売目的で値上りを2年以上待っている土地等)一軒家は、市への譲渡を義務化し、災害時に、近隣住人が使用できる様にする。空地は、公園にして置くと良いと思う。
・避難所生活の環境改善。・2000年以前の住宅への耐震補強への助成(横浜市の避難所にはほとんどの人が入れないので)
・避難場所になる学校などの建物耐震化、地盤、調査し、補強などをし改善する。・老朽化してる水道管など、なおす。
・避難場所をもっとアピールした方が良いと思う。Ex)この地方の人は最終的には○○小学校へ(水、食料の備蓄があるところ)行くことなど。一時的には広い場所へ行くと思うのでその後はここへ行くこと、みたいな感じ。
・避難生活での女性への配慮。・中学生、高校生、大学生のための災害ボランティア体験みたいなことができたらいいと思う。(避難場所でのどんな手伝いができるのかなど)・災害が起きた際に、どう行動すればよいかなどの基本情報をもっと身近に、学べるようにしてほしい。(回覧板など)・がけ崩れが心配のため家の被害があったらどんなサポートがあるかなど知りたい。

<p>1. ボランティア日本語先生をしていた時の生徒日系ペルー人に相談された時（嵐の予報を受けて）日本語が●が分ないので警察に（スペイン語の情報が分る所）相談しましたところ、その人の住所に近く避難場所をさがしてくれた食と宿の支度ができているからそこへ行かせなさい今すぐ大丈夫。友人等と●には駄目。2. 大落雷で我家だけ停電…周りの家はついている。職場にいる息子に t e l したところ、ブレーカーをもどすために椅子等にのぼったりがあぶないと言われ、しばらくすると頭の電灯をつけた男女2人の警官がきてブレーカーへの案内をしてブレーカーもつけてくれました。それで災害時おまわりさんも助る…日本の警察えらいなあと感動感謝しました。</p>
<p>①→細かいケース場面ごとに対応してもらえそうな仕組みは難しいのでしょうか。判断に困ったときにどこに連絡したらよいか、教えてほしい。</p>
<p>10、15、19などある程度の強化基準があり、目に見える対策ができるようなことに対しては早急に取り組んでほしい。16、17のような、人・組織が関わるようなことについては時間のかかることでもあるので、他の自治体で災害があったときにどのようにしたのか、どう準備しておけばよかったのか学んで反省を活かした取り組みをしてほしい。</p>
<p>10. がけ崩れがおこりそうな場所を調査して必要であれば対策を取ってほしい。</p>
<p>12・18について。高齢の方が多くなって来ると思う時、より解りやすい、伝わりやすい方法が必要かと思えます。</p>
<p>①②⑥区民は、災害に対して、体験が少ないため、防災訓練なども生ぬるい感じです。（22）富士山噴火なども考慮して、災害のことを学ぶべきかと思えます。</p>
<p>14. 支援対策の具体策を考えてほしい！高令者世帯が多い地域の対策、自治会に丸投げしないで欲しい。</p>
<p>14に障害者が入っていないのは残念。また対策がされる場合でも精神障害者は他の障害者より後回しになりそうなのでその点を注意して欲しい。</p>
<p>16に関して熊本や東北の災害地と比較すると、行政職員の居住範囲が広いので、関東大震災級の災害が起きた場合、行政職員が出勤できないと思うので、その時の避難場所などのあり方など十分検討しておいてほしい。</p>
<p>16番に関し、横浜市だけではなく様々な組織との連携を強化し、1人でも多くの命を守り、1日でも早く普段の生活に戻れる様な体制を構築してほしい。</p>
<p>17…熊本地震の際、救援物資や災害ボランティアのマンパワー等が、必要な所に届かなかった例があった。その様な事がない様に、ラインやEメール等でも救済の声が防災センターなりに一括して届き、そこから迅速に、適所に救助なり、物資なり届くようなシステムを構築してほしい。</p>
<p>18について、うつ病で、慢性すい炎のため、薬の供給ができる体制を作っていただきたいです。</p>
<p>18 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化</p>
<p>19. 我が家は坂の上であり、風が特に強いので電柱の倒壊が心配。地域によって電柱の地中化を望む。</p>
<p>19. 水道管の耐震補強工場の現場を見ることがあるが、耐震補強工事が全て完了しないと効果がないように思われます。全体あるいは具体的区域で耐震化工事の完了予定を知りたい。22. 富士山の噴火による降灰被害予測について知りたい。</p>
<p>19で社会インフラを担っている企業、あるいは団体への災害対策にかかる費用の負担を、軽減するように取り組んでほしいと考えている。</p>
<p>19のライフラインに支障がなければ多少の被害があっても避難所に行かなくても自宅にいられる</p>
<p>19は、特にお願いします</p>
<p>19 ライフラインについて、人口が多く避難所もいっぱいになることが予想されるため、できるだけ自宅避難できるよう、ライフラインが早く復旧することを望んでいます。赤ちゃんがいるため、人の多い避難所はやはり行きづらいと感じます。</p>
<p>19番、特に電気は地中下を推進してほしい。緊急車両の電柱が妨害になるため。</p>
<p>①Offer information on disasters and instructions on how to act. ②Ensure that city infrastructure is earthquake resistant.</p>
<p>1について、何の情報も手に入れる事が出来ない人への伝達強化。9古いが建て直す事も出来ず近所で建て直す度にヒビが増えますが何も出来ません。傾いていますが住んでいます。</p>
<p>①ペットと避難できる避難所をたくさん作ること。②ペットがいるため自宅で（または車などで）過ごす人々への支援を充実させてほしい。（物資を届けるなど）</p>
<p>1回/年程度、各家庭に情報を配布すべき。110や119の様に簡単な番号での連絡方法と受信部署の設置。</p>
<p>①緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化について</p>

①実際に災害が起きた場合に、避難者が混乱が起きないような体制、仕組み作り。
1人が1年分暮らせるくらいのもを用意すればいい。食品ロス、毎日、食べられる飲める物をどれだけ廃棄しているかわかりますよね？だったら、出来るはず。
①大変だと思うが、車で廻って知らせて下さい。
1伝達する体制や仕組みの強化を特に分かりやすく力を入れてほしい！！
1番良いことは自宅ですぐすること、それができるような耐震化を進めることが1番とは思いますが。その上で食料・水などが確保されていることが大切かなと思います。
2011年の東日本大震災の時、水道管がひび割れがあったことが後日に分かったのですが、水漏れがあちこちに出て困りました。大きな災害の後には、できれば検査体制があったら良いと思います。
20年以上奈良に住んでいましたが、この様なアンケートははじめてです。改めて防災意識の高い横浜市に脱帽です。これからいろいろお世話になりますが、よろしくお願いします。一生懸命働いて横浜市に貢献しますので、防災の方もよろしくお願いします。この様なアンケートだけでも、防災意識は上がると思います。
2.2. 降灰除去車両の開発（バケット等）
2.4. 防災研修を必須にする、強制力を持たせないと、自分で調べない人はただ死ぬだけだと思います。この時代、いかに情報を正しくキャッチし、周りに共有できるかが大事なのかもしれません。
2.5. 例えば、荏田富士塚公園の雨水調整池の周りの道路にひび割れが増えている。他にみずずが丘の交差点の道路が削れている。等。
2.5. について、ペット同伴者も避難所に避難しやすくなるようなシステムにして欲しい
2.5. に記載したように道路やインフラが異常となった場合、一般市民への不都合を極力少なくできるようなあらかじめの対応
2.5についてNHKで災害対策の番組でやっていたイタリアの準備は、とても良かった。日本の建築家坂茂（ばんしげる氏）の段ボールの柱を組立て、個室を作れるキットも準備しておいて欲しいです。高齢者が持病の薬をきらすことがないように、ドローンで大病院から薬を飛ばすシステムも作っておいて欲しいです。そして、各世帯に小さなソーラー蓄電池が配布されると「横浜いいね！」と自慢できると思います。市民に小さな安心を…。
2.5年程前に、市の耐震診断を受けました。耐震診断をした人に相談し、耐震工事の予定でしたが、診断士の都合で、中断してしまい進行しませんでした。市に再診断をお願いしましたが、一度受けたらもう一度は受けられないと断られました。困っています。柔軟な対応を求めます。
2について、情報収集は大変と思うが提供と広報はなるべく早めに。1.4について高齢者や身体不自由な方について、やさしくていねいなど気配りを。1.9について生活に直結することであり、予算を増やして強化をしてもらいたい。
3・11の時、食料はスーパーで買ったが、水は給水車に頼りました。衛生面の不安もある為、水に十分な供給があると助かります。
3年前より、膝手術が失敗したらしく、膝が思うように動かず、外出は一人歩きできない体になって現在まで生きて来ています。無責任な医者への不満で毎日暮らしていますが、もうあきらめました。元気な時代がなつかしいけれども、今は一人歩きがこわいです。
③避難場所が坂の上なので、身体が不自由でも行きやすいようにしてほしいです。
4. 1.8. 対応強化
4. 5. 1.4. など、備えておくだけではダメで実際に起きた時に被災者に届けられるのか。手元に届けてもらう訓練までであると安心できるのでは…ご苦勞様です。よろしくどうぞ。付言：用語解説は別紙で残るようにしてほしい。
4. 雨天でも輸送車が横付けできること。2.1. 輸送車も除染洗浄可能なこと。
4. 水・食料・毛布などの十分な備蓄
4：住居の近くにしてほしい。1.0：斜面等（キケン箇所）の点検。1.8：緊急時、病院の安全性。1.9：生活インフラの安全点検。2.0：特に電力stopは回避する対策。
4：水、食料は年度毎に買い直し、何年分か貯めておき、期限1～2年のものは、市民対象に安く売るか（その市民の備蓄になる）、公立小・中学生家庭などに配るか希望者抽選などサイクルする。
④備蓄されている場所の周知 ⑩どこの病院へ行く周知
6. 近隣にはお年寄りも多いので地域ごとにどう動くかなどを体感できるような取り組み。7. 老朽化している公共施設が多く見受けられるので建て替えや耐震補強をしてほしい。
6. 地域で防災訓練があれば参加したい。これまでは会社の防災訓練など勤務先での訓練は参加したことがあったが、在宅勤務が主となり自宅で災害にあう可能性の方が高いと思われるため。

7. 学校、公共施設は災害時の拠点となるため、どの性別、年代関係なく、最低限の生活ができるレベルでの備蓄が必要。オムツや生理用品など。
8. 実効性のある具体的対策を個別に指導・支援。15. 16. 市民以外の人へも含めて、近くの企業等からの臨機応変な具体的支援の例示やそのための助成制度。
81才の老人でありましてどうのこうのは言えませんので大きな地震が来たらどにもならないと思っただけです。家族が無事で、ペットも…
88歳、87歳の老人ですが、市はもちろん、身近な町内でも、いざという時の対応はできているのでしょうか？心配です。
⑫地域的に高齢者が増加しており簡単なハザードマップが必要。
⑭に関して、車イスや麻痺がある人、在宅医療を受けている人などは、避難場所では、パイプイスなどではなくしっかりとしたイスや介護用ベッドが必要になってくると思います。必要時、在宅酸素などの医療機器も重要だと思います。また、普通の食事だけでなく、嚥下が悪い人のための飲み込みやすい形態の食事も必要だと思います。
⑭に関して、要配慮者への居食住+医療ケアについて、少しでも早く動き出しができるような準備
⑳小さな事故で停電したことがあった時、何棟か並んで建っているマンションのうち1棟だけが停電することがあった。無駄な工事は行わず、住民の生活に直結する事は早く行ってほしいです。
I think We need to have an annual review of what to do in an emergency. many of us forget that We may need to have a plan and be asked to help people in our communities.
IRに金をかけないで、水道管更新に金をかけてほしい。
LINEでも警報や避難指示など受け取りたい。避難場所もLINEで検索できたらいい。
More information regarding safety need to be shared in English language. Foreigners face difficulty in understanding Japanese language.
No 1. 確実に伝わる方法。車でまわられても聞こえてないとか、住んでいる場所によっては警報が聞こえてなかったりする。
No 7. 避難所、長期に渡っての利用に備えて、耐震化安全化は必要。
Not all foreigners are good in Japanese and have the confidence to attend trainings that the speaker is Japanese. So I think it is good that Disaster prevention and management is also available for foreigners. So that in time of disaster foreigners will not be a bothersome to the front liner.
P. 18, 19に用語集がある紙を投函してしまう発想がイケてない
webやインターネットに頼らない情報発信・周知も忘れないでほしい。ライフライン施設や道路の耐震性整備をもっと進めてほしい。「バスが通る」「私道ではない」などの理由で、それ以外の場所が置き去りにならないように。(該当場所の近隣住民にアンケートを取るなどして決める？等)
あくまでも自助
アプリなど簡単に情報を得やすいツールの充実。より細かい地域に合う情報。
アンケートに記入するうちに、体系的に準備していないことに気づいた。断片的では無く、体系的に備えるコツを広報して欲しい。
アンケートに対する意見 ・本アンケートはとてもレベルが低い。何のため、この結果何に使用？ ・本気度がない、市として真剣に取り組んでいるとは思えない。職員自ら作成したしっかりとしたアンケートにして欲しい。
いざと言う時の心構えと市政だけで出来ない時は国との協力を頼める関係を強くしていた方がいざの時に役立つのでしょうか。
いざという時の的確な指示
いざ災害で緊急避難する際人命が第一に考え防災グッズを備えていても体一つで避難する事も有り、特に4番の充実を願っています。
いつもありがとうございます。信頼のできる横浜市で在ってくださることを望みます。
いつも災害があった時に、何年も何回もあるのに、いつも変わらない状態が続いて変化が見られない。他の地域であったことでも自分のところと思い、次に生かせるようにしてほしい。またあの避難所の様子を見るのは嫌だ。動物がいる事も考えてほしい。家族なのだから。
いつ発生するかもしれない災害に対し、訓練などの実施をお願いしたいと思います。
いろいろな方法を駆使して情報を伝達して欲しい。
インターネットによる情報発信の強化
インフラの強化

インフラの強化
インフラの早期回復。日用品の供給備蓄。
インフラの老朽化（上下水道ガス等）の強化
おいしい非常食を食べたい。
お金がなくて耐震化ができない家庭への補助。ライフライン施設に何かあったとき、一分でも早くふっかつできるように、訓練を行う。
お疲れ様です！！少しでも、みんなが、快適に過ごせるよう、よろしくお祈りします！！
ガケなどが多い横浜市において、耐震・災害対策を進めてほしい。特に傾斜地の住民からの危険通報、相談があったときの迅速適切な対応。
がけ崩れについて、工事中の場所が近所に多く不安です。工事による地盤への影響への対策はされていますでしょうか。また、市民の多くの反対をおし切ってIR誘致を進めていますが、私たちの税金の使い道として、IRよりもこうした災害対策（コロナ含む）にもっと予算を投入してほしいです。利権政治ではなく、真に市民のことを考えた市政を期待します。「共感と信頼の行政」をめざすだけでなく行動（現実的な）を求めます。
がけ崩れは、何らかの対策が必要。災害がなくても、マンション前からくずれている。
がけ崩れや液状化のリスクのある場所の事前補強。保育園や学校の補強による子どもたちの安全確保。
カジノをやめて、防災関係に予算を使用してください。
ガスコンロからIHのコンロへ、石油ストーブからエアコンへ切り替える。新しく建築する家に上記の物は使わないようにする、古い建物や空家は取り壊す。地震がきても、火さえ出なければどうにかなる！
ケータイが動くときはLINEニュース、ツイッター、テレビが主な情報源になると思います。いち早く情報提供して頂けると有難いです。水、食料、毛布などの備蓄が十分であると一番助かると思います。
こうしたアンケートそのものが啓発活動になると思いました。
このアンケートにより、自分事として心構えのきっかけとなりました。避難所の種類など、知らない情報が多いことが分かった。
この地区は今のところ安全なので防災訓練など自治会や消防署が声をかけるか、人生に同じ日は二度とないのだから、防災の大切さを大事に自治会等も参加して明るい毎日安全な毎日を送ってほしいおねがいします。
この中にはありませんがペットをつれている人が安心して預けられる場所があると避難所へいくことができますが、ペットは人と離れると心配で吠えてしまいます。そのため車の中とかで避難したりすることが考えられ、そういう人の考慮もお願いしたいです。
コロナのワクチン接種の対応レベルでは、あまり期待できない。やるべきことは、山積みだと思う。ちゃんと仕事をしてください。
コロナ禍でも誰もが安心して、避難できる場所の確保。特に避難所が感染症の面で危ないのではないかと躊躇してしまったために命を落としてしまった人がでないようにしてほしいです。
コロナ禍における国、地方自治体の取り組みを見ていると、不安を感じる。具体的には分かりませんが、国と地方自治体が国民のために協力し合い、国民もそれを見て、国・地方自治体を信頼できるような、努力をお願いしたい。
こんどのコロナで老人の多い横浜市は最悪でした。もっとしっかり対さくをしてほしい、地しんにおいてもしかりです。
こんなにたくさんの質問に驚かされました。力を入れていらっしゃることに感謝です。若いころは、子ども小・中・高の役員をして頑張りましたが、今は静かに余生を送りたいと願っておりますが、コロナが憎らしいです。
こんな長いアンケートに答えるほどヒマではないです
コンビニ、ファミレス等と協力し避難場所など災害時の対応を日頃から周知させるように検討願いたい。
ストレスを感じてしまう様な状態にならないような取り組み。
スマートフォンのバッテリーの（充電）仕組み（ポータブルバッテリーを配る。充電ステーションを設置etc）
スマートホン等への緊急速報メールは助かります。今回の大雨でも注意喚起になりました。町内会単位でその地区のハザードマップ、注意点等各家庭に配布するとよいのでは？
スマホ、SNSなど持っていない人に災害対策をどう伝えてくれますか？私は所持していません。

その地域で、おこりうる災害の具体的な被害をシミュレーションして、提示してみるとか…！？
そもそもこういったアンケートに対し、ペーパーベースでアンケートを取っていることに不安を覚える。インターネットも利用を推進し、また各家庭への周知徹底を行ってはどうでしょうか？高齢者も含めて。
それぞれのジャンルを得意とする企業と協力し、スピード感を持って対応してほしい。ワクチン接種のスピードワーストクラスのようにならないでほしい。自衛隊の大規模接種に横浜市民が殺到したのは恥。税金高いのに本当にかかりしている。
それぞれの分野で対策を行って頂いて、私市民にとって有難いことです。横浜市は今のところ大きな災害が起きていません。ただ情報の誤報だけはおさえて頂きたい。乱筆にて
それを考えるのが役所の仕事です。もし本気で意見をまとめて対応したいと考えるなら、対象無作為抽出のアンケートではなく、広く公募して対応すべき。
たぶん町内会毎に防災用品等を備蓄箇所があると思いますが、災害が起きた時に、誰がどのように住民に配るのか、はっきり知らせておく必要があると思います。
ダンボールベッドとか家族単位で避難スペースを確保するとか、災害は必ずいつか起こるので避難生活の質を上げる工夫を今から自分事として考え準備してほしい。
デジタル化。横浜外の家族・親族から安全確認できるシステム。
デマが多いので緊急時の情報を地区事に細分化した正確な指示を出す事に取り組んで欲しい。
デマ情報を徹底的に取締る。
テレビ3チャンネルをもう少し多く活用してほしい
テレワーク中なのですが自宅で仕事をしていると、いかに災害リスクをせおって通勤していたのかがわかりました。テレワークの推進をおねがいします。テレワーク助成金、減税などのご対応をお願いします。
どうしても避難所へ行きたくない（精神的、身体的）場合、家でテント等を立てて、避難をしますが、その場合の食料、水等の配布をどうするのかを対策して欲しいです。
どこでどんな情報が得られるのか、リストを作成してほしい。メディアが危機を過剰に煽らないように抑えてほしい。
とにかくインターネットを利用した正確な情報提供
とにかく住人が多いので、皆が避難出きるような体制をつくってほしい。
どのような対応でも、スピード感を意識して動いていただきたいです。※横浜市の防災メールよりも、早く通知が来るアプリがあるので…
ともかくアンケートが長くて多すぎる。
なるべく停電や、ガス、電気、水道が停止しないように、日頃から点検と部品を新しく交換したり、整備に強化してほしいです。避難所についても具体的に、何人避難生活できるのか、決めてほしい。わりふりを具体的に計画してほしいです。近所の小学校は、何人ぐらいまで入れるかの制限を決めて、行く場所がない人が出ないように準備してほしいです。人口が多い所には、避難所をどんどん建設してほしいです。避難所に強化をしてたくさんつくってほしい。
ハードの整備状況を「広報よこはま」等で周知して欲しい。
ハザードマップは広報誌などでは知らせていると思うがけっこう見ていない。町内会の掲示板等で少し大きめに表示してもらえたら外に出た時に目に付くと思う。
ハザードマップ等は配布するだけでなく、実際の活用方法を指導した方が良いのでは？マイタイムラインについても作成を勧めるだけでなく指導を強化したら。ホームページで情報提供すれば良しと考えるのはやめたら。
パソコン無しホームページわからない。
ひとり暮らし用で隣の顔が見えないマンション地区での防災チーム、意識づくり。若者のひとり暮らし、単身マンション・アパートでは自分たちだけでは関係づくりができないです。
ペット（ねこ）がいます。安心してひなんできる場所作りをお願いしたいです。でないとひなんもできません。
ペットがいるので、ペットと避難できる場所を知りたい。情報を発信してほしい。
ペットがいるので避難できないと思う。どうすれば？
ペットとの避難に不安を感じるので避難所での同伴可、不可を知りたい。
ペットと一緒に、避難できる場所
ペットや小さな子どもがいると避難所を利用しづらい為対策を取ってほしい。帰宅困難者への受け入れ先や水や食事が取れる所がわかりやすいようにしてほしい。

ペットを連れての避難場所、ペットの食料の供給
ホットラインの確立（複数）、身体障害者への避難対策の具体案強化
マイナンバーを活用して誰がどこにいるのか、全国の自治体と連携して情報収集する仕組みを作ってほしい。職場：東京、自宅：横浜、子どもの学校：藤沢市、バラバラの自治体なので。
まず、ライフラインの対策が大事と考えております。
まずは学校で時間をとって、小さいうちから防災意識をうえつけてほしい。又人と助けあう重要性も。
まだ分からない
マンション1Fに住んでいます。前に高い水路があり、地震の際にくずれてくるようなので心配しています、大丈夫でしょうか。
マンションの6Fに住んでいます。父92才、母84才。エレベーターが止まると家にいるしかありません。高齢者への支援を強化して下さい。
メールやツイッターの情報だけでは確認できない人もいるので他の方法での伝達も考えてほしい
もっと細かく避難体制などを知らせてほしい。家族困らないようにしたくても、調べ方が分からない。
ライフラインがとまることの無いようにするのが、一番だと思う。水道管ガス管の老朽化が心配。
ライフラインが数日途切れた時用の食料等の各家庭への供給を確かな物にしてほしい。（ある程度は家庭で確保はしているがどれくらいの災害期間になるかわからない為）
ライフラインのスムーズな復旧をお願いします
ライフラインのバックアップ体制
ライフラインの強化
ライフラインの強化と避難所などの食料や毛布トイレの備蓄
ライフラインの充実
ライフラインの常時供給
ライフラインの素早い復旧への設備、体制の強化
ライフラインの早い復旧
ライフラインの早期復旧のための体制の確立。特に、電力の確保。
ライフラインの早急な復旧を常々心掛けて欲しい。千葉の様に電線に倒木で、何日も復旧出来ない様では！
ライフラインの早急の復旧
ライフラインの損壊時は、復旧作業の進捗状況を報道すると共に、早急な復旧工事を実施していただきたい。
ライフラインの耐震化
ライフラインの耐震化がどこまで進んでいるか、マップを作成してほしい。
ライフラインの復旧
ライフラインの復旧→生活できるように、生存安否確認もっとスマホを活用して欲しい、IT化が進んでいない。
ライフラインの復旧が早くできる対策に力を入れてほしい。
ライフラインの復旧方法と状況のお知らせ方と何処に行けばわかるか。
ライフラインの老朽化対策を早急に実施してほしい。実際あちこちで水道管破裂や、道路かんぼつが起きている。
ライフラインが一番大切なので施設が被害に遭わないよう取り組んで頂きたい。
ライフラインは自宅での避難生活で重要になると思うので、早期復旧できるようにしてもらいたい。
ライフラインをつなげる様な取りくみ
ライフライン施設、短期復旧、備蓄の配給敏速加
ライフライン施設が無事なだけでも、避難生活中の大きな心の支えになると思うのでできる限りでいいので強化していただきたいです。
ライフライン施設の修善等
ライフライン施設の耐震性を向上させてほしい。（電線の地中化や太陽光電力生産の補助拡大など）
ライフライン復旧までの避難生活ができる。
リアルタイムな情報提供
わかりやすい対策をしてほしい

安心して生活を送れるよう、取り組んでいる内容（備蓄の状況など）を分かりやすく公表して欲しい。（SNSなどでも）
安全な避難ルートを携帯の位置情報で誘導してもらえるツール開発、※高齢者やハンディキャップ者や健常者それぞれの身体状況にあった避難先、ルート案内
安全に取り組んでほしいです。
安全への準備と市民へ防災の啓発活動を増やして欲しい。
医療ケアが必要な人が避難できる体制作り→体が不自由だと避難できない、仮に避難できても、医療機器がないと生活できない、医療設備のある避難所又は避難拠点となる病院などが必要。
医療ケアのある車イスの子供がいます。まだ小さいので、抱っこして避難すれば…と考えてしまっていたが、成長したらそうはいかないので、今のうちにいろいろ考えないといけないと思いました。いい機会になりました。ありがとうございます。
医療に関して、災害の内容、被害により、大きく必要な医療内容が刻々と変化しますので、必要時に必要な医療（福祉）の提供体制が必要と思います。
医療体制強化への支援。充実策には万全を期してほしい。コロナ禍も続いており、市民の安心、安全、健康、命を守るために尽力している医療従事者の方々への待遇についても、向上を図って頂きたい。
一人暮らしの高齢者の方にどのように伝達をしていくのか、とても気になっています。
一般参加による訓練。対策の具体的PR（広報の充実）
一般住宅の耐震補助の増幅、強化
飲み水、食料など、家庭ではなかなか大量には確保できないので、管理できる倉庫を増やしていただきたい。要配慮者の方々の安全な場所への速やかな移動を強化願います。
英語でなく日本語表記だと年寄りにも理解できるのですが…。
沿岸部は京浜工業地帯もある為、停電や災害による事故への対策
横浜はとにかく人口が多いので、災害時のライフライン、備蓄の充実・確保は重要だと思います。
横浜は崖が多く、大雨で土砂崩れなど発生があることがおきるので、十分対策を取って頂きたい。
横浜は急な坂道や細い道が多いので、緊急時には救助車両が入れなかったり、混乱により高齢者世帯は特に移動が難しくなると思うので避難の必要のない街作り、家作りを推進してほしい。
横浜駅周辺の水害対策
横浜市が行っている事を皆が周知できるようなこと
横浜市という大きなくりでなく、区として地域として対応すべきことは異なるため、それぞれに行ってほしい。
横浜市にまかせます
横浜市に移り住んでから防災無線を聞いたことがないように思います。警報や避難指示の発令時に、どこにいても聞こえるようにしていただくと助かります。
横浜市のホームページに得てして、説明等（能書き）が多く肝心な内容を見つけにくい傾向があるようです。緊急時こそまずは！大事な事を簡潔に。説明はその後に。それも内容を理解している書き手（行政側）が分かる内容ではなく、ホームページを初めて読む市民に理解出来る説明をおねがひいたします。
横浜市の施策は、他の自治体と比較すると全てにおいてスピード感が無いので、緊急時に速やかに行動を起こせる体制をすべき。（コロナワクチン接種についても、後手後手で遅すぎる）市長のトップダウンが問われる事態の時に機能していないのは如何なものか…。
横浜市の人口に対して避難所のキャパシティが十分か不安です。
横浜市の無策ぶりに驚く！コロナで良く分かった。
横浜市は、大都市なのに、何をやっても、遅い。至急に考えてほしい。
横浜市はIRリゾートではなく、国際的なモデルとなる医療健康・防災都市になることをめざして欲しい。
横浜市はアイアールなどに力を入れるのではなく市長は市議会議員からの市民の声にもっと耳をかせ。
横浜市はなんでも中途半端のような気がします。もう少し高齢者や体の不自由な方への支援などもよろしく願ひいたします。
横浜市は規模が大き（大きすぎ）小回りがききにくいので地域ごとの決定責任者を予め決めておくなど柔軟な対応策を考えておく必要があると思います。（例、コロナウイルス等でも動き出しが遅かったと思います。努力は認めますが…東京等ずっと人口が多くても区や市ごとに権限が割とあり横浜市よりは小回りがきいているように見えます。）

横浜市は斜面地が多いですが、こんな急斜面によくも家を建てるなど感じるくらい、土砂崩れが起きたらひとたまりもないような土地に家が建っています。(マンション含む) この辺の規制や土砂崩れ対策を強化すべきだと考えます。
横浜市は人が多いので避難する時の目安をもっと分割して欲しい(一気に避難すると様々な所でパンクすると想定します)
横浜市は人口が多いので「公」に何かやってくれることは期待していません。あまりに人が多いからやれることには限界があるでしょう。こういうことは、できないから、ここまでは各自やってね。というメッセージをもっと強く出した方がよいのではないのでしょうか。
横浜市は全てのことにおいて、他市に比べて取り組みが遅い。コロナの時に切実に思った。市民が多いのが分かるが、税収入もあるのだから、市民のことを思った取組みをお願いしたい。スピーディーに!
横浜市へ移住して8年経ちました。田舎では横のつながりがしっかりありましたが、マンション住まいはそれが全くありません。大変気楽ですが、災害の時は困りますね。
横浜市も災害対策を強化してくださっていると思いますが自分達で、注意、対策していなければいけないと思いました。
横浜市以外の地域受入れ体制の強化
横浜市域の多くはがけが多く地盤が弱く道路が狭い等災害に弱い状況です。また転入者等人の移動も激しく町内会は機能し難い状態だと思います。この中で①時間を要するが災害に強いインフラの構築(がけの補強、道路の拡幅、消防体制の増強等)②町内会もさることながら職場を通じての意識啓発(職場への講師の派遣、防災教育の要請等)の強化が肝要と考えています。
横浜市営地下鉄を利用しているため、地震や津波による浸水時の対応がとても気になります。避難方法・防災などについての情報を知りたいです。
横浜市中区、西区の地盤はゆるい。がけ崩れ、河川の増水などの対策が弱い。
横浜市内には地下水が流れてるところ(湧水が多い)が多いので、当該地域に多くの手押しポンプの増設及び、地下水を利用した水槽を設置すべきである。水槽は毎月行う消防団の訓練時に使うと良い。災害時、一番必要なのは水である。地震等で家屋が倒壊すれば、木材はいくらでもあるので、水があれば煮沸すれば飲料水にもなるし、体を拭く等の雑水として利用できる。いくら避難所に行っても、水が無くては広域避難場所の役割を有しない。また広域避難場所には大量のトイレの設置が必要である。公園の端には下水道を作り、避難時に大量のトイレを使えるよう設置すべきである。高齢者の避難には、赤ん坊の背負い帯(大人用)を設置させる方が良い。車いす等は、障害物等があると避難が大変である。背負って逃げる方が早いし両手が使える。
横浜市内の現時点で災害をもっとも受けやすい、がけくずれ、河川の氾濫、火災時の狭道路等の対応。 ※大雨等の時、いつも同じ所が災害を受けている。
横浜地域別地震災害についての学術的な断層研究調査、風水害、気象条件を過去のデータに基づいて、風、雲、雨の働き等、災害に備えるよう市民に積極的に広報活動をお願いします。
何も期待していません。横浜市クソだから。
何事も素早い対策を希望するしだいです。
可能な限り公平性が保てる仕組みと横浜から帰宅する(経由も含め) 難民への手助け
家の近所にがけ崩れ注意の場所が多いので、災害で崩壊する前に対策してほしい。
家の裏はコンクリートの崖になっており、3~4年前に市の診断があったがその結果など何も発表されずにいる。結果、耐震性があるのか何年後には修理が必要とか知りたい。
家の立地は個々に異なるので各家庭に避難所への略図を配布して欲しい。
家計が大変な時はやりくりして出費をなくすように横浜市も人口が減ってくる訳ですからカジノ等をつくらずにやりくりして、市民が永く住み続けてよかった感じ次の代まで港横浜を歴史のある町にしたい。災害対策もその中であると思います。
家族に障害者がいるので、具体的な支援策を考えていただきたい。
家単位では難しいものにはきっちり予算を取って使ってほしい。
家庭防災員研修が良かったので、地域でも同様の取り組みを実施してほしい。
河川のすぐ近くの人家を見ると、洪水の危険が迫った時どうなるか心配になります。(土のうも防波堤のようなものも近くに見当たらないので)
河川の堆積土砂に樹木が繁茂している問題。「早渕川」近くに住んでいます。最近数百メートル土砂撤去していましたが、土砂を完全に取った訳ではないので、早速草が茂っています。上流は土砂の間を水が流れていて、これでは大雨に対処出来ないのではと心配しています。
火災だけは出したくない。特に自分だけ気をつけても他からの火災の心配。
火災発生により熱風からの避難指示。

火山噴火による降灰等実感的にわからないが、火山警戒レベル導入してください。
我が家は、強固な家に建て替えたので地震や強風には強いと思っている。水、食糧の備蓄をしているが3日以上になったとき水、食糧はなくなる。配給を強化してほしい。
介護者がいるので、移動する時など、助けてもらわないと出来ないなので、協力してくれる体制を望みたい。
皆が知識をもち、日頃から行動すること。
外出時の自衛方法をもっと知りたい。
各家庭での備えを強化するよう、具体的な例を挙げて知らせてほしい。(一人当たり〇〇を〇〇個等)復旧。(ライフラインの)このアンケートで防災・準備について再考しようと思いました!
各家庭で水、食料の備蓄はしているが、水はやはり必要なので給水車など早めに手配してほしい
各個人が行える災害への備え以外の減災対策(具体的ではなくてすいません)
各自治会などに災害対策の強化に取り組むように働きかけてほしい。
各自治体で防災無線を取りつけたほうがよい。
各自治体に属していない(の会にいない)要介護者の扱い。非常時の●強制入会等の支援
各地域(コミュニティ)自助・共助の連携育成。その中で市の大きなくりのサポート。土地開発より自然環境を育む方向検討頂きたい。
各地域によって環境が違うから、地域における防災組織が必要だ。担当は大変と思いますが、年1回は避難訓練をしたい。(避難所まで)その時、参加者にペットボトルのお茶は不要。経費はかけずに命を守る訓練をしたい。
各町内会に防災活動・初期消火・応急活動の拠点となる公園などを整備してほしい。
学校、公共施設の安全な場所を広報で通知する。(収容人数等も)
学校で必修化にすることで、それを学んだ子どもたちが大人になっていくので、横浜の防災の意識は高まると思います。各自治体でのつながりを目指すのであれば、皆が参加する夏祭りにて、パンフレット配付ブースなどあってもよいのかなと思いました。ありがとうございました。
学校に災害用の倉庫を作るとか。
学校の水・食料・毛布などの十分な備蓄
学校の老朽化への対策。手軽に災害情報が入手できる、登録が簡単なサービス。
学校やしょくば、家ていへのチラシなどを用いて、たくさんの方が予防ちしきをもてるようにするべきだと思います。
学校や公共施設などとの広い場所は避難場所として使っていますので、耐震化・安全化に関して取り組んでほしいと思っています。
学校や公共施設の強化です。カジノなんかにお金を使わず、目先の強化にお金を使ってほしいです。
学校や公共施設の充実
感染症対策、クラスター対策
企業数が多い横浜市では企業と協力し従業員への防災物資の確保はもちろんのこと、地域ケアにも力を入れるよう余剰物資の確保も行って頂きたい。
危機管理不足コロナで痛感しています。
危険な急な坂道に土砂崩れに対策をとってください。
危険な場所を細かくはあくし、整備し、市民の周知してほしい。どこが、どんな時、どのくらい危険なのかほとんど知らない。
基礎疾患があるため、避難所での不安がある。
帰宅困難者への対策
帰宅困難者への対策が優先的にした方がいいと思う。
給水所、非常時用のトイレをより複数の場所に数多く設置してほしい。
給料保証、仕事、家族
旧新興住宅地の地震による地すべりの危険性の周知と、その対策、備えについて、知らせてほしい
共同住宅管理組合を自治会単位として認めてもらいたい。共同住宅の居住者が自治会員になる割合は40%程度で、被災時の体制構築が困難である。
境川沿いなので、川床にたまった土や石を毎年台風シーズン前に取り除いて欲しい。
強い地震が起きた際、近所住民の全員が近くの公園等に安全に収容可能か不安です。(特に真冬)避難所で全員の命が確実に助かる事が分かる資料があるとうれしいです。
狭い道でも、まだブロックべい(6段以上)のある家が近所に何ヶ所もあります。しかも通学路です。倒れたら緊急車両が通れなくなるので早く全て撤去してもらいたい。

狭い道路、古い住宅、川も海も山も横浜市にはあるため、大きな災害が発生した場合、それぞれの要因がそれぞれ被害を出さないように対策をしてほしい。過度な開発工事で山を崩す、埋立地を増やさない。その反面インフラを含む道路などの整備、災害に対して脆弱な都市機能では、避難できない、避難してもその先で生活ができなくなる、そんな事態にならないようにしてほしいです。
緊急エリアメールの強化。スマホアプリで指示して欲しい。
緊急の指示が遅くならない様に希望します。
緊急時に安心して過ごせるようにしてほしい
緊急時に協力しあえるように情報をなるべく共有したい
緊急時の警報や避難指示をスマホの緊急一斉メール等で知らせてほしい
緊急時の体制については、あらゆる手段を通じて市民に対し告知を徹底し、有事の際の確認手段を明確にして欲しいです。
緊急時の避難指示を出すときの持ちものなど事前に教えて頂き、すぐに動けるようにすると良いと思います。
緊急時は広報車などで住宅地を回って、避難などの呼びかけをして欲しい。
緊急速報メールの活用。
近くに高齢者が多く体の不自由な方への対策を、お願い致します。
近所との交流があまりない今、どこまで声をかけられるかが、問題の様子の今、地域での防災対策等の声かけを行政側からある程度必要と思います。難しい問題です…。答えが難しい…？質問ありでした…。
近所りがけが多いので、しっかり対策してほしい。一般住宅の耐震診断を行政主導でやってもらいたい。(どこに頼んでよいかわからない)
近所に庭の樹木が道路の電線に覆いかぶさっている家があり、電線が切れるのではないかといつも心配している。横浜市はこのような状況をきめ細かく調査し、善処することが防災計画の第一歩ではないだろうか！
近所の安全を確認できたら避難所での協力、自助、協力がスムーズに出来たら良いと思います。
近年災害が多くなっており、現状の避難所へは行きたくない人がたくさんいます。カジノや舞台演劇へ税金を使わず災害対策に使って欲しいです。市民の安全、安心を希望します。
近隣の避難場所として小・中学校と聞いているが、実際に災害があった場合本当にそこに行けばよいか心配な点がある。場所が谷になっていて水害はまずそこが一番危険なのではないかと思う。また、自宅からかなりの階段をくだらないと行けない等…ガケくずれがあったら行けない。日頃から実際に災害があった時に避難所とされている場所でどんなことをしてもらえるのかなど具体的な避難場所・方法の周知をわかりやすく示して欲しい。災害があったとき何をたよりにすればよいのかなど…。
金沢区357号線に平行して福島放射線汚染土が置かれ埋められようとしています。もし津波が来たら心配しています。もれ出ないよう何十年経っても、忘れられてももれ出ないようしっかり保管してほしいです。
区や各地域への具体的情報提供
区役所等でいろいろな情報発信しているが、多すぎて分かりづらい…。地区センター等で、この地区でのそれぞれの災害時の情報やひなんマップを配布して欲しい。マンション、一軒屋ごとではなく、地区ごとで考えてほしい。1年に1回、集まってその地域に合った説明。(河川の近く、海岸、山間部…では心配することが異なります)
具体的なスケジュールを作成し、スケジュールの達成度をわかるように連絡して欲しい。
具体的な情報を適切に更新してほしい。
具体的にはわからない
訓練の実施(年1回)
携帯電話、パソコンなどを持っていない人への緊急時の避難指示等を知らせる体制を考えて欲しい
警報が雨風の音で聞えない。その前にふつうに聞こえない。もっとはっきり聞えるように、各地に設置してほしいです。
建替やリフォーム時の耐震補助額の増額をお願いしたいです。
県や市の広報等で緊急時の行動の仕方の掲載させたり、電気・ガス・水道などのライフラインをどの様に提供するのかしっかり伝えて欲しい。
見て、聞いて、明確に安心することのできる情報の発信を随時行って頂きたい。
原発などによる放射性物質の拡散などについては正直に、正確に状況を伝えて頂きたいです。このアンケートを回答したおかげで防災について改めて考えることができました。ありがとうございます。
現在コロナウイルス感染がおさまっていない状況下で、災害が起きた場合の医療体制を確立しておく必要があると思います。

現在のマンションに移転して約2年程であり、地域ならびに住居の十分な状況を理解しておりませんので、失礼致しました。
現在も水道のライフラインを耐震性の高いものに交換しています。今後も引き続き行ってほしい。
言った者勝ち的な今の社会。本当に困っている人は、声を上げることもできない人たちです。税金をムダづかいしないでいかしてほしいです。宜しくお願いします。
限られた財源を何にどのように充当すべきか、改めて精査が必要であり、災害へのハード・ソフトの対策は、最優先されるべきものの一つである。
個々の災害対策を充実させることは勿論、重要です。並行して市民の災害に対する意識向上を図らないと効果は半減するので、市の取組を更に周知させる方策を実行することも重要と思います。
個人で用意すべき最小限の水、飲料など、期限が切れてもそのままになっているなど、なかなか分かっていないが買い替えができないでいます。町内会などで、積極的に注意をするなどしていくことも必要ではないかと考えました。
個人的取り組みでは対応できないような建物、インフラなどの災害対策に力を入れて行ってほしいです。
古いブロック、ヒビの入った塀等補修倒れると危険
古い町の道路はばを広くし、延焼しづらくする。
公園・緑地のがけ崩れを防ぐ管理方法について
公園でのトイレ設置、給水車の手配など
公共のライフラインなどのメンテナンスにはお金を惜しまないでいただきたい。
公共施設、ライフラインの強化。生活必需品（食料含む）の備蓄。
公共施設が避難場所になるので、公共施設の安全性を高めるように、高台に移転したり、周辺の道路を拡幅したり、補強しておく。
公共施設等の耐震化。地盤沈下の防止。
公的な避難場所の確保と整備。
広く皆に知ってもらう。実際試してみる事が必要と思います。そのような機会があるとよいと思う。 (災害伝言ダイヤルWeb171、Janpi等)
広域な災害になると助けてもらうことも難しくなるのでまずは自分の身は自分で守るという意識を皆に持ってもらうことが大事かと。(教育や訓練など、所属している学校や職場で啓蒙する)
広報などで、ピンポイントで宣伝して下さいませ。
広報紙等で、住んでいる地域の最新のハザードマップを配布してほしい。
行政でつくられたものを市民にしっかりと伝えてほしい。起きてから行動する人が多いと思うので、強制的にでも知らせてほしい。
行政では災害対策をいろいろと頑張っているとは思いますがもっと個々にとっての準備をどのようにしたらよいかを具体的に提案してもらいたい。
行政にはあまり期待していません(300万人の人口に対応できるはずがない)自分と家族の命は自分で守る、を基本に対応するつもりです。
降灰の危険性に対する教育が不足している様に感じます。
降灰への対策とは、横浜に住んで40年近くになりますが考えておくべき事なのかを含めて“ひやり”といたしました。横浜市と降灰についてどうあるべきかどうすべきかご指導をいただきたい。
高層ビルやマンションを建てるばかりではなく、避難場所となるような広い場所や公園なども、きちんと確保して、残しておいてほしいと思います。また、インターネットやSNSは高齢の人は使えない人も多いので、情報が集約された冊子なども定期的に配布されると、必要な時にすぐに見られて良いと思います。
高層マンションでどのようなことが起こるのかどう対応したらよいか知りたい。具体的に災害に備え準備すること災害の生じた場合にどう行動したらよいか分かりやすく周知してほしい。例えば家具の転倒防止対策はどうしておく、備蓄すべきもの、地震が起きたらマンションの1階に降りる?などがわからないため。
高令者、一人ぐらし、病人への配慮をお願いしたいです。
高令者なので情報の取り方が良くわからないので広報よこはまに読むしかない。
高齢なのでリカイできない所がありました。18、19、20ページは別刷にしてもらっておきたかったです。
高齢の一人暮らしなので、特に注文はありません。静かな生活の中で人生終わりたいです。
高齢化にともない精神的アップクによる意志そうしつの時しどうは。

高齢者、単身者、自治会不入会者への広報、情報伝達方法が課題。
高齢者が多くなり、災害時の支援に力を入れて頂く事をお願い致します。
高齢者が避難所等で体調が悪くなったりと。医療関係が巡回するようになればと思います。
高齢者にとってはとても複雑で、質問も多すぎると感じました。(90代)本人に尋ねながら代筆しましたが、一人では無理な点も多いです。どうぞこのアンケートを大いに活かしていただきたいと思います。
高齢者にも理解できる伝達方法をお願いしたい
高齢者ばかりでなく、母子家庭、ワンオペ育児者の避難が大変であることの理解や対策。複数の子どもを連れての母親の避難は、躊躇してしまいがちである。
高齢者は携帯を持っていない人が多いので避難指示などは自宅に居ても聞き取れる様、地域をまわり警報を出してもらいたい。
高齢者への医療
高齢者支援の充実
高齢世帯が多いので確実に避難指示が伝わる取組をして欲しい。
国、県、他市(県内の)と、常に連携がとれて、県民、および横浜市民が安全に過ごせるような仕組みを作してほしい。
国は定年退職した方々を70才まで延長して再雇用して活動させたいと考えていますが、現状はボランティア不足で地域を支える方が減少しています。家族にくすぶっている(男性=夫)方に「やる気」名誉職等を与え参加させ易い方法を思考されてはどうか?
今でも十分な対策をして頂いていると思いますが、より一層万全な体制だと心強いと思いました。
今までの経験から対策は色々と検討されていると思います。コロナの中、考える余裕がない2年間でしたので、これからの安全対策のための情報強化は町のスーパーなどと組んで伝達強化が良いのかと思います。スーパーのサイネージや空きスペースに避難時の方法やアプリの紹介などを掲示するなど
今までの災害を見てきて、ボランティアの重要性を痛感します。子どもの頃からの教育に入れてほしい。
今回、アンケート調査票を頂くことによって災害時徒歩帰宅者支援ステーションを知る事ができて良かったです。もっと沢山のの人に周知できるようにお願いします。
今回コロナワクチン接種予約において電話、パソコン、携帯から申し込みの市の設定は市民に親切でしたでしょうか?市の伝達のあり方を思い知らされました。110や119への電話にも影響が出たとの事、どんなに一人暮らしや高齢の方アナログの方が何日も不安にさらされたことでしょうか。また、大雨・台風の広報車の音声は家の中では聞き取りにくいいため、各家庭への防災無線システムの普及を望みます。大きな災害が起こった場合、市への不安が今回のワクチン接種予約の件で増しました。どうかよりよい横浜市のため、力を入れて取り組んでいただければ幸いです。又、カタカナ語が多く使われ始めましたが幅広い年代、背景の人々に分かりやすく、そして意味を正確に伝えられるようにカタカナ語を精査していただき、日本語を併記して伝わるようにしてほしいです。
今後も防災について地域連携を図り、一人でも多くの方の手助けをしていきたいと思っています。
今私の住んでいる団地は地盤が固く、建物被害は少ないと考える。火災と電気水道通信が途絶えて道路が不通となり陸の孤島となるのが心配。
根岸森林公園など公園・学校周辺の電柱の撤廃
最近、いろいろな災害を目に耳にし、怖くなってきています。このアンケートをもとに、これからはもっと積極的に取り組もうと思っています。
最低限の生活が出来る(災害時にも)体制の強化
災害があった時、その地域別の危険度のマップを配って欲しい。住んでいる地域のひなん場所と、食糧とか配る方法とか今何も解っていない。地域ごとのくわしい案内図等を各家に配って下さい。(どこにひなんするか地図等)各自治体からでもよい!!
災害があっても、持ちこたえる場所を確保。災害時、どこにいるかはわからない。(自宅とは限らない)のでいる場所で、助け合う精神を共有するべき。排他的になりがちなので。
災害がおきても、なるべく衣食には困らないようにしてほしい。住がこわれても衣食が心配なければ少しはおちつけるので。
災害から命を守るための備えや避難場所、経路等の周知など強化していただけたらと思います。(このアンケートが自分の防災を見直すきっかけになりました。)ありがとうございました。
災害が起きた季節によってもちがってきますが避難場所の空調(冷・暖房)の確保を先決にして頂きたいです。簡易トイレの設置が一番必要かと思っています。
災害が起きた後の対応を強化してほしい。

災害が起きた際、あわてず対処できる様、緊急警報を早めに通知したり、身ひとつで避難しても不安がない様に十分な備蓄を用意してほしい。
災害が起きた際、家や車で過ごす方も多いと思います。ライフラインをなるべく早く回復できること、回復できた際の連絡の手段を整えること。ケガ、食事など困っている方がいないか、確認できることなどをお願いします。
災害が起きた時、横浜市の住民全員を安全に守ることができるのか、明確に示してほしい。
災害が起きた時早く情報を得たいが、スマホ等の扱いに不慣れなので、受信に不安を感じる。
災害が起きても、なるべく不自由しないように備蓄の強化
<p>災害が起こってしまったら、横浜は火災等の被害も大変なことになると思います。心の準備や各家庭でも万全な備蓄等をしていても、もしかするとその備蓄物も使用する事さえできない状態かもしれません。そうなってしまった時に、やはり水、食料等は頼らなければならなくなってしまうと思っています。そして耐震診断、耐震補助もすごく大変ですが、すごく大切な働きだと思います。地震にしても水害にしても、災害が起きたとしてもまず何より建物倒壊、半壊等を少なくすることで、自宅で過ごせる方も増えると思いますし、混乱が減ってくれると思います。混乱が減るということは、家の中で落ち着いて考えられることもできたり、各家庭でしっかりした行動もすることが可能になります。各家庭で準備をしていた備蓄も、建物が安心していれる場所でこそ役に立つと思います。何より混乱すると、パニック等は移ってしまい、無駄な行動をする人、焦り過ぎて周囲が見えず、人が人を傷つけることにもなると思います。どんな災害が起こってしまっても、外に出ると危険な場合もたくさんあると思うので、一つでも多く建物が倒壊、半壊せず人を守ってくれることができるのであれば、出来るだけ耐えられる家を（強度を）増やしていくことも、大切な事だと思いました。簡単に書いてしまっていますが、実現等することはとても難しいと思います。横浜中の家を耐震診断することだけでも大変だと思います。全ての家の耐震補助をすることも無理と分かっています。ですが、何らかの災害が起きた時、一軒でも多くの家が耐震補助等で倒壊がなかったり、無事に耐えてくれることができれば、家に留まり様子を見ることも可能になり、何より落ち着いて考え、行動することができる人が増えてくれると思います。パニックによる混乱が少なくなってくれば、慌てる人が減るということで、慌てた事でのケガ等も自然と防げると思います。家が外へ出るより安心の場所になってくれば、人の不安な心も和らぎ、パニック混乱、そして各家庭で備蓄していた物等も各家庭で補えることができるので、横浜で備蓄をしている物も、足りないってこともなくなるのでは？って思いました。突然のことが起こると、人は誰でもですが、意味不明な行動を起こしたりしてしまいます。一瞬で世の中が最悪な状態になり、今自分に起きている現実を知ると、恐怖のあまり何も見えなくなり、我先に、の精神が前面に出て、自分のことしか考えられなくなります。食料、水、人のものを奪ってでも生きようとします。皆が皆、自分のことしか考えず行動すると、それが人から人へと移っていくようになり、エスカレートしていくと、それがスーパーに入り、食べ物等を持って行く等の犯罪が増えていきます。少しの混乱する行動で、混乱が混乱を生んでいきます。横浜は人も建物も多いです。だからこそ、一人一人が無理かもしれませんが、落ち着いて行動することで、災害で受けた被害も少なくできるように思います。被害を受け、すぐに対応できないければ、本当に最悪な状態になり、被害を最小の状態に止めないと、取り返しがつかないような気がします。混乱することが、混乱が混乱を呼ぶことが私は一番怖いので、私は一軒でも多くの家が無事でいられるように、耐震補助は必要だと思っています。そして災害ボランティアの育成等、防災等の研修等もとても大切だと思っています。横浜が災害にあってしまった場合を想像しただけでも、今から不安でいっぱいになってしまうし、色々な面で、災害に対しても知識等を頭に入れておいてくれる人が多くいてくれるなら、力となり、きっと不安でいっぱい、それがストレスとなり、我慢が続き、きっと時間が経てば経つほど、どうにもならないイライラも不安も悲しさも、恐怖だったり、そして先が見えない絶望でどうにもならず、精神的にも限界を迎えることになると思います。その時に、災害ボランティアの人を育てておくと、いろいろな面で活躍してくれると思います。色々な場所で活動もできると思います。そして防災等の研修等にも今から力を入れるのも良いと思いました。私は若いころ、防火管理の取得をしたことがあり、その授業といいますか、消防のことを教えて頂きましたが、教え頂いたことは、思い出そうと思ってもなぜか思い出せないというか、私自身は忘れてしまっていると思ってたんですが、その授業を受け、防火管理を取得いたしました。それから20年以上が経ちますが、一度頭の中に入れた知識等は、大切な必要な時には、ちゃんと現れてくれることが分かりました。そして、消火器等の扱い等も体が覚えていて、実際に数回、ボヤ程度ですが、知らず知らずのうちに忘れていたと思っていた記憶や、体が覚えていたことも、本当に自然と出てきたようで、気が付いた時には冷静に、全く慌てることもなく消火活動をしていて、何十年経っても頭に入れた知識や体で覚えたことが出て来ることに、私が一番驚きました。なので、日頃から頭で覚えたことと体が覚えたことは、使う場面になると自然と動けると思うので、防火にしてもボランティアにしても、育成しておくのは良いことだと思います。今回、この様なアンケート調査に選ばれて、じっくりアンケートを見て改めて思ったのが、日頃考えていたつもりでも、実は真剣に本当は災害のことを考えたことがなかったと、思い知らされた感じがします。このアンケートに選ばれて、知らなかったこともあったりで勉強になりました。</p>

<p>た。ありがとうございます。このアンケートに答える機会がなかったら、そのままの生活で、いつか災害が起きてしまった時何も知らない。何もできずに、その時後悔していたでしょう。きっと何か起きてしまったからの後悔程痛いのでしょうか。私のように分かっているつもりの人や、実は知らないことがたくさんあるって人は多いはずですね。そんな人たちにも、知らなかったことがあったら知ってもらいたいです。そしていつか来るであろう災害にあってしまったとしても、頭と体に入れた災害を乗り越える術が、皆が皆自然と落ち着き行動して、結果良い方向へ行ければ最高ですね。そうなるよう、私はまずは知らなかったことから勉強します。また何かあった時には勉強になるし、忘れていたこともこのアンケートという企画で振り返ることができました。何かありました時にはぜひ参加したいと思いました。ありがとうございます。急いで書いたので乱筆乱文にて失礼いたします。</p>
<p>災害が起こる前の時点で治安を整えてほしい。路上生活の方などの整備や路上駐車などを普段から取り締まって有事の際に妨げにならないようにしてほしい。</p>
<p>災害が実際に起きた場合、食料・水などが一斉になくなっていたので、市が皆に行き渡るぐらいの備蓄があると安心できる。</p>
<p>災害が実際に発生してしまった場合、対応は迅速に（特にライフライン）進めて欲しい</p>
<p>災害だけではないですが、市民のためになる税金の使い方をしてほしいです。カジノ反対です。</p>
<p>災害にあった場合のことが他人事のように思っている自分に気が付きました。何かあったら、まず第一に停電や電力不足への対策をお願いしたいです。今の私たちの生活は成り立っていきません。</p>
<p>災害における被害を最小化するための準備、ライフラインの確保。</p>
<p>災害に関する情報をすみやかに知り易く</p>
<p>災害に関する情報の知る方法がテレビ位しかないので心配です。</p>
<p>災害に強いインフラ整備</p>
<p>災害に限らず、横浜市は対応が遅い。何に取り組んでほしいですか？でなく、これとこれは対応準備ができています、と市民に知らせられるくらい、率先して準備すべき。東北や阪神の災害からずいぶん経つのに、今この時期にアンケートを取っていること自体、お粗末な話である。</p>
<p>災害に対するハード面での強靱化</p>
<p>災害に備えた税金の適切な配分をしっかりと考えてほしい。</p>
<p>災害の後処理、とくにごみ廃棄物、下水道の補強とメンテが大切。またエネルギーラインの確保も重要。</p>
<p>災害の多い近年、高齢にともない機敏に動けない不安があり、避難するにもどうしたものかと考えてしまいます。家の近くに公園がありますが、「多くの人が集まったらどうなるのだろう」と不安です。高台にある自宅からは、避難場所は少ないと思います。なかなかむずかしい問題だと感じました。</p>
<p>災害はいつくるか解りません。いくら準備をしても在宅中とは限りません。横浜市内に居るかも解りません。観光で横浜に来ている人もいます。横浜市もちろんですが、他の地域とも連携をお願いします。</p>
<p>災害はいつ起こるかわかりません。その時の天候・時間により、被害も大きく違ってくると思います。日頃からの対策を今後もお願いしたいと思います。</p>
<p>災害は避けられないので、災害が起きた後の支援体制（備蓄品や支援品のスムーズな分配）や避難設備（避難場所での個人スペースが確保できるような仕切りとか。充電できるスペースとか）を強化して頂ければありがたいです。</p>
<p>災害は予告なしに起こるので怖いです。</p>
<p>災害をイメージすると、食料飲料が充分に行き渡らない印象と共にかたよった食事、お年寄りから小さい子まで幅広く受け入れられる食料を臨みます。</p>
<p>災害時、人々の混乱を少しでも軽減できるような仕組みづくりと、その周知。日頃よりご尽力いただきありがとうございます。</p>
<p>災害時、特に地震について、市はどこに何をどれだけ備蓄しているか。また各避難場所の収容人数等、具体的に公表してほしい。またどこにいても誰が見ても分かるように、地域ごとの避難場所、家族構成にする、取るべき行動等を作成し、全員へ行き渡るように徹底してほしい。アンケートが集計目的で終わらないように、早急な今後の取り組みの公表をお願いします。林市長の強気なIRなんかよりも重要です。2021.6.20</p>
<p>災害時スマホが使えなくても大丈夫な仕組みがあるとよいと思います。電力が使えない、または最小限しか使えない状況を想定しておく必要があると思います。</p>
<p>災害時における住民がすることの安全性を確保すること。→上記○をつけた内容を主に。避難場所の受入体制が速かにできる状態にしておくこと。日頃より市の防災体制をより明確に、わかりやすく広報し、市民が認識しておける体制づくり。現状が不明確です。</p>

災害時にどの様に対応する事が正しいのかの判断は、知識がないとできないため、情報、啓発を教育に取り込んで欲しい。緊急時の対策は、子供の頃から認識する事で、多くの人の命を守れると思います。
災害時には、大型商業施設の解放、企業の応援（物資）、幼稚園等が保有する送迎バスを避難所代わりに解放。とにかく、物資（食物）はすぐ、スーパー、コンビニ等々の在庫品を放出する。
災害時にパソコンは使えない。すべてについてスマホを意識した作りしてほしい。
災害時に正しい情報をすばやく伝達できるようにしてほしい。
災害時の医療者の研修
災害時の行動（どう動けば良いのか）を本か何かにまとめて配信して頂けるとありがたいです。こちらこそありがとうございました。お疲れさまです。
災害時の情報格差が生じないように、特に高齢者に対応した仕組みを構築して欲しい。
災害時の要支援者に対する具体的な避難場所等のわかりやすい資料作りを希望。
災害時の要配慮者（高齢者や体の不自由な方）障害者への支援対策避難方法等について。
災害時は、食料・水・毛布不足で病気になる人が増加すると考えられるので、これらの十分な備蓄がされていると、嬉しいです！
災害時は、生活物資の不足が不安なので、備蓄と他自治体や企業からのスムーズな受け入れが大切だと思います。
災害時感染症対策、メンタルヘルス対策
災害時帰宅支援ステーションのステッカーが、どの様なものか知りませんでした。広く広報して下さい。
災害時防災拠点になる学校が1つしかない。そこには200名弱の収容人数だと聞いている。4000世帯もあるのにどうするのかと。自宅避難としてもいざという時はどうなってしまうのかと常日頃から思っている。
災害時用のアプリ、webサイト等の情報発信ツールの開発と運用。
災害弱者に対する支援の強化。（徐々に徐々に）IRに熱心な市長さんでは（失礼）駄目かな…。
災害情報の収集に、ボランティアなども含めた防災組織を利用し、きめ細な対策ができるようにする人員が不足？
災害状況で取るべき行動を分かりやすい言葉で（いますぐどこそこに避難せよ！！）伝えて欲しい。（特に高齢者は理解しにくい）（警戒レベルで言われても分かりにくい）
災害対策について横浜市が取り組んでいることが伝わってこない。わかりやすく情報発信し市民が災害時にどう行動したらよいのかイメージできるように、地域に適した対策を示してほしい。
災害対策のハバが有り、よく分からない。大地震、火災、台風、噴火、たつ巻等で対応が分れるので理解しにくくなっている。+コロナ対応
災害対策はどれも取り組んでほしい。公共施設は補助電力設備を確保してほしい。ひとり暮らし要配慮者はチェックしておいてほしい。ライフラインの点検はマメにしてほしい。
災害対策は定期的なサイクルで周知を繰り返すことが重要。
災害対策をまとめた本の配布
災害対策定期的なマップの見直しを広報にて周知してほしい
災害発生の具体的な把握、すばやい救助、連絡網の整備、市民への通知、訓練など常に市民意識への確立への情報共有
災害発生時も、なるべく通常どおりの生活が送れるように、特に4と19と20を強化して頂きたいです。
災害備蓄品が、災害時より素早く平等に配られる様な体制を整備してもらいたいです。
阪神火災の80%は電気の再投入でおきている。ブレーカーの設置を電力会社にやらせてほしい。
阪神淡路大震災や東日本大震災などの教訓を活かしてもらいたい。
今年の台風時、家の前のがけ崩れが心配でハザードマップでも危険レベルに達したが近くの避難所は開所されておらず、30分以上離れている避難所は満員になっていた。今年もこのような事態になるのが心配。
子ども2人いるので、災害があった時は無事に生活をできるように祈ります。
子どもがいるため、なるべく家でいれる状況が望ましいため、電気・ガス・水道などへの対策が強化されているとうれしいです。
子どもがいるので、食料やオムツ等の備蓄品は必要以上に準備してもらいたい。保育園～中・高の施設の耐震等は必要。子どもを預ける親は心配。
子どもでも分かるハザードマップの作成

子供の安全のために、学校の耐震化・安全化に力を入れてほしい。
市の規模でしかできないようなことを積極的にやってほしい。
市の広報等で知らせてほしい。
市の財源をあてて、整備してほしい。
市の職員も被災者である。避難場所や備蓄物質の解放をどのように行うか周知して欲しい。
市をまたいで災害時帰宅困難になってしまった時の対策
市長の顔がみえない。電話がつながらない。
市内で飲食料や物資の不足が発生しない、あるいは発生しても早期に解消されるような、インフラ整備や事業者などとの協力関係の確立。
市内放送やチャイムを聞いた事がない。スピーカーはあるのでしょうか。緊急時の警報や放送ができるのか気になります。
市民ひとりひとりにメールが届くなど、情報を取りに行かなくても提供されること。またコロナワクチンのように、後手後手にまわらず、迅速に行ってほしい。
志として危機管理体制を十分に考えておいて欲しい。ワクチン接種の方法は決して良いとは言えず、高齢者が予約できずに困っている人が大勢いたが、災害時の対応も充分にできるのか不安があります。想定外のことも多い昨今、様々な場合を想定して、その対応を今から検討しておいてほしいです。
指定の避難場所にペット（猫）と同伴できるのか記載してほしい（必要なもの等）。
止まってしまった場合でもライフラインの復旧が少しでも早くできるような対策
私の家に、車イスの妻がいます。建物の●損・避難方法が心配です。
私の家は新築なのにベランダがありません。2Fにハキダシ窓がありません。これで防災ができるのかと心配しています。ここを建てたハウスメーカーは、抗議をしても事実を隠そうとしています。どうしたらいいかと困っています。7/3（土）周辺は停電していないのに、この家は漏電をしました。その後一部が漏電をしたままなのに、修理が7/21（水）ということです。火災の危険性があるのに、ハウスメーカー対応は不親切です。助けて下さい！
私の住んでいる所は、ひな段形式で家が建っていますが、いつも地震や水害が出そうな時、ガケ崩れがおきないかと心配しています。安全性をたしかめるチェックの方法など、市の力を貸して欲しいと思っています。
私はケアハウスに入居しており原則的にはケアハウスが対策を考え、実行、実施するし、また、望んでいる。今後はケアハウス入居者はかなり増加すると思う。市、行政関係者に望むことは、ケアハウスの実態を知る事。入居金にしても、0から1億円一つのcommunityとしての機能を有している。入居者はほとんどおまかせです。
私道（開発道路）の全管理責任を土地所有者に負わせるのではなく、公的責任において日頃から横浜市が道路の修繕等に自ら努めるべき。東京23区内では私道であっても行政が修繕を自ら行っていると言われています。東京都を見習ってそのようなことは最低限横浜市においても行ってほしい。
私道が近くにたくさんあるので、私道の水道管についても検査してほしい。
私有地のガケ崩れ、土砂災害の防止。
持病があるので、避難所でも薬が手に入るような整備があると助かります。あと、持病が精神疾患で見た目ではわからないので「ヘルプマーク」のような目印が避難所生活の中でも役に立つのではないかと、思います。
持病の薬の確保がむずかしいので、18は特に必要とします。
自治会（団地）に井戸を掘って欲しい。（一か所整備して欲しい）自治会員が手動で使えるよう。
自治会から地道に活動してはいるが、毎年の形式的な実施に流れているように感じます。誰もが意識して取り組めるような展開が必要と思います。
自治会が広範囲、しかも炊き出し等は、自治会館1ヶ所で行なわれる。自治会館まで自宅から坂を下って30分。災害時では、もっとかかるでしょう。災害物資は届かないだろうと、あきらめている。災害物資は1ヶ所に届けるのではなく、広範囲に届けてほしい。（マンションごとに届けられると良いと思う。もちろん協力します）
自治会には入っていますが、災害時の備蓄関係がどのようになっているのか不明です。市から、各自治体へ声掛けし、末端市民まで理解できるようアナウンスしてほしいです。
自治会の避難場所より隣町の自治会の避難場所の方が、近くて、安全！
自治会への情報提供・物理的支援の強化。
自治体が行うことと、個人が行うことの区別を事前に知らせて周知してほしいと考えます。

自助、共助は個々の考え方、対応によってまとまりを欠き易い。公助こそ頼りにせざるを得ない。それが災害対策だと思います。ご苦労さまです。
自助をまずそれぞれが…は理解していても、備えるのはなかなか万全にはできない。例えば賞味期限のチェックや、家族が多いほど人数分の水を確保するのは、口で言うほど簡単ではないと思う。だから行政が確保してとは思わないが、出来ている人がいるのかと思ってしまう。
自助共助の徹底の呼びかけ。定期的防災訓練の継続性（継続は力なりの格言）。日頃の訓練の積み重ねが正確な判断力を養うと思います。
自宅の土地が土砂災害警戒区域に入っています。個人ではどのような対策をしてよいのか分かりません。大がかりな事は費用も高額になりそうなので、検討もしていません。市で考えてくだされば幸いです。
自宅の立地上、広域避難場所に行くために、川を渡らないといけない。災害時にそのような避難ができるのか不安がある。そのため、学校や公共施設の安全化をすすめ、川を渡らなくても避難できる場所を確保してほしい。
自分自身が高令となり歩行、体自体が思う様に動かなくなっていて来ておりその時に応じて対処出来ればと思っています。
自分達で行政に頼らずに行動が取れるよう、身近な町内会の防災訓練で市民に知識を教えて欲しいです。例えば、空き缶を利用したご飯炊きなど、食材を少ない調理器具を使っての作り方は、町内会の防災訓練で教えていただき、勉強になりました。災害時、行政にはライフラインの改善に取り組んで欲しいです。
質問、自宅が所属町内会の外れた位置している為、隣接する町内が他に2つあります。高台の為指定の避難場所は下に降り遠い為近くの学校等に避難した方が安全かと思います。その場合、地域外の住民には支援物資をいただけないと聞きました。融通はきかないのでしょうか？
実際に物・金を使った具体的な取り組みをして欲しい。
実際の避難所を使った大規模訓練の実施（定期）☆参加は任意ではなく、このアンケートのようにサンプルして、強制参加。
社会インフラが断たれることの無いよう十分な対策をお願いします。
若い人はネットの環境が整っていれば情報収集や安否確認をすることができるので通信環境の整備に力をいれてほしい。
若い世代、子育て世代、独身の方々は近くに暮らしていても（アパートとか）かわりが全くないので1年に1回でもみんなが参加しやすい（参加したら近くのお店のクーポンもらえとか）防災研修などして近所付き合いが出来るようなイベントがあれば良いと思います。
若者の行動を考慮した情報伝達体制、非常用発電施設の充実
手厚い対策は費用も必要となり税金がかかるので必要最低限の災害対策とすれば良くて、それ以上は各自の自主的な行動を促すために情報で良いかと思います。
住宅の耐震補助金の支給等
住民の人口に対して避難場所が少なすぎるので、大混雑が予想される。なので、自宅での避難を強いられた際への援助ができるよう、強化してほしい。
十分な備蓄について、ローリングストックなどで使わなかった資源の有効かつようも考えていざづ的な災害、防災、げん災対策をして欲しい。
縦割りでなく、一貫性のある防災対策組織を（市長をトップに）確立して欲しい。
宿泊可能な避難所の増設。（中区本郷町在住）
出来るならばすぐに取り組んでほしい
諸々の安全確保と生命の維持の確保が重要と考えます。
助成
女性や子どもの生活必需品に対する理解と備蓄をお願いしたいです。
小・中学校などが避難場所になっておりますが、高齢者、障害者、ペットがいるため、そこまで行かれるのかどうか。自宅のそば（周辺）で、安全に安心に過ごせるような案を出してもらいたい。
小さい子供がいて、身動きしにくい時、マンションまで備蓄の配布などしてもらえると助かるなと思います。
小学校建替中の避難場所：体制の整備
消火器の無料配布、講習会（使用方法）
障害者、高齢者への避難支援
障害者への偏見が無くなる様にしてほしいです。（誰もが平等に避難できる様に）

障害者対応できる場所等して頂けると助かります。母、今回対象が障害者のため母が代筆しました。
上がってるものは全てやって欲しいが、やった所で想定以上のモノが来れば最終的には破壊される。議員や権力者へ有利になったり忖度が起きない。特定業者への癒着などが無くクリーンである事。
上記#25の通り
上記の強化
上記の事に対しての市民へのマニュアルの配布
情報がかたよらないよう周知、情報弱者をつくらないように対策を考えていただければと思います。
情報がすべてだと思います。東日本の時停電が夜10時まで続いたので何が起きているか分からなかったの。
情報により行動するので現状把握した最新のものが欲しい。LINEなどで送ってもらえると助かる。
情報の分かりやすさ。市区町村で一方向的に受け取れる情報手段等の周知。
情報を知らないです。問48、自分で情報を取りにいかないといけない情報。
情報提供や広報活動を頻繁にされたら良いと思います。
情報発信も必要だが、十分な備蓄や防災整備（堤防や耐震化など）にお金と時間をかけてほしい。
状況は常に変化するものだと思うので、細かな災害情報を提供してほしいことと共に、ライフライン関係の重要度もかなり高いので、積極的な耐震強化に取り組んでほしい。
職場等、市外で災害にあった時どうすれば良いか。市内の親族の安否、自身の安否を取り合えなくなったときの情報入手。
色々取り組まれていると思いますが、その取り組み内容が老若男女へ更に周知されると皆知識も増え、意識も高まると思います。目に付きやすい電車などの掲示を利用し続けてください！少なくとも私は見るタイプなので。
食料、医療の強化
食料、水等の備蓄について具体的なサンプル（量の目安等も含め）例を示して頂度、各個人での備蓄とは言え、どの程度、どうすれば良いのか判らず困っています。可能ならばセットにした用品を各家庭に半額支給等、考慮願ひ度く。
食料・水などの非常食を、各戸にあっせんなどしてくれたら、準備でき安心と思う。
食料や水等避難所へ行かなければ入手できないのではなく、避難所へいけない人達もいるのだという事にも重点をおき、節日の誕生日等にカンパンと保存水、アルミシートや簡易トイレキット等プレゼントしてもらえたらうれしい。避難所だけでなく自治会館などに自家発電機を設置し、せめて電力確保（ケータイ充電、ラジオでの情報収集）ができるとうれしいと思う。
食料ライフラインの早い対策を願ひます。
食料水電気ガス電話などのライフライン施設の向上
新型コロナウイルスが増加している中で、万が一災害が起こってしまった場合に、医療崩壊や町の混乱がより発生すると考えるので、事前に対策を強化するとともに、地域住民の助け合いが肝心になってくるので、ボランティアなどの呼びかけも積極的呼びかけて欲しい。
新市庁舎自体が液状化しやすそうな地区にあります。もし、想定外の規模で液状化等が起こり、陸の孤島のような時、指揮できるのでしょくか？コロナの状況でも横浜市は今いち情報発信してるように見えないし、困難に向かえるのでしょくか？
身体不自由、高齢1人世帯、日頃からの協力お願いしたい。
人が生きていくための（水、食料、薬、トイレ）の充実。衣食住→きちんとした住まい、入浴するところ、トイレができる（避難所の整備）→全員いけるか？まじめで正直な日本になりますように！！→感謝の心
人が多く集まるターミナルビル、百貨店、商店街への研修、訓練指導のより一層の強化。Life Lineの強化への予算の重点配賦。
人と人のつながりが大切だと思う。普段から人同士の交流がある地域や町づくりに取り組んでもらいたい。コロナ環境なので人の集まる行動を控えることもわかるが、コロナ環境だからこそ、地域のことをよく知り、その中でできることを一緒に考える場があってもよいと思う。
人間が生きていくうえで、食料などは、大切だと思うのでそのあたりは意識して取りかかってほしい
人口が増えている地域での避難場所は？
人口が多いので、情報も必要物資もきちんと行き渡るようにして欲しいし、衛生面や人間関係等でも、安心して避難できる場所、物を備えてほしい。古い道、古いガス管や水道管等多いので、整備してほしい。放置され雑草だらけになっている空き地を、災害対策に活用できるよう働きかけをしてほしい。

人口に対して避難場所が少ないし、備ちく品も少なく「あて」にできない避難場所に行ったら、とりあえず何とかなるといふ安心感が欲しい。現状は行っても行かなくても、助けにはならない気がする。
人口も高齢者も多い横浜市なので、伝達体制や仕組み及びスピードが重要、LINEなどの活用も有りと考えます。紙媒体の時代は終わっていると認識しています（このアンケートしかり）。ワクチン予約システムでも困難でしたが早期デジタル化をよろしくお願いします。
人命第一
水、食料、毛布などが何万人、何千人分対応できているかの情報が知りたいです
水、食料、毛布を受け取れる場所はどこか、広く知らせてほしい。充電出来る場所も。
水、食料は、十分に確保願いたいです。
水、食料等、入手方法を常に決めていただき連絡方法を受けずその場所に行けば手に入るように体制を整えて欲しい。
水、食糧以外にトイレの個数の確保
水・食料などの十分な備蓄するためコンビニ等連携の強化が必要でないか。
水・食料などを、どのくらい備蓄しているか知らせて欲しい。停電火山噴火に対して何か対策しているか知らせて欲しい。
水・食料の倉庫が見える所にいっぱいおいてほしい。
水とトイレは、人間としての最低限の尊厳にかかわる問題です。避難場所だけでなく、全ての状況下において必ず確保すべき「インフラ」と思われます。
水や食料の備蓄
水害の際、避難場所に指定されている学校が川のそばにあり、避難所としてどうかと思う。地震と水害の時の避難場所を分けた方が良いのでは（うちは高台にあるので相当なことがない限り避難するつもりはありませんが…）水害の際の避難場所を今一度検討した方が良いのではと思います。
水害の時と地震の時と避難場所が違うことがはっきりわかっていない人が多いこと。あまりにも長い質問にびっくりしました。疲れました。私（84才）だけでしょうか。
水道と電気、携帯電話、ガソリンの確保はして欲しいです。
世の中がコスト削減という意識となり、インフラや公共施設、整備などについても同様、耐久性などの構造上の問題が発生するレベルへのコストコントロールは絶対避け、後々の世代までしっかり引き継げるレベルの整備であれば、しっかりとコストをかけて取り組んで頂きたい。
整備等のため十分な予算確保
正しい情報の適切な使い方、避難所生活を安全に送れるような対策
正しい情報をタイムリーに市民がうけとれる体制づくり
正しい情報を地域ごとに発信して欲しい。
正しい情報を流してほしい
正確な情報が、伝わって来るのか心配です。避難所にいる人には、伝わるとは思います、家にいる人には、どの様な方法で伝えるのでしょうか？
生きていくためには「衣・食・住」が根本です。災害時に衣類は集まります。とりあえず住むこと（横になって休まる場所）と食事のことが一番身近に大切なことではないでしょうか？
生きていく為の食料品の備ちく全ての人への配付の徹底をお願いしたい。家での備ちくには、限界がある。
生活が落ちつくまでの食料の確保や住まいを対策強化してほしい。
生活する上で必要なものは早急に利用できる様に準備していただきたいです。
生活する上で必要最低限のことは、安心してできるような情報提供
生活を再建する際の、国・地方自治体による財政的支援（返済不要の）が、結局のところ一番助かるのではないかと思います。
青葉区役所、青葉警察署の高台移転 笑
税金などムダ使いしないためにおいて、ピンチのときにはどんどん予算を使えるようにしておいてほしい。カジノはいらないです。病院や消防署などが災害でダメになってしまうようにお金をかけてほしいです。あと食料お願いします。
川が近いので洪水が怖いと思ってます。治水にとりくんでほしい。

川沿いに住んでいます。以前地域は豪雨で浸水しました。家族に障害者がいて大雨の中移動だけでも大変です。近所の方々も高齢で思うように動けない方が多いです。何とか避難をできても、体育館での生活は大変です。女性や高齢者、障害者の安全が配慮されて欲しいです。避難所のプライベート空間、備蓄におむつや生理用品、安心なトイレ、足を伸べて寝られるベッド、歯が弱い人のためのレトルトフード、e t c…。できればコンテナハウスをイベント用として保持し、有事に避難所で使わせて下さい。トイレ、着替え、授乳、夜泣き助かります。
泉区上飯田町 道路の整備
前に進めばよい
全て「市」でやるのではなく「区」で対応できるものがあるなら「区」に任せてはいかがでしょうか。横浜市は、何をやるにも遅いと感じます。関係ないですが、今回のワクチン接種にしても他に自治体に比べて遅いです。
全てにシュミレーションを行うこと
全てに落ちこぼれがないように支援してほしい。
全ての人に行き渡るような食料品等の備蓄をしっかりと対策してほしい。
全員が避難可能もしくは避難場所に入りきることはないため避難しない／できない人には2～3日に1、2回の割合で様子を見に行く、物資を届ける等の制度をつくり、受けた人がそれを受けられるようにする。
全部とは言わないが、被害者が困らないように手配してほしい。
組織で依頼しないと頼れない部分をサポートしてもらえたらありがたいと思います。身の回りのことは自分で日頃からなんとかしないとイケないと思っています。考えておかないと。
想定されるライフラインへの被害に対して、3日程度以内には復旧が可能な体制作り。
想定される最悪の状況に即した予備知識の啓発と具体的な対策
早急なライフラインの復活。
早急な対応してほしいです。
相鉄が都内に延びた関係で沿線の状況がかわりつつあります。小規模の集合住宅が増え、災害時の情報提供や共助態勢に不安を感じます。町内会に加入する家も減りました。新たな防災態勢が必要だと思います。
多岐にわたり取組まれているようですが、特定のところに行かないと目に入らない。自分自身の問題と思うが広報活動が多岐になるよう願います。
太陽光発電は、火山灰が降ってきても通電可能ではなくなるのか心配
体育館など避難場所に大型発電装置を検討してみてもどうでしょうか？病院などにある自家発電ができる装置が各避難所があれば安心ではないでしょうか？
対象地域に絞ったピンポイントの避難情報を発信する。
耐●●補助を東京都並として欲しい。災害はコロナと同様だと思う。公共バスを利用して居ますが、車内換気をしない時があり、コロナ対策が徹底されていないと思います。このような状態で災害対策できるのですか。市長はコロナ対策に無策で逃げてしまうという情けないと思います。
耐震診断の申し込み要領を送って欲しい
耐震診断は市内全地域に行ってほしい。ホームページをもっとみやすくしてほしい。
大きな地震があったところでは、水や食料がなかなか届かないという場所もあったようですので、それだけでも十分に用意してもらえると安心感が違うのではないかと感じます。
大雨が降った時、排水溝に葉っぱがたまり雨水が流れなくなり、家の駐車場が冠水するので大雨で流れてくる葉っぱを排水溝の前で止まらなくなる様にして欲しい。
大規模な災害が起きても安心できるようなこと
大規模災害のシュミレーションをしっかりとやって欲しい。
大災害があった場合、最後の避難場所である学校や公共施設がより安全な場所であるように取り組んで欲しい！
大災害は必ずおこるので、おこった後の素早い対応をお願いしたい。管轄が違ってもか、法律の壁とか言っていないでリーダーが責任をもって素早く正しい判断をくだして、迅速な対応を。
大震災の時にも自閉症の方と健常者の方で相互理解がなかなか難しかった話をお聞きしたのでパニックになった時に落ち着ける小部屋などがあると良いかと思っています。
大地震による大規模火災がとても怖いので、なるべく延焼を防いで欲しい。

大都市の災害対応で難しいことは人口の多さかと思います。ひとたび災害が起きると、たくさんの人命に関わることを、このアンケートでつくづく考えさせられました。地道なインフラ整備と啓発活動をよろしくお願いします。
段取りよくスピーディーな対応をして取り組んでほしい。
地域、自治体の防災訓練、活動が周知されていないので分かりやすく参加できるような体制を整えてほしい。
地域ごとではなく広域での防災訓練、極所的な災害とは限らないので一回大きな災害が来た時を想定し練習してみたいと思います。
地域のリーダーの顔が解らない。緊急時にその要人は帽子に緊急時の使命をもつものの服等で広報等で解るようだと思安心
地域住民の交流を多くする。避難場所の周知の徹底。緊急の場合の広報の仕方。
地域防災拠点の防災訓練は年1回から2回に
地元の小学校で防災訓練をしていますが、学校に併設されている防災用品が、古いし少ない。不安になる。
地元説明会等の実施
地震・災害等時の情報を常に公開、長期にわたる際の水・食料の提供
地震については、本当に情報提供を増やしてほしいです。
地震火災対策方針における対象地域のきめ細かい見直し！感震ブレーカー設置は、対象外地域においても助成すること！
地番沈下が激しく、ゆがみ、傾きが心配です。一般住宅における災害時の際の影響が大きい様にするため、補助、事前対策がなされるよう働きかけをお願いしたい。人口の割に医療体制が不足していると感じる。東京都に近い施設、設備レベルが必要と思います。
築36年で震度7程度の地震の場合、耐震性があるか否か診断して欲しい
町内会（小さなコミュニティ）で判断し、行動できるように各町内会で（決まった人）ボランティアを育成する。
町内会がもっと強力になれば災害対策について話し合いができるがマンション（公団）は町内会には一部の住民が加入しておらずどう対処していいかわからない。
町内会という制度の見直しにより、税制負担の軽減（広報代、印刷代、補助会等）をしてもらいたい。また町内会費も地区によってまちまちの状態であり、不公平感がある。
町内会の災害対策を行っています。住宅避難を推奨されていますが、それは実質、受入れ場所が不足していることが本音。廃校や施設などを緊急用に解放。すべて、多少の手を入れて使えるようにしておくべき。自宅にとどまれない状態が発生すると、皆、避難所に押し寄せることになり、町内会の歯止めも効かなくなる。首都圏災害の場合、こうしたパニックが最も恐ろしい。真剣に考え、取り組んでももらいたい。
町内会やおとなり同志の連絡を密にして情報交換したいと思います。市からの配布物にもっと目をとおす必要を強く感じました。
町内会や自治会などを通して防災意識の向上と共助のための定期的な会合の必要性を感じています。スマートホンを利用してラインなどの拡充が早急に必要。
町内会単位●に組織的に知らせること。とにかく調●！！の実施。
町内会等に入っていないなくても、水や食料は平等に分けてもらえるシステムづくりと、障がい者まではいかなくとも、杖をつかないと歩けない避難困難者のはあくど支援
聴覚障がい者に対して情報提供とコミュニケーションなどに力を入れてほしいと願望しています。
長い計画になるかもしれませんが道路幅拡張。電柱の地中化。古い建物への解体費助成。ビルタワーマンション等の建設規則の厳格化。緑地の確保。夏に発生した場合の暑さ対策。各個人でできる緑化意識を高める活動。感染症の時代のスペース確保。古家の扱い（固定資産税制度の改正。さら地に6倍課税を考え直す。→解体推進。）みどり税は良い制度だと思います。市職員の皆様いつも有り難うございます。
津波による被害が出る可能性がある家に、津波が起こった場合の行動の仕方を案内してほしい。
津波の避難所が三階建ての小学校しかない地域です。区役所も橋を渡らなければ行けず中学校も山にあり地盤が弱いです。橋の崩落、山崩れた場合どこに避難すればよいのでしょうか？
通信手段の確保
停電、下水道の停止がおきないようにしてほしい。食料品の買い占めによる食糧不足は困る。

停電になると暑くても寒くても過ごせる事が大変なので、しっかり対策してほしいです。火災対策も必要だと思います。
停電時、信号機が動かなく通行する人や車が混乱する。早めに警察官に指示を出してほしい。
定期的な防災訓練。(行っているのかもしれませんが、情報が入らないので)
的確な情報を提供するための適切な手段の構築と市民へのけいもう。
鉄道会社と非常時には連携を取り、駅でしばらく待機できると助かると思います。
電気、ガス、水道などのライフラインが復旧するまで、季節によっては(特に夏の熱中症など)健康被害が不安です。施設の耐震性の向上を強く望みます。
電気、ガス、水道等のライフラインの復旧に対する用意を十分に配慮願います。
電気、水、トイレに困る。赤ちゃんのいる家、ミルク、オムツ
電気が止まった時の広報、指示の体制
電気が切れた時、伝達はどのようにされるのですか?市営住宅の14Fに住んでいます。この前の消防訓練で自宅にいる方が安全なので外に出ないようにと言われました。知らない避難場所に行かなければいけないと思っている人が多いと思うので、よく知らせる必要があると思った。
電信柱をなくし、地中に電線を埋める工事をすすめてほしい。震災時、電信柱が倒れて道をふさぐ事や、電線が切れての二次災害を防ぐ為。
電信柱をなくして道路を広くしてほしい(港北区綱島)
電線の下に高木がある所は、植樹の見直しを要する。車道際の高木は歩、車道を暗くして復旧を遅らせたり交通事故の原因になる。
電線の地中下。
電線はスパイダーマンのエイガ向きにくもの巣のようにはりめぐらせている中区はこれ等の配線を地下に早く配線し電線をなくして欲しい。
電柱の地下化
電柱の地中化。ぜひ。海の横浜ばかりでなく、山の横浜もお願いします。
電柱の地中化の促進
電柱を無くして行ってほしいと思います。
電力供給のリダンダンシー向上⇒停電しないようにして欲しい。
電力不足の対策とし、液体燃料(ガソリン、灯油)の供給の対策を。
都筑区として速やかに対応する。
冬寒く夏暑い避難所はあまりにもお粗末、せめて要配慮者には使い回しのできるダンボールベッドを設置してほしい。
東日本大震災の時、中学校にいたが少しだが天井の壁がはがれた。中学校等、大きな公共施設を避難所に使うと思うが、避難所が危険なのは意味がないと思うので、耐震強化等、対策をしてほしいです。
東北の震災の時に起きた、誤まった情報や避難等で沢山の人や動物(ペット・家畜)が被害に合いました。やはり、地域の連携や人とのつながりを大切に考えて頂きたい。指示を出す方達の沢山の情報と判断を信じたいです。
当方、2011年東北大震災に仙台で遭いました。(長期出張中)電気・ガスの停止により、風呂に入れない不便もありましたが、何よりトイレの水洗停止による悪臭、避難所での寒さにより眠れないことによる体調不良など基本的な生活もままならなかったです。避難所等でも、最低限の生活に困らないようにして頂けると幸いです。
頭ではわかっているがいざ起きた場合、その時にならないと行動できない。災害がおこらない様願いたい。
動作がにぶいため早めの対策
同居家族に要介護の者がおります。近所はご高齢の方々が多く、障害のある方もおります。避難所へ移動できない者達への支援もご検討頂きたいと思います。要介護、障害者は自宅でしか生活できないとも言えます。よろしくお願い致します。
道が1本しかない住宅で、がけ崩れで、道がふさがれてしまう所があります。実際に崩れて、その後の修復もかんたんなパイルを打っただけで、あれでは又、崩れて道がふさがります。過去に何度も起こってます。(栄区上郷町)
道幅が狭いことがあり、万一の時の災害救助遅れが生じる可能性がある。ハイエースクラスの大きさの車輛で、切り返しが必要な曲がり角が多数ある。その為、小回りの効く消防車・救急車の増台、道路整備などの取り組み。
道路、特に歩道の整備をしてほしい。

道路、避難するにしても支援物資を受けに行くのにも樹木がたおれたり、公道が使えなかったらこまる。二俣川からバスですが、古い桜の木が（スカウト会館）歩道まで根をはっているのか管理が不安です。バウ通りの樹木は、毎年枝の伐切はしていただけていますが、そもそも電線が枝のあいだを通っていて1本でもたおれたら停電かあ〜。昔は“緑をふやしましょう”でしたが、木は生きてる、大きくなる。町内会でチェーンソーはあるがその程度の次元ではないと思います。どうになってしまうのか、心配です。この町だけの問題ではない！
道路幅の整備
特に13.の「避難方法や避難場所の周知」に力を入れてほしい。郵便をひんぱんに送るなどして「災害についての意識を高めてほしい」という意志を市民に強く伝えるべき。
特に19ライフラインの普及が速ければ連絡もとれ不安を取り除くことができる。一番必要な電気・ガス・水道、発電機の準備。ストップしてもすぐに対応できる準備をしておく。
特にありません
特にありませんありがとうございました。
特にない。
特にライフラインが長期間機能停止しない様力を入れていただきたい。
特にライフラインの強化、充実に注力願いたい。
特に具体例はなし、選択したまま。情報に関しては、LINEに登録させるようなことはやめて欲しい。
特に洪水などの浸水が心配。大雨になると洪水の可能性が高い
特に高齢者に分かりやすい、周知できるように。このアンケートに無関係ですが、今回のワクチン対応は最低です。
特に高齢者対策。携帯、パソコン、LINEは無理。
特に上記の9、10に関して市の補助・対策の強化を徹底してほしい。
特に地下街への水の流れ込み防止対策
難しいことは承知していますが、避難所（体育館など）にエアコンを設置していただけると有り難いです。
難しい問題の事柄ですのでお答えしづらいです。でもどうぞよろしく願い申し上げます。
日常生活に困ることがないように取りくんでほしいです。だれも大変な目に合う事のないような町づくりをしてほしいです。
配給品（支給）を増やしてその場の状況を回避できるよう協力を依頼したい。
配信サービスの周知やスマートフォンを持っていない人への対策
柏尾川のはんらん防止を強化してほしい。
柏尾川の横に住んでいるので、洪水が台風の際に心配です。しゅんせつ工事をまめにしていきたいです。
被害を少なく。
被災者側の立場になって、気づき配慮をしてほしい。物資など。
被災地と、日本内での被災していない地域との連携の拡充を図り、短時間の内に被災地に応援物資や人材派遣が出来る様通常時に決めておく事！全国に被害が及ぶ時は何をしても無理！（例えば日本沈没とか）
避難が長期化した時の生活が困窮しないよう、備蓄すべきものと量をできる限り正確にシミュレートしてほしいです。
避難した人が安心してすごせるだけの十分な備蓄を用意してほしい
避難する場合はわかりやすい情報で
避難に関して、家族などが各自どここの避難所にいるのかなども全てマイナンバーカード連動で一括管理できるようになるのだろうか。現状のサービスよりも手軽なものがあると良い。
避難環境をできるだけ良くして、乳幼児が過ごしやすいようにしてほしいです。
避難時には、一人暮らしの高齢者への避難場所までの誘導、付添をお願い致します。
避難所が近くにいくつかある場合どれに行くのか、よく分からない。防災訓練が近所の老人会の人ばかりで一見扱いされ生きづらいのではないかと不安。
避難所で、人同士のトラブルをさけるため出来る限りプライバシー保護を。暴言、暴力、チカン行為が怖いです。
避難所でのコロナ感染対策、プライバシーの確保のために間仕切りなど十分に数を確保してほしいです。

避難所での女性への性暴力が問題になっているようなので、その対策強化をお願いしたいです。
避難所での犯罪（とくに性犯罪）の防止、メンタルケアや困った時の相談体制の整備を重視してほしい。
避難所にペット用フードなどや、一緒に避難できるように。
避難所のトイレの数不足や、汚れ、水が使用できないといった問題を、力を入れてほしい。
避難所の充実、プライベート空間、ダンボールベッドなど
避難所の提供として空き家等の利用、帰宅困難者への利用等使用できる物件等は利用していった多くの人が不便さがなくなるように取りくんでほしいです。
避難所は把握しているが、避難所の運営や浸水した（する）際の対応方法などが目に見える形では分からないため。（知らないだけ？）
避難所までの道のりに複数危険区域があり、どのルートで向えば良いか分からない。相談・確認できる先があれば周知してほしい。（区役所のどこの課に聞きに行けばよい？）
避難場所が遠く坂道を下りさらに上りと大変です。安易に行ける場所に避難場所を設置してほしい。
避難場所が少しでも心が落ちついて過ごせる様、準備していただければと、考えています。
避難場所でのプライバシー、トイレなど
避難場所での生活レベル確保
避難場所となる学校や公共施設での備蓄
避難場所になることが想定される小、中学校の体育館の耐震対策や、体育館と学級（クラス）の冷暖房の設置を進めて欲しい。近年の暑さによる熱中症を防ぎ、いざという時は地域住民の安心できるスペースとして活用できると思う。オフィスや住宅において冷暖房が完備されているのがスタンダードであるのに、声を上げることができない学校や子供にきちんとした環境が用意できないのは残念に思う。また、防災や減災の公的な組織がいくつも存在するのは税金のムダ使いだと思う。人件費やオフィス等の固定費、ムダに立派なカラーのチラシなど。（PR）新しい市庁舎やケーブルカーのために税金を払っているつもりはないです。自治会、町内会など無償の善意に頼りすぎ。いずれ崩壊すると思う。（自治会未加入者など増えている）放射性物質（汚泥など）が市内の学校に保管されているのも何とかしてほしい。正直、放置されていると感じます。
避難場所に指定されている所に、地域の人が避難できるとは思えない。高低差とか途中の道（ガケ等）、何も確認しないで学校だから良いと決めているのではないかと思う。他より高い税金とっているのに下水道の分離もしていない。
避難場所の確保、整備。水、食料などの十分な支給・配布の備蓄。災害発生時の医療体制の確立。
避難場所の見直し：小学校になっているが、川の近くで距離もあり適していない。道路を渡った近くに中学校があり自治体単位で決めているのが疑問に思う。
避難場所の実質的、具体的な明示（相細いとき避難場所）自宅の前に大きなグラウンドがある。いつとき避難場所としては最適と考えるが、いつも施錠されている。（公共施設国大）
避難場所の周知化
避難場所の耐震化も不安です。建物が老朽化しては、心配です。特に4番も力を入れて頂きたいと思う。
避難場所は近所の中学校ですが、④水、食料など充分なのか心配です。
避難場所は分かっているが、収納等に問題は無いのか不安問題無く受け入れる体制作りを確実に行って欲しい
避難場所への地図はお知らせがありますが、感震ブレーカー、地域防災拠点の存在など、備えておくべき地域の薄さを自覚しました。そういった情報をまとめて見られるようにしてほしい。（食料、トイレなどは良くTVでも流れているけれど）
避難場所まで遠い。道中障害物が心配。
避難場所を小学校等公共施設に限らずスーパーやコンビニ等普段から、行き慣れている商業施設も対象に含めて欲しい。知っている人なら問題ないが、行き慣れていないと全く道順がわからない。
避難場所地図ハザードマップは毎年更新、大きな字で表示
避難場所等の分かるハザードマップを各家庭に配布してもらいたい。
避難場所方法について、更に目立つ大きな掲示板（標識）の設置をお願いしたいです。
避難生活が長期化することに不安を感じます。ストレスによる体調不良など2次的なリスクも心配。
避難生活を車の中でした時水とか食料とかトイレがしんばいです。
避難設備のアップデート（テント等プライベート確保）
避難先でのプライバシーの確保（つい立てを作るとか、トイレを多く置くなど、清掃を自分達でする、手伝いをする）よろしくをお願いします。

避難先での居住性向上
避難方法や場所を、もっとわかりやすく表示してほしい
非常時のデマ・パニック等の防止のため、平時からの情報開示（防災以外も含め）の徹底。
備えあればうれいなし。全ての強化対策をお願いしたいし避難場所となる学校、公共施設の耐震化・安全化はとくにお願いしたい。
備蓄量の確保です。ありがとうございました。
備蓄量の不足やライフラインが滞るなど、実際に災害が起きたら現実が発生してしまうのは仕方のないこととは思いますが、市民1人1人が心がけるとともに、市でも引き続き、心がけて下さると心強いと思いました。
病院、医院には、災害時に対し医療体制の強化を望みます
夫婦ともに車イスのため心配です。
夫婦共々高齢者（89才84才）なのでなるべく生き残れる手段を考えて欲しいです。
富士山の噴火が気になります。想定したチーム（職員）などの啓発をしていただきたいです。
富士山噴火の影響について取り組んで、対策を示してほしいと思います。
普段からもっと市民に周知する必要があると思える。
福島原発事故で北からまっ黒い雲が伸びてきてひょうがボトボト激しく降った際政府は情報をかくし何も知らせなかった。民主党のような売国奴が政権をにぎる事もあるのだから市独自で警報を出して欲しい。
物資の備蓄など。ライフライン強化。
分からないこと、知らないことを伝えるすべをもっと考えてほしい。老若男女すべての人が必要な情報って何？市が伝えたいこととは？やってほしいこととは？
分かりやすい指示、説明にしてほしい
分かり易い公報
文子に任せた。
平地が少ない特徴を留意し、急斜面、崖地対策、更に必要。
補助金・助成金（所得によって受ける受けられないを決めないでほしい）
訪問医療、訪問看護をうけている方への支援の継続
防災・減災について、具体的に、日常的に学べるような策があったら良いと思う。用語解説が身近にあるといいと思う。
防災グッズ、長期保存食の値下げ。価格が原因で自宅に多くの備蓄ができないため。
防災グッズを各家庭に配布してほしい
防災スピーカーが、反響して聞き取りづらいので改善してほしいです。避難所の増設。事前に避難所を割り当てる。（早いもの勝ちで混乱しない為、気持ちに余裕を持たせる為、安心感）横浜市が取り組んでいる情報配信サービスや、マイ・タイムラインが浸透されてないのでもっと宣伝して欲しいです。
防災だけでなく、種々施策が住民まで届かず、全く住みにくい自治体である。仕事の都合で仕方なく住んでいるが、基本的にはすぐ出ていきたい。分割してコンパクトにした方がいいのではないか。都市として自活できる規模ではない。
防災のパトカー（？）が時々通るが、スピーカーを通して言っている事が全く聞き取れない。
防災の仕組みについての情報をわかりやすく提供して欲しいです。
防災の情報や指示の発信は迅速にしてほしいので、市と区の連携は怠る事のない様お願いしたい。何でも人に頼ることではいけないので自助の意識を高めることと、近隣の方達との日頃からの付き合いを大事に、地域の訓練ももっと回数を増やした方がいい。
防災パンフ等を配って頂けたら助かります。
防災ワークショップ（参加型）などあれば参加したい。具体的には、マイ・タイムラインの作成ワークショップ。
防災訓練などの意識啓発の強化
防災訓練など町内会などが主催する訓練に参加する人々は、いつも決まっているように思います。防災訓練への参加、地域のコミュニティ作りが重要だと思います。
防災訓練にみんながもっと気軽に取り組めるようになれば良いと思います。
防災訓練の機会が少ない。地域住民の一体感及び危機感が足りない。（追記）P18、P19は別紙にしてもらおうと保存ができるのだが…。
防災訓練の定期的な実施
防災減災が合言葉になる位に個人教育を徹底する。1年間で小冊子を1回配布する等する。

防災情報スピーカーの音質が悪く、何を言っているのかさっぱり分からない。ただ音がうるさいだけ。
防災情報の受取り方がわからないので、方法についてわかるようにおしえて欲しい。
防災対策マニュアルの作成（アップデートを含む）と各戸への配布。
防災放送など聞こえにくい場所なので、改善されると良いなと思います。
防災無線がある地域はその活用をして欲しいです。豪雨の時などは聞こえにくいかもしれませんが、その対策も含めてお願いします。避難場所の十分な確保をして下さい。地域の多くの方が避難できるように。
防災無線もなければサイレンもない。大丈夫か？屋外で警報が出た時どうする？
防災無線を設置して下さい。政令指定都市であるのに何故今まで設置がないのか？疑問です。
防犯
毎月配布されている県市区のたよりに目は通すようにしていますが、自助、共助、市民憲章などあまり印象がありません。横浜市は高い山はありませんが、高台の住宅は多いなあと常々感じます。がけくずれへの対策をまずお願いします。
万が一、緊急事態が起こった際には、市全体の正確な情報を速やかに得られるようにして欲しい。電気や通信機器が使えない場合、どのように情報を入手していいのかわからない。不安です。
未経験なので、良く分からない。
無電柱化の推進
無電柱化を進めるべき。今どき紙によるアンケートはやめるべき。ネットで回答する仕組みも活用すべき。
無被害自治体との協力体制の強化。
命にかかわる大切な警報や指示、情報が確実に全ての市民に届くよう、情報弱者をほったらかしにしない体制づくりや、個人の力ではできない大がかりな防災対策、その為の工事などを普段から推進して欲しいです。
命の危険がある場所等に重点的に対応していただきたいです。
明確化とスピーディーを考慮して進めて頂きたい
木造住宅の耐震診断とその工事と費用をお願いしたい。
問48にある防災情報、ことあるごとに周知徹底を図る必要がある。
役所の縦割りをやめ、円滑に動ける体制を作してほしい。
様々な情報がはあく出来るサイトやSNSへのU1/UX、分かり易さ。往々にして、民間と違って分かり辛い災害ではないが他事項はそうである…←使い辛い印象がある
用語解説のプリントを家庭に欲しいです。
要配偶者への支援対策としては町内会で人数を確認しておいたり、となり近所の方々に声かけをしたり出来る様に煮詰めておくことが大事と思っています。
要配慮者の介護をする人も安全に避難できるようにしてほしい。
要配慮者の福祉避難所へのスムーズな移動が出来ること。医療物品の確保が出来ること。
要配慮者避難の訓練実施（自治会、町内会等で）
老朽化した水道管やガス管を新しくしてほしい。耐震性の高い避難場所を増やしてほしい。広域に大きな地震が起こると足りなくなると思う。
老若男女、情報を取り入れられるようにしてほしい
老夫婦で要介護の場合、避難所へは行けません。避難する事を、手伝って下さる方が居ると助かります。

